

授業科目名	観光総論				
担当教員名	国枝よしみ				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、訪日外国人が1900万人に達成したことや、2020年の東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、地域の人々、産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解するとともに、観光学の基礎的な専門知識を習得します。

授業計画

授業科目名	観光の意義	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	観光の意義 授業の進め方の説明の後、自分たちの観光体験を振り返り記述します。その体験から何を感じ、何を学んだか、話し合います。観光は私たちに何をもたらし、地域にどのような影響を及ぼすのか議論します。	これまで思い出に残る旅の経験を列記してみる。どのような経験が印象的であったか、考えておく。
第2回	観光の歴史 世界で現在の観光の原型となった事象を紹介します。どのような時代背景があつたかを理解します。 旅のかたちの変遷を学習し、日本の観光の歴史をたどります。	産業革命以降、人々を輸送する手段が飛躍的に発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があつたかを調べておくこと。
第3回	わが国の観光の現状 1 国内観光旅行の動向を学習します。日帰り・宿泊など様々なニーズ、旅行者の行動を分析します。	なぜ、最近若者の海外旅行が減少しているのか、その原因を考えてみる。
第4回	わが国の観光の現状 2 訪日外国人の動向を学習します。若者の海外旅行が減少傾向にあり、その課題の解決方法について、ブレーンストーミングをします。グループで討議し、さまざまな案を発表し互いに評価します	グループでの発表の良かった点、反省点をまとめ、次の発表に活かせるようにしておくこと。
第5回	観光地 さまざまな観光地の事例を学習します。観光地の課題を考察します。世界の事例・国内の事例を提示し、観光開発の良い面とマイナス面を考えます。	第11回のグループ発表についての課題を説明するので、今後の発表計画を立てること。
第6回	宿泊業 ホテル・旅館について：宿泊業の機能と役割を理解します。インターネットを使った実際の予約プロセスの確認しながら、ITと宿泊業の関わりを学修します。	ホテルの宿泊プランを調べておくこと。
第7回	旅行業 1 旅行業の仕組みと現在の課題を学習します。パワーポイント、資料を使い、旅行会社の特徴や競争状況を把握します。	宿泊商品にはどのようなサービスが付随しているか調べておくこと。
第8回	旅行業 2 旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。
第9回	航空産業 航空会社・空港について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、料金、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。空港の機能と地方空港の抱える問題点も同時に把握します。	関西空港に乗り入れている航空会社の種類を調べる。
第10回	鉄道業 鉄道会社について学習します。鉄道事業の成り立ちと役割・課題を学びます。バス事業についても学生の身近な乗り物として、どのような工夫がされているか具体例を挙げながら理解を深めます。	関西にはどのような鉄道会社があるか調べておく。 次週のプレゼンテーションの注意事項をチェックしておく。
第11回	プレゼンテーション 課題（ホテルの企画商品）についての発表を各グループごとに行います。	発表で感じたことをプレゼンテーション資料にも書いて提出する。
第12回	観光マーケティング マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかを理解します。マーケティング調査方法を学びます。奈良県の事例を基に解説します。	事前に配布する資料を読んでおくこと。
第13回	地域ブランド ブランドとは何か、地域にブランドがなぜ必要なのかを学びます。国内、諸外国の事例を提示します。	事前に配布資料を読んでおくこと。
第14回	観光政策と地域 自治体の観光政策を学びます。自治体の果たす役割、住民・地域の産業との連携を理解します。	出身自治体に観光課（それに準じた組織）などがあり、どのような政策を実施しているか調べておくこと。
第15回	これまでのまとめ 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。観光産業の機能と地域との関係を学び、観光の全体像を理解しましょう。グローバルな視点で観光の課題を把握していきます。	これまでの復習をしておく。

授業形態・授業方法

主としてスライド（パワーポイント）を用いて講義を進め、必要に応じて講義内容を解説したプリントを配布します。授業内容に応じてグループワークを行い、考察、まとめ、発表を行います。また、インターネットによる宿泊施設の予約システムや旅行商品の企画立案など理論の実務への応用も行います。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
 - ・観察力：観光に関わる文化、社会現象を地理学、経営学、社会学等の観点から観光の現状を客観的に把握できる。
 - ・分析力：観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について概説できることを到達目標としている。
- ②自ら動く力
 - ・主体性：観光地で起っている問題を自らの問題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

成績評価の観点と方法・尺度

3回の小レポート（30%）、課題のプレゼンテーション（20%）、及び定期試験（50%）で評価する。

- | | |
|--------------------------|-----|
| ・3回の小レポート：10点×3回 | 30点 |
| 授業内容をよく理解し、多面的な視点で書かれている | 10点 |
| 授業内容則して書かれている | 7点 |
| ・課題のプレゼンテーション | 20点 |
| 創意工夫があり、わかりやすく伝えている | 20点 |
| わかりやすく伝えている | 15点 |
| ・定期試験 | 50点 |

使用教科書

講義時にプリントを配布する

参考文献等

- Weaver, David (2006) Sustainable Tourism, Taylor & Francis
 Goeldner, Charles R. & J.R. Brent Ritchie (2009) Tourism Principles, Practices, Philosophies, John Wiley & Sons, INC.
 『これでわかる！着地型観光』（尾家建生・金井萬造編著、学芸出版社）

履修条件

観光学科の1回生または2回生が対象の授業
 「観光ビジネス実務士」資格取得希望者は、必ず履修すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

レポートや発表では自分の意見が示せていることを重視します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日：5限 場所：西館5F 国枝研究室

*上記以外の時間で質問等がある場合、kunieda@osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入して送付ください。

授業科目名	国際観光論				
担当教員名	山田勲之				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

国際観光とは「人が居住地を離れて、外国を旅すること」です。このような現象は20世紀以降、世界的な現象として顕著化し、今後アジアを中心になりますます進展していくことは間違いないでしょう。このような国際観光を、国内外を問わず、経済的、社会的、政策的、文化的に様々な角度から事例を挙げながら学ぶことにより、幅広く捉えていきます。従って、本授業と他のより専門的な授業を意識的に連関させながら、理解を深めていきましょう。

授業計画

回	授業の進め方：国際観光とは	学習課題（授業時間外の学習）
1回	国際観光の定義を復習。	国際観光客到着数上位国を確認しておくこと。
2回	観光対象として魅力的な国 国際観光客を多く受け入れている国5ヶ国を取り上げて、グループに分かれで調べます。その後、グループごとに発表し、その特徴を比較検討します。	ビジットジャパン・キャンペーンについて調べておくこと。
3回	インバウンド 日本のインバウンド業務の歴史的流れを踏まえた上で、ビジットジャパン・キャンペーント観光立国推進基本法の狙いを理解します。	ユネスコ世界遺産について調べておくこと。
4回	世界文化遺産と観光 ユネスコ世界文化遺産の概略と観光との関連性に学びます。講師として特定非営利活動法人世界遺産アカデミーの方を招きます。	日本の魅力について考えておくこと。
5回	外国人から見た日本 インバウンド業務にとって、日本をどのように「セールス」するかが重要となります。逆に外国人が日本をどのように理解しているかを「理解」することも大切です。世界的ガイドブック“LONELY PLANET JAPAN”的記述を中心に考察します。	中国訪日観光客数の推移について調べておくこと。
6回	中国訪日旅行—巨大市場の取り込み 13億の人口を抱える隣国からの訪日旅行は、今後のインバウンド業務の盛衰を左右すると言つても過言ではありません。その現状について理解して、問題点を考察します。	「ハラール」について調べておくこと。
7回	異文化理解の交錯—イスラーム教 海外からのゲストを迎えるにあたり、異文化理解を土台にした「おもてなし」が必要となります。たとえば、宗教によって異なるタブーの存在は観光の現場においても無視しえない問題となります。イスラーム教を取りあげて、異文化理解の必要性を理解し考察します。	駅の看板や道路標識を観察し問題点を考えておくこと。
8回	関西の観光インフラ 世界的基準と照らし合わせると、日本の観光インフラ整備は遅れていると言われている。たとえば、関空～大阪（大阪城）～新大阪～京都（金閣寺、清水寺）のルート上の観光インフラの実態を取り上げて考察します。	事前にレジュメを作成しておくこと。
9回	プレゼンテーション 「外国人観光客が必要としているものは何か？」を課題にグループに分かれてプレゼンテーションを行います。	『地球の歩き方』（国は問わない）に目を通しておくこと（本学図書館所蔵）
10回	アウトバウンド：観光メディア 現在のように海外旅行が一般化した大きな要因の一つにメディアの存在が挙げられる。その中で、『地球の歩き方』に焦点をあて、その内容を分析してレポートを作成します。	エジプト・ヌビア遺跡の概要を調べておくこと。
11回	ユネスコ世界遺産 ユネスコが行う世界遺産登録は、本来保護が目的であって、必ずしも観光振興が目的というわけではない。きっかけとなつたエジプト古代遺跡の保護の動きから現在の取り組みについて理解します。	アンコールワットの概要を調べておくこと。
12回	歴史文化遺産と観光振興 アジアの代表的な世界文化遺産であるカンボジア・アンコールワットを事例に、保存修復、人材育成、観光振興について理解します。	ブータンの概略について調べておくこと。
13回	サステナブルツーリズム（sustainable tourism） 持続可能な観光 過度な経済発展の追求によって様々な歪み生じたことから、環境や人々の暮らしに配慮した持続的な発展が模索されています。これは観光分野においても同様です。自国の文化保護の観点から観光客の数を制限している「幸せの国ブータン」を例に未来の国際観光の一端を考察します。	旅行パンフレットを入手して、その内容を把握しておくこと。
14回	海外における観光対象① 旅行会社が発行している旅行パンフレットを持参して、関心のあるツアー商品や国を選択して、観光スポットや魅力について調べます。	事前にパワーポイントでまとめておくこと。
15回	海外における観光対象② 前回の授業で調べたことを発表します。	

授業形態・授業方法

観光学の基礎を学ぶため、講義を中心に展開していきますが、グループワークやプレゼンテーションの場を設け、将来の国際観光像を模索します。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・国際観光の基礎知識：国際観光（インバウンド、アウトバウンド）を幅広く把握し、得られた知識を将来の業務において使うことができる。
 - ・異文化理解：国際観光の学びを通じて、異文化を知り、相手を理解することができる。。
- ②仲間と働く力
 - ・働きかけ力：与えられた課題を仲間とともにやり遂げる力が身に付きます。
 - ・発信力：得られた情報をわかりやすく伝えることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- グループワークとプレゼンテーション40%と小レポートや小テスト60%で評価する。
- ・グループワークとプレゼンテーション 10%+15%×2回
各プレゼンテーションの評価基準は以下の通りである。
課題に応じた発表がなされているか (50%)
わかりやすい発表か (50%)
 - ・小レポート 30%
6回行い、各回1~5点で評価し、合計30点満点とする。授業内容を踏まえて独自の視点で書かれていれば5点、授業内容を踏まえていれば3~4点、不足や重大なあやまりがあれば、1~2点。
 - ・小テスト 授業内容を踏まえた穴埋め方式のテストを実施する (30%)

使用教科書

毎回、レジュメやワークシートを配布する。資料はファイルにとじて管理すること。

参考文献等

浅羽良昌(2011) 『国際観光論—図表で読みとく日本の現状と課題』昭和堂

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

理由なくグループワークやプレゼンテーションを行わなかった場合、総合点から20点差し引く。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール (yamada-n@osaka-seikei.ac.jp) で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当教員名	中 伊佐雄				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

企業の組織や戦略は多様化し、展開するビジネスに順応できるコミュニケーション能力のある人材が求められています。この授業では、様々な場面を想定した自己伝達の方法を学ぶとともに、自己を分析することで自分の短所と長所を見つけることになります。青年期の学生は自分の「持ち味」を長所として自覚していないことが多く、ここでの自己分析が就職活動、転入学等に役立つでしょう。発表での声の大きさ、表情、姿勢等の確認にはビデオカメラを利用します。

授業計画

授業の進め方。評価の方法。内観の試み。	企業向け自己PRを作つてみる。これはこの授業の15回目最終課題。発表者は毎回授業の後半に決定。
自己を見つめ直す。	自分を表現する。
自分について人に説明する。 発表	自分の経験を伝達する。
身近な出来事を文章化する。できるだけ感想を交えず、事実で表現する。	1.誕生から現在までの自分史を作成する。 2.履歴書作成。
自己を見つめなおす。	他に理解してもらえるよう工夫する。
今持っているものを聴衆に紹介する。	1.自分を漢字一文字で表現する。 2.キーワードを覚え、メモを読み上げないで発表する。
スピーチでの表現と発声等を意識する。	心理テストで自己診断し、自分の性格を明らかにする。
自己の再発見、再確認。	他者の自己紹介を参考に自分を書く。
他者の自己紹介を読んで利用する。	25の自己紹介の「ネタ」を作る。
自己紹介で使えるキーワードや経験を洗い出す。	これまでの学習を参考に自己紹介。できるだけ数字、名称等を使って、事実を述べる。
自己紹介のまとめを作る。	感想を言わずに事実だけで説明する。
事実に基づいた表現に慣れる。	欠点と長所を把握したPR文を作成する。
自分の欠点を知り、欠点を解消させる考えを述べる。	自分を構成する五つの要素を見つけ、それぞれに具体的な要素名を付ける。
自己分析	もう一度履歴書を書く。
エントリーシート作成	自分の弱み、強みを具体例を挙げて表現する。
自己分析最終	

授業形態・授業方法

授業中に学生による発言、発表を促す。授業ごとに10数名が発表するが、発表者は直前まで公表されない。発表者は授業後半で判明するため、授業参加者全員が発表することを想定して、【発表資料】を作成することになる。【発表資料】が提出レポートとなる。

養うべき力と到達目標

- ①仲間と働く力
正しい姿勢と発声をめざす。できるだけ意見を排し、事実で表現する能力を養い、自己表現力をつけるとともに相手の意見を理解する力をつける。
- ②自ら動く力 ②筋道を立てる力
自己発見し、自分の短所長所を認識することで目標を立て、能動的に行動する力をつける。

成績評価の観点と方法・尺度

授業で課題【発表資料】を提出するごとに加点していく。いつ指名されても発表できるよう、課題に取り組む必要がある。

使用教科書

無し。授業でプリント配布

参考文献等

特に指定無し。

履修条件

観光学科1回生

履修上の注意・備考・メッセージ

特に無し

オフィスアワー・授業外での質問の方法

nakat@osaka-seikei.ac.jp

学籍番号、氏名入力して送信。

個人研究室へ（ドアが開いている時はいつでも歓迎です）

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	金 志善				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、マーケティングとは何か、企業はなぜマーケティング活動を行うのか、マーケティングの基礎的な概念・理論を学び、それらを企業にどのように適用できるかを理解することを目的とします。具体的な事例を提示しながら、マーケティングの諸活動をマネジメントする際の鍵となるしくみに対する認識が深まるように講義を進めます。

今後の基幹産業となる観光産業界で活躍する学生たちにマーケティングの発想で考える力をつけることを期待します。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義の進め方	キーワード：マーケティング
	講義の狙い、講義計画、成績評価、授業概要などを解説します。また、マーケティングとは何かについて学びます。	
第2回	マーケティングツールとは	キーワード：マーケティング・ミックス（4 P）
	マーケティング・ミックス（4 P）、マーケティング・コンセプトについて学びます。	
第3回	お客様とはだれなのか	キーワード：セグメンテーション、ポジショニング
	セグメンテーション、ポジショニングについて学びます。	
第4回	マズローの欲求5段階説	キーワード：マズローの欲求5段階説
	『マズローの欲求5段階説』をどのようにビジネスやマーケティングに活かせば良いのかについて学びます。	
第5回	商品購買と人間ニーズの充足	キーワード：ニュース・ウォンツ・需要
	ニュース・ウォンツ・需要の違いを学びます。	
第6回	消費者の購買行動プロセス	キーワード：AIDMAの法則
	消費者の購買までのプロセス：AIDMA（アイドマ）の法則について学びます。	
第7回	環境分析：SWOT分析	キーワード：SWOT分析
	マクロ・ミクロ環境の分析 SWOT分析とは何かについて学びます。	
第8回	製品戦略について	キーワード：製品戦略
	製品をどうとらえるかについて学びます。小テスト	
第9回	マーケティングで価格戦略を策定する	キーワード：価格戦略
	コスト・リーダーシップ戦略、スケールメリット、価格決定、競争市場戦略について学びます。	
第10回	流通チャネルの戦略	キーワード：流通チャネル
	開放型チャネル・選択型チャネル、ダイレクト・マーケティングについて学びます。	
第11回	プロモーションの戦略	キーワード：プッシュ戦略、プル戦略
	プロモーションとは何か、プッシュ戦略とプル戦略について学びます。	
第12回	ブランドとイメージ	キーワード：ブランド、イメージ
	ブランド構築のプロセスを理解します。	
第13回	リレーションシップ・マーケティング	キーワード：CRM
	カスタマー・リレーションシップ・マネジメント（CRM）について理解します。	
第14回	持続的な発展のためのマーケティングのあり方	キーワード：計画的陳腐化
	計画的陳腐化（機能的・物理的・心理的陳腐化）、ホテルの事例を中心に自ら考える力を養っていきます。	
第15回	マーケティングリサーチ	キーワード：マーケティングリサーチ
	アンケート作成方法および注意事項について学びます。	

授業形態・授業方法

マーケティングの基礎を学ぶため、自作の資料を用いて毎回の講義が中心になります。講義はパワーポイントの活用を行い、授業の理解すべきポイントを分かりやすく説明します。

養うべき力と到達目標

①専門的な力
マーケティングツール（4P、STP、3Cなど）を適切に用いて、企業のマーケティング戦略を評価したり、自分なりに戦略立案を立てることができます。

②課題発表力
他人の口頭発表や文章についてコメントすることができる。プレゼンテーション能力を高める。

成績評価の観点と方法・尺度

- 小テスト、課題発表、レポートで評価する。それぞれの点数とその基準は以下の通りである。
- ・小テスト：2回×20点（合計40点）、持込不可。その他の詳細は後日説明する。)
 - ・課題発表：40点（3人グループで、課題をプレゼンテーションする。）
 - ・レポート：20点（理解度を確認するためのレポートを実施する。）

使用教科書

テキストは特に指定しない。毎回の講義では、教員が作成したレジュメを使います。資料はファイルにとじて管理すること。

参考文献等

『1からのマーケティング』石井淳蔵・廣田章光著（中央経済社、2009年）
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

最終プレゼンテーションをしなかった場合、本科目全体としての成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室
その他連絡をとりたい場合はEメールで（kim-j@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業科目名	国内旅行地理				
担当教員名	山脇朱美				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

この授業では、国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）、総合旅行業務取扱管理者試験（国家試験）に必要な日本国内の観光知識を学習します。具体的には、47都道府県の県庁所在地、有名な温泉、有名な山・川、世界遺産、空港がある場合は空港コード等、旅行関連業務で必要となる知識を身に付けることを目標とします。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
1回目	授業ガイダンス、北海道エリアの観光知識 ・北海道の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP2~7
2回目	東北エリアの観光知識 ・青森、岩手、宮城、秋田の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP8~18
3回目	東北エリアの観光知識 ・山形、福島、茨城、栃木の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP19~29
4回目	関東エリアの観光知識 ・群馬、埼玉の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。 ・第1回小テスト実施	テキストP30~34
5回目	関東エリアの観光知識 ・千葉、東京、神奈川、新潟の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP35~50
6回目	関東・北陸エリアの観光知識 ・富山、石川、福井、山梨の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP51~60
7回目	中部エリアの観光知識 ・長野、岐阜、静岡の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。 ・第2回小テスト実施	テキストP61~71
8回目	中部・関西エリアの観光知識 ・愛知、三重、滋賀、京都の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP72~85
9回目	関西エリアの観光知識 ・大阪、兵庫、奈良、和歌山の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP86~96
10回目	中国エリアの観光知識 ・鳥取、島根、岡山、広島の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP97~107
11回目	中国・四国エリアの観光知識 ・山口、徳島、香川の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。 ・第3回小テスト実施	テキストP108~114
12回目	四国・九州エリアの観光知識 ・愛媛、高知、福岡、佐賀の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP115~123
13回目	九州エリアの観光知識 ・長崎、熊本、大分、宮崎の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成。	テキストP124~134
14回目	九州・沖縄エリアの観光知識 ・鹿児島の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などと、沖縄の観光地、八重山諸島などの島々の観光地図を作成。	テキストP135~140
15回目	まとめ ・第4回小テスト実施 ・国家試験の傾向と対策	国家試験の問題にチャレンジする。

授業形態・授業方法

観光地の場所や名前を学ぶため、講義がを中心となります。
覚えやすくするために、毎回授業時に観光地の地図と観光地ノートを作成します。
授業終了時には毎回提出してもらいますので、授業中にしっかり作成してください。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・専門知識：47都道府県の有名観光地・温泉等を覚える。
「国内旅行業務取扱管理者」試験に出題される問題を、解く事ができるようになることが目標。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：今まで知らなかつた観光地に対して、深い興味を示してもらうことを目標にしている。

成績評価の観点と方法・尺度

- 観点：主に「温泉」、「寺社仏閣・城」、「自然」、「世界遺産」の観点から理解度を見る。
 成績評価：
 - ・小テスト4回実施 15点×4回（合計60点）
範囲は北海道～埼玉県、千葉県～静岡県、愛知県～山口県、徳島県～沖縄県
 - ・授業内課題：観光地地図を毎回作成し47枚を提出。（47都道府県） 20点
 - ・授業取組み姿勢：教員との授業中のやりとり（質問に対して的確に回答することを評価） 20点

使用教科書

旅行業実務シリーズ『2016 国内観光資源』／株式会社 J T B 総合研究所

参考文献等

旅行業実務シリーズ「国内観光地理」株式会社 J T B 総合研究所

履修条件

観光学科1回生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

学習課題に記載している予習・復習のテキストページは、2015年度版のものです。2016年度版と異なる場合はその都度指示を出します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは火曜3限、場所は研究室（西館5階）。
その他の時間はEメール（yamawaki@osaka-seikei.ac.jp）で質問してください。自分の学籍番号、氏名を明記すること。

授業科目名	観光まちづくり論				
担当教員名	金 志善				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

観光まちづくりとは、地域が主体となって、自然、歴史、産業、文化等、地域の特徴ある観光資源を活かすことによって、交流を振興し地域を活性化させサステイナブルな魅力ある観光のまちを実現させるための活動です。この授業では、まちづくりの形成過程や実態、それに対する旅行者の動向、意識を探ります。基本的に日本の「まちづくり」について論じるが、マーケティングという内容についても触れてていきます。

授業計画

授業科目名	授業概要	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 ガイダンス—観光まちづくりの概念—	授業の概要、授業の進め方、成績評価、観光まちづくりの概念および登場について学びます。	キーワード：観光まちづくり定義
第2回 観光と地域まちづくり	観光の本質を探るため、歴史観光論と復興観光論の立場から理解します。	キーワード：観光、地域まちづくり
第3回 まちづくりから観光へ	「まちづくりから観光への接近：我が国におけるその潮流」について学びます。 「まちづくり」は「観光」に何を期待してきたのかについて考えます。	キーワード：まちづくり、観光
第4回 観光まちづくりのステップ	これまでの観光地づくりの系譜について理解し、観光地におけるまちづくりの課題について考えます。	キーワード：まちづくりの課題
第5回 観光まちづくりとマーケティング	着地型観光現象と地域資源の活用についてマーケティングの視点から学びます。	キーワード：着地型観光、地域資源
第6回 「食」による観光まちづくり	観光まちづくりの特徴と「食」による観光まちづくりについて学びます。	キーワード：食
第7回 着地型観光の事業主体	多様な主体による着地型観光事業の可能性について学びます。	キーワード：着地型観光、事業主体
第8回 着地型観光の流通・販売	着地型旅行商品をどのようにして販売したら良いか、流通ルート、販売チャネルの観点から理解します。 小テスト実施します。	キーワード：流通チャネル
第9回 地域固有の文化を活かしたまちづくり	地域固有の文化を活かしたまちづくりの特徴と着地型観光における住民の役割について学びます。	キーワード：着地型観光、住民の役割
第10回 観光まちづくりの実践	まちづくりにおける欧米と日本の特徴と違いについて学びます。	キーワード：欧米・日本のライフスタイル
第11回 まちづくりから持続可能な地域へ	観光地の形成・発展のプロセスについて理解し、観光開発の考え方について学びます。	キーワード：持続可能な観光地、観光開発
第12回 持続可能な観光まちづくりのために（1）	持続可能な観光まちづくりの担い手たちの重要性について学びます。	キーワード：観光まちづくりの重要性 課題をプレゼンする。
第13回 持続可能な観光まちづくりのために（2）	観光計画、地域マネジメント、観光イノベーションの重要性について学びます。	キーワード：地域マネジメント、観光イノベーション 課題をプレゼンする。
第14回 着地型観光のマネジメント【事例（1）】	体験交流開発型、ニューツーリズム開発型の事例などを中心に学びます。	キーワード：ニューツーリズム、着地型観光 課題をプレゼンする。
第15回 着地型観光のマネジメント【事例（2）】	観光地再生型について学びます。	キーワード：着地型観光、まとめ。

授業形態・授業方法

自作の資料を用いて毎回の講義形式で行います。観光まちづくりの画像、映像を通して理解を深めていきます。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
観光まちづくりの意味や役割、可能性を地域の視点で学び、全国各地で実践されている具体的な事例を使って、理論と実践について体系的に理解する力を養う。
- ②課題発言力
各地の観光まちづくりの特色を把握し、グループ毎に自分たちの意見を他人に伝えることができるコミュニケーション能力を高める。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内の小レポート及びクイズ（30点）、課題プレゼン（50点）、小テスト（20点）の合計100点満点で評価する。

・授業内の小レポート及びクイズ（30点）：講義内容の理解度を測るとともに、その理解に基づいて自分の意見を述べられるかどうか、また到達目標が総合的に達成できているかどうかを評価する。

- ・課題プレゼン（50点）：パワーポイントを使用し、15分以上プレゼンする。
- ・小テスト1回（20点）：持込不可

使用教科書

テキストは特に指定しない。毎回の講義では、自作資料を配布する。

参考文献等

- ・『観光まちづくり』西村幸夫著（学芸出版社、2009年）
- ・『観光まちづくりのマーケティング』十代田 朗著（学芸出版社、2010年）
- ・『着地型観光－地域が主役のツーリズム－』尾家 建生他著（学芸出版社、2008年）

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

プレゼンテーションをしなかった場合、本科目全体としての成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室
Eメール（kim-j@osaka-seikei.ac.jp）。学籍番号、氏名を記入して送信。

授業科目名	宿泊業実務演習				
担当教員名	金 志善				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業は、宿泊産業の歴史から生い立ちを学び、現在、国内外のホテルチェーンのあり方、日本ホテルの実態等、最新情報を織り交ぜ幅広く学んでいきます。また、ホテル業の具体的な職種として、宿泊部門、料飲部門、ブライダル業務について学びます。実際にホテル・旅館で実践されているホスピタリティを映像から学び、そのポイントをグループ毎にレポートします。レポートもとに授業内で討議しホスピタリティの実際を共有します。

授業計画

第1回	ガイダンス	学習課題（授業時間外の学習）
	自己紹介、授業の概要、授業の進め方、成績評価、観光産業と宿泊産業の具体例を比較し、宿泊産業の特色を学びます。	キーワード：観光産業、宿泊産業の特色
第2回	宿泊産業の歴史 宿泊産業の歴史として、主にヨーロッパでの発達史を学びます。	キーワード：宿泊産業の歴史、ヨーロッパ
第3回	日本のホテル史 日本のホテルの発達史を学び、現在のホテルを考えます。	キーワード：ホテルの発達史
第4回	世界のホテルチェーン 世界のホテルチェーンを歴史と現在から学びます。	キーワード：ホテルチェーン
第5回	日本のホテルチェーン 日本のホテルチェーンを歴史と現在から学びます。大阪にあるチェーンのホテルをピックアップします。	キーワード：ホテルチェーン
第6回	宿泊部門の特色 ホテルの宿泊部門の特色を学びます。	キーワード：宿泊部門の業務
第7回	ドアマン・ベルマンの仕事 ドアマン・ベルマンの仕事を映像を交えて学びます。	キーワード：ドアマン・ベルマン 映像から学んだことをまとめる。
第8回	フロントレセプションの仕事 フロントレセプションの仕事を映像を交えて学びます。	キーワード：フロントレセプション 映像から学んだことをまとめる。
第9回	ホテルの経営形態 ホテルの経営システムについて学びます。	キーワード：ホテル経営、システム
第10回	ハウスキーピングの仕事 ホテルの商品である客室の管理について学びます。	キーワード：ハウスキーピング
第11回	料飲関係の組織 料飲に関しての組織と特色について学びます。	キーワード：料飲部門 課題プレゼンをする。
第12回	レストランの種類 レストランの種類と特色について学びます。	キーワード：レストラン業務 課題プレゼンをする。
第13回	宴会の種類と形式 ホテルで行われている宴会の種類と形式を学びます。	キーワード：宴会部門 課題プレゼンをする。
第14回	ホテルの婚礼 ホテルで行われている結婚式と披露宴について学びます。	キーワード：ブライダル業務 課題プレゼンをする。
第15回	セールス＆マーケティング部門 ホテルの管理部門の仕事について学びます。	キーワード：セールス、マーケティング

授業形態・授業方法

講義方式とし必要な応じ映像を取り入れます。毎回の講義はパワーポイントの活用を行います。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
宿泊業の歴史、実務、料飲業の基礎知識を学び、将来宿泊業に従事した時に役に立つ能力を養う。
- ②学び合う力
他人の口頭発表について自分の考えを述べることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 小テスト30点、授業内レポート30点、課題プレゼン40点で評価する。
- ・小テスト（30点）：持込不可
 - ・授業内レポート：6回×5点（合計30点）、宿泊業の具体的知識の理解度をみる。
 - ・課題プレゼン（40点）：4人グループで、課題をプレゼンする。

使用教科書

テキストは特に指定しない。自作資料を配布する。

参考文献等

- 『ホテル・マーケティング・ブック』仲谷秀一他著（中央経済社、2011）
『ホテル経営教本』鈴木博他著（柴田書店、1999）

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

期末試験は実施しないので課題発表が必修条件。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室
Eメール：kim-j@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名を必ず入れること。

授業科目名	旅行業実務演習				
担当教員名	山田勲之				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

旅行業従事者は旅行業約款に従い、顧客の安全確保を最優先に、国内・海外の航空機や鉄道、バス、宿泊、食事、観光地、保険などの手配、販売、営業、添乗などの業務を行っています。さらには、外国の関連機関やマスコミとの折衝も行わなければならないことがあります。従って、これらの業務の遂行には、幅広い知識と教養が必要とされ、旅程管理者資格や旅行業務取扱管理者などの資格取得が要求されます。しかしながら、このような厳しい条件下で行われる旅行業務には多くの「やりがい」があります。

本演習では第1種旅行業の資格を有する旅行会社において、主に企画型主催旅行の商品造成販売を想定して、実務演習を行います。

授業計画

授業ガイダンス	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 授業ガイダンス 旅行会社の仕事の基本について学びます。	旅行会社に関する基礎的知識を復習する。
第2回 旅行業務概説 観光に関する産業の詳細、その中における旅行会社の位置づけ、及び旅行会社の分類、業務の流れ（企画⇒仕入⇒造成⇒販売）を理解します。	旅行会社の業務を復習します。
第3回 JR時刻表の見方、運賃計算 JR時刻表の見方、運賃計算を行う。現在インターネットで容易に列車の発着時刻や運賃が検索できますが、国家試験の重要項目であり、またカウンター業務では、相変わらず利用されることがあります。時刻表を利用して、様々なパターンを練習します。	時刻表を読むために必要な記号を暗記します。
第4回 コードの基本と2レターコード 業務上、必要となるフォネティックコード、2レターコード（航空会社）を覚えます。	必要最低限のコードを暗記すること。
第5回 3レターコード 国内、海外の3レターコード（空港）を暗記します。前回の授業で覚えたコード類のテストをします。	必要最低限のコードを暗記すること。
第6回 国際線航空券の見方 国内、海外の3レターコード（空港）の小テストをします。国際線航空券に様々な記号や数字が並んでいます。これらの見方を理解します。	AIR販売に必要な知識を暗記する。
第7回 国際線航空券の規程 国際線航空券の規程や種類について学ぶとともに、それに関連する専門用語を覚えます。	AIR販売に必要な知識を暗記する。
第8回 パスポート AIRに関する小テストを実施します。 パスポートの取得申請や記載内容について理解し、実際に申請書を作成します。各国の入国規定や査証規程について学びます。	パスポートと査証の規定を暗記する。
第9回 査証 パスポート、ビザに関する小テストを実施します。 アメリカのESTAやアジア諸国のビザ申請書を実際に作成し、必要な知識を暗記します。	査証の規定を暗記する。
第10回 パンフレット 旅行商品は「形のない」商品と言われますが、ツアーパンフレットはお客様が商品として目にできるものといえます。実際のパンフレットをもとに旅行商品の構成要素を確認します。	旅行商品の構成要素を復習する。
第11回 日程表の作成 旅行商品の価格を決定するためには、見積をしなければなりません。ランドオペレーターに見積依頼することを想定して、海外旅行日程表を作成します。	これまで暗記したことを復習しておくこと。
第12回 ツアービズ 前回作成した日程表に基づいて、Air Tariffや保険料金表などを使って、実際に見積もりを行います。	旅行商品の仕入れ項目や必要経費について復習しておくこと。
第13回 標準旅行業約款 企画手配旅行と受注型手配旅行、手配旅行の違いを理解したうえで、旅行業約款に関して、特に責任範囲について学習します。	主要な用語を暗記する。
第14回 海外旅行保険 海外旅行保険の種類と約款の詳細、事故事例や適用事例を学びます。	主要な用語を暗記する。
第15回 安全 海外では、日本国内では考えられない危険性が時に潜んでいます。実際の海外事故例を挙げて、その対応について学習する。そのうえで、防止策やより良き対応法について議論する。	海外事故事例について理解する。

授業形態・授業方法

- ・旅行会社の新人社員研修を想定した授業を行います。従って旅行業の専門知識や専門用語を学ぶために講義を実施しますが、様々な業務の実習もあわせて実施します。
- ・用語暗記や課題提出を課します。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力：
 - ・将来、旅行会社社員として使える知識を身に付けることができる。
- ②幅広い教養と品格
 - ・旅行業務に必要とされる知識と教養を身に付ける過程で、社会知識と文化素養をそなえることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・小テスト7回：50%
 - 授業内容を踏まえた穴埋め方式のテストを実施する。
- ・小レポート2回：20%
 - 各回1～10点で評価し、合計10点満点とする。
- ・実技の提出6回：30%
 - 授業内容を踏まえて独自の視点で書かれていれば8～10点、授業内容を踏まえていれば4～7点、不足や重大なあやまりがあれば、1～3点。
- ・正確性（15%）、達成度（15%）

使用教科書

適宜プリントを配布する。

参考文献等

松園俊司・森下昌美編(2012) 『旅行業概論』同友館

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

旅行会社の新人社員研修を想定した授業を行います。従って一般社会と同様、課題未提出の場合、厳しく対応します（1回につき総合点から10点引きます）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	運輸業実務演習				
担当教員名	山脇朱美				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、観光産業の基盤である運輸業の中の航空輸送事業を中心に、運輸業全般に関する理解を深めます。
また、旅行業務取扱管理者試験（国家試験）で必要とされる各種コード、時差や所要時間、航空時刻表、鉄道時刻表の見方等の基本知識習得を目指します。

授業計画

回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）
1回	運輸業についての理解及び世界地理について ・観光産業における運輸業についての理解を深めます。 ・国家試験の内容を説明します。 ・世界地理の小テストを実施します。	世界地理を復習する。
2回	出入国に必要な基礎知識Ⅰ ・税関、出入国審査、検疫について学びます ・携帯品・別送品申告書について学びます。	税関、出入国審査、検疫の流れを復習する。
3回	出入国に必要な基礎知識Ⅱ ・ビザについて学びます。 ・シェンゲン協定について学びます。 ・査証免除について学びます。	査証免除国について調べます。
4回	航空産業の歴史と日本の空港について ・航空産業の歴史（世界）を理解します。 ・日本の空港コードについて説明します。	日本の主な空港のコードを覚えます。
5回	航空産業の歴史と世界の空港について ・航空産業の歴史（日本）を理解します。 ・日本の空港コードの小テスト実施します。 ・世界の空港事情をビデオを見て理解します。 ・ビデオレポートを提出します。 ・世界の主なエアラインのコードについて説明します。	世界の主なエアラインコードを覚えます。
6回	航空輸送事業の戦略的経営 ・世界の主なエアラインコードの小テストを実施します。 ・F F Pについて学びます。 ・コードシェアについて学びます。 ・アライアンスについて学びます。 ・ハブ＆スポークシステムについて学びます。	予習・復習のキーワード：F F P、コードシェア、アライアンスを理解します。
7回	航空輸送産業の現状と世界の都市 ・L C Cの歴史と現状について理解します。 ・世界の主な都市のコードについて説明します。	世界の主な都市コードを覚えます。
8回	クルーズ事業 ・クルーズ事業について理解を深めます。 ・世界の主な都市コードの小テストを実施します。	予習・復習のキーワード：ディズニークルーズライン、飛鳥についての理解を深める。
9回	J R時刻表の理解 ・時刻表の見方を学びます。 ・運賃・料金の違いを理解します。 ・時刻表を使用してのプランニングを行います。	プランニングの追加練習問題をやります。
10回	時差と所要時間の演習 ・時差の知識を身につけます。 ・所要時間の計算を、演習問題を解きながら理解します。	旅行業務取扱管理者試験の出題部分に取り組みます。
11回	OAG時刻表の演習 ・OAG時刻表の見方を、演習問題を解きながら理解します。	旅行業務取扱管理者試験の出題部分に取り組みます。
12回	世界の鉄道時刻表の演習 ・世界の鉄道時刻表の見方を、演習問題を解きながら理解します。	旅行業務取扱管理者試験の出題部分に取り組みます。
13回	国内線時刻表の演習 ・JAL国内航空時刻表の見方を、演習問題を解きながら理解します。	旅行業務取扱管理者試験の出題部分に取り組みます。
14回	運輸業の仕事に関する理解 ・空港スタッフの仕事を理解します。	航空会社、空港運営会社等でどのような仕事があるのかを調べます。
15回	運輸業の仕事に関する理解 ・鉄道関連の仕事、主に鉄道パーサーの仕事を理解します。 ・時刻表の見方を中心としたテストを実施します。	J R時刻表、O A G時刻表、国内航空時刻表、ヨーロッパ鉄道時刻表の見方を復習します。

授業形態・授業方法

プリントを使用した講義を中心としますが、DVD・ビデオ等なども活用して理解を深めます。
実際のJR時刻表やJAL国内線時刻表を用いて、時刻表の見方を習得します。

重要ポイントは演習問題を解きながら、理解を深めます。

養うべき力と到達目標

①専門的な力

- ・出入国に必要な基礎知識：「C・I・Q」や査証についての基礎的な知識を身に付ける。
- ・航空産業の歴史についての基礎知識：「ICAO」「IATA」の設立や、日本の「45・47体制」を理解することができる。
- ・航空産業の現状についての基礎知識：「CRS」「FFP」「コードシェア」「アライアンス」について理解し、「LCC」の現状を把握することができる。
- ・日本の空港、世界の都市、世界のエアラインについての基礎知識：空港コード、都市コード、エアラインコードを覚える。
- ・各種時刻表についての技能：JR時刻表、OAG時刻表、ヨーロッパ鉄道時刻表、国内航空時刻表を使いこなすことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「航空産業の一般知識」、「各種コード」、「各種時刻表の見方」の3つの観点から理解度をみる。

成績評価：・授業内第1回小テスト：日本の空港コード 10点

・授業内第2回小テスト：世界のエアラインコード 10点

・授業内第3回小テスト：世界の都市コード 10点

・授業内第4回小テスト：各種時刻表の見方、時差と所要時間等 60点

・授業への参加度：教員との授業中のやりとり、質問の対して的確に回答できているかどうかで評価する。10点

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

『現代の観光事業』／北川宗忠／ミネルヴァ書房（2009年）

履修条件

観光学科1回生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは火曜4限、場所は研究室（西館5階）。

上記以外の時間はEメール（yamawaki@osaka-seikei.ac.jp）で質問してください。自分の学籍番号、氏名を明記すること。

授業科目名	インターンシップ			
担当教員名	国枝よしみ・中伊佐雄・山脇朱美・竹内正人・山田勅之・金志善			
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数 2

授業概要

観光関連企業において2週間の短期研修・実習を体験する。企業の現場はさまざまであるが、事務的な業務やサービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としている。

授業計画

	事前学習：企業研究	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	企業組織とビジネスの理解を進めます。 企業研究内容はホテル・旅行会社、ブライダル会社、一般企業（後日指定します）などです。	インターンシップ先企業の研究
第2回	事前学習：基本的な身だしなみや言葉遣いの習得 身だしなみ、挨拶、言葉遣い等の講義とロールプレイを実施します。	身だしなみのチェックリストの作成
第3回	事前学習：ビジネスシーンにおけるマナーの習得 ビジネスマナー、来客対応の講義とロールプレイを実施します。	
第4回	事前学習：電話対応研修 電話対応、ビジネス文書の書き方を習得します。ロールプレイで基本を習得します。	企業へは事前に訪問して注意事項や集合場所を確認。
第5回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）1	
第6回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）2	
第7回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）3	
第8回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）4	
第9回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）5	
第10回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）6	
第11回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）7	
第12回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）8	
13回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）9	
第14回	ビジネスインターンシップ（企業内研修）10	
第15回	事後学習 研修報告書作成と提出します。これまでの体験を報告書としてまとめてます。	

授業形態・授業方法

教室での事前学習；8時間、企業でのビジネスインターンシップ 80時間～120時間、教室での事後学習 2時間を授業として行います。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・専門知識、専門技能、職業理解、特有のコンピテンシー
 - ・宿泊・旅行・運輸・ブライダル業、一般企業等いずれかの実務に関わる知識と技能の理解を到達目標とする。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：物事に対して広く関心を持つ態度
 - ・積極性：新たな物事に物怖じせずに挑戦する態度

成績評価の観点と方法・尺度

研修日誌（50%）は経験したことを詳細に記述し、研修後のレポート（50%）と合わせて総合的に評価する。

研修日誌：50点

- ・研修中の内容や学んだことを簡潔にまとめている 50点
- ・研修中のことをまとめている 40点

研修後のレポート：50点

- ・各企業の担当者が協調性、仕事への取り組み、報告・連絡・相談等の実践的な力 50点
- ・各企業担当者からの仕指示を遂行できている 40点
- ・各企業の担当者の視点から仕事内容を理解できている 40点

使用教科書

指定しないが、事前学習のための資料を配布する。

参考文献等

大久保幸夫『キャリアデザイン入門』日経文庫（2006）

履修条件

前期、後期にインターンシップ希望者を募集する。説明会、面接を経て事前学習を行った学生が参加する。
インターンシップを終了した後、単位を付与する。

履修上の注意・備考・メッセージ

履修登録の際に登録は行わないこと。インターンシップが終了し、評価が確定した後単位が付与される。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

観光学科各教員のオフィスアワーに準じます。
それ以外は、メールにて問い合わせてください。その際に学籍番号と氏名を必ず記入してください。

授業科目名	国内旅行管理者演習A				
担当教員名	西川 博				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

国家試験合格のための基礎的な知識を見につけ、その後、試験対策の実践的演習を行う。国内管理者試験・3科目のうち、旅行業法及び旅行業約款の学習を行う。

授業計画

授業回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション、国家試験概要 国家試験は、旅行業法、約款、国内旅行実務の3科目から構成されており、それぞれの科目的内容及び、試験実施日、試験合格のためのポイントなどを確認する。	ANTAのホームページの閲覧、試験科目構成の理解
第2回	旅行業法 目的・登録制度 旅行業法第一条の目的について学びます。また、旅行者の利便の増進を図るために、登録制度がつくられていますが、この登録制度の中身について学んでいきます。	旅行業法第一条の目的についての確認と登録制度の復習
第3回	登録制度・営業保証金制度 旅行者の保護のため、営業保証金制度がつくられています。営業保証金制度の仕組みと旅行業の種別による営業保証金額や業務の範囲について学んでいきます。旅行業の種別ごとの基準資産額についても理解していく。	登録制度・営業保証金制度
第4回	旅行業務取扱管理者制度・旅程管理 旅行会社には、必ず、業務範囲に応じた旅行業務取扱管理者が配置されねばなりません。この旅行業務取扱管理者の位置づけとその職務内容について学習します。	旅行会社には、その業務範囲に応じた旅行業務取扱管理者が配置されねばならない。その管理者の職務についての理解していく。
第5回	取引に伴う規則 専門業者である旅行会社は、素人である旅行者との旅行取引を行うに当たって、消費者保護の視点から、様々な規則を守って取引を行わなくてはなりません。この規則に当たる取引準則について学んでいきます。	旅行会社では、旅行者との取引を行っていくために、登録票、約款等定められた規則を守っていかなければならない。取引に伴う規則の概要について
第6回	禁止行為・旅行協会 旅行という分野で専門業者である旅行業者は、多くの知識を活かして仕事を行っています。旅行者に対してやってはいけないことを確認していきます。また、業界の団体である旅行業協会がどのような業務を行っているのかを学んでいきます。	旅行業協会の法定5業務について復習する
第7回	旅行業法小テスト、約款①・募集型企画旅行契約の部 旅行会社がお客さまである旅行者と取引をする場合には、パッケージツアーや受注型企画旅行、オーダーメイドの旅行別に定型的な契約条件がつくられています。その1つである募集型企画旅行契約について学んでいきます。	募集型企画旅行契約について復習する
第8回	約款②・募集型企画旅行契約の部 パッケージツアーや受注型企画旅行契約について学んでいきます。	募集型契約の変更について復習する
第9回	約款③・募集型企画旅行契約の部 募集型企画旅行契約の中で、契約内容の変更や旅行代金の変更などが主じた場合についての契約条件について学んでいきます。	旅行内容の変更や旅行代金の変更などの契約の変更について復習する
第10回	約款④・募集型企画旅行契約の部 募集型企画旅行契約の中で、旅行者側から、あるいは、旅行業者側から、契約を解除する場合について学んでいきます。また、旅程保証の考え方についても学びます。	契約の解除や旅程保証について復習する
第11回	約款⑤募集型企画旅行契約の部小テスト、受注型企画旅行契約 旅程保証についての考え方を学んでいきます。変更補償金の支払規定や免責のこどについても学んでいきます。旅行業者の責任についても理解していきます。	受注型企画旅行とはどんな契約なのか自分自身の理解したことをまとめる
第12回	約款⑥受注型企画旅行契約 特別補償規程① 募集型企画旅行契約と受注型企画旅行契約の違いを中心に学習します。団体・グループ契約での違いについても学んでいきます。募集型と受注型に共通する特別補償規程についても理解を深めていきます。	募集型と受注型企画旅行契約の違いについてのまとめ
第13回	特別補償規程② 特別補償規程の補償金免除の場合について学んでいきます。人命の場合、携行品の場合について、それぞれの特徴的なケースについて理解を深めていきます。	補償の除外規程について事例を複数挙げてみる
第14回	特別補償規程③、約款小テスト 旅行相談契約 特別補償規程の大枠をまとめています。また、旅行相談契約の考え方について学んでいきます。	旅行相談契約について復習する

第15回

業法・約款まとめ

旅行業法・約款の全体を鳥瞰し、また、それぞれの大変なポイントについて数字や大事な語句の確認を行っていきます。

業法・約款の違いまた、その目的について自分の意見を交えてまとめてみる

授業形態・授業方法

教科書に基づき、需要ポイントをプリント等で確認し、練習問題で基礎的知識を取得する。各テーマごとに適時小テスト等を行い、理解度もチェックしながら、実践的知識を身につけていく。

養うべき力と到達目標

- ①専門知識・専門技能を習得する。
旅行業界活躍する場合の大変な資格である旅行業務取扱管理者(国内)資格取得を目指し、旅行に関する専門知識、技能を身につける。
- ②道筋を立てる能力を養い、課題発見力をつける。
法や約款の枠組みの中で、旅行業界がどのように事業を展開しているのかを理解し、今後、どのように発展していくのかを洞察していく力を養う。

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験	50%	全15回の中で、最も大変なポイントを出題します。60%以上の点数取得を目指します。	
小テスト	40%	前回小テスト以降の内容を、授業時間の終了時20分程度で答える問題です。出題範囲を明確にして ○×あるいは、選択問題で答える問題です。50%以上の正解を目指します。	
受講態度	10%	小テストの中、あるいは、状況に応じて簡単なレポートを課します。場合によっては、授業への参 加姿勢を見て、得点化します。	加姿

使用教科書

2016年対策旅行業務取扱管理者一発合格テキスト2 旅行業法・約款／資格の大原 旅行業務管理者講座／大原出版株式会社

参考文献等

国内2016旅行業務取扱管理者試験テーマ別問題集 - 旅行管理者試験受験対策研究室 エフィカス

履修条件

観光学科の学生に限る。

履修上の注意・備考・メッセージ

国内旅行管理者試験に合格することを目標にします。
欠席には厳しく対応します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問の時間は授業後に実施する。

授業科目名	国内旅行管理者演習B				
担当教員名	西川 博				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

国家試験合格のための基礎的知識を身につけ、その後、試験対策の実践的演習を行う。国内管理者試験・3科目のうち、国内旅行実務の運賃料金計算や国内観光地理の学習を行う。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 運賃・料金とは	運送の対価である運賃と早さや座席などのサービス料である料金の違いを学習する。JR、国内航空、貸切バス等様々な交通機関別の運賃・料金について学んでいく。	運賃と料金の違いについて日常生活の中で検証する。
第2回	貸切バスの運賃料金と約款①	貸切バスの運賃である時間・キロ併用制運賃の算出方法について学んでいく。また、深夜早朝運行料金をはじめとする貸切バスの料金算出方法についても算出する。	貸切バスの練習問題を行う
第3回	貸切バスの運賃料金と約款②、小テスト	貸切バスの運賃料金算出方法の復習を行う。また、貸切バス運行の際の運送約款について学んでいく。	貸切バスの約款の復習
第4回	宿泊料金と約款①	旅館で宿泊する場合、ホテルで宿泊する場合、それぞれの場合について宿泊料金の算出方法を学んでいく。旅館で宿泊する場合の子供料金の料金についても食事や寝具別の料金立てについて学んでいく。	宿泊料金の練習問題を解く
第5回	宿泊料金と約款②、小テスト	宿泊料金の計算の復習をする。また、旅館やホテルで宿泊する場合の宿泊約款について学んでいく。	宿泊約款についての復習
第6回	JR旅客営業規則①	JR運賃料金を計算する場合の基本となる営業規則について学んでいく。年齢区分、乗車券の有効期間等の基本的な規則を学んでいく。	JRの年齢区分、乗車券の有効期間について復習する
第7回	JR旅客営業規則②	JR旅客営業規則の学習を更に進めていく。乗車券の発売日、団体等規則の細部に關しても更に知識を深めていく。	個人、団体割引について復習する
第8回	JR旅客営業規則③、小テスト	JR営業規則の中でも、運賃計算につながる用語の整理を中心に行っていく。運賃計算の基礎となる考え方についての理解を深めていく。	JRの企画乗車券について調べる
第9回	JR運賃①	JRグループは、様々な企画乗車券を発行している。こうした企画乗車券の中でも、よく知られ、学生でも利用しやすいものを取り上げ、企画乗車券の仕組みについても学んでいく。	幹線、地方交通線にまたがった運賃計算問題の練習問題を解く
第10回	JR運賃②	JR運賃の基本的な計算方法を学んでいく。幹線+地方交通線の区間の運賃計算方法、本州3社とJR九州、四国、北海道を通して移動する場合の運賃計算の方法も学んでいく。	本州3社と四国、九州、北海道にまたがって移動する場合の練習問題を解く
第11回	JR運賃③、小テスト	JR運賃計算方法の復習をする。連続乗車、環状一周等の計算方法についても学んでいく。都市周辺部の運賃計算の実情と国家試験で出題される運賃計算の特色などについても考察していく。	JR運賃の計算の仕方の復習
第12回	JR料金①	様々な料金設定とそれぞれの違いについて学んでいく。中でも、特急普通車指定席料金の3シーズン制についての理解を深めていく。	通常期、繁忙期、閑散期の特急普通車指定席の料金の練習問題を解く
第13回	JR料金②、小テスト	高速鉄道網・新幹線についての理解を深めると共に、乗継割引について学習する。新幹線の乗継割引とサンライズ瀬戸号と四国内の割引など、場合別の割引制度について学習する。	新幹線の乗継割引の練習問題を解く
第14回	団体運賃・料金①	普通団体の規定及び団体割引率を理解する。指定保証金など、団体運賃計算の基本的な考え方方に習熟し、旅程を元に、団体運賃の算出方法について学んでいく。	団体運賃の計算・練習問題を解く
第15回	団体運賃・料金②	前週に引き続き、団体運賃の計算を行っていく。また、団体の料金の算出に関しても習熟していく。個人の割引と団体割引の場合の運賃計算方法の仕方の違いについてもきっちりと確認していく。	団体料金の問題及び指定保証金の問題を解く

授業形態・授業方法

教科書に基づき、重要ポイントをプリント等で確認し、練習問題で基礎的知識を習得する。各テーマごとに適時小テスト等を行い、理解度もチェックしながら、実践的知識を確実に身につけていく。

養うべき力と到達目標

- ①専門知識・専門技能を習得する。
旅行業界で活躍する場合の大変な資格である旅行業務取扱管理者(国内)資格取得を目指し、旅行に関する専門知識、技能を身につける。
- ②問題解決能力を養う。
運賃・料金の基本的計算を取得することで、旅行業界及び社会人としての、問題解決能力を養う。

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験 50% 全15回の中で、最も大事なポイントを出題します。60%以上の点数取得を目指します。
 小テスト 40% 前回小テスト以降の内容を、授業時間の終了時20分程度で答える問題です。出題範囲を明確にして
 ○×あるいは、選択問題で答える問題です。50%以上の正解を目指します。

受講態度 10% 小テストの中、あるいは、状況に応じて簡単なレポートを課します。場合によっては、授業への参

加姿勢を見て、得点化します。

使用教科書

2016 国内運賃・料金／JTB総合研究所編集／JTB総合研究所

参考文献等

2016年国内旅行業務取扱管理者テーマ別問題集 - 旅行管理者試験受験対策研究室 エフィカス

履修条件

観光学科の学生に限る。

履修上の注意・備考・メッセージ

国内旅行管理者試験に合格することを目指します。

欠席には厳しく対応します。

欠席の翌週には、授業終了時に欠席時のプリントを請求して下さい。出席学生との授業内容確認の上、翌週に質問をして下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業後に行う。

授業科目名	航空予約基礎演習				
担当教員名	山脇朱美・小林由紀				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

この授業では、①航空座席やホテルなどの旅行商品を予約するためのコンピュータ予約システム「AXESS」の基礎的な操作を学び、②「AXESS実用検定試験」の国内線3級合格を目指します。

授業計画

授業回数	授業内容	参考書
第1回	AXESSの概要 国内線予約の基礎知識と各種コードについて学びます。	テキストP7~12
第2回	空席照会 航空便のスケジュールや空席の状況を照会する画面を学びます。 空席照会の画面から航空便を予約します。(基本形)	テキストP22~27
第3回	空席照会からの予約 空席照会の画面を理解し、接続便や取消し待ちなども含めて航空便の予約を練習します。	テキストP28~32
第4回	旅客データ 旅客名や連絡先などの入力と訂正を練習します。	テキストP39~51
第5回	PNR作成練習1 航空予約記録PNRの作成を練習します。	テキストP52~53
第6回	PNR作成練習2 ご家族や外国人のお客様を含むPNRの作成を練習します。	テキストP42~43
第7回	PNRの抽出と旅程の変更 作成したPNRを抽出して、予約便や旅程を変更する操作を練習します。	テキストP57、67~69
第8回	オープン区間の入力 旅程にオープン区間を含むPNRを作成します。	テキストP37
第9回	事前座席指定 機内の座席表から座席を選び指定する事前座席指定について練習します。	テキストP60~64
第10回	年齢データの訂正と総復習 旅客の年齢データについて訂正などを練習します。 国内線予約について総復習します。	テキストP46~47
第11回	練習問題レベル1 AXESS実用検定試験の過去問題を修正したものを使用して理解を深めます。 特に予約コードに注目します。	テキストP55
第12回	練習問題レベル2 前回の練習問題を添削し、返却します。 理解度が低い項目を復習します。 AXESS実用検定試験の過去問題を修正したものを使用して理解を深めます。 特にヘボン式ローマ字に注目します。	テキストP42~43
第13回	練習問題レベル3 前回の練習問題を添削し、返却します。 理解度が低い項目を復習します。 AXESS実用検定試験の過去問題を修正したものを使用して理解を深めます。 特にエラーメッセージに注目します。	テキストP166~167
第14回	過去問題を使って練習 AXESS実用検定試験の過去問題と解説をします。	テキストP9~10
第15回	国内線3級基礎知識のまとめと実技テスト AXESS実用検定国内線3級と同レベルの実技テストを実施し、理解度を確認するとともに、これまでの学習内容を振り返ります。	テキストP13

授業形態・授業方法

旅行総合システム「AXESS」を使用して実習を行いますが、基礎的な知識に関しては、講義も行います。
練習用のドリルを作成し、反復練習が出来るようにしています。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・専門知識：空港コード、ヘボン式ローマ字等を覚える。
 - ・専門技能：旅行総合システム「AXESS」国内線を操作できる。

- 到達目標は「AXESS実用検定国内線3級」合格。
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：航空予約基礎について理解し、予約記録作成に至る一連のコンピュータ操作技能を身に付ける。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：空港コード、ヘボン式ローマ字等航空予約に関する基礎知識の習得。

基本的な予約記録を作成し、変更を行うことができる。

事前座席指定を行うことができる。

尺度：これら観点の理解度と操作方法の習得度で評価する。

成績評価：授業内小テスト（20%）空港コード等の基礎知識が理解出来ているかどうかを見る。

授業への参加度（20%）練習問題を提出してもらい、理解度をチェックする。

実技テスト（60%）「AXESS実用検定国内3級」と同等レベルの問題で、理解度を評価する。

評価の基準はPNR作成、事前座席指定が出来ているか、さらに変更が出来ているかです。

使用教科書

『国内予約発券業務の基礎』／株式会社アクセス国際ネットワーク（2016年）

参考文献等

なし

履修条件

観光学科1回生のみ履修可能です。

この科目を履修しないと、1回生後期に開講される「航空予約演習A」、2回生前期に開講される「航空予約演習B」は履修出来ません。

履修上の注意・備考・メッセージ

教室に入ったらパソコンを起動し、ログインを行い、AXESSを起動しておいてください。

学習課題に記載している予習・復習のテキストページは2015年度版のものです。2016年度版と異なる場合はその都度指示を出します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

山脇：オフィスアワーは火曜3限、場所は研究室（西館5階）。その他の時間はEメール（yamawaki@osaka-seikei.ac.jp）で質問してください。自分の学籍番号、氏名を明記すること。

小林：授業の前後に質問に応じます。

授業科目名	航空予約演習A				
担当教員名	山脇朱美・小林由紀				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、①航空会社及び旅行会社で必要となる実務実践能力を身につけることを目指し、②旅行総合システム「AXESS」の国内線予約業務応用編を学びます。最終的には「AXESS実用検定国内線2級」合格を目指します。
(1回生前期開講の「航空予約基礎演習」受講者のみ受講可能)

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
1回	国内線3級の復習 PNRの変更。完了&抽出、ページUP等の入力及び機能を覚えます。	テキストP52、67～69
2回	国内線各種運賃 区間運賃、運賃規則、運賃のシーズナリティの調べ方を学びます。	テキストP79～85
3回	最も安い運賃を使ったPNR作成 運賃付き空席照会を使用し、割引運賃を使ったPNRの作成をします。	テキストP86
4回	最も安い運賃を使ったPNR変更 運賃付き空席照会を使用し、割引運賃を使ったPNRを作成し、変更をします。	テキストP86
5回	最も安い乗継割引運賃を使ったPNR作成 乗継割引を使ったPNRを作成します。	テキストP120～122
6回	発券リンク マニュアルでの発券リンクを行います。	テキストP103
7回	PNRの分割 一部旅客の取消・変更をします。	テキストP72
8回	株主割引運賃を利用したPNRの作成 株主割引について理解を深め、株主割引を使ったPNRを作成します。	テキスト132
9回	国内線2級総合問題Step1 これまでの総まとめを行います。（レベル1）	国内運賃について調べ、最も安い運賃、最も安い乗継割引を理解する。
10回	国内線2級総合問題Step2 総合練習問題Step1を添削して返却し、解説を行います。 さらにレベルを少し上げた総まとめを行います。（レベル2）	早見表に記載されている入力形について、理解を深める。
11回	国内線2級総合問題Step3 総合練習問題Step2を添削して返却し、解説を行います。 さらにレベルを少し上げた総まとめを行います。（レベル3）	予約記録の分割、発券リンク、株主割引を理解する。
12回	エラーメッセージ、予約コード 総合練習問題Step3を添削して返却し、解説を行います。 エラー時のメッセージを理解し、予約コードの復習をします。	テキストP55、166～167
13回	AXESS実用検定過去問題と解説① AXESS実用検定過去問題を使用して練習し、提出をします。 応用知識を確認します。	テキストP7～13の予備知識を復習する。
14回	AXESS実用検定過去問題と解説② 前回提出したものを添削して返却し、間違いが多かった所を再度説明します。 AXESS実用検定過去問題を使用して練習し、提出をします。 運賃の規則を確認します。	テキストP112～123
15回	国内線予約業務の応用知識のまとめと実技テスト AXESS実用検定国内線2級と同レベルの実技テストを行い、理解度を確認するとともに、国内線予約の応用レベルの知識をまとめ、振り返りを行います。	テキストP124～128

授業形態・授業方法

旅行総合システム「AXESS」を使用して実習を中心に授業を行いますが、航空・旅行業で必要となる知識に関しては、講義も行います。
練習用のドリルを作成し、反復練習が出来るようにしています。
また、各項目毎に小テストを実施して理解度を確認し、さらに、レベル毎の総合問題を作成し、理解度のUPを図ります。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・専門知識：国内航空運賃について理解する。
旅程の分割、発券リンク、株主割引等を理解する。
 - ・専門技能：旅行総合システム「AXESS」国内線の応用操作ができる。
到達目標は「AXESS実用検定国内線2級」合格。
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：航空予約の応用について理解し、予約記録作成・変更に至る一連のコンピュータ操作技能を身につける。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「国内航空運賃」、「各種割引運賃を使用した予約記録作成」、「予約記録の分割」、「発券リンク」、「株主割引」の観点から理解度を見る。

成績評価：・授業内小テスト：5点×4回（合計20点）各項目毎にテストを実施する。

- ・授業内課題：練習問題の提出 20点

- 授業内に作成した練習問題を提出、添削して返却。

- ・実技テスト：60点

- AXESS実用検定国際線2級と同レベルの問題を出題する。その解答を上記観点から評価する。

使用教科書

1回生前期開講の「航空予約基礎演習」で購入したテキストを引き続き使用。

参考文献等

特に無し

履修条件

観光学科1回生、前期「航空予約基礎」受講者のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

教室に入ったらパソコンを起動し、ログインしておくこと。

学習課題に記載している予習・復習のテキストページは2015年度版のものです。2016年度版と異なる場合はその都度指示を出します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

山脇：オフィスアワーは火曜4限、場所は研究室（西館5階）。

上記の時間以外はEメール（yamawaki@osaka-seikei.ac.jp）で質問してください。自分の学籍番号、氏名を明記すること。

授業科目名	英語演習A				
担当教員名	山崎郁代				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業では英語の語彙力、文法力、リスニング力の向上に主たる焦点を当て、eラーニングプログラムを使いながら英語資格試の対策を行います。多読、多聴により問題形式に慣れると共に、基礎力を向上させます。同時に、各資格試験でのテクニック（主に英検、TOEIC）も随時紹介していきます。また、英語の音の法則である音法を学習し、個人ベースでの発音練習、発音矯正を行うことにより、伝わる発音、聞こえる“英語耳”を得する事を目指します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	オリエンテーション／実力診断ミニテスト 授業の方針と評価方法の説明 英検、TOEICの概要解説 eラーニング学習方法説明 音法の説明と練習 実力診断ミニテスト	指定範囲の英単語学習			
第2回	eラーニング ブロンズ I Lesson1 1回目／音法Contraction 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 二語目的一部分が省略され、つながり発音される特徴の理解と発音練習 単語テスト①（この回は評価点数に含まず。）	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第3回	eラーニング ブロンズ I Lesson1 2回目／音法Linking 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 二語が結合して発音される（子音+母音）特徴の理解と発音練習 単語テスト②（この回以降は評価点数に含む。）	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第4回	eラーニング ブロンズ I Lesson2 1回目／音法Assimilation 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 二語が結合して発音される（子音+子音）特徴の理解と発音練習 単語テスト③	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第5回	eラーニング ブロンズ I Lesson2 2回目／音法Flap 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 母音に挟まれた[t]が[d]のように発音される特徴の理解と発音練習 単語テスト④	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第6回	eラーニング ブロンズ I Lesson3 1回目／音法Elision 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 二語において破裂音と子音がつづいた場合の発音特徴の理解と発音練習 単語テスト⑤	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第7回	eラーニング ブロンズ I Lesson3 2回目／音法Weakening 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 非常に弱く発音されるためほとんどきこえない単語の特徴理 解と発音練習 単語テスト⑥	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			
第8回	eラーニング ブロンズ I Lesson4 1回目／音法Nasalized Flap 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン [nt]の[t]にリダクションが起こる特徴の理解と発音練習 単語テスト⑦	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完			

第9回	eラーニング ブロンズ I Lesson4 2回目／音法Stress 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン 強く発音される音節の位置により意味が異なる語句の理解と発音練習 単語テスト⑧	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完
第10回	eラーニング ブロンズ I Lesson5 1回目／音法Review 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences 音法レッスン まとめと復習 単語テスト⑨	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完
第11回	eラーニング ブロンズ I Lesson5 2回目／シャドーイング練習 1回目 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences いまでの音法レッスンをふまえて、メッセージのシャドーイング練習 英検リスニングパートII編 単語テスト⑩	指定範囲の単語学習とeラーニングの補完
第12回	eラーニング ブロンズ I Lesson6 1回目／シャドーイング練習 2回目 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences いまでの音法レッスンをふまえて、メッセージのシャドーイング練習 英検リスニングパートIII編 単語テスト⑪	指定範囲のeラーニングの補完
第13回	eラーニング ブロンズ I Lesson6 2回目／シャドーイング練習 3回目 英語資格試験対策：リスニング&文法 Image Listening, Question and Response, Short Conversation, Short Talks, Incomplete Sentences いまでの音法レッスンをふまえて、メッセージのシャドーイング練習 TOEICリスニングパートIII編 単語テスト再テスト（適宜）	指定範囲のeラーニングの補完
第14回	eラーニング ブロンズ I Lesson9～12 1回目／シャドーイング練習 4回目 英語資格試験対策：文法 Incomplete Sentences いまでの音法レッスンをふまえて、メッセージのシャドーイング練習 TOEICリスニングパートIV編 単語テストの再試（適宜）	指定範囲のeラーニングの補完
第15回	eラーニング ブロンズ I Lesson9～12 2回目／資格試験の受験対策 英語資格試験対策：文法 Incomplete Sentences いまでの演習を踏まえて、試験本番のテクニック、注意事項の具体的な解説 単語テストの再試（適宜）	指定範囲のeラーニングの補完

授業形態・授業方法

授業時間の半分はeラーニングを使用し英語力養成と資格試験対策を個人のペースに合わせて進めます。残りの半分は小グループに分かれて発音練習を行い、リスニング力強化訓練を行います。また、英検準2級と2級レベルの基本英単語の学習（毎回40単語）を自宅学習とし、小テストを毎回授業の初めに行います。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル
資格試験の問題形式に慣れ、語彙力を強化し、予想問題をたくさん解く事により英検準2級、2級、TOEIC350～600点を取得できる。
英語の音法を理解し、演習を通して、総合的なリスニング力を習得する。

②行動基盤能力
好奇心：読解問題等で取り扱われている社会的事象に対して広く関心を持つことができる。
積極性：発音発話練習に物怖じせずに挑戦し、その学習成果を積極的に発表できる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内小テスト 30% 英単語の小テスト 指定の40単語和訳が8割以上正解で合格加点。3点×10回=30点

授業内課題 15% eラーニングの指定範囲を100%正解にする事。5点×3範囲=15点 詳細は授業内で指示。
授業態度（積極性・マナー） 10% 毎回の演習の後、積極的に挙手発表した場合プラス1点
授業中の私語等マナーが悪い場合はその都度マイナス1点

期末試験 45% eラーニングの指定範囲より出題。詳細は授業内で指示。

使用教科書

特に指定しない。
英単語学習用のプリントを初日に配布。
その他プリント資料を隨時配布。
配布されたプリントは各自が管理し、毎回授業に持参する事。

参考文献等

英語リスニングのお医者さん 西藤 浩子（著） 2009/11

履修条件

観光科1年生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

欠席の際はシラバス参照の上、指定されたeラーニングを自宅学習し次回の授業に備える事。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後に応します。
もしくは、水曜日（後期のみ）の昼休みに中央館1階非常勤講師室に訪ねて下さい。

授業科目名	情報処理演習A				
担当教員名	金 志善				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本講義は、現代的な経営問題に情報処理技術を活用するため、コンピュータの基礎知識の理解とパソコンの基礎的な使い方の修得を目的とします。コンピュータを構成する概念などの基礎的な内容から情報リテラシーであるタイピング練習をはじめ、文書作成ソフトによる文書処理演習によりワードやエクセル、パワーポイントの使い方を学びます。

授業計画

回	内容	学習課題（授業時間外の学習）
1回	ガイダンス 授業の概要、成績評価、授業の進め方、コンピュータ入門などを理解します。	コンピュータ操作の練習
2回	コンピュータ操作 キオペレーション：タイピングソフトによるタイプ練習をします。	タイピングソフト練習
3回	Wordの文章作成の基本（1） Wordの特徴、Wordの文書作成、本学での保存ドライブについて理解します。	Wordの文書作成の復習
4回	Wordの文章作成の基本（2） Wordの画面構成、ページ番号設定など、基本的な文書の作成を習得します。	Wordの画面構成を熟知する。
5回	Wordの文章作成の基本（3） ページ設定、文書の保存、文書の編集などを習得します。	ページ設定、文書の保存・編集の練習
6回	Wordの文章作成の応用（1） 表の挿入、Excelのグラフ作成の練習を行います。	表、Excelのグラフ作成の練習
7回	Wordの文章作成の応用（2） 罫線作成、画像挿入、編集など視覚的な機能を習得します。	罫線、画像挿入操作の練習
8回	Wordの文章作成の応用（3） 段組みの設定、タブ・リーダー、PDFファイルの機能を習得します。	段組み、タブ・リーダー、PDFファイル操作の練習
9回	Wordの文書作成および編集のまとめと課題 Wordの実際の操作についてまとめます。実技の練習を行います。（模擬試験）	Wordの文書作成の復習
10回	Excelの基礎（1） Excelの特徴、Excelの画面構成など、基本的な操作を習得します。	Excelの画面構成を熟知する。
11回	Excelの基礎（2） データの入力、表の作成、グラフの作成などを習得します。	データの入力、表の作成、グラフの作成の復習
12回	Excelの基礎（3） 関数の活用、目的にあった関数について習得します。	数式、関数の復習
13回	Powerpointの基礎（1） Powerpointの特徴、画面構成について理解します。	Powerpointの画面構成を熟知する。
14回	Powerpointの基礎（2） プレゼンテーション作成の操作について練習を行います。	プレゼンテーション課題作成を次回までに行う。
15回	Powerpointの実際 各自が作成したパワーポイントによってプレゼンテーションを行います。	プレゼンテーション作成の復習

授業形態・授業方法

パソコンを用いた演習形式で行います。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
文書作成や、プレゼンテーション資料の作成を行うソフトの操作方法を習熟し、在学中の発表だけでなくビジネスシーンにも対応できるスキルを身につける。
- ②アカデミックスキル
情報収集及びビジネスレベルの文書作成する能力を高める。

成績評価の観点と方法・尺度

授業中に実習内容の理解をしようと努めているか。
Word、Excel、Powerpointの基本操作を理解し、実行できているか。

- ・提出課題：30点（課題の詳細は後日説明する。）
- ・プレゼンテーション：40点（パワーポイントを使用し、10分以上発表する。）
- ・模擬試験：30点（Wordに関する基礎知識を問う「知識問題」を評価する。）

使用教科書

テキストは特に指定しない。

参考文献等

授業中に適宜紹介

- ・『情報リテラシー』富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM出版、2010）

履修条件

観光学科1回生の選択科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

プレゼンテーションをしなかった場合、本科目全体としての成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室

Eメール：kim-j@osaka-seikei.ac.jp

学籍番号、氏名を必ず記入して送信。

授業科目名	ブライダル業実務演習				
担当教員名	国枝よしみ・下園元博				
配当年次	I 年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

ブライダル・ビジネスは、結婚に関する事業でさまざまな企業が取り組んでいます。しかし、人々の結婚観や価値観の多様化に加え、少子化、晩婚化など時代の流れに大きく左右される傾向にあります。専門結婚式場、ホテルだけでなく、衣装事業等からの参入によりビジネスは多様化が進んでいるのです。そこで本授業では、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴・付帯するサービスやマナーだけでなく、企業によって異なるサービスや仕組み、ブライダル・ビジネスの業態、経営を学習し、基礎的な知識やマーケティングの考え方も習得しながら、実際にプランニングを行っていきます。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ブライダルビジネスの現状	ブライダルビジネスとは何か、その歴史と現状を理解します。	どのようなブライダルの施設があるか調べておく
第2回	ブライダルのオペレーション	結婚式のオペレーションがどのような流れかを理解します。	ブライダルビジネスについてインターネットで検索し、まとめてみる。
第3回	企業研究 独立系企業編	新しい業態のハウスウェディングを中心に研究します。なぜ、このようなスタイルが定着しつつあるのか、その理由を探ってみましょう。	ハウスウェディングにはどのような特徴があるかを知る。
第4回	企業研究 ホテル編	婚礼部門のオペレーションの仕組み、特徴を学習します。ホテルで結婚式を行うメリットを考えてみましょう。インターネットでの比較を試みます。	ホテルとハウスウェディングの違いを比較してみる。
第5回	企業研究 レストラン編	レストランでパーティを行なうメリットは、他の施設との違い、長所はどこにあるのかを調べます。	旅行会社のブライダルプランを予め情報収集しておくこと。
第6回	企業研究 旅行会社編	旅行会社はどのようにブライダルに関わっているのか、研究してみよう。	旅行会社のブライダルの特徴は何か調べておくこと。
第7回	商品研究 ブーケの制作	フラワーアレンジメント、写真、引き出物など多くの企業が関わっていることを学習します。ブーケの制作を通じて、婚礼の実務と商品制作を体験します。	持参するものをチェックしておくこと
第8回	企業訪問	ブライダルの企業訪問 神戸のホテルを予定しています（変更になることがあります）自分自身の結婚式をイメージして、どのようなサービスが利用されているのか、企業の戦略も聞いてみましょう。	企業の事業内容を事前に研究しておく。
第9回	企業訪問	グループに分かれて施設見学と説明を受けます。顧客、プランナー、衣装、メニュー、フラワーアレンジメント、写真、音楽、ケーキ、引き出物などプランニングのノウハウを聞き取りましょう。	企業の商品内容、施設、環境などを研究しておく。
第10回	課題研究	ホテルでありブライダル企業としても発展しているホテルにて課題が提供されます（予定）。その課題に関して提案できる新しいブライダルのプランを考えています。	自分自身の意見をまとめておく。
第11回	ブライダルビジネスの課題	少子化に加えて、女性の社会進出によって晩婚化が一般的となっています。また結婚しない層、結婚式を挙げないカップルなどビジネスにとって課題は多くあります。これを打破するための戦略を考えてみましょう。	自身の将来の予定を考えてみよう。
第12回	ブライダルの運営コスト、利益	どのように利益をあげているのか、収支構造を研究します。広告宣伝からみたブライダルビジネスの実情を学習します。見積もりを作成し、原価、売上等の仕組みを習得します。	インターネットでブライダルの広告を検索してみる。
第13回	ブライダルビジネスの振り返り	歴史的経緯、ブライダルビジネスの現状、社会情勢、施設の特徴などをまとめ、改めて全体像を把握します。	ブライダルビジネスの将来性について考えてみよう。
第14回	プレゼンテーション	自由な発想で提案すること	課題の発表を行うので指定の書式で準備しておく。
第15回	評価とまとめ	企業の方からの講評を得る予定である。	

授業形態・授業方法

2人のオムニバス形式で行います。最初は講義が中心ですが、ブーケの制作、産学連携による企業訪問を予定しています。そこでは、実際のブライダル企業でのホスピタリティや顧客へのアプローチ、商品構成を学びます。後半にはまとめのテストを行います。また企業から出された課題に取り組み、グループワークを通じてプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・ブライダルに関する専門知識、専門技能、職業理解、特有のコンピテンシー
- ②計画力
 - ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力観光ビジネスの専門的技能
 - ・ブライダル産業の企業研究およびキャリアプランを構築するために必要な業界理解を到達目標にしている。

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験（50%）、プレゼンテーション（50%）

定期試験

- ・授業内容をよく理解し、創意工夫が見られる 50点
- ・授業内容を理解している 40点

プレゼンテーション 50点

- ・課題解決の提案に創意工夫が見られプレゼンテーションが優れている 50点

- ・課題解決の提案とプレゼンテーションが基本通りで来ている 40点

使用教科書

適宜プリントや資料を配布する。

参考文献等

『1からのサービス経営』（伊藤 宗彦、高室 裕史著、硯学舎）

履修条件

観光学科1回生が対象の授業である。

履修上の注意・備考・メッセージ

企業見学を予定していますので、この機会にブライダルのビジネスの現場を体験してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日：5限 場所：西館5F 国枝研究室

*上記以外の時間では、kunieda@osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

授業科目名	秘書実務				
担当教員名	岡 尚子				
配当年次	1年	開講時期	通年・前期	単位数	2

授業概要

秘書業務を通じて社会で活かせるビジネスマナー、ビジネス常識、ビジネス知識を学びます。
 ビジネスから「なぜコミュニケーションが必要なのか」「コミュニケーションの重要性」の理解を深め身に付けることを目標とします。
 また授業を通して、好感のもてる印象、立ち居振る舞いの基本、信頼を得られる言葉遣いを身に付け表現します。
 さらに秘書検定の2級3級レベルの能力を身に付けることを目指します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス・必要とされる資質 ・授業の進め方と秘書検定の概要について確認する。 ・秘書に求められる4つの能力について学ぶ。 ・秘書としてふさわしい身だしなみを考える。	
第2回	必要とされる資質/職務知識 ・仕事場における上司と秘書の立場の違いと職務限界について学ぶ。 ・上司への進言の仕方と表現について学ぶ。 ・秘書が気をつけるべき「独断専行」や「越権行為」とは何か。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第3回	職務知識 ・秘書の定型業務と仕事の優先順位とは何かを学ぶ。 ・急に依頼される仕事、突発的に起こることへの対応方法を学ぶ。 ・上司が不在の場合にするべき仕事とは何かを学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第4回	一般知識 ・企業や組織についての基本知識を学ぶ。 ・採用・配属・昇進・昇格などの人事の基本を学ぶ。 ・税金と印鑑の知識について学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第5回	マナー・接遇 ・効果的な話し方、真意を聞き取る方法を学ぶ。 ・報告、説明の仕方を学ぶ。 ・敬語の重要性を学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第6回	マナー・接遇 ・敬語と接遇用語を学ぶ。 ・電話応対の心得を学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第7回	マナー・接遇/技能 ・席次のマナーを学ぶ。 ・交際のマナー（慶弔・贈答）を学ぶ。 ・会議のマナーを学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第8回	技能1 ・ビジネス文書（社内・社外）を学ぶ。 ・グラフの書き方を学ぶ。 ・郵便の知識を学ぶ。	・本日の復習をする（テキスト、プリント）
第9回	技能2 ・日程管理の仕方を学ぶ。 ・必要とされる資質から技能まで、基礎知識を整理する。	・過去問題演習において、誤答の箇所、苦手な部分を重点的に復習する。
第10回	必要とされる資質 「必要とされる資質」の基礎問題の総復習及び応用問題対策にむけて学習する。	・本日の学習内容を復習する
第11回	職務知識 「職務知識」の基礎問題の総復習及び応用問題対策にむけて学習する。	・本日の学習内容を復習する。
第12回	一般知識 「一般知識」の基礎問題の総復習及び応用問題対策にむけて学習する。	・本日の学習内容を復習する。
第13回	マナー・接遇 「マナー・接遇」の基礎問題の総復習及び応用問題対策にむけて学習する。	・本日の学習内容を復習する。
第14回	技能 「技能」の基礎問題の総復習及び応用問題対策にむけて学習する。	・本日の学習内容を復習する。
第15回	授業総括 ・秘書としての基本知識や言葉遣い、マナーの総復習。	・半年間の学習内容を復習し、後期の授業につなげていく。
	定期試験 ・授業（15回）内容、総復習から出題する。	

授業形態・授業方法

- ・秘書検定2級3級レベルの能力を身につけるため、事例またはポイントを取り上げながら講義を中心に進めます。
- ・演習問題を出題し、まずは自分で考えたのち、解答解説を行い問題に慣れるようにする。
- ・問題に慣れた段階で学生の言葉で解答、解説を発表してもらう。
- ・過去問題を取り入れ、秘書検定2級3級に対応できるように取り組む。
- ・各領域ごとにミニテストを実施し学生の理解度をみる。
- ・授業前、授業後に相手に失礼のない立ち居振る舞い、表情、言葉遣いを意識した挨拶を実施する。

養うべき力と到達目標

①専門的な力

- ・秘書業務の理解：秘書業務を通じて社会における業務知識、マナーを身に付けることができる。
- ・コミュニケーション能力：社会において相手の意見を聞き、自分の意見を分かりやすく述べることができる。
- ・秘書学の専門知識：秘書として必要とされる資質、職務知識、一般知識、マナー接遇、技能に関わる専門的な知識を得ることができる。
- ・秘書検定2・3級合格を目指す

成績評価の観点と方法・尺度

- 【定期試験：50%】
・「必要とされる資質」「職務知識」「一般知識」「マナー接遇」「技能」の演習問題から出題する。
授業内容から感じた興味、意欲に対しての記述問題を出題する。

- 【授業内ミニテスト：30%】
・授業内でポイントを踏まえた問題を5回実施する。各6問出題。
・6点満点で5回実施→6点×5回（合計30点）

- 【授業態度：20%】
授業を受ける姿勢、授業の準備、挨拶、言葉遣い、演習問題の取り組み方を表現することで積極的に評価する。
定期試験の記述問題については、授業内容を理解し、興味、意欲を感じたことを今後の学習や就職活動を見据えて述べられているものを積極的に評価する。

使用教科書

『秘書検定集中講義2級改訂版』：公益財団法人実務技能検定協会編、早稻田教育出版

参考文献等

特に指定しない。

履修条件

「秘書士」資格取得希望者は必須科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後に応じる。

授業科目名	秘書実務				
担当教員名	山脇朱美				
配当年次	1年	開講時期	通年・後期	単位数	2

授業概要

本授業では、社会人として必要なビジネスマナーの習得を目指します。
1回生前期開講の「秘書実務」に引き続き、マナー・接遇では電話応対、交際の業務を学びます。
技能に関しては会議の知識、社内・社外文書の作成、文書の受発信、ファイリング、名刺の保管等の知識を習得します。
最終的には秘書検定2級レベルの能力を身に付けることを目指します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）		
第1回	マナー・接遇（電話応対の基本） ・秘書の資質と職務知識の復習をします。	テキストP160～174		
第2回	マナー・接遇（交際の業務） ・慶弔のマナー ・贈答のマナー	上書き、賀寿を覚える。テキストP177～192		
第3回	秘書の技能（会議の知識） ・会議の準備・設営 ・会議中の対応	会議の種類を覚える。テキストP196～205		
第4回	秘書の技能（社内文書の作成） ・ビジネス文書（社内文書）の書き方	テキストP207～211		
第5回	秘書の技能（社外文書の作成） ・ビジネス文書（社外文書）の書き方 ・頭語・結語 ・前文 ・締めくくりの言葉	ビジネス文書の慣用表現を覚える。テキストP212～221。		
第6回	秘書の技能（グラフの作成） 棒グラフ、線グラフ、円グラフの作成	テキストP222～225		
第7回	秘書の技能（文書の受信・発信、郵便の知識） 速達、現金書留、簡易書留、書留等の取扱い	テキストP227～240		
第8回	秘書の技能（ファイリング、名刺、スケジュール管理） ファイリング方法、用具の知識 名刺の整理方法	テキストP243～255		
第9回	秘書としてのビジネスマナー実技I 部屋の出入り、立ち姿、お辞儀等の実技練習	メラビアンの法則について理解する。		
第10回	秘書としてのビジネスマナー実技II お辞儀の角度、座り方、話し方等の実技練習	相手に伝わる話し方を練習する。		
第11回	秘書実務上必要な一般常識問題 企業と経営について、より深く理解する。	テキストP86～115を復習する。		
第12回	秘書実務上必要な社会常識問題 常識としての基礎用語、常識としてのカタカナ語を学ぶ。	テキストP116～120		
第13回	実技テストの練習 入室から退出まで、一連の流れを練習します。	自己PRを作成する。		
第14回	実技テスト（前半クラス） 前半クラスの実技テストを実施し、理解度を確認するとともに、これまでの学習内容を振り返ります。 後半クラスは秘書実務上必要な一般常識問題等を取り組みます。	部屋への入退出室、立ち姿、お辞儀、座り方、話し方を練習する。		
第15回	実技テスト（後半クラス） 後半クラスの実技テストを実施し、理解度を確認するとともに、これまでの学習内容を振り返ります。 前半クラスは秘書実務上必要な一般常識問題等を取り組みます。	部屋への入退出室、立ち姿、お辞儀、座り方、話し方を練習する。		

授業形態・授業方法

テキストをし使用しての講義が中心となります。
後半は面接を意識しての、立ち居振る舞いの実技を行います。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格
・社会知識：社会人としての接遇の基礎知識、慶弔や贈答のマナーを身に付ける。
- ②専門的な力
・職業理解：主にオフィスでの仕事を正確に把握することが出来る。

到達目標は「秘書検定2級」合格。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「必要とされる資質」、「職務知識」、「一般知識」、「マナー・接遇」、「技能」の観点から理解度をみる。

成績評価：・授業内第1回小テスト：必要とされる資質・職務知識 10点

・授業内第2回小テスト：一般知識 10点

・授業内第3回小テスト：マナー接遇・技能 30点

・授業内第4回小テスト：面接の立ち居振る舞い実技 20点

・授業への参加度及び授業時のマナー：「授業への参加度」は毎回配布する練習問題の正答率。マナーについては、授業開始・終了時の挨拶の様子、授業中のプリント等の受け渡し、着席時等のマナーを見て評価する。 30点

使用教科書

『秘書検定集中講義2級改訂版』／公益財団法人実務技能検定協会/早稲田教育出版（2012年改訂）（前期と同じものを使用）

参考文献等

『秘書検定2級実問題集』／公益財団法人実務技能検定協会/早稲田教育出版（2015年）

履修条件

「秘書士」資格取得希望者は必修科目です。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは火曜4限、場所は研究室（西館5階）。

上記以外の時間はEメール（宛先yamawaki@osaka-seikei.ac.jp）にて質問してください。自分の学籍番号、氏名を明記すること。

授業科目名	キャリアプランニング I				
担当教員名	竹内正人				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本講義では社会に貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①社会人・職業人として相応しい時事問題や常識問題に関する知識の向上②コミュニケーション力や面接対応力の向上を図る中で③就職活動への意識と意欲の向上を目指します。
就職部スタッフによる講義・指導があります。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション	講義の目的 進め方 筆記試験について 就職部からの就職活動における注意点を示す。 キーワード：将来の進路	将来の進路について考えておくこと 就職部からの注意点について確認すること
第2回	観光学科の就職傾向の解説	観光学科の学生がどういった分野に就職しているかを示し、分野職業について学ぶ。求人票の見方も解説する。	観光産業全般について調べておくこと。求人票の見方の確認。
第3回	ライフプランを考えよう。	過去の自分を振り返り、卒業後の生き方について考える。	将来どんな希望をもっているか。どんな職業につきたいかをイメージしておくこと。
第4回	就職筆記試験について学ぶ。	就職試験の筆記試験の種類とその目的、対策について解説します。	就職活動のプロセスを確認しておく。
第5回	時事ワークシートによる常識問題の解説1	新聞に掲載された記事、コラム、社説をもとに、政治・経済・国際・社会問題等の常識に関する知識に加え、漢字や用語問題を加えて常識力の向上を目指す。	新聞のコラムを読んでおくこと ワークシートの解答を確認しておくこと。
第6回	時事ワークシートによる常識問題の解説2	新聞に掲載された記事、コラム、社説をもとに、政治・経済・国際・社会問題等の常識に関する知識に加え、漢字や用語問題を加えて常識力の向上を目指す。	新聞のコラムを読んでおくこと ワークシートの解答を確認しておくこと。
第7回	適性テストの実施	自分がどんな性格なのか、どんな分野が得意なのかの判断するためのテストを実施する。	自分性格や得意分野を自己分析しておくこと。
第8回	時事ワークシートによる常識問題の解説	特に語彙、読解力に関してのワークを行う。	新聞のコラムを読んでおくこと ワークシートの解答を確認しておくこと。
第9回	語彙読解力検定	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎となる文章読解力や語彙力の向上のための検定を実施する。	新聞のコラムや社説を読むこと。
第10回	個人面接練習	5~3の質問答集合作成。	問答集の事前確認。残った問答集の完成。
第11回	各検定結果の解説と対策	各種検定結果を返却する。弱点の克服の対策を行う。	検定結果振り返ること。
第12回	履歴書作成エントリーシートの書き方1	自分の自身の振り返り、志望分野と動機の整理を行いエントリーシート作成する	就職部で事前調査する。
第13回	履歴書作成エントリーシートの書き方2	大学で何を学んだのか、どういう業界のどういう方向に進みたいのかを整理し、履歴書を作成する。	エントリーシートの確認。
第14回	グループディスカッション1	合意形成に関してのグループディスカッションの訓練を行う。	就職ガイドを用いて事前勉強と振り返り。
第15回	グループディスカッション2	課題解説に関するグループディスカッションの訓練を行う。	就職ガイドを用いて事前勉強と振り返り。

授業形態・授業方法

社会人としての常識力を高めるために新聞記事を用いた時事解説やS P I 対策、さらに集団面接対策、履歴書やエントリーシートなど具体的なテーマに関する対策を、体験的講義を中心に行います。毎回のテーマに従いミニテストを行います。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い知識・教養
社会人として必要である常識力を高める。特に就職活動時に行われる筆記試験やwebテストで求められる国語力・語彙力・計算力を高める。また、時事問題に対する知識と理解力を高める。
- ②専門的な力
観光分野で重要なコミュニケーション力を高める。相手の意見を聞き、自分の考えを分かりやすく表現し、意思疎通力の向上を目指す。

成績評価の観点と方法・尺度

- ①毎回のミニテスト30%
毎回常識力・国語力のテストを行い。概ね理解できていると判断されれば2点する。
- ②集団面接シート作成20%
1回10点満点とし、結論が導きだせたか。プロセスが明確か。議論できているかの観点から評価する。
- ③履歴書・エントリーシート作成20%
エントリーシート。履歴書各10点満点とし、志望動機が明確。学習成果が表現されているかを評価する。
- ④語彙詮解力検定30%
検定結果の判定で評価する。30点満点で目安はA:30 B : 25点 C : 20点 D : 15点

使用教科書

就職ガイドブック（就職部制作）

参考文献等

その都度指示する。

履修条件

観光学科1回生

履修上の注意・備考・メッセージ

就職に向けての対策講座です。言葉遣いやマナーに関して厳しく指導します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日 3限 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
場所：研究室53（竹内研究室）

授業科目名	実用英語 I			
担当教員名	国枝よしみ、中伊佐雄、ネイティブスピーカー			
配当年次	1年	開講時期	通年・前期	単位数 2

授業概要

The objective of this course is to practice basic "English communication" in daily life.
ネイティブの講師による実践英会話が中心の授業で、レッスンでは英語のみを使用するため、教室では英語で話や質問をすることが必要です。

授業計画

Lesson 1	How long are you staying? Answering questions at Immigration	Reading Introduction and Class room English
Lesson 2	Nice to meet you! Introduction	Word list 1 and 2
Lesson 3	Make yourself at home! Asking where things are Touring a house	Word list 2 and 3
Lesson 4	What time is dinner? Talking about meal times and accommodation	My First PASSPORT 1 : Word list 3 and 4
Lesson 5	It's a kind of jacket Talking about Japanese customs	Word list 4 and 5
Lesson 6	How was it? Talking about the recent past	My First PASSPORT 1 : Word list 5 and 6
Lesson 7	Help yourself Talking about food	Word list 6 and 7
Lesson 8	I'd like fifteen tickets, please Buying tickets on the subway	Word list 7 and 8
Lesson 9	Can I have a towel, please? Asking how things work	Word list 8 and 9
Lesson 10	Are you into music? Talking about interests	Word list 9 and 10
Lesson 11	Can I stay out until 11:00? Making phone calls	Word list 10 and 11
Lesson 12	Tell me about your family Talking about family	Word list 11 and 12
Lesson 13	I'm hungry! Buying food at a street market	My First PASSPORT 1 : Word list 12 and 13
Lesson 14	What are you doing tomorrow? Talking about plans	Word list 13 and 14
Lesson 15	How much is it? Asking about prices	Word list 14 and 15

授業形態・授業方法

Students will be expected to participate actively in class every week. Being silent or using Japanese during class time may result in failure from the course. 参加型の演習形式で行いますので、各人の積極的な発言が期待されます。日本語を使ったり、発言が無い場合評価できなことがあります。予習、復習を強く勧めます。

養うべき力と到達目標

By the end of the course, students should be able to:

1. Participate actively in English-only basic conversation in the class.
2. Answer and ask questions in English about a variety of topics in the text book.

①専門的な力
・専門知識、専門技能:自己紹介や旅行、国際交流等に関わる基礎的な英語会話ができるこことを到達目標にしています。

成績評価の観点と方法・尺度

Class participation: 参加点 (20%) 、Speaking: 発言点 (30%) 、Home assignment:課題 (20%) Conversation text: 会話テスト (30%)

使用教科書

書名 : My First PASSPORT 1
著者名 : Angela Buckingham and Lewis Lansford
出版社名 : OXFORD

参考文献等

授業の中で紹介します。

履修条件

English-only class:授業はすべて英語で行います。

履修上の注意・備考・メッセージ

観光学科1回生、2回生を対象にしています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日5限 西館5F 国枝研究室

西館5F 中 研究室

* * 上記の時間以外は、Eメールにて学籍番号、氏名を記載して送付してください。

授業科目名	実用英語 II			
担当教員名	国枝よしみ、中伊佐雄、ネイティブスピーカー			
配当年次	1年	開講時期	通年・後期	単位数 2

授業概要

The objective of this course is to practice basic "English communication" in daily life.
ネイティブの講師を中心とした日常生活、観光、ビジネスシーンにおける実用的な英語会話の授業です。従って、レッスンでは英語のみを使用します。教室では英語で話して下さい。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）	
lesson 1	May I open your suitcase? Understanding and answering questions at Customs	It's speaking a lot that improves your English!	
Lessen 2	How was your flight? Making polite conversation with your host family	How do you say "Itadakimasu" in English?	
Lessen 3	What should we do tomorrow? Making plans	Speaking up when making plans	
Lessen 4	We're going to visit Chinatown Talking about plans	Gestures can be enough!	
Lessen 5	What do you do in your free time? Talking about free-time activities	Reading My story 5 : Sports in different cultures	
Lessen 6	This one is cheaper Talking about prices	Made-in-Japan English	
Lessen 7	Don't forget your money! Understanding rules and advice	Don't leave your belongings unattended	
Lessen 8	Do you want to go to a concert? Making plans for the weekend	Being cautious	
Lessen 9	I have to study Talking about things you must do	Reading My story 9 : Different ways of saying no	
Lessen 10	Did you go on the roller coaster? Talking about the recent past	Time in different cultures	
Lessen 11	I need some help Getting help when you're lost	Reading My story 11 : Asking the way	
Lessen 12	Have you been to Kyoto? Talking about experiences and making recommendations	Talking openly	
Lessen 13	Can you describe it? Giving a description	at the good side of bad experiences	
Lessen 14	I'd like the nachos, please Ordering food and drink at a restaurant	Different kinds of politeness	
Lessen 15	If I pass my exams, I'll go to college Talking about plans		

授業形態・授業方法

Students will be expected to participate actively in class every week. Being silent or using Japanese during class time may result in failure from the course. 参加型の演習形式で行いますので、各人の積極的な発言が期待されます。日本語を使ったり、発言が無い場合評価できないことがあります。予習、復習を強く勧めます。

養うべき力と到達目標

By the end of the course, students should be able to:

1. Participate actively in English-only basic conversation in the class.
 2. Answer and ask questions in English about a variety of topics in the text book.
- ①専門的な力
・専門知識、専門技能:自己紹介や旅行、国際交流等基礎的な英語会話ができるることを到達目標にしています。

成績評価の観点と方法・尺度

Class participation: 参加点 (20%) 、Speaking: 発言点 (30%) 、Home assignment: 課題 (20%) Conversation text: 会話テスト (30%)

使用教科書

書名 : My First PASSPORT 2
著者名 : Angela Buckingham and Lewis Lansford
出版社名 : OXFORD

参考文献等

授業内で紹介します。

履修条件

観光学科1回生、2回生を対象としています。

履修上の注意・備考・メッセージ

English-only class:授業はすべて英語で行います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー:月曜 5限 場所:西館5F 国枝研究室
場所:西館5F 中 研究室
授業外の時間は、随時研究室に立ち寄って下さい。

授業科目名	専門演習 I				
担当教員名	国枝よしみ				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業では、地域の観光や観光産業（旅行、ホテル、プライダル会社等）に関連する課題を把握し、疑問に感じることや課題を見出し、自ら解明するための基礎的な力を養うことを目指します。専門演習Iの学修後、専門演習IIでさらに応用力を身につけ、最終的には卒業論文を書けることが目標になります。現在、多くの地域、産業が観光に力をいれています。その背景には、少子高齢化、産業構造の変化などの社会経済情勢とそれぞれの地域固有の事情の両方が影響しています。本演習では、このような地域の観光に関連する課題の構造を把握し、解決策を考える力を、文献調査、フィールド調査やグループワークを通じて、経験的に身につけていきます。そのために、地域や企業を訪問することができますのであらかじめ、興味のある事象を考えておいてください。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス：本演習の進め方について 演習の進め方について説明する。文献の探し方、論文の書き方、資料の収集方法、倫理など基本的な事柄について習得します。 図書館で文献の検索方法を確認します。	指定された文献を読んでくること。
第2回	事例研究 文献から地域の観光の取り組みや、企業の成功事例などを読みながら、なぜ成功したのか、グループディスカッションする。自分の意見を人前で述べることに慣れるようしましょう。 これらの結果を、図表等、参考文献を含めてレポートとしてまとめます。	指定された文献を読んでくること。
第3回	事例研究 与えられたテーマを基に、KJ法やブレーンストーミング等を使ってグループワークを行います。 グループごとにテーマを分析し、模造紙に図解でまとめます。 結果を各グループで発表しますので意見を人前で述べると同時にまとめることに慣れましょう。	自分の興味のある文献を読んでくること。
第4回	論文読解 これまでの事例研究をもとに、自分の興味をもった地域の観光の取り組みや、企業の事例などからテーマを選び、それに関連する学術論文を検索、収集し、その中から最も適切と思われる論文をまとめます。パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成し、次回発表します。	プレゼンテーションを準備してくること。
第5回	調査方法について 前回のプレゼンテーション 次に定性調査、文献調査など様々な方法について考察します。インタビューの方法についても学ぶ。調査計画を立て、フィールド調査の事前準備を行います。	調査方法の復習をしておくこと。
第6回	フィールド調査 フィールドにて実際の調査方法を学修します。今年の予定としては、企業を訪問し（都合により変更となることがある）インタビューを行います。内容については、あらかじめ企業研究をし対象となる人に系統立てて質問できるよう準備します。	事前に企業の概要を調べておくこと。
第7回	調査結果のまとめ 定性調査のまとめ方、コーディングについて学びます。グループごとに調査結果をまとめますが、役割分担をしてみましょう。調査結果のまとめ方も習得していきます。	
第8回	調査結果のまとめ フィールドワーク、インタビュー等を論文にまとめる手法を習得します。その際に文献、新聞、2次データ等を活用して図表やグラフを効果的に使って見ます。	演習 I で学んだことを振り返ってみること。
第9回	調査結果の発表 フィールドワークの結果のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション資料のまとめ方は、適宜提示しますので参考にしてください。	プレゼンテーションの発表のスキルを上げる工夫すること。
第10回	テーマの設定 これまでの演習を通じて、最も興味のあるテーマを設定します。 今後の研究計画を考え、テーマを設定後、さらに文献の検索と収集を行っていきます。	テーマは大きすぎないように考えてくること。
第11回	小論文の作成 テーマ決定後、小論文の構成を考察します。 調査を行う、先行研究をまとめる等方向性を決めてを進めていきます。 文献は適宜図書館にて借りたり、入手してください。	小論文を1人で行うか、グループで取り組むかを決めておくこと。
第12回	小論文の作成 先行研究が適切に読めているか、論文の執筆状況を授業内で共有します。そのため各自が途中経過を発表します。	先行研究を複数読むこと。

第13回	小論文の途中経過報告会 小論文の進捗状況を各人（グループ）が共有します。 他のグループの進捗を知ることによって自身の研究の状況を把握していきます。	他のグループの良い点を学んで自身の論文執筆に取り入れること。
第14回	発表とディスカッション 調査の結果をまとめ、発表と討議を行います。発表内容は、加筆、修正を指示しますのでそれらを踏まえて作成してください。	調査結果のまとめは授業で指摘された点を修正しておくこと。
第15回	まとめ 演習の総括を行い、今後の進め方を指示します。	来年度の研究も視野に入れてどのような分野に興味があるか考えておくこと。

授業形態・授業方法

今期は、教科書を活用して観光事業やマーケティングの考え方を様々な事例を基に解説します。それらの事例に基づき、その後、文献（文学、文芸、調査報告書、論文等）を参考に論文の書き方等を学習します。また、フィールドワーク、プレゼンテーション等の基礎的技法身につけ、観光に関連する「地域」または個別の「企業」の現状・課題を実証的に読み解く方法についての基礎を体験的に学びます。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他人の発表を聞き、その主張や問題点を把握することができる。
 - ・伝える力：自分の意見や主張を教員やクラスメートに伝えることができる。
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：先行研究を整理し、要旨をまとめることができる。
 - ・観光現象に関わる参考文献を熟読し、自身の研究課題を見出すことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 課題レポート（45%） 小論文の提出（55%）
- 課題レポート：3回×15点 合計45点
- ・授業で学習した方法が身についている 15点
 - ・授業で学習した内容を理解している 10点
- 小論文 55点
- ・論文として明らかにしたいことが明確で、述べたいことがわかりやすく書いている 55点
 - ・論文として形式が整っている 40点
 - ・授業内容は理解できている 30点

使用教科書

『1からの観光事業論』（高橋一夫・柏木千春編著、中央経済社）2016年

参考文献等

- 『サービスマーケティング入門』（山本昭二、日経文庫）2007年
- 『着地型観光』（尾家建生・金井萬造編、学芸出版社）2008年
- 『レポート・論文の書き方入門』（河野哲也 慶應義塾大学出版会）2002年 他

履修条件

観光総論、観光ビジネス論、国際観光論、情報処理関連授業の履修を強く勧めます。

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習は、2回生の演習II、卒業研究と続けて受講するための基礎ゼミとなっています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日5限 場所：西館5F 国枝研究室

*その他の場合、kunieda@osaka-seikei.ac.jp へ学籍番号、氏名を記入し送付すること。

授業科目名	専門演習Ⅰ				
担当教員名	山田勲之				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本演習は卒業論文作成に先立って、研究を行うまでの作法と研究テーマを見出すことを目的とします。まず、研究とは何か、論文とは何か、概略的につかんだ上で、観光学とはどのような学問なのか、様々な角度から学習します。次いで研究論文の検索手法を学び、自ら興味関心のある先行研究論文を選択して要約しレジュメを作成します。この要約作業を通じて論文に共通するフレームワークを習得します。以上を踏まえて自ら研究計画書を作成し発表します。

また、定性調査の実習として高槻市富田でフィールドワークを実施します。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション	まず、演習（ゼミ）の心構えを認識した上で、研究と論文の概略をつかみます。	研究論文を読んでみる。
第2回	観光学とは何か	そもそも観光学とはどのような学問なのか、またどのような専門分野があるのかを学習します。	観光学の概説書を読む。
第3回	研究文献の探し方、調べ方	OPACや検索エンジンを用いた資料検索法を学びます。	次週発表のレジュメの準備をする。
第4回	観光学諸分野について発表する	観光学を構成する諸分野のうち、一つ選択してレジュメに要約して発表する（テキストコピーはこちらから配布する）。	観光学の諸分野について復習する。
第5回	研究論文のフレームワーク	事例を挙げながら、研究論文のフレームワークを理解します。検索エンジンなどを使って興味関心のある先行研究を選びます。	選択した研究論文を熟読する。
第6回	2回生の卒業研究最終発表会に参加する	2回生の卒業研究最終発表会を聴講し、議論に参加する。第1～第3回で得た研究論文の概略を意識しながら聞くこと。	良い研究発表を見い出し検討する。
第7回	先行研究の要約・発表① 問題意識	選択した先行研究をレジュメに要約し発表する。著者の持つ問題意識が何かを特に意識して下さい。	選択した研究論文を熟読する。
第8回	先行研究の要約・発表② 研究目的	前回同様、選択した先行研究をレジュメに要約し発表します。著者の問い合わせ、つまり研究目的が何であるかを特に意識して下さい。	選択した研究論文を熟読する。
第9回	先行研究の要約・発表③ 研究手法	前回同様、選択した先行研究をレジュメに要約し発表します。研究手法が何であるか（定性調査、定量調査、文献資料）を特に意識して下さい。	選択した研究論文を熟読する。
第10回	先行研究の要約・発表④ 結論	前回同様、選択した先行研究をレジュメに要約し発表します。著者の答え、つまり主張はどのように導きだされているのか、また、研究目的と結論が合致しているのか、特に意識して下さい。	選択した研究論文を熟読する。
第11回	フィールドワーク準備	調査手法（定性調査、定量調査）について学習し、次週実施する高槻市富田の地域文化遺産について予習します。	高槻市富田の地域文化遺産について復習する。
第12回	フィールドワーク実施	定性調査の実習として、高槻市富田にてフィールドワークを実施します。調査記録表に基づいて、記録をつけます。	報告書を作成する。
第13回	研究計画書の作成手法	研究計画書の作成について学びます。	研究計画書を作成する。
第14回	研究計画発表① 前半	前回の講義に基づいて、自分が行いたい研究の計画を発表する。	研究計画書を作成する。
第15回	研究計画発表② 前半	前回に引き続き、自分が行いたい研究の計画を発表する。	抽出された課題を分析する。

授業形態・授業方法

15回の授業のうち、3回は研究や論文の概略について講義する。残りは発表とディスカッションを主体とする演習形式とフィールドワークを実施する。また、第5回は2回生の卒業研究最終発表会に参加し、議論にも加わる。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他人の発表を聞き、その主張や問題点を把握することができる。
 - ・伝える力：自分の意見や主張を教員やクラスメートに伝えることができる。
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：先行研究を要約しレジュメにまとめることができる。
 - ・専門知識：研究遂行に必要な知識を習得することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

3回のレジュメ作成と発表、フィールドワークのレポート作成1回。それぞれの基準と点数は以下の通り。

- ・レジュメ作成：15点×3回（合計45点）
箇条書きでわかりやすい内容である（11～15点）。概ね箇条書きで作成されている（6～10点）。ほとんど箇条書きで作成されておらず意味不明な部分が散見される（1～5点）。
- ・発表 15点×3回（合計45点）： 内容8点 態度7点
- ・レポート（10点）： フィールドで収集した記録をしっかりとまとめている（7～10点）。フィールドで収集した記録をまとめている（4～6点）。フィールドで収集した記録が不十分である（1～3点）。

使用教科書

なし。随時補足資料を配布する。

参考文献等

- ・青木義英・廣岡裕一・神田孝治編著(2012) 『観光入門—観光の仕事・学習・研究をつなぐ』新曜社
- ・井上千以子(2013) 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修条件

観光学科1回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

演習では必ず発表者に対して質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	専門演習Ⅰ				
担当教員名	竹内正人				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本演習は2年時次の本格的な演習に先だって、観光に関する課題を把握し、専門的な技法を修得することを目的とします。まずは観光に関する文献を事例として論文の研究を行い、自らのテーマを探索することから始め、論文検索の仕方や先行研究とは何かについて学びます。最終的には自分に関する研究テーマを選ぶところまで行います。なお、本演習の研究分野は原則として観光によるまちづくり、映画・小説・アニメなどのコンテンツツーリズム、イベント、祭り、自治体、企業さらには観光に関する広報や広告に関するものとします。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 授業の進め方 演習の目的と全体的な計画を学ぶ。文献要約の担当を決定する。要約方法を学ぶ。発表方法を学ぶ。事例「第1章観光とは」の講義行う。	文献の文章を事前によんでおくこと。 要約方法に関して確認しておくこと。
第2回	文献要約と発表1 「第2章：観光の歴史・前半」の要約と発表と疑応答を行う。 後半は講義：「論文とは レポートとの違い」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第3回	文献要約と発表2 「第2章：観光の歴史・後半」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「論文テーマの設定」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第4回	文献要約と発表3 「第3章：現代の観光・前半」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「論文の構成」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第5回	文献要約と発表4 「第3章：現代の観光・後半」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「目次」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第6回	文献要約と発表5 「第4章：都市の観光・前半」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「序論・本論・結論」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第7回	文献要約と発表6 「第4章：都市の観光・後半」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「引用文献」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第8回	文献要約と発表7 「第5章：都市の観光・タウンツーリズム」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「インターネットの活用法」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第9回	文献要約と発表8 第5章：「都市の観光・地域づくり」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義：「論文の文体」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第10回	文献要約と発表9 第8章：「文化と観光」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は講義を行います。「先行研究とは」	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第11回	要約発表10 第8章：「文化と観光・文化遺産」の要約と発表と疑応答を行います。 後半は「先行研究調査」の講義を行います。	発表と講義内容の確認をしておく。 次回発表に向けて担当部分の準備やまとめをする。
第12回	テーマ探しと先行研究1 各自の論文作成テーマを探す。 テーマの方向性が決まれば「先行研究」を調査する。	発表と講義内容の確認をしておく。 論文テーマについて考察しておくこと。
第13回	テーマ探しと先行研究2 前回に引き続きテーマと先行研究 後半は先行研究の発表会を行う。	発表会資料の確認 次回発表の準備
第14回	テーマ探しと先行研究3 前回に引き続き先行研究の発表会 ディスカッションを行い、テーマを確定する。	発表会資料の確認と次回発表会の準備
第15回	テーマ発表会 各自のテーマに合わせて論文のテーマや方向性の発表行う。	発表の準備とテーマの確認

授業形態・授業方法

基本的には授業の1／3を講義とし、残りの2／3程度をテーマに関する演習とします。特に第15回は履修者によるテーマ発表会を行います。

養うべき力と到達目標

①観光学の専門的な技能

観光現象に関わる文化、社会現象を地理学、経済学、経営学、社会学等の視点から、地域活性化、国際交流等に発展させる知識。

②問題解決能力

社会で自立した人間として自らが考え、問題を発見し、解決する姿勢を重視する能力。

③プレゼンテーション能力

自ら設定した課題を、根拠を持ってわかりやすく説明し、相手に理解させる能力。

成績評価の観点と方法・尺度

文献要約と発表、先行研究調査、テーマ発表で評価する。

●文献要約40点

- ・文献の趣旨を踏まえて要約できているか (20点)
- ・発表20点 (態度10点・内容10点)
- 先行研究の発表 30点
- ・論文の選択が趣旨に合っているか 10点
- ・発表内容が趣旨に合っているか10点
- テーマ発表 30点
- ・今までの学習を踏まえてテーマ選択ができているか 10点
- ・実行可能性はあるか 10点
- ・発表10点 (態度5 内容 5点)

使用教科書

「観光の新しい潮流と地域」 (2011) 原田順子 十代田 朗 放送大学振興会

参考文献等

「着地型観光」 (2008年) 尾家建生 金井萬造 学芸出版社

「レポート・論文の書き方入門」 (2002年) 河野哲也 慶應義塾大学出版会

履修条件

授業を欠席しないようにすること。観光総論、観光ビジネス論、国際観光論、暮らしと経済、観光文化論を履修または履修する予定であること。

履修上の注意・備考・メッセージ

観光学科1回生

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日 3限

事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること

場所：研究室53 (竹内研究室)

授業科目名	観光文化論			
担当教員名	竹内正人			
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数 2

授業概要

本講義では観光資源の中でも特に文化のもう意義、役割そして重要性について学びます。そのために①文化が観光にとって重要な位置づけにあること②文化が観光資源として確立するための用件の考察③各地の観光資源における文化性について説明できるための知識や考察力の向上を目指します。

特に本講義では拡大するインバウンド市場を見据え、日本のコンテンツに関する文化を中心に講義します。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）		
		目標	内容	方法
第1回	オリエンテーション 講義の進め方 観光の定義・文化の定義 観光文化とはなにかについて概説する。	観光文化の分野と視点について確認する。		
第2回	観光資源 観光資源とはなにか。多様化する観光資源と文化について観光産業における具体的な例を交えながら考えて行きます。	観光資源についてプリントの確認する。		
第3回	コンテンツツーリズム 一物語を旅する－ コンテンツとの持つ意味は何か、コンテンツツーリズムとは何を見に行くのか、従来の観光とどう違うのかを具体例をあげて学ぶ。	プリントの復習。クールジャパンについて予備知識をもっておくこと。		
第4回	アニメツーリズム アニメやマンガの作品の舞台となった土地などを訪れる「聖地巡礼」とも呼ばれるツーリズムについて学びます。ハコモノ や公共事業に依存しない新たな地域振興策としても注目されている点にも注目します。	プリントの復習。できれば「ラキスタ」「けいおん」「涼宮ハルヒの憂鬱」のどれかの予備知識があること。		
第5回	小説とツーリズム1 文学・小説の舞台を巡る旅について、その歴史や背景について学ぶ。さらに関西を舞台とした小説を事例にその観光資源を考える。 キーワード：古都 暖簾	プリントの復習 できれば講義に出てきた小説を読んでおくこと。		
第6回	小説とツーリズム2 小説の舞台となり小説をテーマとしたまちづくりを実践している事例を学ぶ。 松山 小豆島 尾道	プリントの復習 できれば講義に出てきた街をガイドブックで確かめること。		
第7回	フィルムツーリズム1 映像の世界と観光 映画・TVドラマなどのロケ地を巡る旅について考えていきます。映画の歴史、フィルムツーリズムの成立など。	プリントの復習 できれば講義に出てきた作品のDVDを見ること。		
第8回	フィルムツーリズム2 関西を舞台とした映画を中心にそのロケ地を紹介しながらフィルムツーリズムを考えていきます。 キーワード「黄金を抱いて跳べ」「プリンセスヨトミ」	プリントの復習。相川近辺のロケ地に行ってみるとよい。		
第9回	芸能と観光1 演劇を始めとする舞台芸術を見に行くためのツアーも数多くある。またその演目をモチーフとした作品も数多くあり、その原点である日本の伝統芸能を学ぶなかで観光について考えていく。一回目は歌舞伎を中心に考える。 キーワード：歌舞伎・歌舞伎座	プリントの復習 歌舞伎の演目について予備知識を得ておくこと。		
第10回	芸能と観光2 関西で生まれその後の芸能に大きな影響を及ぼした文楽を事例に芸能を観光について学ぶ。 キーワード：淨瑠璃・近松門左衛門	プリントの復習 净瑠璃の演目について予備知識を得ておくこと。		
第11回	祭りと観光 観光の原点は人が移動することですが、祭りはその大きなきっかけでした。祭りを観光の視点でとらえて学びます。 祭りの起源・祭礼・観光	プリントの復習 祇園祭 だんじり祭り 天神祭などをガイドブックでみておく。		
第12回	宗教と観光1 一聖地を見に行く－ 宗教と巡礼と観光について 神社・仏閣 日本の宗教 キーワード：お伊勢参り 四国八十八箇所	プリントの復習 自宅の宗教や宗教観について考えておくこと。		
第13回	宗教と観光2 世界的な宗教を考える中でその観光資源や巡礼などの事例をもとに観光との関連を学ぶ。 キーワード キリスト教・イスラム教・小乗仏教・ヒンズー教など	プリントの復習。宗教と食について予備知識があるとよい。		
第14回	食文化と観光 和食は日本を代表する文化であり、世界文化遺産として登録されている。和食とは、その起源を学ぶことで、観光との関連を考えていく。	プリントの復習 和食の定義や範囲について考えておくことが望ましい。		

第15回

街並みと観光

景観や美しい街並あるいは民家もその地域を支えてきた文化であることから街並みと観光についても考る。最後にこの講義のテーマである観光と文化についてまとめる。

キーワード：民家・町屋・街並み・西洋建築

プリントの復習。京の町家 奈良町などのガイドブックを読んでおくことが望ましい。

授業形態・授業方法

観光資源となりうる文化の基礎知識を学ぶため、講義形式でおこないます。講義は主にスライドを用います。毎回テーマに合わせてサブノート（プリント）を配布し、覚えて欲しい項目や重要な内容を自ら書き入れることでノートが完成します。講義中には課題に応じて学生の皆さんに問い合わせを行い、議論することができます。

養うべき力と到達目標

①幅広い教養・品格
特に能力観光分野において必要な文化的知識を高める。具体的には観光資源となっているコンテンツ、伝統文化などのあらましを理解できるようになる。

②専門的な力
特に興味を持った分野に関してより深く自らが学び、自分の意見を伝えることができるコミュニケーション能力を高める。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各回の授業内の小レポート：60%
- ・各回1～4点で評価し合計は60点満点。
- ・授業内容を踏まえた論述ができていれば3点とし、独自の見解が示されていれば4点、不足があれば2点重大な誤りがあれば1点とする。
(期末レポート：40%)
- 観光文化に関するレポートを求めます。テーマについては講義中に指示する。レポートは、以下の観点から評価する。
 1. 観光を文化的側面からとらえてレポートができるかどうか。
 2. 課題に対し自分の見解が提示できているかどうか。

使用教科書

指定しません。毎回サブノート（プリント）と資料を配布する。資料はファイルにて管理すること。

参考文献等

必要に報じて都度指示する。

履修条件

日頃から小説や映画に親しんでおくこと。

履修上の注意・備考・メッセージ

心の豊かさを追い求めるとそこには文化があります。その文化を学ぶと自分自身を見つめ直し、自分の視野を広げることができます。
観光文化を学ぶことでその思いをみんな共有し、その価値を多くの人に伝える楽しさが理解できるようになります。その楽しさと一緒に学んでいきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日3限 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
場所：研究室53（竹内研究室）

授業科目名	観光バリアフリー				
担当教員名	中村岩之介				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

全ての企業のビジネス現場において様々な顧客への対応能力を養う事を目的とします。その為に全ての人に満足して頂く為のホスピタリティサービスを意識していきます。特に手伝いを必要とする、高齢者や障がい者への理解を深め、単に知識の習得のみならず、グループワークや実技の演習を取り入れることで体系的に学ぶことを可能とします。また自身のホスピタリティマインドを顧客に伝える為の、接遇を社会人として身につけることも目的とします。

授業計画

授業計画	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション・観光業界の概要とユニバーサル・サービスの説明 ・授業カリキュラムの説明 ・社会が必要としている、ユニバーサル・サービスを理解し知識を得る。 ・ユニバーサル・サービスに必要な心を表現する為の接遇を身につける。	自分自身の周りで、実践されているユニバーサル・サービスを見つけ次回発表する。
第2回	視覚障害の方へのサービスー1 ・視覚障がいの種類や視覚障がい者の日常の不便さを個人及びグループで考え理解し、必要な援助方法や考え方を学ぶ。 ・視覚障がい者が自分の職場に来店されたとして、その時の対応の仕方やコミュニケーション方法を学び実践する。 ・視覚障がい者が利用する、白杖や誘導ブロック、点字の仕組みについて知識を高める。	自分の日常生活で、自分自身が視覚障がい者になった場合に、何が危険で不自由かを考える。
第3回	視覚障害の方へのサービスー2 ・手引きの実技の訓練。 ・学内にて、疑似視覚障がい者を手引きする経験で、安全で安心して頂ける技術を習得する。	登下校中に、視覚障がい者を手引きする事を想定して、その場その場で声掛けや説明を自分で実践してみる。
第4回	車椅子の知識と基本操作ー1 ・車椅子を利用される方の日常生活を考え、必要な援助方法を学ぶ。 ・車椅子の種類や、取り扱い方を学び安全で安心できる対応方法を身につける。	車椅子についての復習と操作についての予習。
第5回	車椅子の知識と基本操作ー2 ・車椅子操作の実習を学ぶ。 ・車椅子を利用されている方とのコミュニケーション方法を学ぶ。 ・車椅子で平たんな道路、斜めの道路、段差を超えるなどの訓練し、操作方法を身につける。	車椅子操作とコミュニケーション方法を復習し、確実に身につける。
第6回	車椅子の知識と基本操作ー3 ・車椅子操作の実習を学ぶ。 ・車椅子を利用する立場を理解する為、実際に車椅子を利用し自走を体験する。 ・車椅子を利用し、援助される立場として不安や危険がないかを体験し、利用者の気持ちを理解する。 ・階段などで車椅子を持ち上げる方法を学ぶ。	車椅子の操作の学びから、日常の中で車椅子利用者に対する見守りなどを意識する。
第7回	聴覚障がい者への理解 ・聴覚障害の種類と、障害の仕組みを理解し援助する時の注意点を学ぶ。 ・聴覚障がい者の日常生活の不便さを、個人及びグループで考え援助に繋げる。 ・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を実践し、即対応できるように身につける。 ・筆談、手話、空書などのメリットやデメリットを理解する。	聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を復習し、実践できるようにする。
第8回	補助犬についての理解ー1 ・身体障害者補助犬法を学ぶ。 ・補助犬の種類と活動をDVDから理解し、障がい者への援助の必要な状況と援助方法を学ぶ。 ・補助犬のできる事やできない事を、個人およびグループワークで考え理解を深める。	身体障害者補助犬法を復習し、障害者への援助の必要性を認識する。
第9回	補助犬についての理解ー2 ・補助犬のできる事やできない事を、個人またグループワークで考え発表し理解を深める。 ・補助犬に対して、やつてはいけないことなど注意点を理解する。 ・盲導犬の一生について、映画鑑賞から学びを深め健常者が何をするべきかを学ぶ ・映画鑑賞から学んだ内容をレポートにまとめる	映画鑑賞からの学びをレポートにまとめ提出。
第10回	高齢者への援助ー1 ・日本の人口の年代別状況から高齢社会を理解する。その要因も学ぶ。 ・高齢者の身体的変化と心理的変化の関係性を学び、援助に繋げる。 ・援助する際の注意点を個人およびグループワークで考え発表する。	身近な高齢者からの学びの中で、元気を維持するための方法を見つけ、次回発表する。
第11回	高齢者への援助ー2 ・日本の高齢社会を豊かにするために必要な援助は何かを学ぶ。 ・元気な高齢者から学んだ、元気を維持するための方法を発表し全員でシェアする。	

第12回	ユニバーサルデザイン（商品など）について ・ユニバーサルデザインの概念を理解し、バリアフリーとの違いを学ぶ。 ・ユニバーサル商品を利用し、多くの人に広げることの重要性を学ぶ。	身近なユニバーサル商品を見つけ次回発表する。
第13回	ユニバーサルデザインについて—2 宿泊機関におけるユニバーサルデザインの取組 ・各自、生活の中のユニバーサル商品を発表し、他者へ広める事の重要性を学ぶ ・ホテル、旅館におけるユニバーサルデザインはどのように活かされているかを学ぶ。	ホテル・旅館におけるユニバーサルサービスを理解する
第14回	旅行業界におけるユニバーサルデザインの取組。障害者に関する関連法規。 ・ユニバーサル旅行が障がい者や高齢者の生き甲斐にどのように影響するかを学ぶ。 ・ユニバーサルが活かされる旅行企画を考える。 ・障がい者や高齢者に関する法律を学び、なぜ法律が必要かを掘り下げて考え今後の援助に繋げる。	関連法規を復習し理解する。
第15回	バリアフリー観光のまとめ ・障がい者や高齢者また全ての人が、過ごしやすい生活をする為に必要な事は何かを、ユニバーサルサービスやデザインを通して考える。グループワークで他者の考え方を理解し、自らの考え方を伝える。	観光業界におけるユニバーサルサービスを理解し、自らができる事を考え実践していく

授業形態・授業方法

テキストによる講義だけでなく、グループワークによるコミュニケーション力、発表また車椅子操作体験、視覚障がい者への手引き、聴覚障がい者とのコミュニケーション方法など実習を多く取り入れています。
実習については、教室内だけでなく学内の様々な場を利用し、バリアやユニバーサルを発見しながら体験的な学びから実技のスキルアップを目指します。また、DVDを通して補助犬の現状も学んでいます。

養うべき力と到達目標

- ①自ら動く力
 - ・好奇心：物事に対して広く関心を持つ態度
高齢者や障がい者に対して関心を持ち、生活の不便さを理解し、自らのホスピタリティ・マインドを伝え、習得した援助技術を活かすことができる。
 - ・積極性：困っている人に気づき、積極的にコミュニケーションをとりお手伝の対応できる。
- ②学びあう力
 - ・傾聴力：柔軟性：伝える力
グループワークや様々な発表により、他人の意図や主張を丁寧に正確に把握する力を養うことができる。
 - ・意見の違いを理解し相手を認める力も養う。さらに自分の意図や主張を他者に対して正確に伝える力を養う。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・授業内テスト：3回×10点（合計30点）・実技評価：車椅子操作の評価 A=3点 B=2点 C=1点で5項目を評価（合計15点）手引きの評価：A=3点 B=2点 C=1点で5項目を評価（合計15点）
- ・レポート：映画鑑賞から、社会的問題点を見つけ、問題解決の方法とQOL向上に必要な援助方法を考える。
課題に対して、積極的な発想で書かれている。（20点）個人的な感想で書かれている（10点）
- ・授業に対する参加評価：授業に対して積極的意見の発表やグループワークに対する積極的参加の場合（20点）

使用教科書

接客接遇のためのユニバーサルサービス基本テキスト／紀薰子 井上滋樹／日本能率協会マネジメントセンター／2014年出班

参考文献等

特になし

履修条件

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は、ホスピタリティマインドと介助技術の習得により即実践できる授業内容になっています。
また、コミュニケーション力と接遇を重視していますので、毎回の授業では挨拶を始め服装などにもチェックを入れて社会人と同等のレベルで授業に参加して頂きます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業内で指示します

授業科目名	観光マーケティング				
担当教員名	金 志善				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本講義では、観光におけるマーケティングの基礎知識などを学びます。マーケティングの企業事例を使って、問題解決能力を養います。企業事例は観光産業にこだわらず、いくつかの業種から紹介します。特に自分の考えた解決策の欠点を見つけ、それへの対抗策を見つけます。そして、自分の関心に沿った企業事例を選んで、①企業事例の中から問題点を発見②事実と意見を認識③複数の解決方法とその長所と短所の発見④解決方法の決定⑤決定した解決方法による問題点の解決などの構成でレポートを作成します。

授業計画

	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 講義の狙い、授業概要、成績評価、観光マーケティングとは何かについて理解します。	キーワード：観光マーケティング
第2回	観光マーケティングとは マーケティングの定義、マーケティング・ミックス、マーケット・イン/プロダクト・アウトについて学びます。	キーワード：マーケティング・ミックス（4 P）
第3回	ニーズ・ウォンツ・需要 ニーズ・ウォンツ・需要の違いを理解し、モルディブの失敗事例から学びます。	キーワード：ニーズ・ウォンツ・需要
第4回	購買意思決定プロセス AIDMA（アイドマ）の法則について理解します。	キーワード：AIDMA（アイドマ）の法則
第5回	消費者志向事例（1） ボクスレーケインカンパニー事例を中心に学びます。	キーワード：市場調査
第6回	消費者志向事例（2） ボクスレーケインカンパニー事例を中心に学びます。	キーワード：市場調査
第7回	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング ハワイのパッケージツアーのケーススタディーを参照にしながら学びます。	キーワード：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング
第8回	製品の差別化戦略 マクドナルド事例を中心に学びます。	キーワード：製品の差別化
第9回	SWOT分析 マーケティング環境分析とは何かについて理解し、帝国ホテルとH.I.S.を対象にSWOT分析を行います。	キーワード：SWOT分析
第10回	旅行商品の流通チャネル 開放型チャネル・選択型チャネル、ダイレクト・マーケティングについて学びます。	キーワード：流通チャネル グループごとに課題をプレゼンする。
第11回	コスト・リーダーシップ戦略 スケールメリット（規模の経済）、価格決定、マーケット・シェア、競争市場戦略について学びます。	キーワード：スケールメリット、競争市場戦略 グループごとに課題をプレゼンする。
第12回	ブランド構築のプロセス ブランド・イメージ、ブランド・アイデンティティ、ディマーケティングなどのブランド構築のプロセスを理解します。	キーワード：ブランド、ディマーケティング グループごとに課題をプレゼンする。
第13回	プロモーションの種類 プッシュ戦略とプル戦略について理解します。	キーワード：プロモーション
第14回	カスタマー・リレーションシップ・マネジメント（CRM） リレーションシップ・マーケティングについてクラブツーリズムのケースから学びます。	キーワード：リレーションシップ・マーケティング
第15回	今後のマーケティング課題 持続的な発展を実現するためのマーケティングのあり方について考えます。	キーワード：マーケティングのあり方

授業形態・授業方法

コンピュータ教室で授業を進めます。インターネットを多用します。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
観光マーケティングとは何か、企業事例を使って、国内的・国際的マーケティング的視点から問題解決能力を養う。
- ②問題解決力
企業のマーケティング戦略を評価することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内のレポート提出（50点）、課題プレゼン（50点）の合計100点満点で評価する。

- ・授業内のレポート提出（50点）：4・5回のレポート提出する。
合格すればそれ以降のレポート提出は不要。加点を希望する場合は2回、3回とトライすること。
- ・課題プレゼン（50点）：4人グループで、課題プレゼンテーションする。

使用教科書

テキストは特に指定しない。毎回の講義では、自作資料を配布する。

参考文献等

『観光マーケティング入門』島川 崇著（同友館、2008）

履修条件

観光学科2回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

試験は実施しないのでレポート提出と課題プレゼンが必須条件。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜 4限 金研究室

kim-j@osaka-seikei.ac.jp

学籍番号、氏名を記入して送信。

授業科目名	観光統計調査法				
担当教員名	国枝よしみ				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業では、地域の観光に関する課題を解決するため、学生が理論と実践を体験できるプログラムを提供し、学生自身が自ら考え、行動し、課題解決の一端を担うことを目的としています。そのため、フィールドワークの技法を学び、地域振興に役立つ人材育成を目指します。実習は、地域の他、ホテル、旅行等の企業の研究などで、学生自らが調査を企画、計画、実行、分析、まとめ、プレゼンテーションといった一連の流れを経験し、論理的思考能力やコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域の課題解決を実践します。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容			復習事項
		前半	後半	時間割	
第1回	観光調査法について	ここでは、データの種類やデータ収集の方法など、マーケティング・リサーチを行う上で知っておくべき基本的な事柄、およびデータ分析の基礎知識について考察します。 1次データ、2次データといったデータの種類、標本抽出、測定尺度について説明します。			Excelの基本操作を復習しておくこと。
第2回	データ入力演習	エクセルのワークシートを使ってデータ入力の方法を修得します。エクセルの機能を活用して観光関連のアンケート調査結果を参考に、実際に入力を行い、正しく操作できる能力を養います。			データ入力を復習しておくこと。
第3回	データの加工とグラフの作成	マクロレベルのデータを事例として取り上げる。データの加工を行って分析結果をわかりやすく表現する方法を学びます。事例としてホテルのデータの加工や月間売上の変動を見ます。			マクロレベルデータの加工方法を復習しておくこと。
第4回	グラフの作成	グラフ表現は基本的な統計手法で大変重要です。調査結果の報告や課題の発表などにグラフ表現を活用するとわかりやすく説明することができます。アンケート調査の実例を用いて、グラフを作成します。			グラフの作成方法を復習すること。
第5回	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かを復習します。マーケティングを理解するためには、セリング（販売）とどのように異なるのか、マーケティング・コンセプトを中心に、顧客価値および顧客満足の考え方について説明します。顧客価値の構成要素や顧客満足の形成メカニズムを理解し、顧客価値を高める方法などについて事例とともに見ていきます。また、戦略的マーケティングの分析ツールも復習します。			マーケティングの考え方を復習しておくこと。
第6回	地域研究	調査対象となる地域（企業）の歴史、文化、産業の特性、観光の現状を解説する。地域には様々な人たちが関わっていることを認識するとともに現在、観光に関連した課題はどのようなものか、その課題解決に向けて何をどのようにすればよいか等をグループワークによって討議します。			地域に関する情報収集を事前にやっておく。
第7回	調査企画、計画書の作成	前回検討した内容にもとづいて調査企画、計画書を作成します。最初の授業でも述べたが、調査には質的調査と量的調査があることを再度説明する。それがどのような調査手法を用いるか理解します。調査テーマを設定する場合、できるだけ焦点を絞り込むことが重要となります。一つの調査で一つの焦点を決めてそれを掘り下げる方が大切で、課題解決に応じた調査計画を立案します。			グループワークでまとめるので話し合っておくこと。
第8回	アンケートの作成	調査方法を決定し、質問票を作成します。この授業では量的調査を行うこととします。調査計画に沿って仮説を立て、その仮説を検証するための質問票を作成します。作成時の注意事項を参考に質問票をデザインし、現地で行う調査の手順を確認します。＊地域によって、調査内容を変更することがあります。			アンケート作成にあたっての注意事項を調べておくこと。
第9回	事前調査の実施	誰を対象に調査するか、どんな調査票で調査をするかを決定します。調査を行うに当たっては、さまざまな問題が起こる可能性があるため作成した調査票に答えるもらえるか、わかりやすい質問になっているか等を検証し、修正していきます。			アンケートの作成手順を習得しておくこと。
第10回	フィールドワーク	現地における調査を開始します。調査を行う際の注意事項を確認し、ルールを守ることが重要です。留め置き調査法の場合、回収する方法を確認しておきます。フィールド調査の場合、計画とおりにできるように事前に十分な準備が必要なため、さまざまな確認を行います。			調査日の準備を整えておく。
第11回	データの集計	エクセルのワークシートを使って調査したデータ入力を行います。データ集計が終わるとスクリーニングを行います。			エクセルの入力方法を復習しておくこと。

第12回	調査データのグラフ化 調査したデータの入力ができたら集計後の報告の仕方を習得します。わかりやすくするためにグラフ化する手法を活用します。当初たてた仮説を検証し、どのような結果であったかを確認します。	観光地入込客数を予め調べておくこと。
第13回	調査データの分析 調査データの集計を行った結果に基づき、分析を行います。分析手法は、1次元集計、平均の出し方、相関分析、クロス集計などを習得します。	授業で単純集計からクロス集計までの分析手法を習得しますが、予習復習をしておくこと。
第14回	報告書の作成とマーケティング戦略の立案 調査データの分析結果を基に調査報告書を作成します。課題との関連性を考察しながら、課題解決法を導くための策を提案していきます。	報告書を作成する方法を復習すること。
第15回	プレゼンテーション 作成した分析結果を発表します。発表の後、評価を参考に更なるスキルの向上につなげていきます。	パワーポイントで報告書を作成すること。

授業形態・授業方法

授業はパソコンを使って講義を進めるので、パソコンソフトのWord、Excelを使える必要があります。課題解決のためにグループワークを基本に、自治体・企業等の協力を得てフィールド調査を予定しています（今年は池田市を予定）。従って若干の交通費がかかる予定です。そのため、事前学習を通じて仮説を立てます。その仮説を立証するための調査案をデザインし、調査を実施した後は、データをExcelに入力、分析を行います。分析方法は単純集計、クロス集計が出来るよう指導していきます。分析結果のまとめ方、プレゼンテーションの方法も習得し、調査報告が行えるよう力を養います。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
 - ・観察力：観点を定めて現状を客観的に把握する力
 - ・分析力：集めた情報を要素分解し、事象の成り立ちを明らかにする力
 - ・論理的思考力：物事に規則性を発見し、筋道を立てて考える力
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー、数量的スキル、情報処理能力
 - ・リサーチに関する基礎知識と1次元集計、相関、クロス分析ができるようになることを到達目標とする。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内の3つの課題；フィールド調査、最終レポートとプレゼンテーションで評価する。それぞれの点数とその基準は以下のとおり。

- ・フィールド調査<20%>
 - フィールド調査に参加し、指示された調査ができている 20点
 - フィールド調査に参加できている 15点
- ・プレゼンテーション<30%>
 - 調査の分析ができ、わかりやすいプレゼンテーションができている 30点
 - 調査の分析は授業内容に沿ったものでプレゼンテーションができている 20点
- ・最終レポート<50%>
 - 調査の分析ができ、報告書としてわかりやすくまとめられている 50点
 - 調査の分析は授業内容に沿ったものでまとめられている 40点

使用教科書

特に指定しない。隨時、課題のためのプリントを配布する。資料はファイルにとじて管理すること。

参考文献等

- 『Excelでやさしく学ぶアンケート調査と統計処理』（石村貞夫、劉晨（原著）、石村友二郎、加藤千恵子（著）、東京図書）（2013年）
- 『EXCELによるアンケートの集計と解析』（内田治、東京図書）（2013年）

履修条件

観光学科2回生が対象である。

履修上の注意・備考・メッセージ

出席状況の他、グループワークでは協力して分析ができるか、プレゼンテーションの役割分担ができるかなどを重視します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日 5限 場所：西館5F 国技研究室

*上記以外の時間で質問がある場合、kunieda@osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

授業科目名	情報とネットワーク				
担当教員名	中 伊佐雄				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

インターネットや情報家電など、情報通信の波はわれわれの生活に深く入り込んでいます。この授業では、ネットワーク社会の基盤である情報通信技術がどのように発展し、社会的に影響を与えていているのかを考察し、クラウド活用、スマートフォンやタブレット端末、Facebookやtwitterなどのソーシャルメディアなど、最新のICT技術やサービスについて実践的で実用的な知識を習得します。また、インターネットに関する技術、PCやサーバーとの関連、セキュリティ、応用ビジネス、法規などを学習します。そのために、インターネット検定（ドットコムマスターBASIC）の合格をめざします。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	コンピュータの基礎 授業用ブログを利用 コンピュータの構成と仕組み	コンピュータの仕組みを理解する。（毎回、ブログに掲載する言葉の意味について調べ、Wordで保存すること。）
第2回	ネットワークの基礎 OSとアプリケーションソフト。キーボード。マウス。ファイル。	学内LANの理解。
第3回	モバイル情報機器 携帯電話。スマートフォン。情報家電。	EメールをPCと携帯電話・スマートフォンの間で利用。
第4回	インターネット 携帯端末とインターネットメール。ブロードバンド。モバイル。プロバイダー。	インターネットの接続について学ぶ。
第5回	WWWとブラウザの基礎 プロバイダ WWW IP電話 VPN スマホ	WWWのブラウザによる利用を学ぶ。
第6回	Webサイトの基礎 http URL	ホームページの構成について学ぶ。
第7回	通信サービスの仕組み Web アクセス データベース CGI 独自ドメイン	Web上の様々な通信サービスを学ぶ。
第8回	情報検索の基礎 サーチエンジン ポータルサイト ディレクトリー型サーチエンジン ロボット型サーチエンジン クローラー・スパイダー キーワード検索	Web上の検索方法について学ぶ。
第9回	ネチケットとセキュリティ マーリングリスト フレーミング プライバシー 個人情報 クッキー (cookie) コンピュータウイルス	ネット社会のマナー、安全な利用法について学ぶ。
第10回	電子商取引 VAN SSL B-to-C B-to-B	ネット上のビジネスを学ぶ。
第11回	ネチケット ネット上のマナー。プライバシー。	モバイル通信について学ぶ。
第12回	インターネットの危険性と防御 模擬テストあり。	迷惑メール。危険なサイト。知的財産権。
第13回	メールソフト OSとアプリケーションソフト	起動と終了。作成、送信、受信。
第14回	まとめ 次回の試験に向けて資料を加工する。 試験とその解説。	Wordで作成した資料を試験に向けて加工、または印刷する。
第15回	まとめ 授業の前半を資料準備にあてる。 試験と解説。	問題を復習する。

授業形態・授業方法

インターネットを利用して検定試験用に独自の資料を作ります。ブログ、電子メールを利用し、その他資料と過去問は随時配布します。試験 (.com Master BASICレベル) はパソコン使用可。授業で作成した資料を使って受験します。出席は毎回、教員のブログにコメントすることで完了します。

養うべき力と到達目標

- .com Master BASIC合格レベルをめざすことで以下の力をつける。
- ①専門的な力
情報機器を活用し、インターネットへの接続について理解し、ネット特有の安全性・モラルについて知る。
- ②課題発見力
インターネットを活用することで課題発見力を身につける。

成績評価の観点と方法・尺度

授業中に行なう試験 80 % (.com Master BASIC同等の問題を2回予定)
レポート 20 %

使用教科書

特になし。

参考文献等

授業時に指定する、インターネット上の資料。

履修条件

観光学科2回生
座席に余裕があれば他学科でも可

履修上の注意・備考・メッセージ

教室のパソコン立ち上げに時間がかかるので早めに教室でログインしておく。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

naka@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名入力して送信。
個人研究室（ドアが開いている時はいつでも歓迎です）

授業科目名	秘書学概論				
担当教員名	米谷侑子				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

日本ではサービス業が9割を占める中、職業人としてサービスを理解することが不可欠になっています。サービス業に従事した時に知つておかなければならぬことを学習する授業です。サービスとは何か、サービスを提供する側として必要な知識、これから求められるサービス産業人になるために必要な能力を習得します。また、習得レベルを図るものとして「サービス接遇検定2級」および「準1級」合格レベルを目指します。準1級は、実技中心となるため、検定試験の学習が、実務に直結するため、授業は実技が中心で構成する。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	留意点
第1回	ガイダンス サービス業とは何かを講義 今後のレポート課題を提示			提示した課題に従ってレポートを作成する。	
第2回	サービス接遇の理解 サービスとは何かを理解したうえで、現在は接客レベルから接遇レベルに対応が変わっていることを学習する 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する			実際にサービスを受けているときに、どのように感じるかを客観的に捉え、感想をもつておく。	
第3回	サービス産業人としての資質 サービス業で必要とされる人材とは何かを学習する 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する ・サービスとは、接遇のポイントを習得。			実際にサービスを受けているときに、どのように感じるかを客観的に捉え、感想をもつおく。 授業で学ぶサービスやホスピタリティと自分が受けたサービスとの違いを考える。	
第4回	サービス産業における専門知識1 従業知識を身につける、商業、経済活動を理解する 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する ・接遇のポイント「身だしなみ」について、就職対策を兼ねて指導			実際にサービスを受けているときに、どのように感じるかを客観的に捉え、感想をもつおく。 授業で学ぶサービスやホスピタリティと自分が受けたサービスとの違いを考える。	
第5回	サービス産業における専門知識2 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 商業、経済における用語を理解する ・接遇のポイント「表情」をロールプレイングを通して理解を深め、表現力をつける。			商業、経済用語については、テキストを見て覚えておく。	
第6回	サービス産業人としての社会的常識を理解する 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 時事問題をはじめ、そこからどうあるべきかを考える ・接遇のポイント「態度、動作」をロールプレイングを通して理解を深め、表現力をつける。			模擬試験を通して、自分の弱点を見つけ出していく。 接遇のポイントを一つずつ1日のテーマを体得する。	
第7回	サービス産業人としての人間関係を理解する 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する お客様との人間関係、店内社内での人間関係 ・挨拶の徹底と、コミュニケーションの3要素を含めてのロールプレイング。			模擬試験を通して、自分の弱点を見つけ出していく。 ・接遇のポイントを一つずつ1日のテーマを体得する。	
第8回	サービス産業人としてのコミュニケーション能力1 顧客心理と一般的マナーの理解 サービス接遇検定終了後は、机上の空論にならないように、接遇の見た目、話し方を体得する ・接遇のポイント「言葉の使い方」敬語の確認と接遇用語の学習。			模擬試験を通して、自分の弱点を見つけ出していく。 接遇のポイントを一つずつ1日のテーマを体得する。	
第9回	サービス産業人としてのコミュニケーション能力2 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 話し方でも重要な、滑舌訓練から、自己紹介の声を変える お客様への説明の仕方を学習			模擬試験を通して、自分の弱点を見つけ出していく。 接遇のポイントを振り返りながら体得する。	
第10回	サービス産業人としてのコミュニケーション能力3 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 接遇のポイントを復習するうえで、準1級の練習として、販売のロールプレイングをする。			机上の空論にならないように、演技力を身に着けて現場で使える接遇を身に着ける	
第11回	サービス産業人としての実務能力 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 問題解決の方法を知る「クレーム対応方法」の初期対応を学習する			机上の空論にならないように、演技力を身に着けて現場で使える接遇を身に着ける	
第12回	サービス産業人としての実務能力 模擬試験を実施し、回答をとおして学習する 金品管理を学習 商品の扱い方から、領収書の書き方を学習			試験結果を自己採点しておく。また、質問があれば次の授業までに準備しておく。 現場で実際に領収書を書く際に、自信を持って実行できるようにする。	
第13回	サービス産業人としての実務能力（社交儀礼の業務についての理解） 社会人としての社交儀礼を学習し、お客様へのサービスの一環となるための方を学習する			1年を通しての家庭で行われている行事について調べておく。年賀状、お中元、お彼岸参り、お歳暮等	

第14回	検定試験対策から問題を発見し、解決する。1 3級を受験した方は、次は2級を受験。2級受験した方は次は準1級を目指す準備を考える。	3級と2級あるいは2級と準1級の違いを明確にし検定計画に活かす。
第15回	検定試験対策から問題を発見し、解決する。2 3級を受験した方は、次は2級を受験。2級受験した方は次は準1級を目指す準備を考える。	自らの課題をみつけ、さらに上級検定に向けて学習をする。

授業形態・授業方法

検定対策として、受験ガイドを参考にしながら進める。事例問題を提議しながら、自分ならどうするかをまず考え、サービスを受け止める側（お客様）の心理を知った上で、正しい対処の仕方を知る。試験直前には、模擬テストと共に弱点を講義説明で強化する。

【授業外学習方法】

—予習—

自身がサービスを受けて“お客様”といった立場になっているときに、提供されているサービスがどのように感じるか観察する。気づいたことなどはメモなど取っておく。観察ポイントについては、授業の中で説明し、学習する。

授業の中で、どこでどのように感じたかについて後日発表の機会がある。

—復習—

アルバイトや、ボランティア活動なので、授業で習得した表情や態度動作、言葉づかいなど、意識しながら使っていく。特に、態度動作に関しては、歩き方や座り方、人からどのように見られているのかを意識し、気づいた事など積極的に改善していく。

養うべき力と到達目標

専門知識・専門技能

サービス接遇検定3級および2級、準1級合格

サービスとは何かを理解できる

サービス業従事者として、お客様へのおもてなし精神が理解できる

人と対話することで笑顔が出るようになる

即実践ができるレベルの態度、動作が身に付く。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内課題1 50%

- 〔迅速な態度、動作〕 . . . 授業の際の挨拶、返事、物の受け渡し
- 〔指示に対する応答〕 . . . ロールプレイング時の行動
- 〔質問に対する返答〕 . . . 声による返事

授業内課題2 50%

- 〔提出物〕定期試験をレポートとする。
授業内提出のため納期、提出方法、P Cもしくは手書きであれば見やすいことが条件となる。
- 指示した提出方法であること。

使用教科書

『サービス接遇検定受験ガイド 2級』／公益社団法人 実務技能検定協会／早稲田教育出版

参考文献等

『サービス接遇検定受験ガイド3級』／公益社団法人 実務技能検定協会／早稲田教育出版

履修条件

観光学科2年生であることが条件である。

「秘書士」資格取得希望者は必須の科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

サービス接遇検定試験の対策とともに、より現場で使える接遇を指導する。

アルバイト等している生徒においては、実践を授業内で披露してもらうこともある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に質問を受け付けるが、メールでの質問も受け付けている。

メールアドレス kometani@aim-tic.com

メールを送る際には、授業での指導されたとおりに送ること。

・名前と所属は必須である。

授業科目名	日本語表現				
担当教員名	竹内正人				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本講義では実社会で求められる文章、特に様々な書類作成に求められる書き言葉について学ぶ。様々な種類の文章を読み①正しい日本語の書き方のルールを知り、②論理的で客観性を持った文章の作成し、③社会人として、特にビジネスシーンに必要な文章力が身につくことを目指します。
文章を読み理解すること、文章を通して自身の意思を書き記すことは、あらゆる活動の基礎になる行為です。本授業では、具体的な演習を通して、文章表現力の向上をはかります。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 講義の進め方 綴書きのルールを解説し、自己紹介文を書くための要点の整理法を学ぶ。まずは「自己紹介」文を書くことから始める。	予め履歴書等で自分の歴史や趣味などを確認しておくこと。
第2回	書き言葉・話し言葉 文章を書く際に話し言葉にならないか。その注意点を学ぶ。 キーワード：漢語と大和言葉	返却した添削文を確認すること。
第3回	書き言葉・話し言葉2 前回の添削結果をベースに、再度書き言葉と話し言葉のワークシートに取り組む。	返却した添削文を確認すること。
第4回	熟語について 前回のワークシートの解答に加え 熟語・四字熟語 同音異義語について学ぶ。 そのためのワークシートに取り組む。	返却した添削文を確認すること。
第5回	敬語について 敬語文の基本を学び、ビジネス場において実際に使えるようにする。 キーワード：丁寧語、尊敬語、謙譲語 フアミコン敬語	返却した添削文を確認する。
第6回	コラム コラムについての解説の後、コラム「天声人語」を書き写し、そのうえで、感想文を書きます。論理的な構成・事実と意見との使い分けを学ぶ。	返却した添削文を確認すること。その日の朝刊のコラム文を読み、コラムに慣れておくこと。
第7回	批評文を書く 編集手帳「悲しきポスト」を読んで批評文を書くこと。 キーワード「こうのとりのゆりかご」「養子」 批評文についての解説を行う。	返却した添削文を確認すること。
第8回	要約をする。 新聞の記事「観光立国日本をめざすために」を読んで要約文を書く。要約文の書き方についてそのポイントを解説する。	
第9回	感想文1 「世界がもし100人の村だったら」という文章を読んで長めの感想文を書く。 文章構成について学びます「起承転結」「序破急」など	返却した添削文を確認すること。
第10回	朗読文 川端康成「古都」の朗読文を聞いて感想文を書く。 「古都」は京都の伝統文化が記され、コンテンツツーリズムの原点ともいえる小説である。	返却した添削文を確認すること。
第11回	ビジネス文（メール） メールは重要なビジネスツールであることからメール作成上のマナーとルールを学ぶ。	返却した添削文を確認すること。
第12回	ビジネス文2（案内状） 案内状を書く。イベントの案内状を制作するなかで、ビジネスの手紙文のルールやマナーについて学ぶ。	返却した添削文を確認すること。
第13回	旅に関するエッセイ エッセイについて学ぶ。その後「旅と私」をテーマにエッセイ文を書く。	返却した添削文を確認すること。
第14回	創作文1 最近「楽しかったこと」「悲しかったこと」「笑ったこと」「つらかったこと」を原稿用紙に書く。	返却した添削文を確認すること。
第15回	創作文2 まとめ これまで学習してきたことを整理しながら、確認する。 培ってきた文章力をもとに、「10年後の私」をテーマに原稿用紙3枚程度の文を創作する。	返却した添削文を確認すること。

授業形態・授業方法

毎回、課題となる文章の読み解を行ったあと、その文章に対する自分の意見をまとめ、論理的な文章構成を考えます。その上で、小論文を作成します。その後、添削・解説などを行います。
原稿は、原則として毎回原稿用紙を用いて手書きによる縦書きの文章の作成をします。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
例文となる文章を読み解することで文章を的確にとらえ、書くことで、論理的で明瞭な記述力につけることができる。漢字、語彙 敬語などの知識を身につけ国語力をアップすることができる。
- ②専門的な力
課題に対し自分の考えを分かりやすく論理的に伝えることができる。
ビジネス文書やメールに関しての基本構造を知り、実践的な知識が身につく。

成績評価の観点と方法・尺度

毎回提出の論文で評価します。
毎回の提出の文章ごとに6点満点で評価します。（計90点）なお、10回以上の提出で10点を加味する。

評価基準は以下の通り。

- ・日本語が正しく表現されているか。
- ・漢字・語彙などが適切か。
- ・論理的な構成を考えて書かれているか。
- ・課題にそった内容で書かれているか。

使用教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献等

『日本語練習帳』（岩波新書） 大野晋 1999年

履修条件

観光学科2回生

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回課題に沿った文章を書いてもらうが、課題をきちんとこなしていくうちに、確実に文章が上達していくのが分かってくる。粘り強く取り組むこと。できれば辞書か電子辞書を持参することが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日3限 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
場所：研究室53（竹内研究室）

授業科目名	簿記概説				
担当教員名	大庭みどり				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

会社やお店の経営数字を記録するために必要となる「簿記」の基礎的なスキルを身に付けることを目的とします。計算は足し算や引き算だけで、難しい数学の知識は必要ありません。簿記を学ぶと、①就職や転職に有利、②数字に強い会社に求められる人材になれる、③独立して仕事をする場合には必須の知識、④一旦家庭に入った後の職場復帰の後押しとなる、⑤簿記がわかると会社の決算書が理解できるので自分の会社や他の会社の内容が理解できる、など、良い事がたくさんあります。一旦身に付けた簿記のスキルは貴女の一生の宝モノになります。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 オリエンテーション 講義の進め方 会社って何をするところ？簿記って何？ 皆さんが卒業後に働く会社をイメージして考えてみます。	予め、卒業後に働く会社をイメージしておくこと。
第2回 「財産」と「もうけ」を明らかにする2つの表 簿記のゴール！みんなが知っている会社の「貸借対照表」と「損益計算書」を見てみよう。	2つの表を見て何がわかるかを確認すること。
第3回 仕訳ってどうやるの？ 3つのステップで簡単に仕訳はできる！！！	それぞれのステップを確認すること。
第4回 貸借対照表は3つの箱からできている 資産・負債・資本の中身をみてみよう。	資産、負債、資本の構成と関係を確認すること。
第5回 損益計算書って何だろう？ 会社の「儲け」ってこうやって計算する。	損益計算書の構成とそれぞの意味するものについて確認する。
第6回 色々な勘定科目 仕訳につかう勘定科目を覚えよう。	勘定科目の種類とその意味するものについて確認すること。
第7回 仕訳の練習① 日常取引によく出ている仕訳をみてみよう。	仕分け練習の確認すること。
第8回 仕訳の練習② 色々な仕訳を勉強しよう。	新しく学んだ仕分けと練習問題の確認すること。
第9回 帳簿の種類と役割 総勘定元帳への転記と試算表の作成	作成した試算表を確認すること。
第10回 仕訳から試算表までの練習① 仕訳、転記、試算表作成までと一緒にやってみよう。	練習問題を再度確認する。
第11回 仕訳から試算表までの練習② 仕訳、転記、試算表作成まで自分でやってみよう。	練習問題を再度確認する。
第12回 ちょっと難しい仕訳をみてみよう 資本取引、固定資産、減価償却費について学びます。	それぞれの科目についての意味を確認すること。
第13回 決算とは何をするの？ 決算に特有な処理をみてみよう	特有な決算処理について確認すること。
第14回 財務諸表について勉強しよう 貸借対照表と損益計算書の見方を学ぼう	有名な会社の貸借対照表と損益計算書を見て確認すること。
第15回 まとめ問題 今までの総まとめ問題を遣って、力試しをしてみよう	簿記とは何かを総まとめすること。

授業形態・授業方法

教科書と補助プリントで解説を行い、毎回自分で仕訳を書いてみることで理解を深めます。
毎回授業の始めには、前回の仕訳の復習を行いますので、ゆっくりと着実に簿記の知識を習得できます。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミック・スキル
基礎的な仕訳から試算表作成までの簿記一連の流れを理解し、簿記の基礎となる考え方、仕訳等のスキルを身に付ける事を目標とする。
- ②専門的な力
貸借対照表、損益計算書の構成内容、見るべきポイントについて理解することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

毎回提出の復習テストで評価します。
毎回の提出問題は6点満点で評価し、10回以上の提出で10点を加算します。

使用教科書

ハローキディのかんたん簿記 超入門 奥津 美穂 (サンクチュアリ出版・2015)

参考文献等

渡辺泉・渡辺大介・本田良巳・小谷融・加藤千雄・増村紀子・宮武記章著
『会計基礎論 新訂版』 森山書店 2010
新検定簿記ワークブック 4級・3級商業簿記 中央経済社
一人で学べる簿記 東西出版

履修条件

観光学科1回生

履修上の注意・備考・メッセージ

学生への要望：簿記は各単元がつながっていますので、毎週講義には出席して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

講義の前後に受け付けます。

授業科目名	地域文化遺産の活性化				
担当教員名	山田勲之				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本学が位置する東淀川区、及び本学から徒歩圏内の旧吹田村（JR吹田駅以南）を対象に、文化遺産の活性化を提案することを目的とします。東淀川区や旧吹田村は淀川や安威川、神崎川が貫流し、古くから水運の中心であり、また京都と大阪に挟まれる地勢から、いく本もの街道が走っていました。このため多くの有形無形の文化遺産が残されています。これらの地域文化遺産を掘り起こし、観光マップを作成します。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明。東淀川区と吹田市の概要を理解します。	東淀川区と吹田市の概要を復習します。
第2回	吹田フィールドワーク（準備）	第3回で実施する吹田フィールドワークについて説明。吹田の文化遺産について理解します。	吹田の文化遺産について復習します。
第3回	吹田フィールドワーク（実践）	NPO法人歴史文化まちづくり協会のボランティアガイドの案内のもと、相川駅より徒歩で吹田市高浜町周辺をフィールドワーク。調査表を配布するので、記入して提出します。	報告書作成の準備をします。
第4回	吹田フィールドワーク（報告）	前回記入した調査票を下に、報告書を作成します。吹田市の観光資源の概要、アピールポイント、及びボランティアガイドの役割などを中心とします。	報告書作成の準備をします。
第5回	東淀川区の文化遺産を調べる	東淀川区にどのような文化遺産があるか、ウェブや文献から調べます。	東淀川区の文化遺産について復習します。
第6回	東淀川区の文化遺産	前回、調べた結果に基づいて、観光マップ作成地域を同定します。	東淀川区の文化遺産について復習します。
第7回	東淀川区フィールドワーク①	観光マップ作成のためにフィールドワークを実施します。	報告書作成の準備をします。
第8回	観光マップ作成①	吹田と東淀川区のフィールドワークで得たデータをもとに、観光マップ作成を進めます。	吹田と東淀川区の文化遺産について復習します。
第9回	観光マップ作成②	前回に引き続き吹田と東淀川区のフィールドワークで得たデータをもとに、観光マップを完成させます。	東淀川区の文化遺産について復習します。
第10回	プレゼンテーション	完成した観光マップに基づいてプレゼンテーションします。	抽出された課題について考えます。
第11回	東淀川区フィールドワーク②	前回とは異なる地区を選んで、東淀川区のフィールドワークを実施します。	報告書作成の準備をします。
第12回	観光マップ作成③	前回の東淀川区のフィールドワークで得たデータをもとに、観光マップ作成を進めます。	吹田と東淀川区の文化遺産について復習します。
第13回	観光マップ作成④	前回に引き続き吹田と東淀川区のフィールドワークで得たデータをもとに、観光マップを完成させます。	吹田と東淀川区の文化遺産について復習します。
第14回	プレゼンテーション②	完成した観光マップに基づいてプレゼンテーションします。	抽出された課題について考えます。
第15回	プレゼンテーション③	完成した観光マップに基づいてプレゼンテーションします。	抽出された課題について考えます。

授業形態・授業方法

ウェブサイトや文献資料から東淀川区や旧吹田村の文化遺産を調べます。また、フィールドワークを実施して実際の状況を把握します。その後、観光マップを作成して活性化に役立てていきます。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養
文化的な素养：観光マップ作成を図る中で、東淀川区と吹田市の地域文化を把握することができます。
社会知識：フィールドワークを通じて、地域社会の構造をることができます。
- ②アカデミックスキル
情報収集主力：テーマに沿って情報を収集することができる。
プレゼンテーション力：聞いている者に対して、わかりやすく説明することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各回の課題の：60%
 ・各回の課題を1～20点で評価し、合計60点とする。テーマに沿って調べて正確でわかりやすい（17～20点）。テーマに沿っているが、誤字脱字が散見される（10～16点）。わかりにくい表現が見られる（5～9点）、テーマにほとんど沿っていない（1～4点）。
- ・発表40%：発表態度25点、発表内容15点

使用教科書

特に指定しない。レジュメやワークシートを配布します。欠席して配布物を受け取れなかった者は、友人などから借りるなどしてコピーをしてください。

参考文献等

- ・今井修平・村田路人編（2006）『街道の日本史 大坂—摂津・河内・和泉』吉川弘文館

履修条件

観光学科2回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

フィールドワークはできるだけ授業内で実施するが、野外活動の性格柄、時間を超過する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール (yamada-n@osaka-seikei.ac.jp) で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	地域振興とメディア活用				
担当教員名	竹内正人				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

観光が地域振興に果たす役割は重要です。本講義で西宮市観光振興課の協力のもと、①西宮市の観光振興政策を学び、②フィールドワークや調査を行い、それらをベースとした③観光プランの企画立案や④情報発信ツールを制作することで、実践的な知識とスキルを修得することを目指します。最後に発表会を行い、それぞれの作品を評価し合います。

特に今回は西宮市を舞台として展開されたコンテンツ『阪急電車』『長門有希ちゃんの消失』をテーマに実施します。

授業計画

授業計画		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	オリエンテーション・チーム編成 地域づくりと着地型観光 講義の進め方の解説 観光が地域づくりや産業振興の柱になりつつあることを学ぶ。事例として西宮市等を簡単に取り上げる。	西宮市について予めしらべておく。着地型観光について復習する。			
第2回	観光メディア論 観光におけるメディアの種類と役割、さらにはその効果について学ぶ。実際に企画する際のチーム編成も行う。 コンテンツである「阪急電車」または「長門有希ちゃんの消失」について研究します。	メディアの種類について予め調べておくこと。			
第3回	観光メディア論2 引き続き「阪急電車」「長門有希ちゃんの消失」の研究。 研究のなかで、気になるスポット、聖地をネットを使って調査を行います。	西宮市のイメージやどんな観光スポットがあるか予め調べておくこと。			
第4回	企画方針の決定と発表 それぞれのチームの研究をもとに、各チームはプランテーマを決定します。 各チームはラフな企画を作成し、発表します。テーマが重なったチームは調整を行います。	どんな人をターゲットにしたら良いかを考えておくこと。			
第5回	特別講義 各西宮市観光振興課の方より、西宮市と西宮の観光資源観光スポットについて講義です。特に「阪急電車」「長門有希ちゃんの消失」についての取材ポイントについて講義をうけます。 講師予定 西宮市観光振興課岸本綾氏	講義結果をまとめておくこと。			
第6回	取材方針の決定 チームの取材先や取材方針の制作。プランは事前西宮市の観光振興課に送付し、事前チェックを受ける。調査企画書の完成。 取材先のアポイントもとります取材プランをもとに実際に西宮を取材します。集合場所、スケジュール等指示します。	次回までの課題をチームごとに講義内で指示します。その課題に対応しておくこと。			
第7回	取材の準備 取材ルートを決定し、フィールドワークの注意や写真撮影の注意点・肖像権・著作権、カメラアングルなどを学びます。また取材先へのアポイントをとります。取材担当を決めます。	取材担当はそれぞれの立場で取材方針を作成			
第8回	フィールドワーク 取材結果をまとめた。その結果を基に新たに観光プランを企画します。その上で販促ツールの制作意図書を作成します。 キーワード：5W2H (HOW TO HOW MUCH)	取材後の資料を整理しておくこと。			
第9回	広告ツール制作意図書 取材をもとにコピープラットフォームの作成 キャッチフレーズの作り方全体構成を考えよう。 レイアウト・パワーポイントによる制作と注意点（著作権など写真・引用・参考文献）などを学ぶ。	制作意図書の意味するところを充分理解できるようにしておくこと。			
第10回	フライヤーの制作 制作意図書に従ってツールの制作を行う。（主に表面の制作） 次回までの修正課題点を指示する。	修正課題について修正の方向性を考える。			
第11回	フライヤーの制作2 前回に引き続き広告ツールの制作（主に裏面の制作と微調整など）。 最後に次回までにさらなる修正課題点を指示する。	修正課題について修正の方向性を考える。			
第12回	自治体からのアドバイス 西宮市観光振興課の方を招いて意見交換会。西宮市の視点での注意点等のアドバイスをいただき、議論する。 講師：西宮ポータルサイト「西宮流（スタイル）」主宰岡本順子氏	アドバイスに従って修正点等の確認をする。			
第13回	フライヤーの完成 ・西宮市からのアドバイスをもとに、制作物の修正を行う。 この段階で制作物は完成。	次回プレゼンテーションの方向性を考えておく。			

第14回	プレゼンテーション資料・スライドの制作。 最終発表会に向けて、企画プランと成果物をまとめた発表ツールを作成。	プレゼンテーションに向けての準備をしておく。
第15回	発表会 成果物の発表 合同発表会を行う。 学生間での評価、教員の評価、西宮市からの評価を発表する。	発表結果を確認する。 協力していただいた方へのお礼の連絡など

授業形態・授業方法

講義で地域振興やメディアの特性やツール作成のノウハウを学びます。 フィールドワーク実際に取材した後、パワーポイントによる企画書や情報ツールの制作。プレゼンテーションなどを行います。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
情報を収集し分析するなかで観光プランを立案できる。
- ②コミュニケーション力
自らの意見を伝え相手の情報を聞き出す取材力と発表する能力。
- ③メディア活用の専門知識・専門技能
観光プランからツール制作を行うためのPC技能や表現力。

成績評価の観点と方法・尺度

調査企画書の制作30%
30点満点、①企画の新規性 ②実行可能性 ③期待度の観点で評価する。

観光プランの制作30%
30点満点とし、①規性 ②実行可能性 ③高揚度によって評価する。

ツール制作・発表 40%
40点満点とし、①完成度 ②企画性 ③表現性 ④プレゼンテーション力によって評価する

使用教科書

特に指定ない。
資料を配付する。

参考文献等

『大阪春秋』平成27年新年号 西宮市観光パンフレット、
ポータルサイト「西宮流」
有川浩『阪急電車』(2010) 幻冬舎文庫
ぶよ、谷川流『長門有希ちゃんの消失』(2015) カドカワコミックス・エース

履修条件

パワーポイントを駆使しますので習熟度を上げておくこと。

履修上の注意・備考・メッセージ

西宮市観光振興課の協力を得て実際に西宮市内の施設・ショップを取材します。
取材マナーや著作権など注意すべき点が多々あるので、ひとつひとつクリアしながら新しい観光プランをつくっていきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日 3限 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
場所：研究室53（竹内研究室）

授業科目名	航空予約演習B				
担当教員名	山脇朱美				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業では、①国際線の予約業務について学び、②旅行総合システム「AXESS」の国際線操作技能を身に付けます。さらに③AXESS実用検定国際線3級合格を目指します。
(1回生前期開講の「コンピュータ予約システム基礎」受講者のみ受講可能)

授業計画

第 1 回	国際線予約の基礎知識	学習課題（授業時間外の学習）
	エアラインコード、都市（空港コード）、予約の年齢基準を覚えます。	エアラインコードを覚える。テキスト予備知識
第 2 回	スケジュール照会 週間スケジュールの出し方、見方を学びます。	テキストR3-1
第 3 回	空席照会 空席照会の方法、画面の見方を学びます。	テキストR4-1
第 4 回	空席照会からの予約 空席照会を使っての予約を行います。	テキスト（2015年度版）R4-2
第 5 回	直接予約 空席照会を使わない予約を行う。	テキストR5-1
第 6 回	オープンセグメントの入力 時間未定、日付未定等のオープンの入力を学びます。	テキストR5-2
第 7 回	国際線用ヘボン式ローマ字 パスポート用のヘボン式ローマ字を理解します。	パスポート用のヘボン式ローマ字を覚える。テキスト（2015年度版）R7-1
第 8 回	予約記録の作成 国際線の予約記録を作成します。	テキストR8-1
第 9 回	予約記録の変更 作成した予約記録の便変更、日付変更などを行います。	テキストR6-1
第10回	シートマップを使う事前座席指定 シートマップの出し方、選び方を理解し、事前座席指定を行います。	テキストR10-1
第11回	属性指定の事前座席指定 属性コードを使用して、事前座席指定を行います。	テキストR10-2
第12回	事前座席指定をした便の変更 予約・事前座席指定をした予約記録を抽出して変更をします。	テキストR10-3
第13回	AXESS実用検定過去問題と解説① AXESS実用検定国際線3級の過去問題を使って練習をします。	都市コード、ヘボン式ローマ字、P N R作成、S S Rに関する復習をする。
第14回	AXESS実用検定過去問題と解説② 前回分を添削して返却、解説を行います。 AXESS実用検定国際線3級の過去問題を使って練習をします。	都市コード、ヘボン式ローマ字、P N R作成、S S Rに関する復習をする。
第15回	国際線基礎知識のまとめと実技テスト AXESS実用検定国際線3級と同レベルの実技テストを実施し、理解度を確認とともに、国際線の基礎知識の振り返りを行います。	AXESS実用検定試験（国際線3級）の傾向を確認し、対策を考える

授業形態・授業方法

航空総合システム「AXESS」を使用をして実習を中心に行いますが、航空・旅行業で必要となる国際線の基礎知識については、講義も行います。
練習用のドリルを作成し、反復練習が出来るようにしています。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・専門知識：国際線用のヘボン式、海外のエアライン・都市コード等を覚える。
 - ・専門技能：旅行総合システム「AXESS」国際線を操作できる。

到達目標は「AXESS実用検定国際線3級」合格。

- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：国際線の予約業務の基礎について理解し、予約記録作成及び変更に至る、一連のコンピュータ操作技能を身に付ける。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「国際線予約に関する知識」、「予約記録の作成・変更」、「座席指定」の観点から理解度をみる。
成績評価：

- ・授業内小テスト：10点×2回（合計20点）

小テストはいずれも国際線用のヘボン式ローマ字が正しく書けているかを評価する。

- ・授業内課題：練習問題の提出 20点

授業内に作成した練習問題を提出、添削して返却。

- ・実技試験：60点

AXESS実用検定国際線3級と同レベルの問題を出題する。その解答を上記観点から評価する。

使用教科書

『予約発券業務の基礎（国際）』／株式会社アクセス国際ネットワーク（2016年）

参考文献等

特になし

履修条件

観光学科1回生前期「航空予約基礎演習」受講者のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

教室に入ったらパソコンを起動し、ログインしておくこと。

学習課題に記載している予習・復習のテキストページは2015年度版のものです。2016年度版と異なる場合はその都度指示を出します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは火曜3限、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	英語演習B				
担当教員名	国枝よしみ				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

この授業は、e-ラーニングを通じて、リスニング、リーディング、文法、語彙、ライティング全体においての英語力向上を目指し、英検、TOEICなどのスコアを伸ばすことを目的としています。学習する内容は、英語演習Aで活用した現役のアメリカ人コラムニストやESL専門家が、日本の学習者用向けに作成した教材です。学習にあたっては、授業内だけでなく、予習・復習で毎日1-2時間が必要です。予習・復習を行うことが、ステップアップにつながることを体験してください。

授業計画

ガイダンス

TOEICテストの出題形式を知る

TOEIC テストの形式：写真描写問題、応答、会話、説明文、短文穴埋め、長文穴埋め、読解といった流れを理解します。それぞれの形式に対応した事例問題をパソコン上で解答していきます。

Lesson 1

男子学生Jullioの生活

イメージリスニング：Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング：Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

学習課題（授業時間外の学習）

次週までにレッスン1の復習をしておくこと。

Lesson 2

パーティ

授業の始めにレッスン1のQuiz 小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

次週までにレッスン2の復習をしておくこと復習すること。

Lesson 3

山の中の農場

授業の始めにレッスン2のQuiz小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
イメージリスニング：Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング：Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

次週までにレッスン3の復習をしておくこと。

Lesson 4

家族の再会

授業の始めにレッスン3のQuiz 小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

次週までにレッスン4の復習をしておくこと。

Lesson 5

タイガーウックス

授業の始めにレッスン4の Quiz 小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
イメージリスニング：Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング：Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

次週までにレッスン5の復習をしておくこと。

Lesson 6

エジプト訪問

授業の始めにレッスン5のQuiz小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

Presentation:自己紹介から将来の夢やなりたい職業について説明するスキルを学びます

次週までにレッスン6の復習をしておくこと。

Lesson 7

生物学の学生

授業の始めにレッスン6のQuiz小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
イメージリスニング：Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング：Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

Presentation:発表のためのフレームワークを構築します

次週までにレッスン7の復習をしておくこと。

Lesson 8

アメリカのテレビ

授業の始めにレッスン7のQuiz小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

Presentation:発表のコンテンツを英語で仕上げます

次週までにレッスン8の復習をしておくこと。

Lesson 9

衣料品店

授業の始めにレッスン8のQuiz小テスト：Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz
イメージリスニング：Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング：Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion

Presentation:発表内容の修正、加筆を行います

次週までにレッスン9の復習をしておくこと

Lessen 10	ディズニーランド 授業の始めにレッスン9のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion Presentation:各自の発表を行います	次週までにレッスン10の復習をしておくこと。
Lessen 11	誕生日のお祝い 授業の始めにレッスン10のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz イメージリスニング : Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion	次週までにレッスン11の復習をしておくこと。
Lessen 12	人生の話 授業の始めにレッスン11のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz Reading : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion	次週までにレッスン12の復習をしておくこと。
Lessen 13	女性パイロット アメリア・アーハート 授業の始めにレッスン12のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz イメージリスニング : Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion	次週までにレッスン13の復習をしておくこと。
Lessen 14	これまでのまとめ—総復習— 授業の始めにレッスン13のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz イメージリスニング : Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion Lessen 1-6までの内容について弱点克服のためのポイント解説と復習を行います	次週までにレッスン1-6の復習をしておくこと。
Lessen 15	これまでのまとめ—総復習— 授業の始めにレッスン14のQuiz小テスト : Reading and Grammar Quiz, Listening Quiz イメージリスニング : Question & Response, Short conversation, Short talks, リーディング : Speed Paragraph Reading, Reading Comprehension, Sentence Insertion Lessen 7-15までの内容について弱点克服のためのポイント解説と復習を行います	次週までにレッスン7-14の復習をしておくこと。

授業形態・授業方法

実際のテスト形式を体験しながら、英語の運用能力をアップさせます。
授業では、写真やさまざまなシーンによく使われる会話を中心に聞き取る練習します。慣れるに従って、意味を理解できるようになりますので、まずは、ネイティブの発音に慣れるようにしましょう。リーディングパートでは、短文の英文を読むことから始め、次第に長文を早く読み取る練習します。そのほか、手紙や日記など簡単なライティングから、メール、自己紹介のプレゼンテーションができる力を習得します。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
・伝える力：自分の意図や主張を他者に対して正確に伝える力
- ②自ら動く力
・好奇心：物事に対して広く関心を持つ態度
- ・積極性：新たな物事に物怖じせずに挑戦する態度
- ③到達目標はTOEICスコア350~630点を目指します。

成績評価の観点と方法・尺度

各授業内で確認テストを行う (40%)	定期試験 (40%)	プレゼンテーション力 (20%)	を評価する。
・確認テスト			
e-learningの各単元にある復習テスト 3点×13回	39点		
・定期試験はこれまでに学習した内容から出題する	41点		
・プレゼンテーション			
英語の自己紹介がスムーズにできる	20点		
英語の自己紹介がある程度できる	10点		

使用教科書

適宜、補助教材として資料を配布する。

参考文献等

隨時授業中に紹介する。

履修条件

観光学科1・2回生が受講する

履修上の注意・備考・メッセージ

e-learning システムでは、スコアが表示されるので、間違ったところを繰り返し、復習し、満点に近づけることが上達につながります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日5限 場所：西館5F 国枝研究室

*質問等がある場合は、kunieda@osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入し送付ください。

授業科目名	情報処理演習B				
担当教員名	金 志善				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本講義では、パソコンの実習を通して、情報を適切に活用するための技能を養い、実践に生かせるスキルを習得することを目的とします。インターネットを利用した情報収集、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの代表的なアプリケーションソフトの操作方法等を身につけます。ワードとパワーポイントを中心にスキルを取得します。

授業計画

回	内容	学習課題（授業時間外の学習）
1回	ガイダンス 講義の狙い、講義計画、成績評価、授業運営、プレゼンテーション重要性を学びます。	パワーポイント操作の練習
2回	パワーポイントの操作（1） パワーポイントの基本操作、プレゼンテーションの作成を行います。	パワーポイント操作の練習
3回	パワーポイントの操作（2） 表・図形、グラフなどを活用したプレゼンテーションの作成を行います。	パワーポイント操作の練習
4回	パワーポイントの操作（3） アニメーション・画面切り替え効果などの特殊効果の設定を学びます。	パワーポイント操作の練習
5回	パワーポイントの操作（4） プレゼンテーションのサポート機能とスライドショー使い方について学びます。	パワーポイント操作の練習
6回	プレゼンテーションソフトによる課題作成（1） プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにしたプレゼンテーションの準備を行います。	プレゼンテーションの準備
7回	プレゼンテーションソフトによる課題作成（2） プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにしたプレゼンテーションの準備を行います。	プレゼンテーションの準備
8回	プレゼンテーションソフトによる課題作成（3） プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにしたプレゼンテーションの準備を行います。	プレゼンテーションの準備
9回	プレゼンテーションと評価の報告（1） 前回までの授業で作成したプレゼンテーションをもとに一人ずつ発表を行います。	発表を行うため練習する
10回	プレゼンテーションと評価の報告（2） 前回までの授業で作成したプレゼンテーションをもとに一人ずつ発表を行います。	他人の発表について評価する
11回	ワードの操作（1） 基本的な文書の作成と編集、ビジネス文書の基本フォーマットについて学びます。	文書入力の練習
12回	ワードの操作（2） ビジネス文書作成に便利な機能について学びます。	ビジネス文書作成の練習
13回	ワードの操作（3） ワード実践テクニック、ビジネス文書作成を行います。	ビジネス文書作成の練習
14回	ワードの操作（4） 長文編集テクニックについて学びます。	ビジネス文書作成の練習
15回	ワードの操作（5） 模擬の問題を利用しながら実技の練習を行います。	ビジネス文書作成の練習

授業形態・授業方法

パソコンを用いた演習形式で行います。プレゼンテーションの実習をおこないながら講義を進めていきます。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
ワードとパワーポイントを用いて、文章・映像などによる表現から効果的なプレゼンテーションが行える能力を身につける。
- ②アカデミックスキル
プレゼンテーションの重要性を理解し、コミュニケーション能力を高める。

成績評価の観点と方法・尺度

ワードとパワーポイントの操作を理解し、実行できているか。

- ・提出課題：20点
- ・プレゼンテーション発表力・内容：50点（パワーポイントを使用し、10分以上発表する。）
- ・模擬試験の評価：30点（ワードに関する基礎知識を評価する。）

使用教科書

テキストは特に指定しない。

参考文献等

参考文献は授業中に随時紹介する。

履修条件

観光学科2回生の選択科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

プレゼンテーションをしなかった場合、本科目全体としての成績評価を行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室
Eメール：Kim-j@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名を必ず記入して送信。

授業科目名	情報処理演習C				
担当教員名	中 伊佐雄				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

情報処理演習A、Bに引き続いで、コンピュータを使用するために必要となる基礎的な知識や技術、ならびに、ビジネス文書作成やプレゼンテーションで必要とされるコンピュータ操作技術を、演習を通じて学習する。使用するソフトウェアはMicrosoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPointで、その使用方法について演習を通じて修得する。演習では、単なる操作方法を修得のみならず、あくまでも見栄えの良いビジネス文書を作成できる能力、効果的なプレゼンテーションを行える能力を身につけることを目的としている。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）		
第1回	はじめに ブラウザ（インターネット・エクスプローラ）	授業用のブログを利用する。		
第2回	電子メール GmailとGoogle Appsを利用する。	Gmailを活用して、スマートフォン・携帯電話と連携させる。		
第3回	インターネット上のツール（ネチケット） Google apps紹介	Google appsのGoogle Docsを利用する。		
第4回	インターネットの検索エンジン Yahoo, Google	and検索（絞り込み検索）に慣れる。		
第5回	ホームページ作成 翻訳サービスのあるサイトを利用する。	翻訳サービスを利用して文章を作る。		
第6回	名刺作成 画像、テキストをWordで加工し、自分の名刺を作成。	and検索、添付メールを利用して、自身の画像を挿入した名刺を作る。		
第7回	Webページの作成 自分のWebページをインターネット上に掲載する。	ワードを利用して作成する。		
第8回	ブログ ブログ作成	自分のブログから トラックバックする。		
第9回	個別指導（ホームページ作成） Google apps	エクセルを利用する。		
第10回	個別指導（ホームページ作成） パワーポイントを利用したWebページの作成。	ホームページ作成		
第11回	個別指導 Google Sitesを利用してWebページを作る。	日本語のホームページ作成		
第12回	個別指導 Google Sitesを利用してWebページを作る。	日本語のホームページ作成		
第13回	ホームページ作成 英語のWebページを作る。	学内のインターネット上に掲載する。		
第14回	ホームページ作成 日本語と英語のページを作る。	学内のインターネット上に掲載する。		
第15回	ホームページ作成 日本語と英語のページを作る。	学内のインターネット上に掲載する。		

授業形態・授業方法

マイクロソフト・オフィースの各ソフトウェアとブラウザを使って毎回課題を完成させる。

養うべき力と到達目標

①問題解決力②専門的な力
ワープロソフトウェアを使いこなし見やすいビジネス文書を作成できる能力、表計算ソフトウェアを使いこなしデータを分析し、表やグラフを効率的に作成する能力、プレゼンテーションソフトウェアを使いこなし理解しやすく説得力のあるスライドを作成する能力を身に付ける。
またWEBページを作成し、各種ブログを利用、精通する。

成績評価の観点と方法・尺度

レポート30%、提出データ40%、発表30%で評価する。

使用教科書

特になし

参考文献等

インターネットを多用する。

履修条件

情報処理演習A、Bいずれかを履修していたことが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

教室のパソコンの立ち上げに時間がかかるので早めに教室でログインすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

nakat@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名入力して送信。
個人研究室（ドアが開いている時はいつでも歓迎です）

授業科目名	キャリアプランニングⅡ				
担当教員名	米谷侑子				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

キャリアのプランニング（計画）と就職に必要なコミュニケーション力を向上させ、希望する職業人になることをサポートします。

授業の進め方として

- ・小テスト
- ・面談対策 プレゼンテーション能力の向上
- ・サービス業現場での対応力、コミュニケーション力の向上
- ・グループワークトレーニング（集団内コミュニケーション力の向上）

授業を通して、仕事とは、働くこととは何かを学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	キャリアについてのガイダンス SPI試験について知る。今後の授業の進め方	
第2回	未来を観る—企業が求める人材について（面接を乗り切るための対策①） 企業研究、業種研究課題提示 印象度向上のポイント 身だしなみについて（講義と実技） コミュニケーションの3要素訓練	就職を考えている企業についてインターネットでHPや、現場に出向き説明会等に出席し、情報収集しそれについての報告書を作成。
第3回	面接対策① 印象度向上のポイント 歩き方、座り方指導 個別面談を開始、他者視点を持つ。 筆記試験対策ミニテスト	授業で習得したことを、他の授業でも実践をする。
第4回	面接対策② 個別面談を開始、他者視点を持つ。 面接監としてどのようなところを面接でチェックするのかを学ぶ。 筆記試験対策ミニテスト	面談の中で指摘された改善点を練習しておく。
第5回	面接対策③ 個別面談を開始、他者視点を持つ。 自分の弱点と強みを把握し、見かけの部分から改善を図る。 その改善方法を指導する。 筆記試験対策ミニテスト	面談の中で指摘された改善点を練習しておく。
第6回	グループワークトレーニング① グループにより問題解決を図る。 コミュニケーションの重要性を認識。 他者視点を持つ。フィードバック。 筆記試験対策ミニテスト	周囲を見て常に問題意識をもつ。
第7回	グループワークトレーニング② 言語コミュニケーション言葉「アサーティブな伝え方」を学ぶ。 筆記試験対策ミニテスト	人との会話で、相手と良い人間関係を構築し、建設的に自分の想いを伝えることができる方法を習得する。
第8回	グループワークトレーニング③ 言語コミュニケーション言葉の使い方を学ぶ。 事例を基にロールプレイングをし、実際に使えるように練習する。 筆記試験対策ミニテスト	建設的、人間関係を壊さずに、上手な「断り方」を学ぶ。
第9回	プレゼンテーション練習① プレゼンテーションのポイントを学習。 自分の意見をまとめ、伝える練習をする。 コミュニケーションの3要素が表現できるようになる。 相手に伝わる発声の仕方、メリハリのある話し方を学習する。 筆記試験対策ミニテスト	プレゼンテーションの課題を考える。 シナリオを見ないで自己紹介ができるようになる。 発声練習、滑舌練習
第10回	プレゼンテーション練習② プレゼンテーション実技演習（1回目前半） フィードバックの仕方「良い点と改善点」の観察の仕方を学習。 他者の良い点、改善点から自己の改善や強化を図る。 筆記試験対策ミニテスト	発声と滑舌を練習。（積み重ねが大切） 評価の仕方を学ぶ。
第11回	プレゼンテーションの練習③ プレゼンテーション実技演習（1回目前半） 他者の意見、プレゼンテーションを聞いて感想をフィードバックする。 筆記試験対策ミニテスト	発声と滑舌を練習 他者の良いところをまねる。他者で気になるところは自分自身の気になるところとして改善を図る。
第12回	集団面接練習① 面接の練習。 入室の仕方、面接を済ませ、退室するまでの一連の動作を体得する。 模擬面接①グループで練習、ロールプレイング。 筆記試験対策ミニテスト	面接の際の第一印象を向上させる。 1分間自己紹介ができるようになる。

第13回	集団面接練習 ② 面接の練習【前半】 一人ずつチェックする。 筆記試験対策ミニテスト	他者の姿勢を見ながら、自身の強みに自信を持つ、反面同じ注意点は改善方法を共に学ぶ。
第14回	集団面接練習 ③ 1回目よりもさらにレベルアップさせるために再度面接練習を重ねる。 面接の練習【後半】 一人ずつチェックする。 筆記試験対策ミニテスト	他者の姿勢を見ながら、自身の強みに自信を持つ、反面同じ注意点は改善方法を共に学ぶ。
第15回	集団面接練習 ④ 仕事とは、働くこととは、についてそれぞれの考えをまとめ プレゼンテーションする。 1名2分のプレゼンテーション。	就職が決まりかけている時期でもあるため、今後就職先でよりキャリアアップを図ることができるように心の在り方や働くことへの意識づけを指導する。

授業形態・授業方法

観光学科としてのキャリアプランニングです。観光に携わる人材のみならず、観光以外の企業への就職も含め考えた面接対策を実施。自分自身の想いの伝え方を実践練習。また、ペーパーテストのための対策としてSPIのミニテストを毎回行うことで、社会人としての知識レベルを上げていく。

集団面接では、他者の行う姿を見ることで視点を養い、自分自身への振り返りとする。

養うべき力と到達目標

- 採用試験本場を迎へ、実践的な採用対策を行う
- ①面接対策：印象度アップのためのポイントと実践
- ②グループディスカッションで自分の意見が発言できる
- ③社会で必要な内容での小テストを行うことで、言語、非言語の知的能力の向上を図り、入社ペーパーテスト力を向上させる。
- ④内定者に対して、入社前研修に類するものを行う
プレゼンテーション力の育成と言語、非言語能力を向上させる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ①毎回の小テスト 40%
1回2点満点。概ね理解できていると判断すれば2点とする。10回以上のテスト受験で10点プラス。
- ②レポートの内容 30%
- 30点満点とし、テーマに関して構成、思考プロセスが明確、結論が導きだされているかの観点から評価する。
- ③面接・プレゼンテーション試験 30%
- 志望動機が明確、面接態度、言葉遣い、服装、応対、提案力の観点で評価する。

使用教科書

特に使用しない。毎回プリントを配布する。

参考文献等

ホスピタリティ、サービス関連の書籍
最初の授業時にお知らせします。

履修条件

授業の際には、就職面接時の身だしなみで出席すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

観光学科2年生であること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後で相談を受け付けます。
それ以外はメールでも受け付けます。
メールアドレス kometani@aim-tic.com
メールを送る際には、授業で指導した通りに、名前、所属等とネチケットに沿った内容で送ること。

授業科目名	実用英語Ⅲ				
担当教員名	国枝よしみ、中伊佐雄、Native English Teacher				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

The objective of this course is to practice "English communication" in daily life and business. この授業は、ネイティブの講師を中心とした実践英語会話が中心の授業です。これまでの実用英語 I IIを基礎としてさらに英会話のスキルアップにつなげます。レッスンでは、英語のみを使用しますので教室では、英語で話しましょう。

授業計画

			学習課題（授業時間外の学習）
Lesson 1	Warm-up, Introducing yourself Classroom English		Introduction
Lesson 2	Welcome to Japan! Koji is meeting the Todds at Narita Airport.		Welcome to Japan!
Lesson 3	Please to meet you Rie meets Gary and Jennifer in a coffee shop.		Please to meet you.
Lesson 4	Tell me about yourself Miki is having a job interview.		Tell me about yourself
Lesson 5	Hello, is this Room Service? In Singapore, the hotel receptionist is very busy!		Hello, is this Room Service?
Lesson 6	Reviews & Speaking text Lessen 1 – Lessen 5		Reviewing Lessen 1 – 5
Lesson 7	Can I help you? Miki is greeting Linda Becker, a visitor from Canada.		Can I help you?
Lesson 8	What would you like to do while you're here? Koji and Todds are making plans.		PASSPORT Plus: What would you like to do while you're here?
Lesson 9	Would you like to see my pictures? Rie is showing Jennifer the pictures of her trip.		Would you like to see my pictures?
Lesson 10	Let's shop till we drop! Mayumi and Carol are shopping in Singapore.		PASSPORT Plus: Let's shop till we drop!
Lesson 11	Can I take a message? Miki is taking a message for a client.		Can I take a message?
Lesson 12	I can't stand soccer! Rie and Jennifer are talking about the things they like and don't like.		I can't stand soccer!
Lesson 13	You can take the Shinkansen Koji and the Todds are going to take the bullet train to Kyoto.		You can take the Shinkansen.
Lesson 14	Don't forget your cameras! On the special one day tour of Singapore and Sentosa Island.		Don't forget your cameras!
Lesson 15	Reviews Lessen 6 – Lessen 13		Reading background notes

授業形態・授業方法

Students will be expected to participate actively in class every week. Being silent or using Japanese during class time may result in failure from the course. 参加型の演習形式で行いますので、各人の積極的な発言が期待されます。日本語を使ったり、発言が無い場合評価できないことがあります。予習、復習を強く勧めます。

養うべき力と到達目標

By the end of the course, students should be able to:

1. Participate actively in English-only basic conversation in the class.
2. Express clearly their opinions in English about a variety of topics in the text book.

①専門的な力

・専門知識・専門技能:日常生活やビジネスシーンに関わる基礎的な英語会話ができるることを到達目標にしています。

成績評価の観点と方法・尺度

Class participation: 参加点 (20%) 、Speaking: 発言点 (30%) 、Home assignment: 課題 (20%) Conversation text: 会話テスト (30%)

使用教科書

名1 : PASSPORT Plus /著者名1 : Angela Buckingham and Norman Whitney /出版社名1 : Oxford University Press

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修条件

観光学科2回生を対象にしています。

履修上の注意・備考・メッセージ

English-only class:授業はすべて英語で行います。
English Cell(中央館1F)で英語会話プログラムが行われているので、参加を強く勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日5限 西館5F 国枝研究室
西館5F 中 研究室

*上記の時間以外は、Eメールにて学籍番号、氏名を記載して送付してください。

授業科目名	実用英語IV				
担当教員名	国枝よしみ、中伊佐雄、Native English Teacher				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

The objective of this course is to practice "English communication" in daily life and business situation.
この授業は、ネイティブの講師を中心とした実践英語会話が中心の授業です。これまでの実用英語 I II IIIを基礎として、レッスンでは、英語のみを使用します。

授業計画

授業計画		学習課題（授業時間外の学習）
Lessen 1	Introduction Review Lesson 1 – Lesson 12	Introduction
Lessen 2	Where can I buy some souvenirs? Miki and Linda are going shopping downtown.	Where can I buy some souvenirs? 13
Lessen 3	What would you like to eat? Koji takes the Todds to a Japanese restaurant.	What would you like to eat? 14
Lessen 4	What a beautiful apartment? Jennifer is visiting Rie's parents' home.	What a beautiful apartment? 15
Lessen 5	Review Lessen 1 – Lessen 4	Lessen 1 – Lessen 4
Lessen 6	You have to leave your shoes here Koji takes the Todds sightseeing in Kyoto.	You have to leave your shoes here. 16
Lessen 7	I agree with you Makoto Kinoshita and Peter Lee are having a business meeting.	I agree with you. 17
Lessen 8	Could I have your flight details? Making a case or arguing a point	PASSPORT Plus: Could I have your flight details? 18
Lessen 9	There's a mistake on my bill Making a case or arguing a point	There's a mistake on my bill. 19
Lessen 10	Review Lessen 6 – Lessen 9	
Lessen 11	Have a safe trip home! PASSPORT Plus: Have a safe trip home! 20	
Lessen 12	Let's play the Hospitality Game I In this game, you will be using your English to talk and help people from overseas visiting or working in Japan	The Hospitality Game
Lessen 13	Let's play the Hospitality Game II In this game, you will be using your English to talk and help people from overseas visiting or working in Japan	The Hospitality Game
Lessen 14	Discussion Theme: Japanese food	Tell me about ... Eating Out
Lessen 15	Discussion Theme: Japanese customs	pp. 38-43

授業形態・授業方法

Students will be expected to participate actively in class every week. Being silent or using Japanese during class time may result in failure from the course. 参加型の演習形式で行いますので、各人の積極的な発言が期待されます。日本語を使ったり、発言が無い場合評価できないことがあります。予習、復習を強く勧めます。

養うべき力と到達目標

By the end of the course, students should be able to:

1. Participate actively in English-only conversation in the class.
 2. Answer and ask questions in English about a variety of topics in the text book.
- ①専門的な力
・専門知識、専門技能:自己紹介や旅行、国際交流、ビジネス等に関わる英語会話ができるることを到達目標にしています。

成績評価の観点と方法・尺度

Class participation: 参加点 (20%) 、Speaking: 発言点 (30%) 、Home assignment: 課題 (20%) Conversation text: 会話テスト (30%)

使用教科書

書名1: PASSPORT Plus /著者名1: Angela Buckingham and Norman Whitney /出版社名1: Oxford University Press

参考文献等

授業中に紹介する。

履修条件

English-only class:授業はすべて英語で行います。

履修上の注意・備考・メッセージ

English Cell(中央館 1F)で英会話プログラムを行っています。積極的に参加することを勧めます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日5限 西館 5F 国枝研究室
西館 5F 中 研究室

*上記の時間以外は、Eメールにて学籍番号、氏名を記載して送付してください。

授業科目名	ツーリズム研究				
担当教員名	山田勲之				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本学を中心とする北摂地域の観光資源と地域観光振興の組織のデータベース化を通じて、地域と観光との関連性、及び大学観光学科と地域との関わり方を考察することを目的とします。北摂は旧摂津国の北部を漠然と指しますが、本授業では淀川以北で大阪府三島郡から西は兵庫県神戸市を北摂として、観光資源（神社・寺院などの歴史文化財、街道を中心とする本陣・宿場跡、異文化、宗教、祭祀、酒造業など）及び観光協会やNPO団体、ボランティアガイドの団体などのデータベース化を行います。その後、テーマを決めてグループワークを実施し理解を深めます。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 北摂地域の歴史文化遺産、地誌概要、その他観光スポットについて学習します。	北摂の概要について復習する。
第2回	歴史文化遺産① 三島郡・高槻市 寺院や神社を中心とした歴史文化遺産の成立年代、歴史的背景、観光スポットとしての特徴などウェブや文献資料に基づいてデータベース化を図ります。まずは、三島郡と高槻市を対象とします。	三島郡・高槻市の観光資源について復習する。
第3回	歴史文化遺産② 茨木市・吹田市 前回に引き続き歴史文化遺産に関するデータベース化を図ります。茨木市と吹田市を対象とします。	茨木市・吹田市の観光資源について復習する。
第4回	歴史文化遺産③ 豊中市・池田市・箕面市 引き続き歴史文化遺産に関するデータベース化を図ります。豊中市・池田市・箕面市を対象とします。	豊中市・池田市・箕面市の観光資源について復習する。
第5回	歴史文化遺産④ 大阪市淀川以北・伊丹市・尼崎市 引き続き歴史文化遺産に関するデータベース化を図ります。大阪市淀川以北・伊丹市・尼崎市を対象とします。	大阪市淀川以北・伊丹市・尼崎市の観光資源について復習する。
第6回	歴史文化遺産⑤ 西宮市・芦屋市・神戸市 引き続き歴史文化遺産に関するデータベース化を図ります。西宮市・芦屋市・神戸市を対象とします。	西宮市・芦屋市・神戸市の観光資源について復習する。
第7回	街道 北摂を走る街道、街道沿いの観光資源に関して、データベース化を図ります。	街道及び街道沿いの観光資源について復習する。
第8回	だんじり 大阪湾一帯のだんじりを用いた祭りについてデータベース化を図ります。	だんじりについて復習する。
第9回	酒造 北摂三銘酒（富田・池田・伊丹）と灘五郷についてデータベース化を図ります。	酒造業と観光の関係性について復習する。
第10回	異文化① 北摂あるいは旧摂津国で、異文化体験できる地域のデータベース化を図ります。対象地域は生野コリアタウン、大正リトルオキナワ、ムスリムコミュニティとします。	異文化観光について復習する。
第11回	異文化② 前回に引き続き、異文化体験できる地域のデータベース化を図ります。対象地域は神戸南京町、北野町異人館街とします。	異文化観光について復習する。
第12回	観光協会・NPO団体① 観光協会やNPO団体などを所在地、活動内容、ボランティアガイドの詳細についてデータベース化を図ります。	観光協会・NPO団体の概要について復習する。
第13回	観光団体・NPO団体② 前回に引き続き、観光協会やNPO団体などを所在地、活動内容、ボランティアガイドの詳細についてデータベース化を図ります。	観光協会・NPO団体の概要について復習する。
第14回	発表① 前半 グループに分かれてこれまで収集したデータについて発表する。	抽出された課題について検討する。
第15回	発表② 後半 グループに分かれてこれまで収集したデータについて発表する。	抽出された課題について検討する。

授業形態・授業方法

- ・初めの20分で調べるテーマについて、講義をします。講義を踏まえて、主としてホームページ上からテーマについて調べて、データベース化を図ります。
- ・第14回と第15回は調べた内容について発表します。

養うべき力と到達目標

①幅広い教養

- ・文化的な素養：観光資源のデータベース化を図る中で、地域の文化を把握することができる。
- ・社会知識：地域観光振興に関わる組織のデータベース化を図る中で、地域社会の構造の一端を知ることができる。

②アカデミックスキル

- ・情報収集力：テーマに沿って情報を収集することができる。

- ・プレゼンテーション力：聞いているものに対して、わかりやすく説明することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

各回の課題の：65%

- ・各回の課題を1～5点で評価し、合計65点とする。テーマに沿って正確に入力されている（5点）。テーマに沿っているが、誤字脱字が散見される（3～4点）。テーマに沿っていない部分が見られる、あるいは全く沿っていない（1～2点）。
- ・発表35%：発表態度20点、発表内容15点

使用教科書

特に使用しない。補足資料を配布する。

参考文献等

- ・今井修平・村田路人編（2006）『街道の日本史 大坂—摂津・河内・和泉』吉川弘文館

履修条件

観光学科2回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

理由なくグループワークやプレゼンテーションに参加しなかった場合、総合点から20点を差し引く。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	専門演習Ⅱ				
担当教員名	国枝よしみ・竹内正人・山田勲之				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本演習では、専門演習Ⅰで学習したことを踏まえて、実際に自分の研究テーマに沿って先行研究の整理を行い、論文のフレームワークを構築することを目的とします。その上で、必要とされる調査、資料収集を始めています。各指導教員の指導、及びゼミでの議論を経て、前期末の卒業研究中間発表会にて、研究発表を行います。そこで得られた課題を、後期の「卒業研究」で解決します。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 春季休業期間中に課した、自身の研究テーマに沿った先行研究読解の進捗状況を報告します。	先行研究を読解する。
第2回	先行研究の整理① 先行研究の現状把握 当該研究分野の先行研究が明らかにしてきたことを把握します。	先行研究を読解する。
第3回	先行研究の整理② 先行研究の問題点 自身の研究テーマと先行研究を比較して、何が問題なのかを考察します。	先行研究を読解する。
第4回	論文のフレームワーク① 序論 序論で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、先行研究の提示、先行研究の問題点の指摘、研究目的）	序論の構成を行う。
第5回	論文のフレームワーク② 本論 本論を構成するには論理の階層構造（研究方法、結果、考察）を示すことにあることを学びます。	本論の構成を行う。
第6回	論文のフレームワーク③ 結論 論文における結論とは何か、を学びます。つまり、研究成果のまとめ、結論の提示、当該研究分野における自身の研究の位置づけ、研究の意義、を学びます。	仮説を立ててみる。
第7回	研究手法 ① 定性調査 インタビューや聞き取りを主体とする定性調査の手法について、自身の研究テーマに沿って学びます。	調査表を作成する。
第8回	研究手法② 定量調査 アンケート表の作成を中心とする定量調査について、自身の研究テーマに沿って学びます。	アンケート項目を作成する。
第9回	研究手法③ 文献調査 調査報告書や統計資料の扱い方について、自身の研究テーマに沿って学びます。	統計資料などをまとめる。
第10回	論文作法 論文作法（引用文献の選択、引用の付け方、注の付け方、文献リストの作成）について、事例に基づいて学びます。	論文作法について復習する。
第11回	調査の準備① 自身の研究テーマに沿って具体的に調査の準備をします。	調査の準備をする。
第12回	調査の準備② 前回に引き続き、自身の研究テーマに沿って具体的に調査の準備をします。	調査の準備をする。
第13回	研究発表の準備① 自身の研究テーマに沿って、論文のフレームワークを構築し、レジュメやパワーポイントにまとめます。	発表レジュメの準備をする。
第14回	研究発表の準備② 前回に引き続き、自身の研究テーマに沿って、論文のフレームワークを構築し、レジュメやパワーポイントにまとめます。	発表レジュメの準備をする。
第15回	卒業研究中間発表会 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する。

授業形態・授業方法

授業の最初の20分は先行研究の整理や論文のフレームワーク構築手法、論文作法に関して講義します。残りは発表とディスカッションを主体とする演習形式を実施することによって、自身の研究内容を磨いていきます。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他人の発表を聞き、その主張や問題点を把握することができる
 - ・伝える力：自分の意見や主張を教員やクラスメートに伝えることができる
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：先行研究を整理し、問題点を指摘することができる
 - ・研究計画：論文のフレームワークを組み立てることができる

成績評価の観点と方法・尺度

2回の研究についてのレジュメまたはパワーポイント作成と発表。基準と点数は以下の通り。

- ・レジュメ作成：25点×2回（合計50点）

箇条書きでわかりやすい内容である（17～25点）。概ね箇条書きで作成されている（8～16点）。ほとんど箇条書きで作成されておらず意味不明な部分が散見される（1～8点）。

- ・発表 25点×2回（合計50点）

内容25点 態度25点

使用教科書

なし。随時補足資料を配布する。

*国枝ゼミは、高橋二夫・柏木千春編「1からの観光事業論」（中央経済社）ISBN：978-4-502-17281-6を使用。

（専門演習IIと卒業研究で使用）

参考文献等

井上千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修条件

観光学科2回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

各自、今後の研究計画を作成し期限までに提出すること。テーマ設定、調査、フィールドワークの手法なども細かく指導するので、積極的に質問することを期待している。調査やフィールドワークの場合は、相手方への了解を取る必要があることから早めに準備することを勧める
演習では必ず発表者に対して質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

国枝よしみ：月曜日5限（kunieda@osaka-seikei.ac.jp）

竹内正人：月曜日3限（takeuchi@osaka-seikei.ac.jp）

山田勤之：水曜日3限（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）

※そのほか連絡を取りたい場合はe-mailに必ず学籍番号と氏名を入れ送付すること。

授業科目名	卒業研究				
担当教員名	国枝よしみ・竹内正人・山田勲之				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本演習では、専門演習Ⅱで学習してきたことと、卒業研究中間発表会で明らかとなった自身の研究の課題を踏まえて、卒業論文を完成させることを目的とします。これまでの研究経過を卒業論文最終発表会で発表し、精査を受けたうえで、論文の修正あるいは執筆を進めます。また、随時論文原稿の校正を受けることにより、論文の完成度を高めて完成させます。

授業計画

授業回	授業題名	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 報告①	夏季休業期間中に実施した、研究テーマに沿った調査の進捗状況を報告します。卒論のテーマにつながる研究ができたか、課題はどこまで明らかになったのか、ぜひ発表します。	前回同様、研究の進捗状況を報告します。
第2回	報告②	前回同様、研究の進捗状況を報告します。	論文の執筆と調査の補足。
第3回	論文の書き方① 序論の内容	問題の背景、先行研究の提示、先行研究の問題点、研究目的といった序論で述べなければならない事項を、研究テーマに沿って考えます。	論文の執筆と調査の補足。
第4回	論文の書き方② 序論を書く	前回の授業で学習した序論の内容を、自身の研究テーマに沿って書き、発表します。	論文の執筆と調査の補足。
第5回	論文の書き方③ 本論の内容	研究手法、結果、考察といった論理の階層構造を、自身の研究テーマに沿って考えます。	卒業研究中間発表会に向けたレジュメを作成する。
第6回	卒業研究中間発表会	これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表する。課題を見い出し修正を図ります。また、発表者以外も必ず議論に参加します。	抽出した課題を分析する。
第7回	論文の書き方④ 本論を書く	第5回の授業で学習した本論の内容を、自身の研究テーマに沿って書きます。	論文の執筆と調査の補足。
第8回	論文の書き方⑤ 結論の内容	研究成果のまとめ、結論の提示、研究意義といった結論で述べるべき事項を、自身の分野テーマに沿って考えます。	論文の執筆と調査の補足。
第9回	論文の書き方⑥ 結論を書く	前回の授業で学習した結論の内容を、自身の研究テーマに沿って書きます。	論文の執筆と調査の補足。
第10回	論文チェック ①	指導教員から執筆した論文原稿のチェックを受けます。必要な場合、フィールドワークや文献調査を追加して行います。	各自は論文を仕上げ、修正指導を受けること
第11回	論文チェック ②	指導教員から執筆した論文原稿のチェックを受けます。必要な場合、フィールドワークや文献調査を追加して行います。	各自は論文を仕上げ、修正指導を受けること
第12回	論文校正 ①	修正した論文原稿のチェックを指導教員から受け、完成度を高めます。	再度卒論の内容を日本語表現の修正を行う。
第13回	論文校正 ②	修正した論文原稿のチェックを指導教員から受け、完成度を高めます。	再度卒論の内容を日本語表現の修正を行う。
第14回	論文校正 ③	修正した論文原稿のチェックを指導教員から受け、完成度を高めます。	再度卒論の内容を日本語表現の修正を行う。
第15回	卒業論文の検討会	完成した卒業論文の検討会を行います。	

授業形態・授業方法

授業の最初の20分は先行研究の整理や論文のフレームワーク構築手法と作法に関して講義します。残りは発表とディスカッションを主体とする演習形式を実施することによって、自身の研究内容を磨いていきます。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他人の発表を聞き、その主張や問題点を把握することができる
 - ・伝える力：自分の意見や主張を教員やクラスメートに伝えることができる
- ②アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：研究論文のフレームワークを構築し、論文として仕上げることができる
 - ・卒業論文：当該研究分野の発展に貢献できる研究論文を作成することができる

成績評価の観点と方法・尺度

2回の研究のレジュメやパワーポイント作成、及び研究発表。論文内容。基準と点数は以下の通り。

- ・レジュメ作成：15点×2回（合計50点）
箇条書きでわかりやすい内容である（17～25点）。概ね箇条書きで作成されている（8～16点）。ほとんど箇条書きで作成されておらず意味不明な部分が散見される（1～8点）。
- ・発表 15点×2回（合計50点） 内容8点 態度7点
- ・論文 40点 研究としての妥当性、論文として論理構成、日本語表現を採点項目とする。

使用教科書

なし。随時補足資料を配布する。

参考文献等

井上千以子（2013）『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修条件

観光学科2回生の選択必修科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

演習では必ず発表者に対して質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

国枝よしみ：月曜日5限（kunieda@osaka-seikei.ac.jp）

竹内正人：月曜日3限（takeuchi@osaka-seikei.ac.jp）

山田勤之：水曜日3限（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）

※そのほか連絡を取りたい場合は、e-mailに必ず学籍番号と氏名を入れ送付すること。

授業科目名	ActiveEnglish I (調理・製菓、栄養)				
担当教員名	J・ガーヴィー・J・スミス・西紋茂樹・薮井恵美子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

ActiveEnglish I (調理・製菓、栄養) では、レストランや給食によく使用する「果物」「野菜」「魚」「肉類」「調味料」などの食材、「調理器具」や「調理操作」の英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話を聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタピングにより返答する練習もします。Active English I (調理・製菓、栄養) では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心で学習します。

授業計画

授業計画	授業概要	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	Linc Englishを使いこなしましょう。 授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Pre-Bronzeを練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。	①Pre-Bronzeの復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。
第2回	Lesson 1 食材の果物を英語で扱えるようになります。 ①Pre-Bronzeの復習オーラル問題を実施します。 ②レストランや給食の食材によく使われる果物の取り扱いをネイティブの発音とスピードの英語で出来るようになります。	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。
第3回	Lesson 2 食材の野菜を英語で扱えるようになります。 ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②レストランや給食の食材によく使われる野菜の取り扱いをネイティブの発音とスピードの英語で出来るようになります。	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。
第4回	Lesson 3 食材の野菜の切り方を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②レストランや給食によく使われる野菜や果物を切る方法（みじん切り、輪切りなど）をネイティブな発音の英語で表現できるようになります。	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。
第5回	Lesson 4 色々な調理器具を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②業務用のコンロ、パレットナイフ、寸胴鍋など調理器具をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。
第6回	Lesson 5 良く使う魚や貝を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②サバ、シジミ、アジなど日常的によく使う魚や貝類をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。
第7回	Lesson 6 魚の下処理の方法を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②うろこの処理、洗浄、薄切りなど魚の下処理の方法をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze 1 Lesson1～12のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。
第8回	英語の聞く力を試してみましょう①！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronze 1 のリスニングテストを実施します。 ②Food Science Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Food Science Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。
第9回	Lesson 7 12か月の行事食の特徴を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 1～6の復習オーラル問題を実施する。 ②正月料理、ひな祭り、端午の節句などの行事食をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。
第10回	Lesson 8 廉価食品を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②鶏肉、豚肉、牛肉、ソーセージなどの食材をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。
第11回	Lesson 9 みそ、しょうゆ、砂糖などの調味料を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②みそ、しょうゆ、砂糖などの調味料をネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。
第12回	Lesson 10 食材を調味する方法を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②塩や胡椒をふる、衣をつけるなどの調味方法の基本操作をネイティブな発音の英語で説明できるようにします。	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Food Science Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。

第13回	Lesson 1 1 きのこ類やナツツ類の食材を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 1 0 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②きのこ類やナツツ類を食材を数と一緒にネイティブな発音の英語で説明できるようになります。
第14回	Lesson 1 2 色々な理操作を説明できるようになります。 ①Lesson 1 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ゆでる、焼く、蒸す、盛り付けるなどの基本的な調理操作をネイティブな発音の英語で説明になります。
第15回	レシピ紹介と総合復習（テストと振り返り） ①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Food Science Lesson 1 ~ 1 2 の総合復習（テストと振り返り）を実施します。 ③得意または好きなものを一品選び、英語でレシピを紹介します。

①Lesson 1 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
②Food Science Lesson 1 ~ 1 2 を1回以上練習してておくこと。

①Lesson 1 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
②Food Science Lesson 1 ~ 1 2 を繰り返し、復習してておくこと。
③レシピを紹介の準備をしましょう。

授業形態・授業方法

Linc English Food Science Semester 1 を活用して、食べ物に関わる基礎的なことをネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業の復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語を学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②食物に関わる専門的な英語力を養います。
・栄養、食品、調理に携わる職業もグローバル化が進む社会において必要な英会話力を習得します。
- ③よく使う食材や調理器具、基本的な調理操作をネイティブの発音と速さの短文を聴き取り、ネイティブに近い発音力を身につけます。
- ④前期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語で得意な一品のレシピを紹介できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力	: 授業内演習とクイズ 30%
ライティング力	: クラスフォーラム 20%
一般英語力	: Bronze I のテスト 20%
(Lesson1~12のLisningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストの実施する。)	
Food Science 基礎英語力	: Food Science Semester 1 の総合復習テスト (スピーチテストを含む) 30%

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Food Science Semester 1 を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Food Science Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

調理・製菓学科および栄養学科の履修科目です。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ①英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、調理・製菓学科および栄養学科の先生方が考えられた教材です。担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。
- ②語学学習は中断すると力が付きません。夏期休暇の課題として、Bronze II のLesson1~12のLisningを自主学習しておきます。
- ③Bronze II のLesson1~12のLisningのテストをActiveEnglish II (調理・製菓、栄養) の第1回目の授業で実施します。自学しておきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	ActiveEnglish I (生活デザイン)				
担当教員名	J・ガーヴィー・平敷亮子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

Active English I (生活デザイン学科) では、ファッショニに興味のある皆さんのが、ファッショニアアイテム、デザイン、縫製の用具や縫製の基本操作、生地の性質や特徴など、ファッショニに関する基本的なことの英語表現をネイティブな発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話文を聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタピングにより返答する練習もします。ActiveEnglish I (生活デザイン学科) では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学習します。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		①	②	③	④
第1回	Linc English を使いこなそう！ 授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。	①Pre-Bronzeの復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。			
第2回	Lesson 1 基本的な洋裁道具とファッショニアアイテムを英語で表現しよう！ ①Pre-Bronzeの復習オーラル問題を実施します。 ②洋裁に必須の基本的道具（糸、ミシンなど）の名称やトップやボトムの基本的な名称を英語で伝えることができるよう、ネイティブの発音をマスターしましょう。	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。			
第3回	Lesson 2 色の表現力を高めて、ファッショニアセンスをアピールしましょう！ ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②基本的な色の名称だけではなく、細やかな色の違いを英語で表現できるように、配色などの専門的な表現方法を覚えましょう。	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。			
第4回	Lesson 3 おしゃれの方法を英語で伝えよう！ ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ネイルやヘアメイク、フェイスメイクなどカタカナ英語ではなく、ネイティブの発音をマスターしましょう。	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。			
第5回	Lesson 4 ファッショニアアイテムの英語表現をどんどん増やして伝ましょう！ ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②靴やボトムの英語表現を増やして、キャップ、ハイヒールなどファッショニアコーディネートの英語表現を豊かにしましょう。	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。			
第6回	Lesson 5 織物の種類とその特徴を英語で表現する専門的な英語力を高めよう！ ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②糸や織物の種類の英語表現を学び、布地を選べるファッショニアコーディネーターする準備をしましょう。	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。			
第7回	Lesson 6 織物の原材料（糸）の違いを説明しよう！ ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②織物の原材料である糸の特徴（絹、綿、羊毛）を英語で表現する専門的な英語力を身につけましょう。	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze 1 Lesson1～12のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。			
第8回	英語の聞く力を試してみましょう①！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Life Design Course Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Lesson 1～6 の復習オーラル問題を復習しておくこと。 ②Life Design Course Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。			
第9回	Lesson 7 ファッショニアコーディネートの小物を英語で表現しましょう。 ①Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施する。 ②コサージュ、ストラップ、マフラーなどの小物をネイティブな英語で伝えられるようになります。	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。			
第10回	Lesson 8 ファッショングッズの縫製技術について英語で説明できるようになります。 ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②アイロン、前開、ボタン、スカートの切替ラインなど、縫製に必要な用語をネイティブな英語で伝えられるようになります。	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。			
第11回	Lesson 9 洋服の取扱注意を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②洋服についている英語のラベルを読んで、服の取り扱い説明書を説明できるようになります。	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。			
第12回	Lesson 10 色々な上着を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ダッフルコート、スタジアムコート、ジャケットなどの上着の特徴をネイティブな英語で伝えられるようになります。	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。			

第13回	Lesson 11 販売のファッショナーディネートの様子を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②販売のためにトータルファッションをコーディネートしている様子をネイティブな英語で説明できるようになります。	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 1～1を1回以上練習しておくこと。
第14回	Lesson 12 繊維の測定や実験器具を英語で説明できるようになります。 ①Lesson 11 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②繊維の厚みやしなやかさなどを測定するための実験器具や操作を英語で説明できるようになります。	①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 1～1を繰り返し、復習しておくこと。
第15回	Life Design Course Lesson 1～12の総合復習（テストと振り返り） ①Lesson 12 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Life Design Course Lesson 1～12の総合復習（テストと振り返り）を実施します。 ③好きなファッションアイテムを一品選び、英語で紹介します。	

授業形態・授業方法

Linc English Life Design Course Semester 1 を活用して、ファッションに関する基礎的なことをネイティブな発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業の復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②ファッション業界に関わる専門的な英語力を養います。
・販売や流通に携わる職業もグローバル化が進む社会において必要な英会話力を習得します。
・良く使うファッションアイテム、デザインをネイティブの発音と速さの短文を聴き取り、ネイティブに近い発音力を身につけます。
- ③前期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語で好きなファッションアイテムを紹介できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力：授業内演習とクイズ 30%
ライティング力：クラスフォーラム 20%
一般英語力：Bronze I のテスト 20%
(Lesson1～12のLisningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストの実施する。)
Life Design 基礎英語力：Life Design Course Semester 1 の振り返り試験（スピーチテストを含む）30%

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Life Design Course Semester 1 を主な教材として使用します。

参考文献等

『考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Life Design Course Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

生活デザイン学科の履修科目です

履修上の注意・備考・メッセージ

- ①英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、生活デザイン学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒にファッションの勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。
- ②語学学習は中断すると力がつきません。夏期休暇の課題として、Bronze II のLesson1～12のLisningを自主学習しておきます。
- ③Bronze II のLesson1～12のLisningのテストをActive English II（生活デザイン学科）の第1回目の授業で実施します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	Active English I (幼児教育)				
担当教員名	西紋茂樹・薮井恵美子・久保祐美子・平敷亮子・J・ガーヴィー・山口和夫				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

ActiveEnglish I (幼児教育) では、保育園や幼稚園の子どもたちに日常生活の中でネイティブな発音の英語を教える先生になることをイメージして授業を進めます。「あいさつ」「遊び道具」「楽器」「動物」などを中心に英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話文を聞き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。ActiveEnglish I (幼児教育) では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学習します。

授業計画

授業計画	授業概要	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	Linc Englishを使いこなしましょう。 授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Pre-Bronze練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。	①Pre-Bronzeの復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。
第2回	Lesson 1 子どもたちに英語のあいさつを教えましょう。 ①Pre-Bronzeの復習オーラル問題を実施します。 ②おはようございます。ご飯を頂きます。さようなら。おやすみなさい。子どもたちとの毎日の挨拶をネイティブな発音とスピードで教えられるようになります。	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。
第3回	Lesson 2 子どもたちに、色や時刻の英語表現を教えましょう。 ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②子どもたちが好きな果物やクレヨンを使って色の名称、時計を使って簡単な時刻をネイティブな発音の英語で教えられる力をつけましょう。	①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。
第4回	Lesson 3 あたま、かた、ひざ・・・ボディータッチゲームを英語でやりましょう。 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②あたま、かた、ひざなど体の部分の英語名称をしつかり覚えて、子どもたちにボディータッチゲームをさせられるようになります。	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。
第5回	Lesson 4 おはじき、こま、フラフープ、大縄・・・おもちゃを英語で教えましょう。 ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②おはじき、こま、フラフープ、大縄跳びなど、子どもたちが好きな遊び道具をネイティブな発音の英語で教えられるようになります。	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。
第6回	Lesson 5 子どもたちに、ネイティブの発音で楽器の名称を伝えましょう。 ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ピアノ、ギター、トライアングル、カスタネットなど子供たちが好きな楽器をネイティブな発音の英語で教えられるようになります。	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。
第7回	Lesson 6 春、夏、秋、冬の行事や自然の変化を子どもに英語で教えましょう。 ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②春、夏、秋、冬の様子をネイティブな発音の英語で子どもたちに説明できるようになります。	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronzeのリスニングテストの準備をしておくこと。
第8回	英語の聞く力を試してみましょう①！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronze I のリスニングテストを実施します。 ②Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Lesson 1～6 の復習オーラル問題を復習しておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。
第9回	Lesson 7 いちご、スイカ、カボチャ・・・子どもたちが好きな食べ物の英語を教えましょう。 ①Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施する。 ②いちご、スイカ、カボチャなど、身近な果物や野菜をネイティブな発音とスピードの英語で子供たちに教えられるようになります。	①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。
第10回	Lesson 8 生き物の名称を英語で教えましょう。 ①Lesson 7 の復習オーラル問題を実施します。 ②ネコ、イヌ、パンギンなど・・・子どもたちが好きな生き物をネイティブな発音の英語で教えられようになります。	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。
第11回	Lesson 9 はさみ、かご、絵筆・・・子どもたちが良く使う道具を英語で教えましょう。 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②はさみ、かご、絵筆など・・・子どもたちが毎日のように使う道具をネイティブな発音の英語で教えられようになります。	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。
第12回	Lesson 10 洗顔、手洗い、入浴・・・毎日の生活習慣を英語で教えましょう。 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②洗顔、手洗い、入浴など・・・毎日の生活習慣をネイティブな発音の英語で教えられようになります。	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。

第13回	Lesson 1 1 家族のことを英語で教えましょう。 ①Lesson 1 0 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②お父さん、お母さん、お姉さん、弟など・・・子どもたちが家族のことをネイティブな発音の英語で話せるように教えてあげましょう。	①Lesson 1 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 1 2 を1回以上練習しておくこと。
第14回	Lesson 1 2 晴、曇、雨、雷、雪…お天気の様子を英語で教えましょう。 ①Lesson 1 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②晴、曇、雨、雷、雪など・・・お天気の様子をネイティブな発音の英語で教えられようになります。	①Lesson 1 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 1 ~ 1 2 を十分に復習しておくこと。 ③英語の歌を一つ覚えましょう
第15回	Early Childhood Education Lesson 1 ~ 1 2 の総合復習（テストと振り返り）を実施する。 ①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Early Childhood Education Lesson 1 ~ 1 2 の総合復習（テストと振り返り）をします。 ③英語表現の一つとして歌を紹介します。	

授業形態・授業方法

Linc English Early Childhood Education Semester 1を活用して、幼児に関する基本的なことをネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業の復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
 - ・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②保育園や幼稚園において必要な専門的な英語力を養います。
 - ・グローバル化が進む社会において、保育園や幼稚園に海外の子どもが入園する機会が多くなっています。
 - ・幼児が使う遊び道具や遊びなどをネイティブの発音と速さの短文を聴き取り、
 - ・子どもたちに日常生活の英語表現を教える先生を目指してネイティブの発音を習得します。
- ③前期終了時には、英語の遊び歌やゲームを表現できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力：授業内演習とクイズ 30%
 ライティング力：クラスフォーラム 20%
 一般英語力：Bronze I のテスト 20%
 (Lesson1~12のLisningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストの実施する。)
 幼児教育基礎英語力：Early Childhood Education Semester 1 の総合復習（表現テストを含む）30%

使用教科書

印刷物ではなく、Early Childhood Education Semester 1を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc Englishの中にある、Early Childhood Education Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

幼児教育学科の履修科目です

履修上の注意・備考・メッセージ

- ①英語が苦手と思っている人も楽しく英語を学習して、皆さんのが保育園や幼稚園で子どもたちに簡単な英語を教えられるような先生になるよう、幼児教育学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のため毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。
- ②語学学習は中断すると力がつきません。夏期休暇の課題として、Bronze IIのLesson1~12のLisningを自主学習しておきます。
- ③Bronze IIのLesson1~12のLisningのテストをLinc English Food Science Semester 2の第1回目の授業で実施します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	Active English I (観光、経営会計、GC)				
担当教員名	久保祐美子・山口和夫				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

Active English I (観光、経営会計、GC) では、ビジネスの取引、観光や旅行に関するサービス、文化に関わる業務に携わる時によく使われる英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した単語を使った短い会話文を開き取り、簡単な質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイピングにより返答する練習もします。Active English I (観光、経営会計、GC) では、リスニング、スピーキング、ライティングの3技能を中心に学習します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	Linc Englishを使いこなしましょう。 授業教材のLinc English のアプリケーションを自分のスマートフォンにインストールし、次週から使いこなせるように、Pre-Bronzeを練習します。授業の進め方、試験の課題、成績集計の方法などを説明します。	①Pre-Bronzeの復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。
第2回	Lesson 1 日常の活動を英語で説明しましょう。 ①Pre-Bronzeの復習オーラル問題を実施します。 ②お辞儀の仕方、討論の姿勢、書道など日常の何気ない行動をビジネスマナーとしてネイティブな発音の英語で伝えるようになります。	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。
第3回	Lesson 2 海外の観光旅行でよくある場面を英語で説明しましょう。 ①Global Business Course Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②搭乗手続き、税関検査、手荷物の受取など海外の観光旅行でよくある場面をネイティブな発音の英語で説明しましょう。	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。
第4回	Lesson 3 ビジネスオフィスの日常で使われるものを英語で説明しましょう。 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②銀行、電卓、お札、硬貨、名刺などビジネスオフィスの日常で使われるものをネイティブな発音の英語で説明しましょう。	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。
第5回	Lesson 4 日本の文化を英語で説明しましょう。 ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②正座、十二支、急須など、身近な日本文化をネイティブな発音とスピードの英語で説明しましょう。	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。
第6回	Lesson 5 ホテルや日本旅館の様子を英語で説明しましょう。 ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②ツインルーム、ロビー、フロントなどホテルや日本旅館の様子をネイティブな発音の英語で説明しましょう。	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。
第7回	Lesson 6 ビジネスオフィスで使われる文具や書類を英語で覚えましょう。 ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②スタンプ、パソコン周辺グッズ、貸借対照表などのビジネスオフィスで使われる文具や書類をネイティブな発音の英語で覚えましょう。	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze 1 Lesson1~12のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。
第8回	英語の聞く力を試してみましょう①！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronze 1 のリスニングテストを実施します。 ②Food Science Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Lesson 1 ~ 6 の復習オーラル問題を復習しておくこと。 ②Global Business Course Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。
第9回	Lesson 7 國際協力や代表的な世界遺産の英語表現を覚えましょう。 ①Lesson 1 ~ 6 の復習オーラル問題の実施します。 ②国際協力や代表的な世界遺産をネイティブな発音の英語表現を覚えましょう。	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。
第10回	Lesson 8 観光旅行の必須アイテムや日本代表的な観光スポットを英語で説明しましょう。 ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②列車の時刻表、パンフレットなどの観光旅行に必須のアイテム、大阪城や清水寺などの観光スポットをネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。
第11回	Lesson 9 ビジネスの現場におけるコミュニケーションに関する英語表現を覚えましょう。 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②名刺交換、握手、会釈などビジネスの現場におけるコミュニケーション方法の英語表現をネイティブな発音で説明できるようになります。	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。
第12回	Lesson 10 アニメ、音楽、ダンス、演劇の基本的なことを英語で説明しましょう。 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②絵コンテ、楽器、社交ダンス、舞台道具などの基本用語の英語表現をネイティブな発音で説明できるようになります。	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。

第13回	Lesson 11 色々な観光旅行のスポットを英語で説明しましょう。 ①Lesson 9の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②絵画鑑賞、トラッキング、着物の着付け体験など観光旅行のスポットをネイティブな発音の英語で説明できるようになります。	①Lesson 11 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 1 2を1回以上練習しておくこと。
第14回	Lesson 12 銀行で口座をつくりましょう。 ①Lesson 11の振り返りテストと復習オーラル問題の実施します。 ②銀行の通帳、印鑑など銀行で必要な単語を覚えて、基本的な会話ができるようになります。	①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 1 ~ 1 2を十分に復習しておくこと。 ③好きな観光スポットや文化の一つを英語で紹介する準備をしましょう。
第15回	Global Business Course Lesson 1 ~ 1 2 の総合復習（テストと振り返り） ①Lesson 1 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Global Business Course Lesson 1 ~ 1 2の総合復習（テストと振り返り）をします。 ③好きな観光スポットや文化の一つを英語で紹介します。	

授業形態・授業方法

Linc English Global Business Course Semester 1 を活用して、オフィスライフ、観光業界、文化に関するコミュニケーションに関わる基礎的なことをネイティブの発音と速さの英語をピアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業には復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
 - ・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②グローバルなコミュニケーションに関わる専門的な英語力を養います。
 - ・ますますグローバル化する観光業界において必要な英会話力を習得します。
 - ・グローバル化が進む一般企業のオフィスでの必要な英会話力を習得します。
- ③前期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語で好きな観光スポットや文化について何か一つ紹介できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力：授業内演習とクイズ 30%
 ライティング力：クラスフォーラム 20%
 一般英語力：Bronze 1 のテスト 20%
 (Lesson1～12のListeningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストの実施する。)
 Business英語基礎力：Global Business Course Semester 1 の総合復習（表現テストを含む） 30%

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Global Business Course Semester 1を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Global Business Course Semester 1 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

観光学科、経営会計学科、グローバルコミュニケーション学科の履修科目です

履修上の注意・備考・メッセージ

- ①英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、観光学科、経営会計、グローバルコミュニケーション学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。
- ②語学学習は中断すると力がつきません。夏期休暇の課題として、Bronze II のLesson1～12のListeningを自主学習しておきます。
- ③Bronze II のLesson1～12のListeningのテストを Active English II （観光、経営会計、GC）の第1回目の授業で実施します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	ActiveEnglish II (調理・製菓、栄養)				
担当教員名	J・ガーヴィー・J・スミス・西紋茂樹・薮井恵美子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

Active English II (調理・製菓、栄養) では、調理師、パティシエ、フードコーディネーター、栄養士として食作りやフードサービスの職に就く皆さんのが、食材を生かした調理方法を英語で説明できるようになることを目標としています。日本料理、フランス料理、イタリア料理のコース料理の基本調理方法、お菓子作りの基本操作、フードサービスの基本動作に関する動画を見ながら、英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表言を使った会話文を聞き取り、または、文章を読み取り、質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイミングにより返答する練習もします。Active English II (調理・製菓、栄養) では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を中心学習します。

授業計画

第1回

英語の聞く力を試してみましょう ②!

夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。

学習課題 (授業時間外の学習)

- ①Bronze II のリスニングを復習しておく
- ②Food Science Semester 2 の Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。

第2回

Lesson 1

Lesson 1 の教材は、作成中です

- ①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Semester 2 の Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。

第3回

Lesson 2

- ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 2 の教材は、作成中です

- ①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。

第4回

Lesson 3

- ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 3 の教材は、作成中です

- ①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。

第5回

Lesson 4

- ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 4 の教材は、作成中です

- ①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。

第6回

Lesson 5

- ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 5 の教材は、作成中です

- ①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。

第7回

Lesson 6

- ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 6 の教材は、作成中です

- ①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Bronze III Lesson 1~12 のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。

第8回

英語の聞く力を試してみましょう ③!

- ①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。
- ②Food Science Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。

- ①Food Science Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。

第9回

Lesson 7

- ①Lesson 1 ~ 6 の復習オーラル問題を実施する。
- ②Lesson 7 の教材は、作成中です

- ①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。

第10回

Lesson 8

- ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
- ②Lesson 7 の教材は、作成中です

- ①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。

第11回

Lesson 9

- ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
- ②Lesson 8 の教材は、作成中です

- ①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。

第12回

Lesson 10

- ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
- ②Lesson 9 の教材は、作成中です

- ①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。

第13回

Lesson 11

- ①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
- ②Lesson 10 教材は、作成中です

- ①Lesson 11 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 12 を1回以上練習しておくこと。

第14回

Lesson 12

- ①Lesson 11 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
- ②Lesson 11 教材は、作成中です

- ①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。
- ②Food Science Lesson 1 ~ 12 を繰り返し、復習しておくこと。
- ③自分が作ってみたい（食べたい）コース料理の簡単なレシピを紹介する準備をしましょう。

第15回

コース料理紹介と総合復習（テストと振り返り）

- ①Lesson 1~2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。
 ②Food Science Lesson 1~12 の総合復習（テストと振り返り）を実施します。
 ③自分が作ってみたい（食べたい）コース料理の簡単なレシピを英語で紹介します。

授業形態・授業方法

Linc English Food Science Semester 2 を活用して、調理方法やサービスの関する基本的なことをネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業の復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
 ・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
 ②食物に関する専門的な英語力を養います。
 ・栄養、食品、調理に携わる職業もグローバル化が進む社会において必要な英会話力を習得します。
 ・良く使う食材や調理器具、基本的な調理操作をネイティブの発音と速さの短文を聞き取り、ネイティブに近い発音力を身につけます。
 ③後期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語でコース料理の説明を紹介できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力：授業内演習とクイズ 30%
 ライティング力：クラスフォーラム 20%
 一般英語力：Bronze II のテスト 10%
 (Lesson1~12のListeningを自主学習し、第1回目の授業で課題テストを実施する。)
 Bronze III のテスト 10%
 (Lesson1~12のListeningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストを実施する。)
 Food Science 基礎英語力：Food Science Semester 2 の総合復習テスト（スピーチテストを含む）30%

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Food Science Semester 2 を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Food Science Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

製菓・調理学科および栄養学科の履修科目です。

履修上の注意・備考・メッセージ

英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、調理・製菓学科および栄養学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	ActiveEnglish II (生活デザイン)				
担当教員名	J・ガーヴィー・平敷亮子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

ActiveEnglish II (生活デザイン) では、ファッション業界の職に就く皆さんが、ファッションアイテム、デザイン、縫製の特徴、生地の性質や特徴など、ファッションに関することをスムーズに英語で表現できるように、英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話文を聞き取り、または、文章を読み取り、質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタピングにより返答する練習もします。ActiveEnglish II (生活デザイン) では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を中心で学習します。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		①	②	③	④
第1回	英語の聞く力を試してみましょう②！ 夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。	①Bronze II のリスニングを復習しておくこと。 ②Life Design Course Semester 2 の Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。			
第2回	Lesson 1 Lesson 1 の教材は、作成中です	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。			
第3回	Lesson 2 ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 の教材は、作成中です	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。			
第4回	Lesson 3 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 の教材は、作成中です	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 4 を1回以上練習しておくこと			
第5回	Lesson 4 ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 の教材は、作成中です	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 5 を1回以上練習しておくこと			
第6回	Lesson 5 ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 の教材は、作成中です	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 6 を1回以上練習しておくこと			
第7回	Lesson 6 ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 教材は、作成中です	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze III Lesson 1～12 のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。			
第8回	英語の聞く力を試してみましょう③！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。 ②Life Design Course Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Lesson 1～6 の復習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。			
第9回	Lesson 7 ①Lesson 1～6 の復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 教材は、作成中です	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 8 を1回以上練習しておくこと			
第10回	Lesson 8 ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8 教材は、作成中です	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 9 を1回以上練習しておくこと			
第11回	Lesson 9 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9 教材は、作成中です	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 10 を1回以上練習しておくこと			
第12回	Lesson 10 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10 教材は、作成中です	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 11 を1回以上練習しておくこと			
第13回	Lesson 11 ①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 11 教材は、作成中です	①Lesson 11 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 12 を1回以上練習しておくこと			
第14回	Lesson 12 ①Lesson 11 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 12 教材は、作成中です	①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Life Design Course Lesson 1～12 を繰り返し、復習しておくこと。 ③トータルコーディネート紹介の準備をしましょう。			
第15回	トータルコーディネート紹介と総合復習（テストと振り返り） ①Lesson 12 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Food Science Lesson 1～12 の総合復習（テストと振り返り）を実施します。 ③好きなファッショントータルコーディネートを英語で紹介します。				

授業形態・授業方法

Linc English Life Design Course Semester 2 を活用して、ファッショナアイテムや縫製や生地の特徴の基本的な英語表現をネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業には復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
 - ・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②ファッションに関わる専門的な英語力を養います。
 - ・グローバル化が進むファッショナ業界で必要な基本的な英会話力を習得します。
 - ・良く使うファッショナアイテムをネイティブの発音と速さの短文を聴き取り、ネイティブに近い発音力を身につけます。
- ③後期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語でトータルコーディネートを紹介できるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

- | | |
|-----------------|---|
| 一般英語力 | : Bronze II のテスト 10% |
| | (Lesson1～12のLisningを自主学習し、第1回目の授業で課題テストを実施する。) |
| Bronze III のテスト | 10% |
| | (Lesson1～12のLisningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストを実施する。) |
| ファッショナ基礎英語力 | : Life Design Course Semester 2 の総合復習テスト (スピーチテストを含む) 30% |

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Life Design Course Semester 2 を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Life Design Course Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、生活デザイン学科の先生方が考案された教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。

履修上の注意・備考・メッセージ

生活デザイン学科の履修科目です

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	ActiveEnglish II (幼児教育)				
担当教員名	西紋茂樹・薮井恵美子・久保祐美子・平敷亮子・J・ガーヴィー・山口和夫				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

ActiveEnglish II (幼児教育) では、保育園や幼稚園で外国の子供たちの日常生活をケアできるようにネイティブな発音の英会話ができる先生になることをイメージして授業を進めます。「痛みを訴える子ども」「ケンカした子どもの気持ち」「たのしく遊ぶ子ども」など、子どもの表情や感情を理解できるように、様々な英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話を聞き取り、また、文章を読み取り、質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイミングにより返答する練習もします。ActiveEnglishII (幼児教育) では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を中心で学習します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	英語の聞く力を試してみましょう ②！	①Bronze II のリスニングを復習しておく。 ②Early Childhood Education Semester 2 の Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。			
第2回	Lesson 1 Lesson 1 の教材は、作成中です	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。			
第3回	Lesson 2 ①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 の教材は、作成中です	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。			
第4回	Lesson 3 ①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 の教材は、作成中です	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 4 を1回以上練習しておくこと。			
第5回	Lesson 4 ①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 の教材は、作成中です	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 5 を1回以上練習しておくこと。			
第6回	Lesson 5 ①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 の教材は、作成中です	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 6 を1回以上練習しておくこと。			
第7回	Lesson 6 ①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 の教材は、作成中です	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze III Lesson 1~12 のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと。			
第8回	英語の聞く力を試してみましょう ③！ ①自学自習の成果を確かめるためにBronzeIIIのリスニングテストを実施します。 ②Early Childhood Education Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。	①Lesson 1~6 を復習しておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。			
第9回	Lesson 7 ①Lesson 1~6 の復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 の教材は、作成中です	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 8 を1回以上練習しておくこと。			
第10回	Lesson 8 ①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8 の教材は、作成中です	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 9 を1回以上練習しておくこと。			
第11回	Lesson 9 ①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9 の教材は、作成中です	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 10 を1回以上練習しておくこと。			
第12回	Lesson 10 ①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10 の教材は、作成中です	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 11 を1回以上練習しておくこと。			
第13回	Lesson 11 ①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 11 の教材は、作成中です	①Lesson 11 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 12 を1回以上練習しておくこと。			
第14回	Lesson 12 ①Lesson 11 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 12 の教材は、作成中です	①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Early Childhood Education Lesson 11~12 を繰り返し、復習しておくこと。 ③絵本の読み聞かせの準備をしましょう。			
第15回	絵本の読み聞かせと総合復習（テストと振り返り） ①Lesson 1~2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Early Childhood Education Lesson 1~12 の総合復習（テストと振り返り）を実施します。 ③好きな絵本を英語で読み聞かせをします。				

授業形態・授業方法

Linc English Early Childhood Education Semester 1 を活用して、幼児のケアに関する基礎的なことをネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業の復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②保育園や幼稚園で子どもに関わる専門的な英語力を養います。
・保育の現場にもグローバル化が進む社会において必要な英会話力を習得します。
- ③後期期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語で好きな絵本の読み聞かせができるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

- | | |
|-----------|---|
| ヒアリング力 | : 授業内演習とクイズ 30% |
| ライティング力 | : クラスフォーラム 20% |
| 一般英語力 | : Bronze II のテスト 10% |
| | (Lesson1~12のListeningを自主学習し、第1回目の授業で課題テストを実施する。) |
| | Bronze III のテスト 10% |
| | (Lesson1~12のListeningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストを実施する。) |
| 幼児教育基礎英語力 | : Early Childhood Education Semester 2の総合復習(スピーチテストを含む) 30% |

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Early Childhood Education Semester 2 を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Early Childhood Education Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

幼児教育学科の履修科目です

履修上の注意・備考・メッセージ

英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、幼児教育学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください

授業科目名	ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC)				
担当教員名	久保祐美子・山口和夫				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC) では、卒業後に観光、旅行、金融、サービス業に就く皆さんが、日常の英会話がスムーズにできるよう、英語表現をネイティブの発音とスピードで聞き取るように練習します。また、習得した表現を使った会話文を聞き取り、または、文章を読み取り、質問に対してネイティブな発音とスピードで回答できるまでリスニングと発音を練習します。クラスフォーラムでは、簡単な質問に対して、短い文章をタイミングにより返答する練習もします。ActiveEnglish II (観光、経営会計、GC) では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を中心学習します。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		①	②	③	④
第1回	英語の聞く力を試してみましょう ②	①Bronze II のリスニングを復習しておく。 ②Global Business Course Semester 2 の Lesson 1 を1回以上練習しておくこと。			
夏期休暇中の自学自習の成果を確かめるためにBronze II のリスニングテストを実施し、振り返りをします。					
第2回	Lesson 1	①Lesson 1 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 2 を1回以上練習しておくこと。			
Lesson 1 教材は、作成中です					
第3回	Lesson 2	①Lesson 2 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 3 を1回以上練習しておくこと。			
①Lesson 1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 2 の教材は、作成中です					
第4回	Lesson 3	①Lesson 3 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 4 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 2 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 3 の教材は、作成中です					
第5回	Lesson 4	①Lesson 4 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 5 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 3 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 4 の教材は、作成中です					
第6回	Lesson 5	①Lesson 5 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 6 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 4 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 5 の教材は、作成中です					
第7回	Lesson 6	①Lesson 6 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Bronze III Lesson 1~12 のリスニングテストに備えて繰り返し練習しておくこと			
①Lesson 5 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 6 の教材は、作成中です					
第8回	英語の聞く力を試してみましょう ③！	①Lesson 1~6 の復習オーラル問題を復習しておく。 ②Global Business Course Lesson 7 を1回以上練習しておくこと。			
①自学自習の成果を確かめるためにBronze III のリスニングテストを実施します。 ②Global Business Course Lesson 6 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。					
第9回	Lesson 7	①Lesson 7 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 8 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 1~6 の復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 7 の教材は、作成中です					
第10回	Lesson 8	①Lesson 8 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 9 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 7 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 8 の教材は、作成中です					
第11回	Lesson 9	①Lesson 9 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 10 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 8 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 9 の教材は、作成中です					
第12回	Lesson 10	①Lesson 10 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 11 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 9 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 10 の教材は、作成中です					
第13回	Lesson 11	①Lesson 11 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 12 を1回以上練習しておくこと			
①Lesson 10 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 11 の教材は、作成中です					
第14回	Lesson 12	①Lesson 12 の復習オーラル問題の回答を考え、発音練習をしておくこと。 ②Global Business Course Lesson 1~1 を繰り返し、復習しておくこと。 ③ビジネス企画のプレゼンテーションの準備をしましょう。			
①Lesson 11 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施する。 ②Lesson 12 の教材は、作成中です					
第15回	ビジネス企画プレゼンテーションと総合復習（テストと振り返り）	①Lesson 1~1 の振り返りテストと復習オーラル問題を実施します。 ②Global Business Course Lesson 1~12 の総合復習（テストと振り返り）を実施します。 ③観光やビジネスの企画案を英語で紹介します。			

授業形態・授業方法

Linc English Global Business Course Semester 2 を活用して、ビジネス、観光、旅行、金融、サービス業に関する英語表現をネイティブの発音と速さで英語をヒアリング、スピーキングできるまで各自で繰り返し練習します。毎回の授業には復習と予習の課題があり、授業以外の学習時間数も担当教員が管理しますので、毎日30分以上はLinc Englishで英語学習します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格を養います。
 - ・グローバル化が進む社会で基本的に求められる英会話力を身につけます。
- ②観光、旅行、金融、サービス業界に関わる専門的な英語力を養います。
 - ・観光、旅行、金融、サービス業に携わる職業もグローバル化が進む社会において必要な英会話力を習得します。
- ③後期終了時には、ネイティブな発音と速さの英語でオリジナルのビジネス企画をプレゼンテーションできるようにします。

成績評価の観点と方法・尺度

ヒアリング力	: 授業内演習とクイズ 30%
ライティング力	: クラスフォーラム 20%
一般英語力	: Bronze II のテスト 10%
	(Lesson1~12のListeningを自主学習し、第1回目の授業で課題テストを実施する。)
	Bronze III のテスト 10%
	(Lesson1~12のListeningを自主学習し、第8回目の授業で中間テストを実施する。)
ビジネス基礎英語力	: Global Business Course Semester 2の総合復習(スピーチテストを含む) 30%

使用教科書

印刷物ではなく、Linc English Global Business Course Semester 2 を主な教材として使用します。

参考文献等

参考文献を購入する必要はありません。Linc English の中にある、Global Business Course Semester 1 & 2 以外の教材にどんどんチャレンジしましょう。

履修条件

観光学科、経営会計学科、グローバルコミュニケーション学科の履修科目です。

履修上の注意・備考・メッセージ

英語が苦手と思っている人も楽しく英語が学習できるように、観光学科、経営会計学科、グローバルコミュニケーション学科の先生方が考えられた教材です。英語を担当する教員も皆さんと一緒に勉強していくような教材です。授業の予習と復習のために毎日1時間程度（少なくとも30分以上）はLinc Englishにアクセスしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に非常勤講師控室に来てください。

授業科目名	英語会話 1				
担当教員名	J・ガーヴィー				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

This course will focus on the basics of English. What you need when traveling abroad. This will be through games; quizzes and listening activities.

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
1	This class rules General introduction to the class. Class requirements, handouts, students' questions regarding the course.	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
2	Classroom English How to ask for help from the teacher or from other students in English	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson.
3	Basic Self Introductions Students learn how to talk about themselves; name , age , hobby etc	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson.
4	Asking and Answering Introduction questions Asking other students about their life , likes dislikes etc	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
5	Family Students talk about their family and relationships	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
6	Names and Addresses How to ask and check ; Names and telephone numbers	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
7	Review Quiz There will be a short review will of the material covered in the class	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
8	Numbers Compare Japan and England using numbers	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
9	Food How to talk about your favorite food and make and read a menu in English	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson.
10	Money How to talk about and use money from around the world. The Dollar; Pound, Euros etc.	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
11	Making a Reservation for a Restaurant How to order in a restaurant and how to make a reservation	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson.
12	Likes and dislikes Students talk about things they like and don't like	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
13	Directions Students give directions to their favorite restaurants and sightseeing spots	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
14	Review Quiz and Reflection There will be a final review quiz, these questions are the same type as in the final test .	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
15	Final Test and Reflection This final test will be of 30 Interview questions (It is not a paper test so you will have to listen and then answer the questions) THIS TEST IS 100% OF THE GRADE FOR THE CLASS...YOU MUST ANSWER 60% CORRECTLY TO PASS THIS COURSE	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .

授業形態・授業方法

There will a variety of speaking , listening and writing activities in the class.

養うべき力と到達目標

The goals of this class are to improve students' speaking and listening ability .

成績評価の観点と方法・尺度

There will be a short interview with the teacher (30 questions) These questions will be about the student, the student's family , likes and dislikes .

NOTE THIS INTERVIEW TEST IS 100% OF THE GRADE FOR THIS COURSE . 60% IS A PASS, BELOW 60% IS A FAIL .

使用教科書

There is no textbook for this class. Students should bring a new note book and be prepared to make maps, menus and other things for the class.

参考文献等

Please buy a 100 yen notebook

履修条件

Let's try to use English in class

履修上の注意・備考・メッセージ

This is an active communication class so students are expected to talk and listen to their partners in the class.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

Quest can be written down (in English and Japanese) and put into my post box in the office or given to Kyomuka.

授業科目名	海外語学演習（韓国語）				
担当教員名	金 志善				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

この授業は、海外語学留学、短期交換留学のため韓国の大学に向かう学生のための授業です。留学生活をスムーズに開始し、現地に適応して有意義な留学生活を過ごすことができるよう、事前に学んでもらう授業です。

留学生活での不安がなくなるように、受講生個々の意見を聞きながら積極的にサポートしていきます。本科目は語学留学（研修）を含めて2単位が認定されるもので、事前に4回（2時間を2日）、「第5回～14回 海外語学留学（21日間）」、事後に1回の授業からなります。

授業計画

	韓国語の基礎的な語学力の確認・会話文例を学ぶ（1） プリントにそって会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。	学習課題（授業時間外の学習） 学んだことの復習と、不明なところをチェックする。
第2回	韓国語の会話文例を学ぶ（2） プリントにそって、会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。	学んだことの復習と、不明なところをチェックする。
第3回	韓国語の会話文例を学ぶ（3） プリントにそって、会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。	学んだことの復習と、不明なところをチェックする。
第4回	韓国的生活習慣・社会・文化について理解する。 韓国的生活習慣と文化の特徴について学び理解する。質問、疑問点を積極的に出し、日本とどのように違うのか、異なるのかを考えながら、異文化理解を図ります。	自己紹介を暗記する。
第5回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第6回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第7回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第8回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第9回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第10回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第11回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第12回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第13回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第14回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだごとを復習する。
第15回	語学留学で習得した成果をまとめる。 語学留学を終えたあと、留学生活で学んだこと、得たことを、口頭で報告発表してもらいう。さまざまな体験のなかから、まず語学面において習得した成果について、また実生活を通して感じたこと、体験したこと、学んだことについて、異文化理解の観点からまとめてもらいます。この発表内容を、まとめてレポートを作成し、提出することになります。	作成したレポートをまとめる。

授業形態・授業方法

配布するプリントにそって授業を進めます。マンツーマンの語学指導方式を取り入れて、学生からの質問・疑問点・問題点を積極的に聞き、一人一人の韓国語会話力をより効果的に高めるようにします。

養うべき力と到達目標

この授業では、大きく2つの目標を置くが、まず韓国語の「日常会話の力」をつけることである。韓国語の学習経験がない受講生の場合でも、留学生活をする上で困ることがないように、やさしく簡単な会話文から、必要最大限の会話文例を多く取りあげて練習し、暗誦できるようになることを到達目標とする。

もう1つの目標は、異文化理解の知識を養い、判断力・思考力を高めることである。韓国の文化の特質について幅広い理解をあらかじめ深めることが目標である。

成績評価の観点と方法・尺度

「読み・書き・聞きとり・会話」の4レベルをはかる簡単なテストと、学生の授業参加度に基づき、総合評価をする。

- ・小テスト（3回）： 30点
- ・授業内の課題提出およびクイズ： 50点
- ・プレゼン： 20点

使用教科書

特に指定していない。毎回プリントを配布する。

参考文献等

初回授業で指示する。

履修条件

韓国・済州観光大学短期語学研修者を対象にする科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：水曜4限 金研究室

Eメール：kim-j@osaka-seikei.ac.jp

学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業科目名	基礎韓国語 A				
担当教員名	金 素辰				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかりと学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができる目標としています。文字である「ハングル」の習得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近く感じ、より楽しく身につけることを目指します。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	確認
第1回	ハングルの紹介、ハングル 第1課	・習った基本母音と子音を発音しながら書き、覚える(プリント) ・挨拶表現の復習	①ハングルの紹介—起源、構造の理解 ②基本母音6個、基本子音5個 ③挨拶表現		
第2回	ハングル 第2課	・習った母音と子音、バッヂムを発音しながら書き、覚える(プリント) ・自己紹介表現の復習	①半母音 [y] と結合した母音4個、基本子音4個、バッヂム9個 ②自己紹介表現		
第3回	ハングル 第3課	・習った母音と激音、バッヂムを発音しながら書き、覚える(プリント) ・名前が見ずに書けるようにする。	①母音4個、激音5個、バッヂム5個 ②自分と友達の名前をハングルで書き、読む。		
第4回	ハングル 第4課（1）	・習ったバッヂムを発音しながら書き、覚える(プリント) ・数字の復習	①バッヂム2個、二重バッヂム6個 ②数字を覚え、ものを数える。		
第5回	ハングル 第4課（2）	・習ったバッヂムを発音しながら書き、覚える(プリント) ・数字の復習	①バッヂム2個、二重バッヂム6個 ②数字を覚え、ものを数える。		
第6回	ハングルの総復習	・習ったハングルが完全に自分のものになるよう繰り返して覚える(ハングル表のプリント)。	①母音21個、子音19個 ②韓国語と日本語の比較		
第7回	第1章 『挨拶』—こんにちは。私はポールです。	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—語尾「～です」、疑問詞「何」「どの」、主題助詞「は」、国名と国籍 ②対話—相手の名前と国籍を尋ね、答える		
第8回	第2章 『職業』—いいえ、会社員です。	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—はい/いいえ、主語の省略、イントネーションで区別、質問と答え、言語名 ②対話—相手の職業推測する、相手の職業を尋ね、答える		
第9回	第3章 『もの』—これは何ですか。	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—この/その/あの、疑問詞「どんな」「誰」、主格助詞「ーが」、所有格 ②対話—ものの名前を尋ね、答える、ものの所有者について尋ね、答える		
第10回	第4章 『場所』—トイレはどこにありますか。【位置を尋ねる】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—いる、ある(存在)、助詞「ーに」 ②対話—ある場所の位置を尋ね、答える		
第11回	第4章 『場所』—トイレはどこにありますか。【道を尋ねる】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—疑問詞「どこ」、位置表現「前/後・上/下…」 ②対話—電話で家に帰る方法について尋ね、答える		
第12回	第5章 『関係』—韓国の友達がいますか。【友達の紹介】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—いる、いない/ある・ない(所有)、固有語数詞 ②対話—友達について話す		
第13回	第5章 『関係』—韓国の友達がいますか。【家族の紹介】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—単位名詞、疑問詞「いくら、何」(+単位名詞) ②対話—家族や友達について話す		
第14回	第6章 『電話番号』—電話番号は何番ですか。【電話番号を尋ねる】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習	①文法—漢字語数詞、電話番号、疑問詞「何番」 ②対話—電話番号を尋ね、答える		
第15回	第6章 『電話番号』—電話番号は何番ですか。【電話番号を確認する】 【前期学習のまとめ】	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) ・対話の復習　　・テストの準備	①文法—「ーではありません」、2桁以上の漢字語数詞 ②対話—電話番号を尋ね、確認する　　③前期に学習した語彙、文法、文型などを確認する		

授業形態・授業方法

教科書の順番に沿って、正確に理解し身につけるよう反復しながら進めていきます。最初は韓国語の文字である「ハングル」の習得に重点をおき、次第にテキストに沿って発音の練習、単語、文型、本文を学習します。なお個人やペーパー活動を通じて習った表現をスピーチング練習し、学習効果を高めます。更に映像などの資料を通じて学習内容を確認しながらリスニング練習し、レベルアップします。内容を補充するプリントを毎回配布するので、各自保管します。

養うべき力と到達目標

1. 専門的な力
 - (1) 専門知識
韓国語に関する専門知識：文字・発音・文法の習得し、言語と文化的背景への理解ができる。
 - (2) 専門技術
韓国語に関する実践応用力：韓国語に関する専門知識を基本に表現技術(4機能：話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
2. 幅広い教養・品格
韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、自分の世界を広げるグローバル的な価値観ができる。

成績評価の観点と方法・尺度

1. 観点：韓国語の文字や文型などの知識の定着度、それを用いて実際の会話ができる応用力の定着度
2. 尺度：正確に理解しているか、身につけているか、応用して実践できるかどうかで判断する。
3. 方法：以下の項目の合計100点満点で評価する。
 - (1) 授業内の小テスト—40%
二つの単元の区切りに学習内容の確認テストを一回ずつ行う。各回10点×4回とする。
 - (2) 授業内の課題—10%
各単元ごとに復習内容の課題の提出を行う。
 - (3) 定期試験—50%
本試験期間中に全期間の内容を範囲として試験を行う。

使用教科書

書名：『どんどん身につく韓国語入門』
著者名：オ・スンウン
出版社名：コスマビア
その他：音声CD付き

参考文献等

※標準韓国語文法辞典(韓国国立国語院、2012)

履修条件

※ 1回生観光と2回生同時開講の共通科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

※ 入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することを心かける。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後に答えるが、メールでも対応する。
アドレス : haianksj@naver.com

授業科目名	基礎韓国語 B				
担当教員名	金 素辰				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身に着けていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展していきます。

授業計画

第1回	第7章 『誕生日』一誕生日は何日ですか。 ①文法ー日付(年月日)、疑問詞「いつ、何日」、曜日、時間を表す助詞「に」 ②対話ー誕生日パーティーに招待する、誕生日を祝う <誕生日は何日ですか。><いつ時間がありますか。>	学習課題(授業時間外の学習)			
		<ul style="list-style-type: none"> 習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) 対話の復習 			
第2回	第8章 『日常生活』一普通朝8時30分に会社に行きます。 ①文法ー時間、疑問詞「何時、何時に」、場所を表す助詞「-に」、助詞「から、まで」 ②対話ー職場生活、学校生活について尋ね、答える <今何時ですか。><何時に学校に行きますか。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第3回	第9章 『交通』一地下鉄で家に行きます。[時間を探ねる] ①文法ー時間の長さを表す表現、助詞「-から、-まで」 ②対話ー家までかかる時間を尋ね、答える <～から～まで時間がどれくらいかかりますか。><～時間位かかります。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第4回	第9章 『交通』一地下鉄で家に行きます。[時間と交通手段を探ねる] ①文法ー疑問詞「どう、いくら」、手段や方法を表す助詞「ーで」 ②対話ー一家から学校までかかる時間と交通手段について話す <どうやって行きますか。><地下鉄で行きます。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第5回	第10章 『ショッピング』一全部でいくらですか。 ①文法ー価格、疑問詞「いくら」、(名詞)ください、助詞「と」 ②対話ー食べ物を注文する、電車の切符を買う <いくらですか。><0000ウォンです。><ください。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第6回	第11章 『1日の日課』一どこで夕食を食べますか。 ①文法ー「します」動詞、場所を表す助詞「-で」、頻度、助詞「ーと」共同格 ②対話ー1日の日課について話す、あることの頻度について話す <どこで働きますか。><～で働きます。><一週間に一回します。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第7回	第12章 『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。[趣味を尋ねる] ①文法ー「ます」動詞の現在形、目的格助詞「-を」 ②対話ー趣味について尋ね、答える(韓国映画) <～が好きですか。><はい、本当に好きです。>	・動詞の現在形を書きながら練習し身に着ける(プリント)	・対話の復習		
第8回	第12章 『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。[趣味を勧誘する] ①文法ー勧誘形、「(名詞) ～はどうですか。」 ②対話ー趣味について尋ね、答える(韓国料理) <～をします。><～はどうですか。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第9回	第13章 『健康』一頭が痛いです。[体調を尋ねる] ①文法ー「です」形容詞の現在形 ②対話ー友達の様子を尋ね、答える。 <寒いですか。><いいえ、寒くありません。>	・形容詞の現在形を書きながら練習し身に着ける(プリント)	・対話の復習		
第10回	第13章 『健康』一頭が痛いです。[病気の症状を尋ねる] ①文法ー否定語、助詞「も」 ②対話ー風邪の症状について話す。 <どこが痛いですか。><～も～です。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第11回	第14章 『旅行』一先週、齊州島に旅行に行きました。[旅行について尋ねる] ①文法ー「ました」動詞と形容詞の過去形 ②対話ー旅行について尋ね、答える。 <～ました。><2年間暮らしました。>	・動詞の過去形を書きながら練習し身に着ける(プリント)	・対話の復習		
第12回	第14章 『旅行』一先週、齊州島に旅行に行きました。[旅行について話す] ①文法ー「一間」、最上級「一番」、比較級「もっと」 ②対話ー見物したものについて話す。 <何が一番ですか。><～が一番～です。><より～です。>	・習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント)	・対話の復習		
第13回	第15章 『計画』一明日、韓国料理を作ります。[計画を説明する] ①文法ー「-するつもりです」動詞の未来形 ②対話ー計画について話す。 <何するつもりですか。><～するつもりです。><～でしょう。>	・動詞の未来形を書きながら練習し身に着ける(プリント)	・対話の復習		

第14回	第15章 『計画』一明日、韓国料理を作ります。[出張を説明する] ①文法－否定語 ②対話－出張について話す。 <すみません。～できません。><～しません。>	• 習った語彙、文法や文型を練習し、覚える(プリント) • 対話の復習
第15回	後期学習のまとめ ①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②一年間の韓国語授業についての感想 ③韓国の文化に触れあう	• 一年間習った語彙、文法や文型をまとめて復習する(プリント) • テストの準備

授業形態・授業方法

教科書の順番に沿って、正確に理解し身につけるよう反復しながら進めていきます。後期は具体的な実際の生活での基本文型や表現の習得に重点をおき、テキストに沿って発音の練習、単語、文型、本文を学習します。なお個人やペア、グループ活動を通じて習った表現をスピーキング練習し、学習効果を高めます。更に映像などの資料を通じて学習内容を確認しながらリスニング練習し、レベルアップします。内容を補充するプリントを毎回配布するので、各自保管します。

養うべき力と到達目標

- 専門的な力
 - 専門知識
韓国語に関する専門知識：文字・発音・文法の習得し、言語と文化的背景への理解ができる。
 - 専門技術
韓国語に関する実践応用力：韓国語に関する専門知識を基本に表現技術(4機能：話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。
- 幅広い教養・品格
韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、自分の世界を広げるグローバル的な価値観ができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 観点：韓国語の文字や文型などの知識の定着度、それを用いて実際の会話ができる応用力の定着度
- 尺度：正確に理解しているか、身につけているか、応用して実践できるかどうかで判断する。
- 方法：以下の項目の合計100点満点で評価する。
 - 授業内の小テスト—40%
二つの単元の区切りに学習内容の確認テストを一回ずつ行う。各回10点×4回とする。
 - 授業内の課題—10%
各単元ごとに復習内容の課題の提出を行う。
 - 定期試験—50%
本試験期間中に全期間の内容を範囲として試験を行う。

使用教科書

書名：『どんどん身につく韓国語入門』
 著者名：オ・スンウン
 出版社名：コスマビア
 その他：音声CD付き

参考文献等

※標準韓国語文法辞典(韓国国立国語院、2012)

履修条件

※ 1回生観光と2回生同時開講の共通科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

※ 入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することを心かける。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後に答えるが、メールでも対応する。
 アドレス：haianks.j@naver.com

授業科目名	基礎中国語A				
担当教員名	陳 昭宜				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

初級中国語の授業である。まず、中国語のローマ字とその起伏のあるアクセントが正確に読めるように、聞く、話す練習を繰り返し行う。それから、無理なく学習できる範囲の文法を学んでいく。聞いて、読んで、訳して、書く練習を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に出会う場面を想定し、中国語の基本的表現を3コマのイラストで覚えていく。目、口、耳を使って、基本的な表現を繰り返し練習することによって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなどの表現力を身につけることを目指す。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	発音（1） 基本母音 中国語とはどんな言葉？ 基本的な挨拶表現	母音の発音復習すること。 学んだ挨拶表現を覚える。
第2回	発音（2） 複合母音 基本的な挨拶表現	複合母音の復習すること。 学んだ挨拶表現を覚える。
第3回	発音（3） 子音、音節表 基本的な挨拶表現	子音・单母音の復習すること。 学んだ挨拶表現を覚える。
第4回	第1課 中国語で自己紹介する 人称代名詞、名詞の文	子音・单母音の発音を復習すること。 中国語で自己紹介の練習をする。
第5回	復習、練習 子音・母音の発音を復習する。	第1課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第6回	第2課 「これは何ですか」 指示代名詞、疑問文、否定文	第2課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第7回	第1課、第2課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第2課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第8回	第3課 「これはいかがですか」 指示代名詞、形容詞の文、疑問詞	第3課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第9回	第3課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第3課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第10回	第4課 「買い物」 数詞、助詞、数量を表わす語、人民元の教え方	第4課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第11回	第4課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第4課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第12回	第5課 「どこにありますか」 場所指示代名詞、存在動詞、助動詞	第5課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第13回	第5課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第5課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第14回	第6課 「何がありますか」 所在動詞、助動詞	第6課の本文を繰り返し発音するように。 単語を復習して、覚えること。
第15回	総合練習 第1課から第6課までの練習、復習を行う。	第1課から第6課まで習ったものを覚える。

授業形態・授業方法

中国語の発音に重点を置き、徐々に基本文法を学んでいく。文章を繰り返し朗読し、二人一組で簡単な会話練習をして、発表する。黒板に出て問題の答えを書いてもらう。時々ビデオなどで中国の生活文化を紹介する。

養うべき力と到達目標

1. 中国語の基礎を身に付けることを目指す。
 - ①中国語ローマ字と漢字の発音を覚える。
 - ②中国語の初級文法を習得する。
 - ③中国語で自己紹介、買い物、料理を注文するなどの簡単な日常会話ができるように、中国語の基礎的な表現力を身に付けることを求める。
2. 主体性：授業に積極的に取り組もうとする態度

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験（60点）、小テスト、宿題など（40点）の合計100点満点で評価する。

使用教科書

『1年生のコミュニケーション中国語』 塚本慶一、劉穎 著 白水社

参考文献等

『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
『中国語辞典』 伊地智善繼 編、白水社
『中日辞典』 北京商務印書館、小学館

履修条件

教科書を必ず購入すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業に遅刻しない、毎回出席すること。
宿題の提出は時間厳守。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問があれば積極的に聞いてほしい。授業中か授業の後にも質問をしてよろしい。

授業科目名	基礎中国語B				
担当教員名	陳 昭宜				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

初級中国語の授業である。まず、中国語のローマ字とその起伏のあるアクセントが正確に読めるように、聞く、話す練習を繰り返し行う。それから、無理なく学習できる範囲の文法を学んでいく。聞いて、読んで、訳して、書く練習を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に出会う場面を想定し、中国語の基本的表現を3コマのイラストで覚えていく。目、口、耳を使って、基本的な表現を繰り返し練習することによって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなどの表現力を身につけることを目指す。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	第7課「ホテルにチャックイン」 1. 完了を表わす「了」 2. 選択疑問文「～？是～」	第7課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、番号の言い方を覚える。
第2回	第7課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第7課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第3回	第8課「何時に行きますか」 1. 経験を表わす「？」 2. 時を表わす語（時間詞）	第8課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、時刻の言い方を覚える。
第4回	第8課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第8課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第5回	第9課「タクシーに乗る」 1. 前置詞「从」、「到」 2. 時間の長さを表わす語 3. 2つの目的語をもつ動詞「？」	第9課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第6回	第9課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第9課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第7回	第7課～第9課の総合練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第7課～第9課の単語や文法事項を復習し、覚えること。
第8回	第10課「これはいかがですか」 1. 助動詞「可以」、「能」、「会」 2. 前置詞「在」 3. 動詞の重ね用法	第10課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第9回	第10課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第10課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第10回	第11課「買い物」 1. 前置詞「給」 2. 「是」の省略 3. 「去」、「来」+動詞	第11課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第11回	第11課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第11課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第12回	第12課「どこにありますか」 1. 「是～的」 2. 「～的？候」	第12課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第13回	第12課の復習、練習 学んだ発音、文法、会話を復習する。	第12課の本文を繰り返し発音するように。単語を復習して、文法事項を覚えること。
第14回	中国語の実践と体験 復習する。中国の映画を見るなど。	第7課から第12課の単語や文法事項を復習し、覚えること。
第15回	総合練習 第7課から第12課までの練習、復習を行う。	第7課から第12課の単語や文法事項を復習し、覚えること。

授業形態・授業方法

中国語の発音に重点を置き、徐々に基本文法を学んでいく。文章を繰り返し朗読し、二人一組で簡単な会話練習をして、発表する。黒板に出て問題の答えを書いてもらう。時々ビデオなどで中国の生活文化を紹介する。

養うべき力と到達目標

1. 中国語の基礎を身に付けることを目指す。
①中国語ローマ字と漢字の発音を覚える。
②中国語の初級文法を習得する。
③中国語で自己紹介、買い物、料理を注文するなどの簡単な日常会話ができるように、中国語の基礎的な表現力を身に付けることを求める。
2. 主体性：授業に積極的に取り組もうとする態度

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験（60点）、小テスト、宿題など（40点）の合計100点満点で評価する。

使用教科書

『1年生のコミュニケーション中国語』 塚本慶一、劉穎 著 白水社

参考文献等

『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
『中国語辞典』伊地智善継 編、白水社
『中日辞典』北京商務印書館、小学館

履修条件

教科書を必ず購入すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業に遅刻しない、毎回出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問があれば積極的に聞いてほしいです。授業中か授業の後にも質問をしてよろしいです。

授業科目名	基礎日本語A				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

この授業は留学生・帰国子女を対象に、授業目標を以下の通りとします。1. 言葉をよく覚え、文型を繰り返し練習します。2. 会話の練習を行います。3. テープ・CDを何度も聞き、日本語の音に慣れるよう、反復練習をします。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	会話：自己紹介	自己紹介の仕方と、それを通じて日本での礼儀や挨拶に関する日本語の表現を学びます。	復習課題をおこなう。
第2回	会話：デパートなどの街中の会話	買い物などの場面を想定し、そこでの会話について学びます。	復習課題をおこなう。
第3回	会話：電車に乗る 映画に行く	電車の乗り方・行き先についての聞き方・電車での日本のマナーについて学びます。	復習課題をおこなう。
第4回	会話：日本のお宅を訪問する	日本のお宅を訪問するときの場面を想定して、そこでの挨拶・所作など日本文化のあり方について学びます。	復習課題をおこなう。
第5回	会話：病気 道を開く	病院へ行ったことを想定して、ドキドキなどの擬音語や病名について。また道を開く聞き方と「はすかい」や、京都の「上ル・下ル」などの独特の表現について学びます。	復習課題をおこなう。
第6回	会話：銀行・郵便局で 旅行	銀行や郵便局、旅行での会話について学びます。	復習課題をおこなう。
第7回	会話：電話での会話	「もしもし」などの電話での会話のあり方について学びます。	復習課題をおこなう。
第8回	会話：レストラン・寿司屋へ行く	レストランでの会話とメニューについて・寿司屋をいう日本文化への理解と魚の名前について学びます。	復習課題をおこなう。
第9回	会話：見学	どこかを見学に行ったことを想定して、そこでの会話とマナーについて学びます。	復習課題をおこなう。
第10回	会話：訪問 パーティー	日本でのパーティーなどを含めた会食での会話とそこでのマナーについて学びます。	復習課題をおこなう。
第11回	会話：日本語の勉強1「衣食住」について	各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からることを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	復習課題をおこなう。
第12回	会話：日本語の勉強2「娯楽」について	各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からることを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	復習課題をおこなう。
第13回	会話：日本語の勉強3「地理」について	各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からることを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	復習課題をおこなう。
第14回	会話：日本語の勉強4「社会」について	各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からることを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	復習課題をおこなう。
第15回	総合復習	各自が日本語・日本文化に関する自分の考えをまとめ、それを発表します。	レポートをまとめる

授業形態・授業方法

日本語を基礎的なところから、それぞれの場面に対応して使いこなせるように、会話形式でのパターンによる会話練習を行います。そのほかに、文章を作成し、文章の作り方・書き方についても学びます。また、日本語のベースとなる日本文化に対する見識を広げ、長文読解、文法問題を解き、基本を復習します。

養うべき力と到達目標

学習成果：日常での流暢な日本語会話の習得、ならびに日本文化に対する広範な知識を養うことができる。
到達目標：日本語をとおして、日本文化についての理解を深めることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：日本語力の習熟度を見る。
 尺度：日本語をとおして日本文化理解の習熟度採点します。
 評価方法：授業内の小レポートと授業内試験の合計100点満点で評価する。
 授業内課題1【提出物】30% 2点×15回
 毎回の授業の終わりに小テストを行います
 授業内課題2【会話発表】30% 6点×5回
 テーマごとの会話発表を一人5回行います
 授業外レポート 20%
 授業内に扱った内容を対象とします
 受講態度 20%
 授業内での積極性および取り組み状況

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する

参考文献等

『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011）
 『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011）

履修条件

留学生、帰国子女のみ受講可

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	基礎日本語B				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

基礎日本語Bでは、長文を正しく読解することを目的とします。新聞記事や雑誌記事等を題材として、語彙を増やし、日本語の独特な表現について学びます。さらに、授業で扱った記事に関する自分の意見をまとめたり、グループで意見交換を行うことで、内容の理解を深めます。

授業計画

授業回数	授業内容	目標	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	新聞記事を読む：国内関連 キーワードをまとめて、論点をつかむ練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第2回	新聞記事を読む：国際関連 論点をつかみ、結論をおさえる練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第3回	新聞記事を読む：社会・文化 執筆者の立場を読み取る練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第4回	新聞記事を読む：コラム・特集記事 論点を簡潔にまとめる方法を学びます。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第5回	論点を絞った意見交換 関心のある新聞記事について、自分の意見をまとめます。 それをクラスで発表し、意見交換を行います。		これまで学んだことをノートにまとめてみる
第6回	雑誌記事を読む：国内関連 文章を整理して理解する練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第7回	雑誌記事を読む：国際関連 できるだけ速く、正確に読み取る練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第8回	雑誌記事を読む：社会・文化 内容を正確に把握し、自分の言葉で説明する練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第9回	雑誌記事を読む：スポーツ さまざまなジャンルの記事を、時間内にできるだけ多く読み取る練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第10回	論点を絞った意見交換 関心のある雑誌記事について、自分の意見をまとめます。 それをクラスで発表し、意見交換を行います。		これまで学んだことをノートにまとめましょう
第11回	評論文を読む：キーワードを読み取る 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第12回	評論文を読む：接続詞に注意する 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第13回	評論文を読む：論点をつかむ 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第14回	評論文を読む：結論をおさえる 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。		新しく学んだ単語や表現について書き出しておく
第15回	論点をしぼった意見交換、及び授業のまとめ 関心のある評論文について、自分の意見をまとめます。 それをクラスで発表し、意見交換を行います。 日本語でのレポートの書き方の復習をして、この授業のまとめをします。		この授業のレポートをまとめましょう

授業形態・授業方法

日本語の基礎を確認しながら、さらに日本語能力を高めることができるように、資料を読み込む練習を繰り返して行います。また、文章を作成するほか、自分の意見を発表したり、意見交換するためにグループ討議も行います。

養うべき力と到達目標

時事日本語に関する語彙を増やし、新聞記事を正確に読み取ることができるようになる。また、長文読解に必要なスキルを身につけ、読解力を高めることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：日本語力の習熟度を見る。
 尺度：文章を読み取り、概要をまとめる練習を繰り返します。
 評価方法：授業内の小レポートと授業内試験の合計100点満点で評価する。
 授業内課題1【提出物】30% 2点×15回
 毎回の授業の終わりに小テストを行います
 授業内課題2【会話発表】30% 10点×3回
 テーマごとの会話発表を一人2回行います
 授業外レポート 20%
 授業中に扱った内容を対象とします
 受講態度 20%
 授業内での積極性および取り組み状況

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する

参考文献等

『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011）
『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011）

履修条件

留学生、帰国子女のみ受講可

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	健康とスポーツ				
担当教員名	臼井達矢				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

近年、大きな社会問題となっている生活習慣病に関する基礎知識とその改善方法について理解を深めます。また小児期、学童期に関わりの深い肥満やメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームに関する最近の知見や状況を踏まえて学習します。さらにスポーツ医学（熱中症、過換気症候群、スポーツ貧血、オーバートレーニング、減量、腸脳連関）に関する知識の理解と習得から、健康管理や健康指導に関する基礎知識を修得することを目指します。

授業計画

授業回数	授業の目的、進め方の説明	学習課題（授業時間外の学習）		
		授業内容をワークシートにまとめて完成させる。	授業内容をワークシートにまとめて完成させる。	授業内容をワークシートにまとめて完成させる。
第1回	授業概要についての説明 授業の目的と到達目標についてのガイダンス			
第2回	健康を阻害する環境（現代社会の環境について） ・現代社会における健康を阻害する環境 ・運動・栄養・休養・ストレスの観点から考える			
第3回	骨粗鬆症について（骨の構造と骨粗鬆症） 骨の成長とは？ 骨を丈夫にするための運動と食事について理解する。 具体的な骨密度を高めるための運動とは？食事とは？			
第4回	高血圧と虚血性心疾患について（心臓および血管の構造と血圧のメカニズム） 血圧とは？なぜ血圧は上がるのか、そのメカニズムを理解する。 血圧が高いとなぜいけないのか？高血圧について理解する。 高血圧改善への運動および食事の効果について考える。 心臓の働きについて理解する。 心臓の病気について理解する。			
第5回	脳血管疾患について（脳の構造と脳血管疾患） 脳の働き、機能について理解する。 脳機能を高めるための運動とは？ 脳の病気について理解する。			
第6回	肥満、脂質異常症について 肥満になる生活習慣について理解する。 なぜ、肥満はいけないのか？ 近年、増加しているやせ型、やせ願望について理解する。			
第7回	睡眠と健康 ・現代社会と睡眠不足 ・睡眠不足が及ぼす身体への影響 ・効果的な睡眠とは ・睡眠のメカニズムを理解する			
第8回	ストレスと感染症（ストレスメカニズムと免疫機能） ストレスが及ぼす生体への影響について理解する。 免疫機能を高めるにはどうしたらいいのか？ 運動やサプリメントの摂取と免疫能について。 笑いとストレス。			
第9回	悪性新生物について 悪性新生物とは？ 癌細胞を活性化させる因子とは？ ガン予防のための生活習慣を考える。			
第10回	スポーツ心理学 セルフコントロールの方法を学ぶ。 気持ちを高める手法とは？ リラクゼーション手法とは？ 心に働きかける声かけ、運動指導について			
第11回	スポーツ医学 熱中症とは？ スポーツ貧血とは？ 過換気症候群とは？ 高山病とは？ オーバートレーニングについて			
第12回	スポーツトレーニング 筋力、筋量を高めるトレーニングとは？ 脂肪燃焼や持久力を高めるトレーニングとは？ S A Qトレーニングとは？ コーディネーショントレーニングとは？			

第13回	生活習慣病を予防する運動について 正しいダイエット方法とは? 効率よく、運動効果を出すには? よく行われているダイエットの落とし穴について理解する。	授業内容をワークシートにまとめて完成させる。
第14回	生活習慣病を予防する食事について バランスの良い食事とは? 食の欧米化による生体への影響について考える。	授業内容をワークシートにまとめて完成させる。
第15回	確認テストとその振り返り、まとめ これまで学習してきた生活習慣病に関する復習。 どのような病気なのか?予防するには?	授業内容をワークシートにまとめて完成させる。

授業形態・授業方法

授業は講義形式で行い、毎回資料を配布します。
さらにパソコンのスライドを用いて説明を行い、その内容をワークシートに記入しながら授業を行います。

養うべき力と到達目標

- ・学術、職業基盤能力：幅広い教養としての健康科学、スポーツ医科学領域の正しい情報を理解し、健康的な生活習慣の確立に活用できる
- ・専門的な力：健康に関する情報が多く取り上げられている近年、正しい情報を見極め、理解すると共に、健康になるための運動や食事、ストレス対処法などを修得し、それらを実践できる

成績評価の観点と方法・尺度

観点：主に『健康の理解』『病気の理解』『スポーツ中に起こりうる障害の理解』の3つの観点から理解度を評価する。

尺度：観点ごとに3段階、『理解できている』『十分理解できている』『応用し実践できる』かどうかで到達度を評価する。

評価方法：①授業内課題30%（前回の授業の復習を毎回行う）

②授業態度・発表意欲30%（授業内での積極性および教室マナーなど）

③本試験40%（全期間中の内容を範囲とした試験を行う）

使用教科書

なし

参考文献等

適宜紹介する。

履修条件

『健康』や『スポーツ医学』の領域に興味関心の強い学生。
参加型の授業形態であるため、積極的に学ぶ姿勢をもった学生。

履修上の注意・備考・メッセージ

参加型授業のため積極性と自分の意見をしっかりと伝えることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問がある場合は、授業終了後、または授業のある日に研究室まで来てください。

授業科目名	体育講義				
担当教員名	臼井達矢・織田恵輔・辻慎太郎・渡邊和香				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

現代社会において、運動不足や食習慣の乱れ、睡眠不足や身体的・精神的ストレスなど様々な健康問題が指摘されており、これらの原因に伴い生活習慣病や精神的な疾患を引き起こすとされています。特に近年においては若年女性や幼児期・学童期における健康に関する諸問題が指摘されており、急務に改善しなければいけない社会問題となっています。以上のことから、様々な年代における健康問題や病気の知識、その改善方法を学び、健康の三大要因である「運動」「栄養」「休養」の観点から健康問題について考え、学習することを目指します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	授業の目的、進め方の説明 授業概要についての説明 授業の目的と到達目標についてのガイダンス	
第2回	健康を阻害する環境（現代社会の環境について） 現代社会における、健康を阻害する環境について、「運動」・「栄養」・「休養」・「ストレス」の観点から考え、理解する。 幼児から高齢者、若年女性の健康についても学習する。	現代社会の健康問題について調べておく
第3回	骨について～骨の構造～ 骨の成長とは？ 現代社会における幼児から高齢者の骨の状態について理解する。 骨の重要性と仕組みを理解する。 骨を丈夫にする、運動・食事について理解する。	骨の構造や役割について調べておく
第4回	骨について～骨粗鬆症～ 骨粗鬆症が高齢者に与える危険を理解する。 骨粗鬆症の方に対する療法の種類を知る。	骨粗鬆症とは何かを調べておくこと
第5回	肥満について～メタボリックシンドロームとは～ 肥満、メタボリックシンドロームの要因とは？	肥満について調べておくこと
第6回	肥満について～肥満が子ども達に与える影響～ 小児肥満が増加している原因について理解する。 肥満予防、改善に有効的な運動療法、食事療法について理解する。	小児の健康問題について調べておくこと
第7回	健康と睡眠について 睡眠の役割、メカニズムについて理解する。 幼児期から高齢者における睡眠の重要性や睡眠障害の原因などについても学習する。	睡眠について調べておくこと
第8回	スポーツ医学科 ～一次救命処置・スクリーニング～ ケガに対する応急処置法について学ぶ。（捻挫、出血、やけどなど） スポーツ貧血やスポーツで起こりうる障害について学ぶ。	運動による障害・外傷を調べておくこと。
第9回	スポーツ医学科 ～熱中症の怖さ・予防法～ 熱中症の原因について考え、予防方法についても理解する。	熱中症について調べておく
第10回	血圧のしきみ 高血圧の原因について考え、予防方法についても理解する。 高血圧が身体に及ぼす影響について学ぶ。	高血圧について調べておくこと。
第11回	心疾患について 循環器の仕組みについて理解を深める。	循環器について調べておくこと。
第12回	糖尿病について～原因そして予防方法～ 糖尿病の原因について考え、予防方法について理解する。	
第13回	糖尿病について～合併症による弊害～ 糖尿病が引き起こす合併症について学ぶ。	糖尿病の合併症状について調べておくこと。
第14回	運動やスポーツの必要性について 運動やスポーツが「身体」「心理面」などに与える影響について学習する。 どのような運動やスポーツが良いのか？ さらに、運動の時間や強さ、頻度が身体や心理面に影響するのか？	運動およびスポーツの重要性について調べておくこと。
第15回	確認テストとその振り返り、まとめ これまで学習してきた健康科学・生活習慣病に関する確認テストと振り返りを行う	

授業形態・授業方法

授業は講義形式で行い、毎回資料を配布します。
さらに、パソコンのスライドを用いて説明を行います。

養うべき力と到達目標

- ・学術、職業基礎基盤能力：幅広い教養としての健康科学、運動学領域の正しい情報を理解し、健康的な生活習慣の確立に活用できる。
- ・専門的な力：健康になる為の三大要因である「運動」「栄養」「休養」に関する情報が多く取り上げられており、これらの正しい情報を学習し、理解すると共に、「運動の重要性」や「食習慣の見直し」ストレスの対処法」などを修得し、それらを実践できる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：主に『健康の理解』『病気の理解』『健康になるための改善方法の理解』の3つの観点から理解度を評価する。

尺度：観点ごとに3段階、『理解できている』『十分理解できている』『応用し実践できる』かどうかで到達度を評価する。

評価方法：①授業内課題30%（前回の授業の復習を毎回行う）

②授業態度・発表意欲30%（授業内での積極性および教室マナーなど）

③本試験40%（全期間中の内容を範囲とした試験を行う）

使用教科書

使用教材はなしであるが、毎回プリント等を配布する。

参考文献等

適宜紹介する。

履修条件

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業終了後に質問すること。

授業のある日に研究室に質問に来ること。

授業科目名	体育実技				
担当教員名	織田恵輔・辻慎太郎・渡邊和香				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、急務に改善しなければいけない問題とされています。さらに運動・スポーツは健康教育であるとともに、コミュニケーション能力を高める方法でもあることから、各年代において積極的に身体を動かすことが重要とされてきています。また幼児教育の観点からは、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児が増加しており、生涯教育や健康教育としての運動やスポーツの重要性とそれらを指導するための知識や楽しさを伝える指導力が重要な要素となっています。このような背景から、体育実技では体力の強化やケガしない身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを学び、将来の子ども達に体育の楽しさを伝える指導方法や表現力を習得することを目標としています。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 オリエンテーション 授業の進め方、成績評価や服装などの説明。	授業の概要について理解する。 (貴重品の管理、服装、体育館シート等の準備)
第2回 ボール遊び（ドッヂボール） 様々なボール遊びを通じて、運動の楽しさを実感する。	ドッヂボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第3回 バスケットボール① ルールの説明と理解。 練習方法として、ドリブル・バス練習・グループ練習を実施する。	バスケットボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第4回 バスケットボール② 再度ルール説明と前回の復習後、ゲームを展開する。	バスケットボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第5回 バトミントン① ルールの説明と理解。 サーブ・スマッシュの練習後、グループ練習を実施する。	バトミントンの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第6回 バトミントン② 再度ルール説明と前回の復習後、ゲーム（シングル・ダブルス）を展開する。	バトミントンの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第7回 フットサル① ルールの説明と理解。 ボールの蹴り方の練習、バス練習後、グループ練習を実践する。	フットサルの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第8回 フットサル② 再度ルール説明と前回の復習後、ゲームを展開する。	フットサルの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第9回 バレーボール① ルールの説明と理解。 レシーブ、トスの練習後、グループでの練習を実践する。	バレーボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第10回 バレーボール② 再度ルール説明と前回の復習後、ゲームを展開する。	バレーボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第11回 卓球① ルールの説明と理解。 サーブ練習、ラリー練習、シングル・ダブルス練習を実践する。	卓球の基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第12回 卓球② 再度ルール説明と前回の復習、ゲーム（ダブルス・シングル）を展開する。	卓球の基礎ルールに関する参考文献に目を通す。
第13回 キンボール① ルールの説明と理解。 打ち方の練習、キヤッчиの練習、グループ練習を実践する。	・キンボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。 ・インターネットであらかじめ動画などを見ておく。
第14回 キンボール② 再度ルール説明と前回の復習、ゲームを展開する。	・キンボールの基礎ルールに関する参考文献に目を通す。 ・インターネットであらかじめ動画などを見ておく。
第15回 ミニ運動会 リレー、綱引き、棒引き、台風の目などの種目で運動会を実施する。	運動会の種目や内容に関する動画を見ておく。

授業形態・授業方法

- 授業は実技形式で行います。
- 各球技においてチームを形成し、チーム内で練習等を行い、コミュニケーションを深めます。
- 毎回の授業では、説明（導入）→練習→試合の流れで行います。

養うべき力と到達目標

- 職業基礎能力：運動、スポーツは健康教育であり、自身の体力を身につけることで、健康的な生活習慣の確立に役立つ。さらに、スポーツを通じて『コミュニケーション能力』『協調性』を養うことで、社会適応能力が向上し社会性が確立できる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 観点：『運動・スポーツの重要性の理解』『コミュニケーション能力の理解』『積極性・協調性の理解』
 尺度：観点ごとに『理解できている』『十分理解できている』『応用と行動に移すことができている』かどうかの3段階で到達度評価とする。
 評価方法：①授業態度70%（授業内での積極性および授業内マナー）
 ②課題レポート30%（練習方法や競技特性など、指示した内容のレポート課題の提出を行う）

使用教科書

なし

参考文献等

なし

履修条件

授業に関するマナーや詳細については、初回オリエンテーションの際にお伝えします。

履修上の注意・備考・メッセージ

運動できる服装やシューズが必要となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業終了後に質問するようにして下さい。

授業科目名	暮らしと環境				
担当教員名	張野宏也				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

本授業では、①身近なところから世界的に生じている環境問題を理解することで、自分の専門と環境との関わり合いを導き出すとともに、②現在の環境を将来も持続させていく方法をお互い議論して、自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことでも、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に把握し、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断し、周辺や次世代を担う人々に自信をもって伝えることができるようになることが目的です。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）		
		課題内容	準備	実施
第1回	環境科学とは 環境科学とは何を取扱う学問なのか、どうして環境問題が生じてきたのかを概説します。	講義前までにテキストの第1章を熟読しておくこと。		
第2回	環境を形作る生態系 環境問題の基本は、生態系の異常である。現在世界各国で起こっている環境問題を生態系を中心として概説します。	講義前までにテキストの第2章を熟読しておくこと。		
第3回	大気の汚染 一地球の温暖化- 地球温暖化はなぜ生じているのか、現状は、そして今後どのようになるのかを学びます。	講義前までに第3章大気汚染の35-37ページを熟読しておくこと。		
第4回	大気の汚染 ?酸性雨、粒子状物質等- 地球温暖化以外にもさまざまな大気汚染があることを学び、それから身を守るにはどのようにすればよいかを考えます。	講義前までに第3章大気汚染の38-44ページを熟読しておくこと。		
第5回	水質汚染 ?池、川、海の汚れとは- 見た目の池、川、海の汚れの原因はなにか、過去から改善されてきたのかを学び、今後どのようになるかを予測します。	講義前までに第4章水質汚染を熟読しておくこと。		
第6回	水質汚染 ?魚介類への化学物質の濃縮と代謝- 魚介類は生息域の水から化学物質を濃縮すると同時に代謝します。そのメカニズムを概説します。	講義前までにテキストの第10-11章を熟読しておくこと。		
第7回	土壤汚染 ?土壤、地下水の安全性- 土壤、井戸水が汚染されたらどのようになるのか、それを防ぐにはどのようにすればよいのかを考えます。	講義前までにテキストの第5章を熟読しておくこと。		
第8回	放射性物質による汚染 震災から放射性物質による汚染がクローズアップされてきました。放射性物質について理解するとともに原発問題についても考えます。	講義前までにテキストの第14章170-180ページまでを熟読しておくこと。		
第9回	世界中で使用されている化学物質 一農薬- 化学物質問題はグローバルな問題として重要視されている。どのような問題が起こっているのかを学ぶとともに解決するにはどうしたらよいかを考える。	講義前までにテキストの第6章化学物質による汚染、69~80ページ、第12章までを熟読しておくこと。		
第10回	身近なところで使用されている化学物質 一住宅の建材、家庭内など- 我々の身の周りには多くの化学物質が使用され、それが環境に流出し汚染している。どのような物質が流出しているのかを知るとともに、改善策について考える。	講義前までにテキストの第6章化学物質による汚染、81~84ページまでを熟読しておくこと。		
第11回	水と食品の安全性 安全な水や食品を得ることは人にとって重要なことです。現在供給されている水や食品は本当に安全なのかを考えます。	講義前までにテキストの第7章を熟読しておくこと。		
第12回	水と食品の自給率 日本は水や食品の自給率の低い国です。今後もこのように自給率の低下が続けば日本はどうになるのかを考えます。	講義前までにテキストの第15、16章を熟読しておくこと。		
第13回	ごみと廃棄物 ごみや廃棄物は増えるいっぽうです。減量するにはどのような点に気を使えば良いのかを考えます。	講義前までにテキストの第8章を熟読しておくこと。		
第14回	これからエネルギー 石油、石炭が枯渇するに変わり、新エネルギーが提案されています。どのようなエネルギーを使用しようとしているのか、その長所、短所について考えます。	講義前までにテキストの第14章を熟読しておくこと。		
第15回	環境保全にむけた活動 多くの団体が環境改善に向けた活動をしています。自分ならばどのような環境活動をするべきかを考えます。	講義前までにテキストの13章を熟読しておくこと。		

授業形態・授業方法

- ・講義が約50分、グループ討議が約30分、小レポート作成約10分の時間配分を原則としますが、各回の内容により若干、時間配分が異なることもあります。
- ・グループ討議は講義内容に関して課題を与え、それに対して自分の考えを発表する。
- ・小レポートは講義内容の要約（400字以上）と質問を書き、毎回授業の終わりに提出する。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・さまざまな環境問題を概説することで広い知識を有することができる。
- ②行動基盤能力
 - ・好奇心：周辺の環境を、興味を持ち見回すことができるようになる。
 - ・主体性：環境問題を自らの問題としてとらえ、解決にむけ行動できるようになる。

成績評価の観点と方法・尺度

※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

<各回の授業内小レポート：30%>

- ・各回1～2点で評価し、合計30点満点とする。①講義内容を簡潔にまとめられており、②的確な質問が書かれていれば2点、いずれか一方が満たされていれば1点とする。

<グループ討議：30%>

- ・各回1～2点で評価し、合計30点満点とする。これはグループに対する加点で、①課題に対して的確な議論ができ、②簡潔に発表ができるば2点、いずれか一方が満たされていれば1点とする。

<期末テスト：40%>

- ・講義で得た環境に関する基礎知識およびそれに対する自分の意見を述べる問題（論述式）を出題する。基礎知識およびそれに基づく自分の考えを簡潔に表現できるかを評価する。

使用教科書

環境科学入門 地球と人類の未来のために/川合真一郎、張野宏也、山本義和/化学同人

参考文献等

環境汚染化学有機汚染物質の動態から探る/水川薰子、高田秀重/丸善出版
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修条件

高校で学習する理科の知識を必要とする。

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストを熟読していることを前提に講義をしますので、必ず授業計画をみてテキストの指定ページを予習しておいてください。また、グループ討議では自分の意見をしっかりともって議論し、簡潔にまとめて発表してください。その日の授業が終われば、再度テキストを読み替えし、復讐をしておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

連絡を取りたい場合は、Eメールアドレスで（アドレス：harino@mail.kobe-c.ac.jp）に送信してください。Eメールには、氏名と学籍番号を必ず入れてください。

授業科目名	暮らしこと環境				
担当教員名	福嶋 実				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業はまず、①人間と環境のかかわりを生態系に基づいて整理したうえで、環境問題とは何か、産業型公害と深刻な健康被害、環境問題を的確に著した3大書物について学ぶ。次いで②地域環境に目を向け、水質汚濁、大気汚染、廃棄物、化学物質、感覚公害および放射性物質に関わる現状と諸課題にふれる。さらに③地球環境に目を向けて、気候変動など地球環境の異変と資源・エネルギー事情を概観し、とくに2015年12月に国際合意された“パリ協定”を視野に、今何をすべきかを考える。本科目は、人間と環境との相互作用について学ぶことで、環境問題への関心を喚起し、理解を深めることが目的である。本科目は、人間と環境との相互作用を学ぶことで、環境問題への関心を喚起し、理解を深めることが目的である。

授業計画

授業回数	授業題名	学習目標（授業時間外の学習）		
		知識	態度	能力
第1回	ガイダンス－人間と環境のかかわり、環境問題の概要について	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで予習しておく。		
第2回	わたしたちの経験に学ぶ	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第3回	環境問題を主導した3大書物の紹介	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第4回	暮らしこと水、その1 水の重要性と利用実態	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第5回	暮らしこと水、その2 水質汚濁の現状と課題	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第6回	暮らしこと大気	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第7回	暮らしこと廃棄物	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第8回	暮らしこと化学物質、その1 化学物質汚染の現状と課題	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第9回	暮らしこと化学物質、その2 エコチル調査	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第10回	暮らしこと感覚公害	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第11回	放射性物質による汚染を理解するために	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第12回	地球環境の異変	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第13回	わが国の資源・エネルギー事情	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第14回	環境を守るための行動	新聞やインターネットなどのマスメディア、高校教科書などで関心をもって調べ、気づいたこと、わかったこと、わからないことを整理しておく。		
第15回	まとめと補足	講義全体の要約と補足を行い、授業に参加して良かった点、改善すべき点などを出し合う。		

授業形態・授業方法

- ・講義が中心になるが、随所で問い合わせを行い、一方的にならないよう努める。
- ・可能な限り具体的な事例をあげ、また必要に応じてDVDやパワーポイント等を用いて、理解の助けにする。
- ・授業計画のなかから、4課題を選定し、気づいたこと、わかったこと、わからいことをまとめた小レポート（A4 1枚）を要求する。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・人間と環境の基礎知識：生態系とその関連事項が正しく理解できていること。
 - ・環境問題の基礎知識：主要な環境問題について説明でき、かつ自身の考えを述べることができること。
- ②問題発見力
 - ・観察力：自身の暮らしがどんな環境問題とつながっているかが説明できること。

成績評価の観点と方法・尺度

※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

<期末試験：60%>

・人間と環境のかかわり、ならびに環境問題が正しく理解できているかどうかを問う選択式・記述式問題、60点満点とする。

<レポート：20%>

・設定したテーマを適正に調べることができているかどうか、また気づいたこと、わかったこと、わからないことが記述できているかどうかで判定。1課題5点満点で、合計20点満点とする。

<授業への参加度：20%>

・問い合わせに応えることができたかどうか、および受講態度の総合評価により、20点を上限として加算する。

使用教科書

特に指定しない。

講義の進行に合わせて要点を記したプリント資料を配付する。資料はファイルにとじて管理すること。

参考文献等

- ・川合真一郎・張野宏也・山本義和 著 環境科学入門－地球と人類の未来のために、化学同人、2011.
- ・久里徳泰・佐巻健男・平山昭彦 編著 新訂地球環境の教科書10講、東京書籍、2014.
- ・川添禎浩 編 健康と環境の科学、講談社、2014.
- ・平成27年版環境・循環型社会・生物多様性白書、環境省、2015.
- ・その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修条件

共通科目、履修条件は特にない。

履修上の注意・備考・メッセージ

日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどの環境記事に注意を払うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は大歓迎。授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。

アドレス：minoru.fukushima@nifty.com

メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業科目名	基礎化学				
担当教員名	牧野壯一				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本講義は、栄養学科1回生を対象として、栄養士に必要な化学に関する知識の習得を図ることを目的としています。

授業計画

授業回	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 講義全般や成績評価法などについての説明、プレテスト	プリント課題
第2回	食品の中身を知る① 食品を構成している物質の構成	プリント課題
第3回	食品の中身を知る② モルの概念を知る、小テスト	プリント課題
第4回	栄養士に必要な単位と基本計算(1) 栄養士に必要な単位換算、割合、パーセント（%）、小テスト	プリント課題
第5回	栄養士に必要な単位と基本計算(2) 比重、廃棄率、小テスト	プリント課題
第6回	栄養士に必要な単位と基本計算(3) 簡単な濃度計算、小テスト	プリント課題
第7回	栄養士に必要な溶液の濃度計算① %濃度、小テスト	プリント課題
第8回	栄養士に必要な溶液の濃度計算② モル濃度、小テスト	プリント課題
第9回	まとめのテスト ここまでまとめのテストと解説	プリント課題
第10回	食品の状態を知る 固体・液体・気体について	プリント課題
第11回	食品内で起こる変化 酸と塩基、中和反応、小テスト	プリント課題
第12回	食品とエネルギー 小テスト	プリント課題
第13回	酸化と還元 酸化と還元の意味、小テスト	プリント課題
第14回	レポート作成 簡単な化学実験を通してレポートをまとめる、小テスト	プリント課題
第15回	まとめ、演習 まとめのテストと解説	プリント課題

授業形態・授業方法

講義形式で、教科書、配布プリント、映像教材を併用して授業を行う。また、授業内容の習得を促すために演習問題を解く時間を設けるとともに、習得度を確認するための小テストを実施する。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
 - ・栄養士課程の専門科目を理解するために必要となる化学の基礎知識を習得し、理解できる。
 - ・栄養士に必要な計算能力を習得できる。
- ②課題発見力
 - ・観察力：実験結果を客観的に把握し、レポートを作成することができる。
 - ・分析力：集めた情報を分析し、レポートすることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「栄養士に必要な化学の基礎知識の習得・理解」及び「栄養士として必要な計算力の習得」

観点別に下記の3項目により達成度を評価、これらを総合して成績評価を行う。

尺度及び方法：定期試験 40 %

小テスト 30 %

宿題 15 %

受講態度（積極的参加） 15 %

使用教科書

「わかる化学」（松井徳光・小野廣紀著）化学同人

参考文献等

適宜、参考文献を紹介する。

履修条件

栄養学科1年生は全員受講する。

履修上の注意・備考・メッセージ

栄養士として必要な計算力を伸ばすことに主眼をおく。何回も練習問題を繰り返すこと。
不定期に行う小テストで達成度をチェックする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

火曜日以外の昼休みに研究室で対応します。

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	竹内正人				
配当年次	1年	開講時期	後期・前期	単位数	2

授業概要

この講義では日常の暮らしの中から身近なテーマを選び、それを経済学、特にミクロ経済学の視点を中心に解説します。経済学の基礎を学ぶことで、①経済的合理性を持った思考を構築できるようになり、それによって②新聞やニュースに出てくる経済記事、国・地方公共団体の政策、企業の活動に関する記事内容が理解できることで、自らの現状認識及び将来の方向性を見定めることができるようになることを目指します。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	復習	参考文献
第1回	ガイダンス・経済学とは 講義の進め方 経済学の成り立ち。経済学的視点などこれから経済学を学ぶ上で基本的な注意点を提示する。	経済学の目的を良く考えておくこと。 キーワード：アダムスミス			
第2回	物価について考えてみよう！ 価格はどうやって決まるのか？ 梅田やホテルで飲むコーヒーは何故価格が高いの？ 価格と価値の違いや価格の決定について学ぶ。	プリントの復習 スーパーの商品の価格が店によって違うのはなぜか考えておくこと			
第3回	需要と供給って何？ 経済学における財とサービスの定義 市場原理と需要と供給の意味や仕組みについて学ぶ。	プリントの復習 公共料金はなぜ決まっているのかを考えておくこと			
第4回	暮らしと税金を考えよう！ 税金はためにあるのだろうか？ 税金が上がるとどうなるか？ 税金の種類 公共事業と税金など税の必要性と仕組みについて学ぶ。	プリントの復習 消費税や所得税について考えておくこと			
第5回	効用と限界効用について考える。 効用って何？予算って何？ 予算内でいかに効率的に満足度を高めるには？ など人間の行動と経済的制約について学ぶ。	プリントの復習 食事の一品目はなぜ美味しいのか考えておくこと。			
第6回	限界効用と無差別曲線1 人間の満足度を、グラフを用いて理解する。そのうえで無差別曲線という曲線と予算制約線との関係を解説する。	プリントの復習 高校時代の微分について復習しておくこと。			
第7回	限界効用と無差別曲線2 価格が上がると満足度はどうなるだろうか？無差別曲線について振り返りながら、予算制約線との関係について学ぶ。 無差別曲線の特徴と予算制約線	プリントの復習 たとえば、りんごは何個買うと満足しますか？考えておいてください。			
第8回	豊かさって何？ 暮らしの指標とGDP 日本の経済を示す様々な指標を示しながらGDPについて解説する。またGDPの数値が大きければそれで良いのかも考える。 キーワード：GDP 投資 消費 輸出 輸入 貯蓄 インフレ	プリントの復習 朝刊の経済欄を読んでおいてください。			
第9回	幸せって何？ 幸せについて経済学視点で考えてみます。 お金があれば幸せか？どうすれば幸せになれるのかなどを議論する。 キーワード：健康 負債 希望	プリントの復習 どんな状態になれば幸せなのか考えておくこと。			
第10回	結婚について考える。 結婚や少子化についても経済的視点考える。 どうして結婚しない人が増えているのか？ 少子化の原因は？生涯賃金など、結婚とその後の生活を交えながら結婚にまつわる制度について経済的視点で考える。 キーワード：機会費用とその損失	プリントの復習 何歳で結婚したいか。子育ては、簡単に人生設計しておくこと。			
第11回	経済人とレモン 情報の非対称性下の市場について学ぶ。 他に、埋没コストや流動性のわなといわれる市場における経済活動を阻害する要因等について考える。サンクコスト、レモンの原理について。映画や住宅市場を例に考える。	プリントの復習 住宅を買うときは新築か中古かどちらを選ぶか？それはなぜかを考えておくこと。			
第12回	経済発展と環境問題 暮らしが豊になるとゴミなどの廃棄物が大量に出でてくる。経済発展と環境保護はどんな関係にあるのかを考える。 キーワード：外部経済性	プリントの復習 工業が発達した日本の空はどうして青いのかを考えておくこと。			
第13回	大都市と大企業 大量につくると何故安くなるの？どうして都会に人が集まるの？ キーワード：規模の経済 集積の経済	プリントの復習 梅田や難波での買い物がどうして便利なのか？			

第14回

産地と消費地

たとえば醤油の産地はなぜ童野市や小豆島だったのだろう?
ビール工場はどうして吹田なのだろう。
門真や守口にはどうして家電メーカーがあったのだろうか?
消費地と産地について考えます。

プリントの復習
スーパーのチラシをみて、そのスーパーの場所が遠いと買いにいくかどうか考えておくこと。

第15回

経済効果って何？まとめ

最近話題の経済効果についてその意義や測定の方法を学びます。さらに、AKB48やたま駅長など具体的な事例をもとに経済効果のもつ重要性を解説する。
最後にこの講義のまとめ、重要ポイントについて解説する。

プリントの復習
たとえばお土産を買えばそのお土産をつくり、売るまでどんな工程があるのかを考えてみること。

授業形態・授業方法

経済学の基礎を学ぶため、講義形式でおこないます。講義は主にスライドを用います。毎回テーマに合わせてサブノート（プリント）を配布し、覚えて欲しい項目や重要な内容を自ら書き入れることでノートが完成します。講義中には課題に応じて学生の皆さんに問い合わせを行い、議論することができます。

養うべき力と到達目標

①幅広い教養・品格

特に本講義では、一般的な新聞、雑誌やテレビのニュースにててくる経済用語を理解し、現在の日本の置かれている状況を客観的に把握する力をつけることを目指す。

②筋道を立てる力

経済学を学ぶことによって、さまざまな制約のなかで生じた課題を解決するために、どうすれば効率よく目標を達成できるか、あるいは満足を得られるかという思考力を身につけることを目指す。

成績評価の観点と方法・尺度

（各回の授業内小レポート：45%）

- ・各回1～3点で評価し合計45点満点。
- ・授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、独自の見解が示されていれば3点、重大な誤りや不足があれば1点とする。

（期末試験：55%）

経済学の基礎知識とそれを用いて経済学的見解を述べる論述式を出題し、以下の観点から評価する。

- ①. 経済学の基礎知識が正しく理解できているかどうか。
- ②. 課題に対し経済学的思考をベースに回答し自分の見解が提示できているかどうか。

使用教科書

指定しない。毎回サブノート（プリント）と資料を配布する。資料はファイルにて管理すること。

参考文献等

『マンキュー経済学入門』（2008）（N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社）
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修条件

共通科目・開放科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

日頃見逃してしまいがちな小さなニュースの中にも、実は大きな経済問題が含まれています。日頃から新聞やテレビ、ネットなどのニュースを注意してみてください。合理的な思考を身につけると何となく見過ごしてきた出来事に新しい発見をすることがあります。その発見の喜びをぜひ体験してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日3限 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
場所：研究室53（竹内研究室）

授業科目名	社会福祉と暮らしの法				
担当教員名	中川陽子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、身近なところで起こっている社会福祉の課題、具体的な社会福祉の法制度・しくみ、社会福祉の理念や歴史、マンパワー、援助の方法・技術などをテキストにそつて解説します。講義内容は、みなさんの生活にかかわるものであり、知識があれば問題に直面したときに役立ちます。理論だけではなく、具体的な事例もあげていきます。みなさんが社会福祉とはなにかを理解し、生活に役立てていくことが目標です。豊かな生活を送ることができるよう、また社会人になってからもその知識を生かせるようにします。

授業計画

授業回	授業題名	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンスー授業の進め方、社会福祉の理念をとらえるー シラバスの説明 自分自身のライフステージと社会福祉の理念、人権の尊重について考えます。	ノートを作成する。キーワード：社会福祉の理念、Well-being、児童、高齢者、生活困窮者、障がい者、ノーマライゼーション
第2回	家族の変容と社会福祉—多様な生き方を支えるー 家族形態の変化とそれに伴った社会福祉のありかた、ライフステージについて考えます。	キーワード：家族、扶養、ライフステージ、社会福祉関連法
第3回	日本における福祉職の形成過程—国家資格の専門職の必要性ー 日本における社会福祉の変遷をたどり、社会福祉専門職の成立、課題について考えます。	キーワード：G HQ、生活保護法、社会事業、高齢経済成長、保育士、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士
第4回	保育士に求められる専門性—専門性を高めるためにー 家族形態の変化や女性の社会進出による子育ての変化とそれにかかわる法制度、専門職の課題について学びます。	キーワード：保育所、保育士、認定こども園、児童福祉法、名称独占、措置、保育指針、虐待、リスクマネジメント
第5回	介護職に求められる専門性—安全で安心な質の高いサービス提供のためにー 急速にすすむ高齢化の現状と介護にかかわる課題について考えます。第1～4回までの範囲で小テストをします。	キーワード：高齢化率、EPA、技能実習制度、リスクマネジメント、虐待、老老介護、施設・専門職の不足
第6回	専門職の課題と制度対応—事件・事例・判例から学ぶー 人材の不足による社会福祉の課題を明らかにしそうのように制度が改正されているかを知り、今後我々の世代のすべきことを考えます。	キーワード：介護保険法、児童福祉法、入所施設、通所施設、事故
第7回	現代の社会福祉法制度体系—基礎・改革・課題ー 社会福祉六法と社会福祉法について概要を理解し、社会福祉の基本構造、類型を学びます。	キーワード：社会福祉六法、社会福祉法、社会福祉事業、社会福祉基礎構造改革、措置制度、利用契約方式、社会福祉法人
第8回	子育て支援と社会福祉—社会的支援の確立を目指してー 子育て支援施策の推移と子ども家庭福祉サービス、しくみを理解し、今後の課題について考えます。	キーワード：少子化対策、1.57ショック、待機児童、児童手当、障害、児童虐待防止法、ひとり親家庭、里親
第9回	介護への支援と社会福祉—高齢者を取り巻く課題を理解するー 高齢者を取り巻く状況、高齢者福祉サービスについて介護保険法の改正から現状を学びます。	キーワード：地域包括支援センター、介護保険法、認知症、厚生労働省、高齢者虐待防止法、QOL
第10回	社会福祉と地域の変貌—地域福祉の推進ー 地域社会を取り巻く環境の変化による新たな生活課題について考えます。第5～9回までの範囲で小テストをします。	キーワード：心身障害、貧困、社会的排除、社会的孤立、コミュニティ、共助、社会資源、
第11回	社会福祉行政財政と社会福祉施設—提供主体の多元化と社会福祉財政の特徴ー 社会福祉サービスの提供主体とその考え方、仕組みについて理解し、財政的な課題や社会福祉施設の現状を学びます。	キーワード：行政、民間、福祉多元主義、福祉ミックス、セクター、社会福祉サービス
第12回	社会福祉における相談援助と利用者保護—法制度におけるQOLとのギャップー 社会福祉専門職の役割について理解し、補助教材で相談援助の方法を学びます。	キーワード：バイスティック、地域ネットワーク、社会福祉協議会、福祉事務所
第13回	社会福祉と権利擁護—苦情解決、第三者評価、成年後見制度、福祉オンブズマンー 虐待防止法の類型、虐待の定義から当事者の権利を守るために各制度、しくみを理解します。	キーワード：アドボカシー、自己覚知、苦情解決、運営適正化委員会、第三者評価、成年後見制度、福祉オンブズマン
第14回	諸外国における社会福祉の動向—海外の保育と介護ー 各国の社会福祉施策の概要について知り、今後日本の社会福祉について考えます。	キーワード：高齢化率、保育、介護、スウェーデン、アメリカ、ドイツ、フランス、中国
第15回	専門職における社会福祉の課題と展望—次世代を担うジェネラリストへの期待ー 専門職の人材確保の動向と政策について学び、今までの授業の総括をします。第10～14回までの範囲で小テストをします。	キーワード：ジェネラリスト、感情労働、ワーカーライフバランス

授業形態・授業方法

教科書を用い、板書をしながらポイントを押さえます。各自ノートをつくり、授業のメモをし配布プリントなどの補助教材も貼りつけるようにしてください。章の区切りではコミュニケーションカードを使い、意見や質問等を提出します。回答は担当教員が書き込み、次の週に返却します。

養うべき力と到達目標

課題発見能力

- ・社会福祉の意味や意義、現行の社会福祉制度の役割や課題を理解し、現状を客観的に把握する力を養う。
- 社会基盤能力
 - ・社会のなかで生活問題を抱える人たちが困っている状況やその解決策について意見の違いや立場の違いを理解する力を養う。
- ・今後生活問題に直面したとき、対処・解決するために必要な手掛かりを得る。
- ・今後生活していく中で、必要な社会福祉制度を利用できる知識を養う。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：授業で得た知識を、自身の暮らしの中でいかすことができる

尺度：・社会的問題があることを知る

- ・社会的問題に興味を持つ

- ・社会的問題を解決する知識・技能を持つ

評価方法：以下の項目の合計100点満点で評価する。

①小テスト：30%

それまでの授業の確認テストを行う（第5回、第10回、第15回）。

②コミュニケーションカード：20%

章の区切りでコミュニケーションカードを用い、要約、考察、質問を書く。

③課題：20%

長期休業中にレポートを作成し、長期休業明けの初回授業で提出する。

④受講態度：30%

積極的参加・遅刻状況・マナー等の状況により判断する。

使用教科書

書名：初めての社会福祉論

著者名：三好禎之 編

出版社名：法律文化社

参考文献等

書名：社会福祉を学ぶ第2版

著者名：山田美津子・稻葉光彦 編

出版社：みらい

履修条件

本授業で得た知識を、生涯にわたり自身の暮らしにいかせるようにしてください。全学年、履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業外での質問は、毎回提出するコミュニケーションカードに書いてください。

授業科目名	暮らしこと経済				
担当教員名	森 茂治				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、自立した暮らしを築いていくために、「経済社会」と「人生の豊かさ」の関係について、自身の言葉で考えていく手がかりを持つことを目指します。その為に、授業の前半では、経済社会の仕組みや制度、原理となる考え方などの基礎知識や視点を学習します。後半は、現在や近未来の経済環境や政策の実態を調べ、そこから、「豊かさ」や「幸せ」について、レポートや討議により自身で考える力を養います。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	経済の姿・活動を概観	私たちの暮らしが経済社会の中に成り立っていることを理解する視点を提示し、経済の仕組みを概観します。	経済に関する自身の关心事項をレポートする。
第2回	「市場」の働き	「新美南吉」の童話を題材として、「市場」に生きることの原則について学びます。	ワークシートで知識を整理する。
第3回	市場メカニズムと経済思想	ビデオ学習を中心に「需要と供給」と価格の基本的なメカニズムを再確認し、経済思想の潮流について理解を深めます。	ワークシートで知識を整理する。
第4回	通貨・貨幣と金融機関の役割	通貨・貨幣（お金という情報）の働きと金融機関の役割について学びます。	「お金の役割」についてわかりやすくレポートする。
第5回	家計の働き	家計の働き、日常の「やりくり」が経済社会の基盤になることを学びます。	ワークシートで知識を整理する。
第6回	合理的な経済行動の原理	家計行動の前提となる合理的な経済行動の原理について学びます。	ワークシートで知識を整理する。
第7回	値段と価値、効用（満足）の理解	ビデオ学習を中心に「値段と価値、効用（満足）の最大化」の原理を学び、日常での選択行動について考えます。	ワークシートで知識を整理する。
第8回	企業の役割と日本の産業構造	経済社会における企業の役割を学び、日本の産業構造や労働市場を概観します。	ワークシートで知識を整理する。
第9回	景気変動と日本経済の現状	マクロ経済という大きな観点から「景気」や日本経済の現状について考察します。	ワークシートで知識を整理する。
第10回	政府の役割と経済政策	政府の役割と現実的な経済政策に关心を向け、経済の課題を身近なものとして理解します。	日本の経済環境と経済政策についてレポートする
第11回	税の仕組みと経済制度	税の仕組みを通じて日本の財政実態と経済制度について学びます。	ワークシートで知識を整理する。
第12回	暮らしに関わる世界経済	貿易の働きを学び、日常生活の立場からモノ・カネの国際取引の実情を考察します。	ワークシートで知識を整理する
第13回	経済格差の現実	世界と日本の経済格差の実態に目を向け、「自助・共助・公助」について考えます。	「自助・共助・公助」について自身の考えをレポートする
第14回	自立した暮らし	社会の変化を見据え、自立した暮らしを築くための現実的な方法について学びます。	ワークシートで知識を整理する。
第15回	豊かさと幸せ	「経済的豊かさ」の追求と「心豊かな暮らし」ないし「幸せ」の実現について考えます。	「経済的豊かさ」と「幸せ」の関係について、自身の考えをレポートする

授業形態・授業方法

- スクリーンを活用した説明・講義を中心に行います。授業内で、経済に対する关心事項をアンケートし、質疑や討議の機会に、できるだけ关心事項について説明していきます。
- テーマごとにワークシートを配布します。知識整理と内容の理解を深める復習に取り組んでください。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
観察力：テーマを持って現状を客観的に把握することができる。
論理的思考力：物事の規則性を理解し、筋道を立てて考えることができる。
- ②自ら働く力
主体性：社会の問題を自らの問題として考え、自ら関わることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・授業テーマに合わせた課題レポート60点、期末試験40点の合計100点満点で評価する。
- ①評価対象となる課題レポートと評価点は以下の通り。
【第4回：5点、第10回：20点、第13回：15点、第15回：20点】
各評点について、要求された内容を満たす：50%、
要求された内容+講義内容を踏まえている：75%
要求された内容+講義内容を踏まえている+情報追加のうえ独自の視点から論じる：100%
- ②期末試験の評価基準は以下の通り
講義内容に準拠した解答：30点
全講義内容を踏まえ、自身の独自の言葉や視点による解答：40点

使用教科書

なし

参考文献等

What's経済学第3版 辻正次ほか 有斐閣アルマ
日本経済論・入門 八代尚宏 有斐閣
その他の文献は、適時、授業内で紹介する。

履修条件

共通科目

履修上の注意・備考・メッセージ

「自分の欲しいものが、欲しい時に手軽に手に入れられるのは、なぜ？」という素朴な疑問を解きほぐすことから、経済を理解することに努めます。皆さんは、各種のメディアで報道されている現実の経済事象についても関心を持つように努めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後での質問を歓迎する。連絡を取りたい場合は非常勤講師室に連絡をすること。

授業科目名	アジアの未来と日本				
担当教員名	今井孝司				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業は、アジア地域の概況と問題点、近未来的にどのように変動していくかを理解することを目的とします。
 アジアは政治体制や経済の進展度、自由度、そして宗教など多様な地域です。日本との関係も各々の国で様相が異なります。本授業では大きく3つの領域に分けてアジアの理解と日本との関係をひもといていきます。

1. 日本とアジアの関係：
人流に絞って講義を進めます。とりわけ近年アジアからの訪日者数が急激に伸びた理由についても言及していきます。
2. イスラーム世界と中国：
これから世界は暴発するイスラームと中国の動向がカギを握っています。受講生にとって両者についてはわからないことがたくさんあると思われますので、それらの概略が理解できるように授業を進めていきます。
3. 訪日者数が増加しているアジアの国：
中国はさておき、台湾、マレーシア、タイは訪日者が増えています。それらの国の概要と日本との関係を理解できるように、また学生が積極的に授業参加できるように授業を組み立てていきます。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	講義方針の伝達と簡単なクイズの実施 <ul style="list-style-type: none">・アジアと日本社会に関するクイズを出題する。・常識クイズは成績に加味しない。	<ul style="list-style-type: none">・第2回の課題をあらかじめ配布する。授業までに解答しておく。
第2回	アジアの範囲：アジアの地理および基礎データを認識する <ul style="list-style-type: none">・アジア地理の基礎事項、主要国の首都、人口、一人当たりGDPの順位、通貨を知る。	<ul style="list-style-type: none">・課題提出①：第1回で配布した課題（授業中加筆・校正したもの）を提出 …修正過程を観察する目的。第3回の授業前に返却する。・この課題から次回簡単な確認テストを行う。
第3回	出入国統計：日本人のアジア出国者数とアジアからの入国者数 <ul style="list-style-type: none">・日本人のアジア域内渡航先と訪日外国人の国籍別人数から、日本とアジア諸国間の人流を理解する。・小テスト①：第2回授業分の理解度確認テストを実施する。・課題③：関西を訪問する外国人観光客のニーズは何かについて、インターネット等から情報を収集し、400字程度にまとめ、次回提出する。	<ul style="list-style-type: none">・課題②（時間内）：・入国者について増加した国と減少した国について、その理由を社会環境や国交の状態等を加味した上でメンバー間の意見を調整し、ひとつの意見にまとめ（4人一組のグループ・ワーク）。グループ全体で評価する。データは「入国管理局出入国統計」を用いる。
第4回	在日外国人：日本のエスニック問題 <ul style="list-style-type: none">・政府政策および社会経済の変化が外国人の日本定住状況に影響を与えることを理解する。・国籍と就業分野、失業率の相関関係について理解する。・日系ブラジル人はなぜ製造業に多く就業していたかを理解する。・「ニューカマー」と「オールドカマー」の違いを理解する。	<ul style="list-style-type: none">・課題④：講義ノート（フォームは予め用意する）をとる、簡単な演算を行う、加えて自らの意見を付して提出する。
第5回	アジアの宗教：アジアの宗教分布と衝突 <ul style="list-style-type: none">・世界の宗教地図を地政学的手法で読み解く。白地図を色分けする。・アジアの複雑な宗教地図を俯瞰し、そこに潜在する中国と韓国の宗教問題を理解する。・イスラームの人口増は将来世界にどのような影響をもたらせるか、中東から欧州へイスラーム教徒が流入する背景、各地イスラーム教徒の原理回帰指向など、理解しにくいイスラーム世界について基礎的な知識を得る。	<ul style="list-style-type: none">・世界の中でのイスラーム勢力について大枠を把握する。・食事制限（ハラル）を含め、イスラームのタブーを理解する。・マララ・ユスフザイ氏のインターネット記事を検索し、次回まで読んでおくこと。次回の課題のため必須なのでプリントアウトしておくことが望ましい。
第6回	おイスラームの辯：イスラーム女性のドレスコードとスポーツ進出への挑戦 <ul style="list-style-type: none">・イスラームにおける女性の地位について、結婚、ドレスコード、外出、スポーツ、自動車の運転などの制限について、非イスラームの者としてどうとらえたらよいのか。想像を働かせる。	<ul style="list-style-type: none">・課題⑤：上記を理解した上で、前回読む課題として検索指示しておいた記事を参考に、マララ・ユスフザイ氏の行動について、自らの意見を記述の上、提出する。 ※この課題は4人一組になり、共同で議論を行ない、メンバーの意見を取り入れて書くこと。評価は個人単位とする。・なぜ、マララ・ユスフザイ氏は命をかけてまで行動するのか。自分ならどうするかという観点から議論を深める。
第7回	中国の爆発：一党独裁政治と高度経済成長・米国との霸権争い <ul style="list-style-type: none">・米国がパワー・ダウンする一方で、パワーを誇示し始めた中国。中国が行動を起こした先で様々な外交トラブルが発生している。・ここでは「南沙諸島軍事基地建設」、「アジアインフラ投資銀行」、「爆買いと街でのトラブル」をとりあげる。・周辺国との歴史および社会事情から考証を行ない、米国と霸権争いをするに至った過程を探る。	<ul style="list-style-type: none">・パクス・アメリカーナにおけるTPP戦略、イスラームの「拡大」、中国の「霸権主義」について、相互関連性を理解する。
第8回	華僑・華人：アジアのチャイニーズ・ネットワーク <ul style="list-style-type: none">・中国人の人間関係構造を知る。・小室直樹の中国社会理論からチャイニーズ・ネットワークの本質を考える。	<ul style="list-style-type: none">・なぜパートナーとして「最も信じられる中国人」と「約束を守らない中国人」という評価が存在するのか。その根本的な人間関係を理解する。・なぜ悪の地下組織である「蛇頭」の人間関係が強固なのかまで読み解く。・講義ノート（フォームは予め用意する）をとる。提出は不要。・小テスト②：時間内授業について、観光学科と幼児教育学科別の設問。

第9回

女工哀歌：グローバル経済を下支えした存在とは

◎ミカ・X. ベレド監督『女工哀歌』鑑賞

- ・中国広東省のジーンズ工場を盗み撮りしたドキュメンタリーの鑑賞。
- ・価格競争のコストダウンは、生産現場の最前線にのしかかっている。
- ・労働年齢に至らない少女を雇い、低賃金と長時間労働を強いられる女工たち。しかし彼女達を苦しめている本当の存在はわからないようになっている。

第10回

ネット言語：急変するインターネット上の使用言語

- ・ここ数年インターネット上で使用される言語に大きな異変が起きている。その理由をデータに基づき講師が読み解く。
- ・読み解き残しておいた項目について受講生に考えてもらう。

- ・ドキュメンタリーのレジュメとメモを用意する。集中力と持続力をもってメモをとり、出てくる人物とその関係を整理しながら、不合理的な連鎖を読み解く。
- ・本当に彼女たちを苦しめているのは誰か、突き止めること。
- ・課題⑥：もし自分が彼女たちだったらどうするだろうか。どうすればこのような環境から抜け出しができるかを考え、600～800字程度にまとめ、翌々週に提出。

課題⑦（時間内）：配布した課題ワークシートに必要事項（数値データ）に加え、グループワークでの議論をもとに、各自意見を書き込み、時間内に提出する。
※この課題の後半は4人一組のグループワーク。評価は個人単位とする。

第11回

マレーシア：民族問題をかかえた、先進国間近な国

- ・「ワワサン2020」というスローガンを掲げ、あと5年後の先進国入りを目指すマレーシア。
- ・3つの主な民族はそれぞれあまり干渉しないで生活するという「複合国家」を続けてきた。
- ・しかし世界情勢が民族意識に目覚めはじめたのと時を同じくして、民族のいがみ合いが始まつた。
- ・それぞれの民族がどういう経緯でこの地にいるのか、どういう職種につき、所得はどうなっているのか。パワーバランスはどうか。
- ・以上は講義する。

◎課題⑧：観光学科；観光地を3つ以上取り上げ、その紹介文を書くこと。ワードでA4紙4枚以上。写真はそれぞれの観光地につき、2枚は必ず掲載すること。写真の大きさは10cm四方までとする。提出は翌々週。

◎課題⑨：幼児教育学科；マレーシアの教育制度について、図を用い、民族というキーワードを必ず入れて説明しなさい。ワープロでも手書きでも構わない。A4紙2枚以内。提出は翌々週。

第12回

エンタテイメント：韓国とシンガポールのエンタテイメント…氏名のカタカナ表記がもたらせたこと

- ・韓国芸能人の氏名表記が漢字からカタカナへと変わったタイミングから、日本人にとっての位置づけがあこがれの対象となつた。
- ・その伏線にシンガポール人ディック・リーの存在があったことをひも解く。
- ・ディック・リーからシンガポールの管理社会についてひもといていく。

- ・日本と韓国、シンガポール（一部台湾）のエンタメとサブカルチャーがどのようにかかわってきたか、概略を理解する。

第13回

台湾社会文化：台湾社会のエスニック構造解題と観光開発

- ・戦後台湾は政治エスニックを軸に社会分断されたことを理解する。
- ・一方で台湾は国連を脱退してから、政治的に国際社会から孤立し、厳しい外交政策が強いらされている。
- ・これらの契機とその過程について理解する。

◎課題⑩：観光学科；個別に観光地を3つ指定するので、その紹介文を書くこと。ワードでA4紙4枚以内。写真はそれぞれの観光地につき、2枚は必ず掲載すること。写真の大きさは10cm四方までとする。提出は翌々週。

◎課題⑪：幼児教育学科；台湾の結婚事情と、出生率についてインターネット上で調べ、アナタが思う問題点を書きなさい。ワープロでも手書きでも構わない。A4紙2枚以内。提出は翌々週。

第14回

タイ社会文化：産業の高度化と社会リスク

- ・目覚ましい経済発展を遂げているタイ社会。製造業と農業、観光業も好調である。
- ・しかしたびたび発生する大規模なデモによる「政情不安定」、工業団地を飲み込む「大洪水」というカントリーリスクがある。
- ・だが、社会に根付く最も大きな問題は「南北格差」である。
- ・以上は講義する。

・小テスト③：時間内授業について、観光学科と幼児教育学科別の設問。

第15回

成熟の日本：日本は凋落しない？

- ・今後国力が衰退していくといわれている成熟社会日本。
- ・しかし経済発展しなければならないという呪縛から解き放たれ、物質主義、効率主義から脱出し、精神的な付加価値が高い日本を満喫する。
- ・既存の価値観から離れ新しい価値観を創出することで、世界もうらやむ日本になるのではないかという提案をおこなう。

- ・日本の潜在的パワーに気づき、未来志向の生き方を選択するきっかけとする。

定期試験

定期試験の実施**授業形態・授業方法**

- ・基本は座学で、コンピュータや動画、DVDを用いた授業展開をしますが、途中3回のグループワークを設けています。
- ・グループワークは演習に準じる形式になります。
- ・座席は指定します。

養うべき力と到達目標

- ①自ら動く力
 - ・好奇心：観光学科の講義では、取り上げる社会のタブーや行為について理解できる
 - ・幼稚園教育学科の講義では、取り上げる社会の教育問題や子ども事情について理解できる
 - ・主体性：講義で取り上げる社会について、必要とする情報を収集・分析することができる
- ②幅広い教養・品格
 - ・文化的な素養：民族と宗教、地政学によって文化圏が形成されていることがわかる
 - ・社会知識：日本と取り上げるアジア社会との歴史と現在の交流状況がわかる

成績評価の観点と方法・尺度

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1. 定期試験 | 50点 |
| 2. 授業内課題 | |
| ・通常課題 | <small>①・③・④・⑥回 3点×4回 (合計12点)</small> |
| ①は「宿題」をこなしたか、授業を聴いていたかを判断する | |
| ③は検索スキルと文章のまとめ方を判断する | |
| ④は仕上がりのきれいさと独自の視点を判断する | |
| ⑥は作品をしっかりと鑑賞していたか、自分の意見が明確かを判断する | |
| ・グループワーク | <small>②・⑤・⑦回 4点×3回 (合計12点)</small> |
| ②は協力して一つの意見を創り上げられたかを判断する | |
| ⑤は予め資料を用意してあつたか、その人物像をとらえられているか、グループで討論したかを判断する | |
| ⑦数字データの手がかりから、どのように推敲したか、グループでの協力はどうだったかを判断する | |
| ・プレゼン的課題 | <small>⑧・⑨回 10点×2回 (合計20点)</small> |
| どちらも検索技術と文章の推敲の程度、加えて独自の視点があるか、出来上がりは綺麗かを判断する | |
| 3. 小テスト | <small>2点×3回 (合計 6点)</small> |

使用教科書

特に指定しない。毎回Bサイズの講義レジュメを配布する。各自ファイルの上管理してください。

参考文献等

ジャン=クリストフ・ヴィクトル『最新 地図で読む世界情勢 これだけは知っておきたい世界のこと』(CCCメディアハウス、2015年)

履修条件

全学の学生が履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・観光学科1年生の必須科目です(51009・52011)。
- ・幼稚教育学科1年生の必須科目です(14002)。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応します。
アドレス : euage923[アットマーク]ican.zaq.ne.jp 今井孝司

授業科目名	日本事情				
担当教員名	佐伯暁子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、①日本の社会や文化について学び理解を深めるとともに、②日本や自分の母国、他の留学生の母国との比較を行うことで、広い視野に立って考察できるようになることを目指します。また、③自分の母国について紹介し、意見交換することによって、自分の意見を正確に伝えることができ、④他の人の発表を聞いて、主張を正確に把握できるようになることが本授業の目的です。

授業計画

授業回	授業題名	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション—日本事情とは—	「日本事情」の目的と全体的な計画を学びます。また、日本事情の概要について学びます。	「日本事情」で学びたいテーマを考える。
第2回	生活（1）「住所を覚える」「電話をかける」「手紙を出す」	住所、電話、手紙について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深めます。	タスク①「住所をおぼえましたか」 タスク②「電話番号をおぼえましたか」
第3回	生活（2）「日本の家に住む」「あなたのまわり」	日本の家、店や地図について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深めます。	タスク①「間取りを書きましょう」 タスク②「日本人のおふろ、トイレの使い方を知っていますか」 タスク③「ごみを燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみ、粗大ごみに分けましょう」 タスク④「家のまわりの地図を書きましょう」
第4回	生活（3）「買い物をする」「銀行へ行く」「食事に行く」	買い物、銀行、食事について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深めます。	タスク「食事のとき気をつけましょう」
第5回	生活（4）「乗り物に乗る」「仕事をする」	乗り物、仕事について学び、日本の基本的な日常生活文化への理解を深めます。	タスク「あなたの町のバスの乗り方はどれですか」
第6回	生活のまとめ	自分の母国と比較しながら、日本の生活について考えたことをまとめて発表します。	発表内容を小レポートにまとめる。
第7回	地理（1）国土、山と川	日本の国土、山と川について学び、基本的な日本の地理についての理解を深めます。	タスク①「日本の川はどう流れているでしょう」 タスク②「火山があるとどんなよくないことがあるでしょう」
第8回	地理（2）気候、日本の一年	日本の気候、年中行事について学び、基本的な日本の地理についての理解を深めます。	タスク①「台風、夏の風、冬の風はどこから来ますか」 タスク②「写真を見て考えましょう」 タスク③「何の日でしょう」
第9回	地理（3）人口	日本の人口について学び、基本的な日本の地理についての理解を深めます。	タスク①「人口の多い大都市の名前を書きましょう」 タスク②「日本では大都市はどんなところにできるでしょう」 タスク③「人口が増えるとどうなるでしょう」
第10回	地理のまとめ	自分の母国と比較しながら、日本の地理について考えたことをまとめて発表します。	発表内容を小レポートにまとめる。
第11回	社会（1）衣服、食物、住居	日本の衣服、食物、住居について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深めます。	タスク①「話しましょう」 タスク②「原料を知っていますか」 タスク③「家の賃貸契約のとき、何にどのくらいかかりますか」
第12回	社会（2）出生率と平均寿命、ライフ・サイクル、結婚と離婚	日本の出生率と平均寿命、ライフ・サイクル、結婚と離婚について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深めます。	タスク「話しましょう」
第13回	社会（3）日本人の一日、便利さとゆとり、教育	日本人の一日、便利さとゆとり、教育について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深めます。	タスク「考えましょう」
第14回	社会（4）労働と賃金、貯蓄	労働と賃金、貯蓄について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深めます。	タスク「日本で一人暮らしをすると、一ヶ月でどのくらいかかるでしょう」
第15回	社会のまとめ、「日本事情」まとめ	自分の母国と比較しながら、日本の社会について考えたことをまとめて発表します。また、本授業に参加して日本に対する考え方がどのように変化したのか考えます。	発表内容を小レポートにまとめる。

授業形態・授業方法

- ・日本事情の基礎を学ぶため、講義が中心となります。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、第6回、第10回、第15回には講義内容を踏まえた発表や議論を取り入れます。
- ・発表内容をまとめる、小レポートに取り組みます。
- ・配布資料の「タスク」を各回の宿題とします。授業内容を参考にして取り組んでください。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
傾聴力：他人の意図や主張を丁寧に正確に把握しようとする力
柔軟性：意見の違いや立場の違いを理解する力
伝える力：自分の意図や主張を他者に対して正確に伝える力
- ②幅広い教養・品格
文化的素養、社会知識

成績評価の観点と方法・尺度

（発表：10点×3回（合計30点））
 態度：5点
 内容：5点
 （小レポート：10点×3回（合計30点））
 授業内容や自分の意見を踏まえて書かれている：10点
 授業内容を踏まえて書かれている：6点
 （期末試験：40点）
 日本事情に関する基本的な問題を出題する。

使用教科書

なし。随時補足資料を配付する。資料はファイルにとじて管理すること。

参考文献等

- ・「日本事情」プロジェクト『話そう考えよう初級日本事情』（株式会社高山、2013年）
- ・国際交流基金『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第11巻「日本事情・日本文化を教える」』（ひつじ書房、2014年）

履修条件

留学生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

火曜3限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業科目名	美学			
担当教員名	田中美子			
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数 2

授業概要

「美学」は「哲学」です。絵画（絵本も含む）、音楽、遺跡、自然美などの具体的な作品を紹介しながら、その「美（すばらしさ、すごさ、かっこよさ、おもしろさなど）」を、言葉にして考えます。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	美という理想	美学は哲学です。哲学は真善美といった理想について考える学問です。	美は、真や善とどのように違うのか、考えてみましょう。
第2回	ミマーシス（模倣的再現）	この世にありそうでない理想を表現することについて、考えます。	自分にとってのミマーシス的な表現を、考えておきましょう。
第3回	レアリズム（写実主義）	この世にある美を表現することについて、考えます。	自分にとってのレアリズム的な表現を、考えておきましょう。
第4回	エクスプレシオン（表現、表出）	個人の内面を表現することについて、考えます。	自分にとってのエクスプレシオン的な表現を、考えておきましょう。
第5回	ディスカッション	さまざまな表現が、ミマーシス、レアリズム、エクスプレシオンのどれに当てはまるかを、一緒に考えます。	三つの表現の違いについて、まとめておきましょう。
第6回	西洋の美、東洋の美	西洋の美意識と、東洋の美意識の違いを、それぞれの風土から考えます。	自分にとって西洋的だと感じるものと、東洋的だと感じるものを、考えておきましょう。
第7回	能の表現	日本の表現の特徴を、能から考えます。	能舞台について、調べてみましょう。
第8回	複式夢幻能	能が、あの世をどのように表現しているかを、探ります。	歌舞（能の台本）について、調べてみましょう。
第9回	狂言の表現	能と比べながら、狂言を紹介します。	狂言について、調べてみましょう。
第10回	ディスカッション	日本の伝統芸能などについて、自分の知っていることを、挙げてみましょう。どのようなところが良い（美しい）か、意見を出し合ってみましょう。	日本の伝統芸能の未来についても、考えてみましょう。
第11回	芸術の力（西洋）	芸術が人生の力になることを、旧約聖書から考えます。	自分を励ましたくれた芸術を、思い出しておきましょう。
第12回	芸術の力（東洋）	芸術が大切にされてきたことを、孔子の思想から考えます。	身の周りで大切にされている芸術や美を、考えておきましょう。
第13回	「美しい」と「きれい」	「美しい」とたんなる「きれい」の違いを考えます。	自分にとって「美しいもの」と「きれいなもの」を、考えておきましょう。
第14回	学生による発表（前半）	自分にとっての美（いいなと思うもの）について、発表しましょう。	発表の準備をしましょう。
第15回	学生による発表（後半）	自分にとっての美（いいなと思うもの）について、発表しましょう。	他の人の発表を、自分はどう受けとめるか、考え方でみましょう。

授業形態・授業方法

講義中心に進めます。写真（OHP使用）や音楽（CD使用）、芸術性の高い絵本などを紹介します。ノートを用意してください。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力（傾聴力）
 - ・他人の意図や主張を丁寧に正確に把握できる。
- ②学びあう力（柔軟性）
 - ・意見の違いや立場の違いを理解できる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 【授業内レポート提出：60%】
 - ・毎回の授業の終わりに、授業の「要旨」と「考察」をまとめて提出します。
- 【学期末発表とレポート提出：40%】
 - ・最終2回（1月）の授業で発表し、その発表原稿をレポートとして提出します。

使用教科書

なし

参考文献等

- 今道友信『美について』（講談社現代新書）
- 佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会）
- 小穴晶子『なぜ人は美を求めるのか』（ナカニシヤ出版）
- 田中久文『日本美を哲学する』（青土社）

履修条件

全学の学生が履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

075-801-8162(自宅 9:00-21:00)

授業科目名	暮らしと金融				
担当教員名	宮宇地俊岳				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

「暮らしと金融」では、世の中でお金が流通するしくみについて学びます。高度に発展した現代社会においては、金融のしくみによって、円滑な経済活動が支えられています。この講義では、社会生活の中で応用することができる、金融に関する基本的な知識の習得を目指します。とりわけ、「金融システム」や「金融市场」に関するトピックを中心に、私たちの生活が金融のしくみとどのように関係しているのか、という視点を重視しながら講義を展開します。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 ガイダンスと私たちの生活にかかわる経済問題 講義の概要を説明し、私たちの生活にかかわる経済問題について考えてみます。	新聞やニュースを見て、世の中で取り上げられている経済問題をチェックしよう。
第2回 経済活動と金融 資本主義経済と金融の役割	「経済学」の講義内容を復習し、経済活動の中での金融の役割について考えてみよう。
第3回 貨幣の機能 経済活動と貨幣の役割	貨幣の歴史を調べて、経済活動における貨幣の役割を理解しよう。
第4回 金融機関の役割(1) 金融システムにおける中央銀行（日本銀行）の役割	日本銀行に関するウェブサイトやニュースについて調べてみよう。
第5回 金融機関の役割(2) 市中銀行（普通銀行）の業務と役割	私たちの生活の中における銀行の役割について考えてみよう。
第6回 金融機関の役割(3) 金融取引と決済のしくみ	決済システムのフローチャートを作成し、そのしくみを理解しよう。
第7回 学外授業 金融に関連する施設の見学（予定）	見学する施設の概要について、事前にしっかりと調べよう。
第8回 金融市场(1) 金融市场の概要	世の中にはどのような金融市场が存在するのか、自分なりにまとめてみよう。
第9回 金融市场(2) 証券市場の概要	新聞やインターネットを通して証券市場に関するデータを入手してみよう。
第10回 金融市场(3) 金融システムと株式市場の役割	新聞やインターネットを通して株式市場に関するデータを入手してみよう。
第11回 金融市场(4) 株式市場とリスク	新聞記事やニュースを検索し、株式市場におけるリスクについて考えてみよう。
第12回 金融市场(5) 短期金融市场の概要	新聞やインターネットを通して短期金融市场に関するデータを入手してみよう。
第13回 金融市场(6) 金融派生商品（デリバティブズ）について	実際にどのような金融派生商品が存在するのかを調べてみよう。
第14回 金融と資産運用 資産運用とポートフォリオ理論の概要	資産運用に関するリスクを理解して、自分自身の資産運用について考えてみよう。
第15回 講義のまとめ 講義全体の復習とまとめ	各回の講義内容をもう一度復習し、試験対策をしよう。

授業形態・授業方法

基本的に板書やプロジェクターを用いた講義形式ですが、時間が許せばVTRなどの映像資料も講義に取り入れたいと思います。受講生には発言等を通して講義への積極的な参加を期待します。

養うべき力と到達目標

学習成果：金融のしくみについて理解し、社会生活の中で応用することができる金融に関する知識を習得する。
 到達目標：（1）金融に関する基本的な用語を習得する。（2）経済の中での各金融機関や金融市场の役割を理解する。（3）私たちの生活と金融との関係について理解することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「経済活動と金融の役割に関する理解」、「金融のしくみに関する包括的な理解」、「金融に関する用語の理解」の3つの観点から理解度を評価。

尺度：それぞれの観点ごとの到達目標に達しているか否かにより、評価。
 評価方法：定期試験80%、受講態度（講義への参加度等）20%で総合評価。

使用教科書

なし。講義ノート、必要な資料は毎回配布します。

参考文献等

初回の授業でリーディングリストを配布します。また、講義内でも適宜紹介します。

履修条件

1回生前期科目である「暮らしと経済」の内容を復習して下さい。

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回、授業の予習、復習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業終了後、非常勤講師室で質問を伺います。

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	石井基博				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

様々な人権問題の考察を通じて、人権（差別問題）についてのより高い問題意識を持つとともに、個人的・社会的責任力と倫理的判断力を養うことが、この科目的目標です。
ところで、人権は大切なものです。守られるべきものです。この考えに反対する人は恐らくいないでしょう。それでは、なぜ人権は大切であり、守られなければならないのでしょうか。授業では、現代の主要な人権の問題について、人権の歴史を振り返りながら、私たち自身の問題として主体的に取り組むべく、考えていきます。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	現代社会と人権（授業の到達目標と進め方について）	20世紀における人権問題の取り組みの伸長と人権侵害との両側面について考えます。	「20世紀における人権問題の取り組み」について復習する。
第2回	「人権」とはどういうことを言うのか	「人権」の基本的な意味について確認するとともに、その由来についても理解します。	「人権」の意味について復習する。
第3回	人権問題を考える（1）差別と人権（グループディスカッションと発表）	私たちの身近な人権や差別の問題について、グループになってディスカッションし、その後はグループごとの発表をしてもらって、さらに考えを深めます。	グループワークを振り返り、復習する。
第4回	日本国憲法における人権①日本国憲法における人権規定	日本国憲法における基本的な人権規定の内容について理解します。	日本国憲法における人権規定について復習する。
第5回	日本国憲法における人権②人権規定の実態（問題点）	日本国憲法における基本的な人権について、十分に守られていない問題点について検討します。	人権規定の実態（問題点）について復習する。
第6回	人権問題を考える（2）いじめについて（グループディスカッションと発表）	いじめの問題について、グループになってディスカッションし、その後はグループごとの発表をしてもらって、さらに考えを深めます。	グループワークを振り返り、復習する。
第7回	現代の様々な人権（1）子どもの人権①いじめ	学校での子どもの人権、特にいじめの問題について、その特徴や解決策などを考えます。	子どもの人権の問題（いじめ）について復習する。
第8回	現代の様々な人権（1）子どもの人権②体罰	中間レポート資料配布 学校での子どもの人権のうち、体罰の問題について考え、検討します。	子どもの人権の問題（体罰）について復習し、配布資料を通読する。
第9回	現代の様々な人権（1）子どもの人権③校則	学校での子どもの人権のうち、校則の意義や問題点などについて考え、検討します。	子どもの人権の問題（校則）について復習し、配布資料を通読する。
第10回	人権問題を考える（3）ビデオ鑑賞・グループディスカッションと発表	人権問題（障がい者の人権）についてのビデオを鑑賞して、その後内容についてのグループディスカッションと発表を行います。	ビデオ鑑賞・グループワークを振り返って復習し、中間レポートを作成する。
第11回	現代の様々な人権（2）障がい者・患者の人権①障がい者の歴史	中間レポート提出 障がい者の人権の歴史を振り返って、その取り組みの意義について考えます。	「障がい者の歴史」について復習する。
第12回	現代の様々な人権（2）障がい者・患者の人権②障がいとは何か	障がい者の人権問題について、障がいとは何かという観点からその問題の理解をさらに深めます。	「障がいとは何か」について復習する。
第13回	現代の様々な人権（3）部落差別問題①被差別身分の社会的起源	部落差別問題について、被差別身分が歴史の中でどのように生み出されたかをその社会的起源にさかのぼって考えます。	「被差別身分の社会的起源」について復習する。
第14回	現代の様々な人権（3）部落差別問題②近代社会と被差別部落	近代社会における部落差別の撤廃の取り組みについて理解するとともに、その差別問題について考えます。	「近代社会と被差別部落」について復習する。
第15回	現代の様々な人権（4）戦争と人権	戦争における人権侵害について検討しながら、平和的生存権の意義を理解します。	平和的生存権について復習する。

授業形態・授業方法

基本的に講義形式で行います。また、自覚的な態度が身につくように質疑応答や、意見発表・グループディスカッションおよびグループ毎の発表などの学生同士の意見交換といった協働授業の形式、ビデオ鑑賞などを取り入れながら授業を進めます。

養うべき力と到達目標

◎幅広い教養・品格

- ・倫理・社会観：人権問題（差別問題）についてより高い問題意識と倫理的判断力を身につける。
- ・文化的教養：様々な人権問題についての基本的な知識を獲得し、人権の視点から現代社会の文化・制度を理解できる。
- ・社会知識：他者の立場・価値観を理解できるとともに、人権（差別）問題についての自分なりの見解を表明できる。

◎アカデミックスキル

- ・記述・文章表現力：基本的な語彙力のもとに、自分の考えを表明した文章を正確に記述できる。
- ・自己表現力：グループディスカッションを通じて、コミュニケーション力を身につける。

成績評価の観点と方法・尺度

評価の観点：テーマについてのキーワードを十分に理解し、基礎知識のもとに自分の意見・考えを提示できている。

◎定期試験 60%

：授業で取り上げたテーマについてその基礎知識を説明し、かつ自分の意見・考えを述べる形式（論述式・記述式）の問題を出題する。

◎授業毎の小レポート 15%：授業内容を振り返ってその要点・コメントを記述する（毎回1点の15点満点）

◎授業毎のワークシートによる小テスト 15%：不正解問題については練習課題を提出する（毎回1点の15点満点）。

◎中間レポート 10%：課題資料を読んで1,200字程度のレポートを提出する。

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献等

横藤田誠・中坂恵美子著『人権入門〔第2版〕－憲法／人権／マイノリティー』（法律文化社、2011年）
古橋エツ子編『新・初めての人権』（法律文化社、2012年）
その他の参考文献は授業中にその都度紹介する。

履修条件

全学の学生が履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

高校で学習する現代社会、政治・経済の知識を必要とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業の前後に質問に答える。

Eメールでの質問は、zumwohl75@yahoo.co.jp（hの後はエル）に送付する。
氏名と学籍番号を記入のこと。

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小宮山直子				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

この授業では、日本国憲法をまずはその成立過程から学びます。そして、憲法の基礎的知識を習得し、社会における多様な問題について、憲法の視点から、自分の力で考える能力を身につけることを目標とします。「憲法」は「難しい」というイメージがあるかもしれません、授業では、できるだけ身近な素材を取りあげますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考える機会になります。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	「憲法」とは？	受講上の注意点などについて説明する。私たちの生活と「憲法」の関係を考える。憲法を含む、日本法の全体構造および日本国憲法の構造を学習する。	日本法全体における憲法の位置づけを確認する。
第2回	「世界」の「憲法」の成立と歩み	欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。特に立憲主義の特徴について各自でまとめる。
第3回	「日本」の「憲法」の成立と歩み	日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。特にペアテクニックの意義について。
第4回	「日本国憲法」の基本方針・基本構造	日本国憲法の基本原理および基本構造（統治の基礎と人権の基礎）を確認する。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：国民主権、平和主義、基本的人権の保障
第5回	法律はどうやって作られ、運用されるのか？	18歳選挙権が実現される今、国会の役割、選挙権の意義を考える。	今回の授業のポイントをもう一度確認しておくこと。キーワード：国会の役割、参政権の意義
第6回	裁判所の役割とは？	日本の裁判などの組織のもとで、どのように行われているのか。裁判所が法律を審査するとは？——違憲審査制を検討する。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：最高裁判所、違憲審査、裁判員制度
第7回	天皇制とは？	「象徴」天皇制と国民主権の関係を考える。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：「象徴」天皇制、国民主権
第8回	憲法のもとに保障される人権とは？	日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：「人権」の歴史、日本国憲法における「人権」規定
第9回	表現の自由が保障される理由は？	自由権①——「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する。	今回の授業のポイントをもう一度確認しておくこと。キーワード：表現の自由の価値—自己表現、自己統治、知る権利
第10回	被疑者・被告人に保障される権利とは？	自由権②——もし逮捕されたら？近年の冤罪事件を検討しつつ、憲法で保障される刑事手続きにおける被疑者・被告人の権利を考える。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：被疑者・被告人の権利、冤罪事件、死刑制度
第11回	「最低限の生活」の保障とは？	社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の経済格差の問題、貧困問題を考える。教育権の意義を考える。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：社会権の歴史、生存権と生活保護制度
第12回	法の下の平等とは？	憲法上の「平等」の意味は？14条・24条をめぐる近年の重要判例を学びつつ、家族をめぐる法や諸問題を憲法を通して検討する。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：平等をめぐる重要判例、家族をめぐる法の動き
第13回	自分のことはすべて自分で決められるのか？	新しい人権と「自己決定権」について考えてみる。子どもの権利について検討する。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：自己決定権、子どもの権利
第14回	これまでの「平和」・これからの「平和」について考える	戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考える。	今回の授業のポイント（レジュメのまとめ）をもう一度確認しておくこと。キーワード：「平和主義」と9条
第15回	憲法改正とは？改正をめぐる諸問題	憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	授業全体のポイントをもう一度確認しておくこと。キーワード：憲法改正、国民投票

授業形態・授業方法

基本的には講義方式ですが、出席者の発言を期待しています。授業では、必要に応じてレジュメや資料を配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんには、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。

養うべき力と到達目標

①学び合う力：
日本国憲法の基本原理及び基礎知識を習得し、憲法をめぐって多様な意見があることを理解することができる。

②幅広い教養・品格
わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、憲法の視点を踏まえつつ、現在の日本社会の問題について自分の意見を述べることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「憲法に関する基礎知識」「憲法に関する諸問題・重要判例の理解」
 尺度：重要点を十分に理解できている。諸問題について自分の意見を明確に述べている。
 評価方法：
 ①授業内レポート 24%：
 毎回（5・10・15回目を除く）、授業の最後に「まとめレポート」を提出する。
 2点×12回=24点
 2点：重要点を十分に理解できている。
 1点：重要点の理解がありまいである。
 ②中間テスト：16%
 5回目・10回目にそれまで学んだことの振り返りテストを行う。
 ③本試験：50%
 本試験期間中に全期間の内容を範囲とした試験を行う
 ④授業態度：10%
 授業内での積極性及び取り組み状況

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布します。

参考文献等

芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店
 駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂
 『別冊ジュリスト 憲法判例百選 I・II』有斐閣
 『セレクト六法』岩波書店

履修条件

全学の学生が履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

日頃から、多様な文献や新聞などのメディアを通して、政治・社会問題に関心をもつように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に講義室で質問に応じます。

授業科目名	文学・歴史・宗教				
担当教員名	三上聰太				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

高校の歴史の教科書を思い浮かべてください。「明治維新」や「文明開化」といった言葉とともに、あるページからとつぜんはじまる近代。授業ではこの近代について、文学作品から考えてゆきます。文学作品はその時代を生きた人々の証言です。そこから見えてくる近代は、われわれがこれまで知識として学んできた近代とは少し違っているはずです。本科目では“近代を読みかえる”をキーワードに、人文科学の基本的な考え方を理解してゆくことが目標です。

授業計画

授業回数	授業題名	学習課題（授業時間外の学習）			
		課題内容	参考書	提出物	提出期限
第1回	オリエンテーション 人文科学の基礎的な方法論から、文学・歴史・宗教を学ぶことの意義について考える。高校までの学習をふり返りつつ、この授業の進めかたや、授業ごとの小レポートの書きかたについて説明する。	学習プリントを読んでくる。			
第2回	明治(1) キーワード:「パラダイム」 日本人にとっての「近代的自我」の目覚めはどのようなものだったのか。パラダイムという考え方を理解するとともに、前近代と近代の連続性と非連続性を考える。	森鷗外「舞姫」を読んでくる。			
第3回	明治(2) キーワード:「クロノトボス」 交通手段の発達やそれによって広がった人々の出会いは、社会にどのような変化をもたらしたのか。「移動」から近代という時代を考える。	夏目漱石「三四郎」を読んでくる。			
第4回	明治(3) キーワード:「記憶」 日清戦争は、近代化された軍隊によって戦われたのか。歴史から消されていった人々の存在に目を向けつつ、文学作品が何を語ろうとしているのかを考える。	泉鏡花「凱旋祭」を読んでくる。			
第5回	明治(4) キーワード:「麻薬」 日本はイギリスのアヘン戦争から何を見いだしたのか。台湾統治をめぐる問題について日本語で書かれた当時の台湾文学から考える。	呂赫若(ろかくじやく)「合家平安」を読んでくる。			
第6回	明治(5) キーワード:「性」 「からゆきさん」、あるいは「娘子軍」とは何をさす言葉だったのか。当時、日本人の海外進出を支えていたものとは一体何だったのかを考える。	徳永直「島原女」を読んでくる。			
第7回	大正(1) キーワード:「近代戦」 「忘れられた戦争」とされるシベリア出兵とは何だったのか。第一次世界大戦からはじまった「近代戦」を、当時の反戦文学から考える。	黒島伝治「渦巻ける鳥の群」を読んでくる。			
第8回	大正(2) キーワード:「テロリズム」 関東大震災による社会不安やその前後にはじまった資本主義社会が、文学作品にどのようになかたちで描かれたかを考える。	梶井基次郎「檸檬」を読んでくる。			
第9回	大正(3) キーワード:「身体性」 文学作品において「労働者」という階級はどのように登場したのか。文学雑誌の挿し絵なども見ながら、そのイメージの形成について考える。	宮崎賢夫「坑夫」を読んでくる。			
第10回	昭和(1) キーワード:「面従腹背」 なぜ日本は「満洲国」という国をつくったのか。また、そこに住む人々によって書かれた文学が、日本人への抵抗や反感をどのように内在化させているかを考える。	爵青(しゃくせい)「大觀園」を読んでくる。			
第11回	昭和(2) キーワード:「脱植民地」 朝鮮人が朝鮮人であることを名乗れなかった時代、自己のアイデンティティの矛盾と向きあつた彼らの文学が、何に未来への希望を託していたのかを考える。	金史良(きむさりやん)「光の中に」を読んでくる。			
第12回	昭和(3) キーワード:「歴史的瞬間」 人は歴史的瞬間を生きるのか。「終戦の日」が歴史の名において語られる一方、文学作品がなぜこの日を日常性とともに描いたのかを考える。	水上勉「リヤカーを曳いて」を読んでくる。			
第13回	昭和(4) キーワード:「国民国家」 日本にとって「沖縄」とは何だったのか。一民族一国家というイデオロギーが何を疎外しつづけてきたのかを、戦後の沖縄文学のありかたから考える。	目取真俊「ブラジルおじいの酒」を読んでくる。			
第14回	平成(1) キーワード:「国内植民地」 「北海道」の歴史について、開拓やその挫折をめぐる物語が現代文学においてどのように再編されているのかを考える。	村上春樹「羊をめぐる冒險」を読んでくる。			
第15回	平成(2) キーワード:「大きな物語」 ジャパンニメーションが文学作品に代わって内在化させているものとは何か。日本のアニメ特有の世界観やストーリーの枠組みから考える。	(アニメについては授業中に視聴する。)			

授業形態・授業方法

こちらが事前に配布する文学作品をもとに授業を進めます。教科書ではなくプリントをつかいますので、各自がしっかりと保管してください。また、授業ごとに小レポートを提出してもらいます。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
 - ・文学作品を社会的・文化的背景と関わらせながら読み、そこから問題点を見つけることができる。
- ②専門的な力
 - ・人文科学の基本的な考え方として、文学や歴史、宗教が相互補完関係をもっていることを理解できる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 観点：「批判的な読解力」「積極的な思考力」「論理的な記述」について
 尺度：身に付いている・十分身に付いている・応用して実践できるかどうかで判断する。
 評価方法：以下の項目の合計100点満点で評価する。
- ①【小レポート：20%】
 事前に配布した文学作品をしっかり読んできているかを確認するため、授業ごとに小レポートを行う。
 - ②【期末レポート：50%】
 授業の内容をふまえ、各自がテーマを設定して期末レポートを提出する。
 - ③【授業態度：30%】
 授業内での積極性、及び取り組み状況。

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献等

木村一信ほか編『日本近代文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年7月）
 授業内でも紹介する。

履修条件

全学の学生が履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

月曜日の12:00～13:00をオフィスアワーとする。

授業科目名	人間学				
担当教員名	荒木秀夫				
配当年次	1年	開講時期	前期・後期	単位数	2

授業概要

「人間とは何か（本質）」「いかに生きるべきか（倫理）」、そのような問いかげに人間学は総合的に答えるために、本来哲学的で倫理学的な問題を科学や宗教など多方面の成果をふまえて、多面的に考えようとする講義です。今年度の講義では、人間とは何か、という本質に関する問いかげから始めて様々な人間観を概観した後、20世紀に登場した文化的人間観について詳しく考えていきます。さらにこれまでに学習した人間観を前提として「人間はいかに生きるべきか」という倫理的な問を考えていきたいと思います。主題自体は難しそうですが、出来るだけ具体的な例を用いて受講生と一緒に考えていきたいと思っています。なお、授業計画は受講者の興味関心の領域やレベルによって、適宜変更することもあります。

授業計画

	講義ガイダンス	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	人間学とは何か 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第2回	人間観の類型 古代～中世～近代 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第3回	代表的な人間観（1） 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第4回	代表的な人間観（2） 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第5回	19世紀以降の新たな人間観 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第6回	20世紀の人間観（1） 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第7回	（2）遊びと人間 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第8回	（3）文化と社会 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第9回	（4）遊びから見る人間観 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第10回	中間レポート作成日 レポートの書き方は授業中に個別指導します	授業時間内に終わらなければ、宿題として、自宅で完成すること
第11回	人間はいかに生きるべきか～古代の人間観 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第12回	人間はいかに生きるべきか（2）～ピュシスとノモス 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第13回	人間はいかに生きるべきか（3）～ソクラテス 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第14回	人間はいかに生きるべきか（4）～プラトン 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理
第15回	全体のまとめ 講義のノートをきちんと取ること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと	授業の復習とノートの整理

授業形態・授業方法

講義は板書で行い、必要に応じプリント配布による説明が主体となります。

養うべき力と到達目標

- ・自分たちが普段何気なく過ごしている行動や行為の一つ一つに深い意味を感じ取ることが出来るようになる。
- ・自分が何の為に生きているのか、これまでにない視点から捉え直すことが出来るようになる。
- ・自分がこれから行う行動に確信が持てるようになる。

成績評価の観点と方法・尺度

定期試験 60%、授業内課題1【中間レポート】30%、授業内課題2【ノート提出他の平常点】10%

使用教科書

特定の教科書を使用せず、適宜プリントを配布します。

参考文献等

特定の参考書は指定せず、必要に応じて教室で適宜紹介します。

履修条件

講義内容に興味・関心を持って参加することを望みます

履修上の注意・備考・メッセージ

最初は小難しくて、取っつきにくい内容に思えるかもしれませんが、
最後まで受講すると、きっと色々な発見があると思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

特に質問がある場合は、授業中に申し出てくれれば対処します

授業科目名	人間と文化			
担当教員名	桂 春蝶			
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数 2

授業概要

コミュニケーション能力・プレゼン術・話し方の向上させます。
とにかく、笑える授業を目指しています。
自分をうまく表現できる楽しさを体感してください。

授業計画

第1回	自己紹介をすることでコミュニケーションについて考えてもらいます。	他に覚えてもらえる自己紹介を考える。
第2回	自己分析、自分の長所短所に向き合ってもらいます。	友人から自分の長所短所を聞いてくる。
第3回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の性格について語ってもらいます。	家族から自分の子供の頃の話を聞き、今とどう違うかを考えることで、自分について深く知る。
第4回	就職面接技術向上のためのノウハウを学びます。	友人や家族手伝ってもらい面接を実践する。
第5回	ゲストを迎えての本芸実演、ワークショップ等を行います。	日本の古典芸能について調べる。
第6回	落語を聞いてもらって感想を話しあってもらいます。	図書館やインターネットを使って落語のねたについて調べる。
第7回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の好きなマンガについて語ってもらいます。	改めてどういうところが好きなのか他人に分かってもらえるように自分の中で明確化する。
第8回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の好きな映画について語ってもらいます。	改めてどういうところが好きなのか他人に分かってもらえるように自分の中で明確化する。
第9回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の最近興味のあるニュースについて語ってもらいます。	どういう部分に興味があったのか他人に分かってもらえるように自分の中で明確化する。
第10回	授業で体験した芸能について自分の意見を語ってもらいます。	日本の芸能の歴史について調べる。
第11回	討論会を実施することで自分の意見を的確に表現することを身につけてもらいます。	討論でうまくいった点とうまくいかなかつた点の原因について明確化する。
第12回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の夢について語ってもらいます。	幼少期からの夢の変遷を追うことで自分の興味のあることを明確化する。
第13回	自己表現ワークショップを実施します。ここでは、自分の夢についてさらに掘り下げ、今何をすべきかを語ってもらいます。	伝記を読むことで他者の人生の目標について考える。
第14回	ゲストを迎えての本芸実演、ワークショップ等を行います。	本芸の歴史を調べる。
第15回	ゲストを迎えての本芸実演、ワークショップ等を行います。	本芸の歴史を調べる。

授業形態・授業方法

伝統芸能のワークショップ、実演、解説を通し、プレゼン技術、話し方、自己表現、それらの向上のためのノウハウを落語家・桂春蝶もしくは様々な分野のゲストをお教えします。

養うべき力と到達目標

- ①学び合う力
 - ・傾聴力：日本の古典芸能を楽しみ、理解しながら鑑賞することができる。
 - ・伝える力：話芸にふれることで、豊かな表現方法を得ることができる。
- ②仲間と働く力
 - ・発信力：笑いをつくることを学ぶことで、情報を的確にわかりやすく伝えることができる。
 - ・働きかけ力：笑いをとることで、他人の感情を振り動かすことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内課題50%：授業内の小レポート
受講状況50%：芸能に対する鑑賞態度と授業への積極的な発言

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

- ・醒酔笑（安楽庵 策伝著）
- ・米朝落語全集

履修条件

芸能や講義をきちんとした態度で鑑賞・受講できること。

履修上の注意・備考・メッセージ

今までの受けた授業の中で一番楽しかった！
そう言ってもらえる内容を目指しています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えます。

授業科目名	日本の食文化				
担当教員名	千田眞喜子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

国内では、最近食生活の乱れが指摘され、一方、欧米では日本食が健康食としてブームとなっています。そこで「健康」に生きていくために、改めて日本型の食生活について考えていきましょう。食材ごとに伝統的な日本の食文化を学びながら、健康を維持増進できるようにするにはどうすれば良いかを、自分で考えられるようになります。そして、日本の食生活の文化的な側面を、素養としてぜひ身につけていくことが目標です。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		授業内容の復習をする。	キーワード	複数	複数
第1回	健康ブームと日本食ブーム	・健康ブームについて学ぶ。 ・日本食ブームについて学ぶ。 ・適正な体重、食事量、健康増進について理解する。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：健康ブーム、健康増進		
第2回	健康的な生活のための日本型食生活	・健康的な生活、日本型食生活について学ぶ。 ・食生活の状況について学ぶ。 ・食生活指針について理解する。	・授業内容の復習をする。 ・「日本食と健康食の関連性について」調べる。 ・キーワード：食生活指針、日本型食生活		
第3回	日本の伝統的な行事食	・ハレとケの食事について理解する。 ・年中行事と食について知る。 ・通過儀礼と食について知る。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：年中行事、通過儀礼、ハレ、ケ		
第4回	日本の郷土料理	・北海道、東北、関東地方の郷土料理を学ぶ。 ・甲信越、東海、北陸、近畿地方の郷土料理を学ぶ。 ・中国、四国、九州、沖縄地方の郷土料理を学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：郷土料理、気候風土と食		
第5回	米の食文化	・稲の伝来について知る。 ・稲作の歴史について学ぶ。 ・古代米、餅、団子の食文化を理解する。	・授業内容の復習をする。 ・「健康に良い食生活について、及び自分の食生活の改善点について」調べる。 ・キーワード：稲作の歴史、餅、団子		
第6回	麦・雑穀の食文化	・麵類の歴史を学ぶ。 ・雑穀の歴史について学ぶ。 ・雑穀について学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：麵類、雑穀		
第7回	野菜の食文化	・野菜の伝来について知る。 ・伝統野菜について学ぶ。 ・野菜の栄養、色素、漬物について学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：伝統野菜、伝来野菜		
第8回	大豆の食文化	・豆の種類、栄養について学ぶ。 ・大豆の歴史について知る。 ・大豆の加工品について理解する。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：大豆、大豆の加工品		
第9回	魚介・藻類の食文化	・魚介類の特徴、栄養について知る。 ・魚介類の旬、鰹節について学ぶ。 ・藻類の特徴、栄養について学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：魚類、旬、藻類		
第10回	茶と和菓子の食文化	・日本茶の特徴、歴史について理解する。 ・日本各地の茶について知る。 ・和菓子の歴史を学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：茶、和菓子		
第11回	和菓子の菓銘	・五感の芸術である和菓子の特徴を知る。 ・和菓子の季節感について理解する。 ・和菓子の菓銘について理解する。	・授業内容の復習をする。 ・「自分の住んでいる地域の行事食について」調べる。 ・キーワード：和菓子、季節感、五感、菓銘		
第12回	うまい、調味料の食文化	・うまい、だし汁について学ぶ。 ・調味料のルーツを知る。 ・味噌、醤油、香辛料について学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：うまい、だし、味噌、醤油、香辛料		
第13回	日本の食具	・日本の箸の特徴、歴史について学ぶ。 ・箸の扱い方、箸使いについて知る。 ・膳について学ぶ。	・授業内容の復習をする。 ・キーワード：箸、箸使い、膳		

第14回	変化する日常食・食の外部化現象	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する日常食、食の外部化現象について理解する。 ・中食について学ぶ。 ・冷凍食品、レトルト食品、インスタント食品について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の復習をする。 ・課題レポート提出の最終準備をする。 ・キーワード：中食、食の外部化、加工食品
第15回	すしの食文化・授業外課題レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> ・すしの歴史を学ぶ。 ・発酵すしについて学ぶ。 ・早すしについて学ぶ。 ・授業開始時に授業外課題レポート提出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験準備のために授業内容の総復習をする。

授業形態・授業方法

資料を配布し、ポイントを押さえながら講義します。毎回、テーマに沿ったビデオ内容や授業要点をまとめたレポートを提出します。質疑応答により双方向の授業を行います。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・日本の食文化の専門知識：「健康と日本型食生活」が理解できる
 - ・「食材ごとにみる日本の食文化」が理解できる
- ②問題解決力
 - ・実践力：健康に良い日本の食文化の知識を活用し、健康に良い食生活を送ることができる
- ③幅広い教養・品格
 - ・文化的な素養：食文化の文化的側面を理解し、身につけることができる

成績評価の観点と方法・尺度

- ①【授業内レポート：60%】
 - ・毎回の授業後にまとめレポート（200字程度）を提出し4点×15回=60点と評価する。
- 4点：授業内容を十分理解できている
- 3点：授業内容を最低限理解できている
- 2点：項目の列挙に留まっている
- 1点：空欄がある
- ②【授業外課題レポート：5%】
 - ・課題：健康に良い食生活と自分の食生活の改善点
 - ・15回目に提出、A4サイズのレポート用紙2枚、手書き、参考文献記入、webの参考論文のみは不可
- 5点：提出期限を守り、理解と考察が明確
- 4点：提出期限は守られたが、理解と考察があいまい
- 3点：提出期限より60分以上遅れて提出
- 2点：提出期限より90分以上遅れて提出
- 1点：定期試験日に提出
- ②【定期試験：35%】

使用教科書

教科書を使用せず、プリントを配布します。

参考文献等

「調理と文化」（朝倉書店）、「食の世界」（二宮書店）、「日本の食文化」（放送大学教育振興会）

履修条件

全学の学生が履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に良い日本型食生活に興味を持ちましょう。
高校で学習する家庭・日本地理・日本歴史の知識を必要とします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後に応えるが、授業当日の昼休み（12:50-13:00）に非常勤講師室でも対応します。

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	今井孝司				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業はサービス業におけるホスピタリティの基本について、日本文化につちかわされてきた「もてなし」を軸に、いかに心配り・気配り、行為をするかという基本を理解することを目標とします。

「ホスピタリティー」は他者を快く受け入れる「もてなしの精神」であり、訪れた人を歓待することを価値あることとする「行動規範」です。本授業では、まずサービスとホスピタリティーの違いを理解します。次に茶道・華道という日本文化に内在するもてなしの心や所作、ビジネス、店舗・旅館、テーマパークにおけるもてなしのシステムを、事例研究を通じて理解を進めます。

授業計画

授業の進め方、評価方法等について簡単なクイズ実施	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 ・一般常識クイズを出題する。 ・クイズは成績に加味しない。	一般常識クイズの結果から受講者の社会への関心度をはかる。
第2回 「ホスピタリティ」と「もてなし」の概念と用語について ・見えるもてなしと見えないもてなしを理解する。 ・ホスピタリティとサービスの違いについて理解する。	・課題1：ホスピタリティの類語を調べ、翌週提出。 ・用紙は配布する（手書きしたものを探出）。受講生の肉筆を観察する（成績には反映しない）。
第3回 もてなしに関する高度な人間関係—日本と中国の逸話に学ぶ ・石田光成による豊臣秀吉へのもてなし。 ・趙州禪師による「喫茶去」。 ・日本人の四季感覚；「室礼」とは何か。	・課題2：二十四節季について調べ、翌週提出（ワード仕上げ）。調べる節季は個人別に指定する。 担当する季節の室礼について、インターネット上から室礼に関する写真を添付すること。
第4回 茶道ともてなし—「いま・ここ」 ・一座建立。 ・一期一会。 ・「命がけ」のもてなし。	・課題3：講義を聴き、豊臣秀吉が千利休を切腹させた理由について、200字程度でまとめ、授業終了時に提出すること。
第5回 茶道ともてなしの例—アレックス・カーニーと田中一光氏のもてなし（ビデオ上映） ・「型」を踏まえた「型破り」の極意。 ・創意工夫をこらしたもてなし。	・課題4：ビデオを観て、両氏の「もてなし」についてどんな印象を持ったか、400字程度（手書き）でまとめ、授業終了時に提出すること。
第6回 ビジネスのもてなし（1）本田妃世氏のホスピタリティ観 ・「モノ」と「コト」のもてなし。 ・商人としてのもてなしの極意。 ・苦情から学ぶもてなし。 ・環境整備と「客寄せおどり」と「客追いおどり」。	課題5：経験上「客追いおどり」をしているとしたケースを、具体的に（5W1Hを明確にして）600字程度でレポートすること（ワープロ・手書きどちらでも可）。翌週提出。
第7回 ビジネスのもてなし（2）寄せ寄踊と客追い踊（フィールド・マーケティング理論） ・フィールド・マーケティングの理論と実践について。 ・コンシェルジュの機能を理解する。	・課題6：スーパー・マーケットのサラダバーの成功理由と、失敗した理由について600字程度でまとめ、翌週提出すること（ワープロ・手書きどちらでも可）。
第8回 店舗と老舗旅館、料亭のもてなし ・マニュアル接客ともてなしの相違。 ・事例研究。	・虫食いレジュメをうめる。
第9回 茶とコーヒーの歴史文化—西欧 ・イギリスの上流社会が紅茶をたしなむ理由とは。 ・「魔の飲み物」コーヒーが西欧文化に取り入れられた過程—投機対象のコーヒー、もてなしの紅茶。	・課題7：「ティー」と「茶」のマッピング；地図を配布する。必要事項を記入の上、授業終了時に提出すること。
第10回 喫茶店のもてなし ・沼田元氣氏の喫茶店観。 ・角山榮の「茶ともてなしの文化」。 ・1970年代地方都市の喫茶店文化（さだまさしの楽曲にあたる）。 ・ジャズ喫茶文化。 ・名古屋喫茶店文化事情。	・課題8：喫茶店の「スベニール」を最低一つ収集し、写真に撮ってプリントアウトし、翌週提出する。できれば「現物」が好ましいが、手に入らなければインターネット上の写真を印刷して持ってきててもよい。
第11回 いけばなのおもてなし（1）神と仏といけばな—ビデオ上映 ・いけばなのルーツ。 ・古代神道のカミ意識、仏教供花の技術。 ・池坊専好までのいけばな。 ・「花合せ」のたのしみ。	・課題9：「これが癒しの花」だと思う作品を写した写真を、なぜそう思ったか一言を添え、翌週提出（形式は自由だがワープロで仕上げる）。
第12回 いけばなのおもてなし（2）現代社会のいけばなのホスピタリティビデオ上映（再映） ・庶民が花を楽しめた江戸時代。 ・平和な社会と余裕ある階層。 ・自由花と立花・生花。 ・料亭、旅館で好まれたタテへ展開する花。 ・タテの展開からヨコの展開へ—盛花のインパクト。 ・接客空間の変化から。 ・家元が家元制度を否定する。	・課題10：指定するいけばなに関する論文（一部）を読んで、いけばなの今後の可能性について800字程度でまとめ、翌週提出（ワープロ・手書きどちらでも可）。

第13回	ホスピタリティの理論 (1) もてなし文化のニューパラダイム ・「ホスピタリティ」という言葉が語られ始めた時代の理論の構築について知る。 ・日本文化に内在するさまざまなホスピタリティ。	講義で配布したレジュメの空白部分を埋め、帰宅後再度チェックすること。
第14回	ホスピタリティの理論構築 (2) 人と自然のもてなしシステム ・事例研究：テーマパーク、レジャーランド、ホテルで展開されるホスピタリティ。	講義で配布したレジュメの空白部分を埋め、帰宅後再度チェックすること。
第15回	ホスピタリティの理論 (3) 空間と装置のもてなしシステム ・自然に対して「開く（融和する）」日本文化、「閉じる（闊う）」西洋文化。 ・日本家屋の仕組みと道具。	・ホスピタリティの理論(1)～(3)について小テストを実施する。
定期試験	定期試験の実施	

授業形態・授業方法

- ・基本は座学で、コンピュータや動画、DVDを用いた授業展開をしますが、課題作成時には積極的な発言を求めます。
- ・座席は指定します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格
・文化的な素養：日本文化に内在されてきた「もてなしの心」の素養を身につけることができる。
・市民性：他者をおもいやる心と、普段の行為や言葉遣いに注意を向けることができる。
- ②自ら動く力
・好奇心：日本の伝統文化やビジネスなどに伏流している人間関係の約束事を知ることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

1. 定期試験	50点
2. 小テスト	10点
3. 課題	4点×10回 (合計40点)

使用教科書

特に指定しない。毎回Bサイズの講義レジュメを配布する。各自ファイルの上管理してください。

参考文献等

星野克美『もてなし文化』ルネッサンス』…絶版のため購入不可能（購入の必要なし）適宜印刷し配布します。

履修条件

全学の学生が履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・静かに受講できる学生。
- ・検索等指示しない限りスマートフォンを触らない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後にもこたえるが、メールでも対応する。
アドレス：euage923[アットマーク]ican.zaq.ne.jp 今井孝司

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	中 伊佐雄				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

ホスピタリティは、ラテン語のHospics（客人等の保護）で、英語のHospital（病院）Hotel（ホテル）と語源が同じで、日本語では「もてなし」の意味を持ちます。これに対してサービスは、ラテン語のServus（奴隸）で英語のSlave（奴隸）Servant（召使い）と語源が同じで日本語では「提供」という意味を持つています。ホスピタリティはサービスをする側とされる側、ホストとゲストが互いに相手を思いやることで成立するのです。すなわち、おもてなしとそれに対する感謝が、ホスピタリティには必要です。マナーは相手を思いやり、相手に不快感を与えないための必要最低限のルールですが、この授業では、サービスの知識と、マナーを修得し「ホスピタリティの本質」を理解します。

授業計画

授業の進め方。評価の方法。ホスピタリティとは。	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 ホスピタリティとは 必要な対人関係 語源＝ホスピタリティの歴史	他人との違いを知る
第2回 ホスピタリティとサービス HOSPITALITY	商業的もてなし
第3回 サービスとは ホスピタリティ・ビジネス	サービスの特徴
第4回 サービスの標準化 公平なサービス	サウスウェスト航空（ボーイング737）
第5回 ソフトとハード	なぜ標準化するのか
第6回 マナー・作法 茶道 箸（はし）のマナー 江戸しぐさ	懷石料理 会席料理
第7回 中間試験と解説 成績評価20%	
第8回 ホテルのサービス セザール・リツツ スタッフラーの3C 中間試験解答返却	中間試験の見直し
第9回 レストランのサービス フレンチサービス ロシアンサービス アメリカンサービス	レストランで受けたサービス
第10回 サービスとホスピタリティ 選択性が高い 競争相手が多い 代替え性が高い 必需性が低い 緊急性が低い	観光（旅行、宿泊、余暇関連）、外食、健康（病院、フィットネス）、教育
第11回 接遇のための標準化 公平なサービス 一見（いちげん）さんお断り ゲストの限定（細分化）	八方美人
第12回 公平なサービスのために ホテルのサービス	パッケージツアー
第13回 エンパワーメント Empowerment（権限付与）	接客業で働く動機付け
第14回 マーケティングとホスピタリティ マーケティング・ミックス 市場細分化 消費者（顧客）志向	1~4回分の授業ノートをまとめる
第15回 まとめ 最終試験と解説	

授業形態・授業方法

毎時間プリント配付。講義形式で進めます。授業の前後にサービスに関する短文を読む課題を与えます。中間試験、最終試験はいずれも授業中に「持ち込み可」の記述式試験です。配付するパワーポイントのプリントに、講義メモを取って試験に備えます。

養うべき力と到達目標

- ①問題解決力 様々な接客時のサービスの例を知ることで問題に対処する力をつける。
②幅広い教養・品格 ホスピタリティ、マナーを学び、サービスされる側、する側の気持ちがわかる人間、相手の立場を理解して行動できる人間をめざす。

成績評価の観点と方法・尺度

【授業内課題・サービス事例】10%、【中間試験】20% 【最終試験】70%、

使用教科書

なし

参考文献等

なし

履修条件

観光学科1回生。 座席に余裕があれば他学科も可。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

naka@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名を入れて送信すること。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	早川榮一・浅野法子・妻木麻紀子・佐伯暁子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本学での学びにスムーズに移行できるように、建学の精神を学ぶとともに、図書館等の学内諸施設の有効な活用の仕方や、受講の仕方など基本的な学習習慣を身につけます。
また、大学での学びに必要な基礎学力と思考力を養うことを目的としています。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	評価
1回	大阪成蹊での学び ・「成蹊」の由来とその意味を学びます。 ・大阪成蹊で何をどのように学べるかを学びます。	・「成蹊」の語の由来と自身の短大生活との関わりについてまとめること。 ・シラバスの学科科目的部分に目を通し、受講したい科目を決める。 ・1回生前期の目標を立てる。			
2回	学内の施設・設備等を知る（1） ・コンピュータログオンし、ポータルシステムの使用方法について学びます。 ・グローバルコミュニケーション学科の学びについて	・学内を探索する ・時事ワークシートに取り組む			
3回	学内の施設・設備等を知る（2） ・図書館ツアーをする。 ・その他施設の見学をする。	・擬似自己紹介風自己紹介レポートを再度点検、内容を深めてまとめること。			
4回	大学での講義に臨んで ・講義を聴く心構えを身につける。 ・ノート・メモのとり方を学ぶ。	・『知へのいざない』の「II 聽くこと」 PP. 13-18、「書くこと」 PP. 53-71 を読む。 ・時事ワークシートに取り組む ・新聞記事からトピックを選んで、それについての自身の意見をまとめること。			
5回	新聞を読もう ・新聞記事を読み、内容を理解、要約文を作成する。 ・お互いの文章をチェックしあう。 ・質問の仕方を学ぶ。	・「短大で今後受けける予定の教育プログラムと社会での自身の役割との関係」についてまとめる こと。 ・時事ワークシートに取り組む			
6回	論説文を読む ・論説文を読み、内容を理解、要約文を作成する。 ・お互いの文章をチェックしあう。 ・質問の仕方を学ぶ。	・『知へのいざない』「V 読むこと」 PP. 41-50 を読む。 ・時事ワークシートに取り組む			
7回	大学生としての基礎的な学力・教養力を身につける 1 読み書き ・読むことと書くことについて考えてみましょう。	・論説文のまとめ方について要点をまとめるこ と。 ・時事ワークシートに取り組む			
8回	大学生としての基礎的な学力・教養力を身につける 2 話す ・敬語のことと話すことについて考えてみましょう。	・課題テストで答えられなかった問題を書き出し、一覧を作成、答えられるよう にしておくこと。 ・時事ワークシートに取り組む			
9回	大学生としての基礎的な学力・教養力を身につける 3 レポートの書く ・テーマに沿ったレポートの作成方法について学びます。	・課題テストで答えられなかった問題を書き出し、一覧を作成、答えられるよう にしておくこと。 ・時事ワークシートに取り組む			
10回	大学生としての基礎的な学力・教養力を身につける 4 発表すること ・発表前の準備から、口頭発表や資料およびパワーポイントの作成方法について学びます。	・課題テストに出された問題について、さら に考えを深めたり異なった角度から考察しま とめること。 ・時事ワークシートに取り組む			
11回	グローバルコミュニケーション学科での学びについて 1 ・コミュニケーションについて考えてみましょう。	・課題テストに出された問題について、さら に考えを深めたり異なった角度から考察しま とめること。 ・時事ワークシートに取り組む			
12回	グローバルコミュニケーション学科での学びについて 2 母語としての日本語表現について考えてみましょう。	・時事ワークシートに取り組む			
13回	グローバルコミュニケーション学科での学びについて 3 外国語としての英語表現について考えてみましょう。	・時事ワークシートに取り組む			
14回	自分のキャリアをデザインする ・職業適性診断テスト解説 ・キャリアをデザインする。	・履歴書」「エントリーシート」の記 入の際の留意することについてまとめること。 ・時事ワークシートに取り組む			
15回	将来へのプロセス ・将来の夢とそこに至るプロセスをプレゼンする。	・「現在の自分」と「将来の自分」について具 体的なイメージトレーニングによって得た姿をま とめること。			

授業形態・授業方法

講義、発表、各回ごとに設定した授業内容により、少人数での討論やクラスを合同しての講義、個別学習な、それにふさわしい形態で授業を実施する。基礎学力や思考力を伸ばすために用いる「朝日新聞ワークシート」の配布プリントについては各自でファイルしてください。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他人の意図や主張を正確に把握しようと努めることができる。
- ②幅広い教養・品格
 - ・文化的素養、社会知識：日本語で正しく読み書き表現でき、世の中に対して積極的な関心を持ち、社会で必要な基本的知識を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

各授業時の学習状況40%、レポート40%、授業外課題20%で評価する。それぞれの点数と基準は以下の通り。

- ・レポート1（疑似他己紹介）20点
客観的な視点が維持されているか(8点)、一側面の十分な紹介になっているか(8点)、日本語表現(4点)
- ・レポート2（将来設計）20点
現状認識(8点)、将来展望(8点)、日本語表現(4点)
- ・学習状況：40点
個人での取り組み(20点)、協働およびペアでの取り組み(20点)
- ・授業外課題提出状況：20点

使用教科書

『知へのいざない一大阪成蹊短期大学で学ぶ』 FD委員会・初年次教育教科書作成部会編
「キャリアプランニングファイル」
その他、適宜、資料を配布します。

参考文献等

授業時に適宜指示します。

履修条件

グローバルコミュニケーション学科1年生のみ受講可

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは、早川：木曜4限（14:40-16:10）、浅野：水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	中 伊佐雄				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

観光学科での学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解、身に付けます。授業では、読む、書く、聞く、話す、討論する、発表するといった言語スキルを向上させます。そして「調べる」、「考える」、「交渉する」、「表現する」ための基本的な能力と技術を身につけ、情報を受信、発信できる力を養います。また、自己を分析し、将来のキャリア、進路について考える端緒とします。

授業計画

回数	授業題目	授業時間外の学習		
		内容	目標	方法
1回	成蹊での学び 「成蹊」の由来とその意味を知る。 成蹊で何をどのように学べるかを知る。 自己紹介	「大阪成蹊短期大学で学ぶ」（将来の自分を作る）		
2回	成蹊の施設・設備等を知る 自分を知る ポータルシステムを使ってみる。 インターネットで情報を収集 内観	過去の自分と向き合う 自己紹介のメール配信		
3回	大学での学びかた1 聞くこと 話すこと 敬語 マナー	「大阪成蹊短期大学で学ぶ」（聴くマナー） 挨拶、姿勢		
4回	大学での学びかた2 読むこと 書くこと 自己表現	「大阪成蹊短期大学で学ぶ」（短い文書を読む） 正しいメールの送り方		
5回	大学での学びかた3 図書館で調べる レポートを書く 発表すること	図書館利用 読書感想文		
6回	就職活動で生きる「考える」こと 「問題発見・解決」の連続	自己分析		
7回	問題解決力 問題の確定 目的・目標と手段の違い 情報収集	キャリアデザイン(目的・目標と手段に違い) レポート		
8回	問題分析 分けて考えると原因が見える 原因を見極める	グループ・ワーク		
9回	解決策を考える 原因を解決策に結びつける方法 制約条件は何か	グループ・ワーク		
10回	意志決定力 意思決定とは何か 意思決定のプロセス 目的から目標への具体化	選択肢の評価		
11回	選択肢を評価 優先順位を立てて選択	重要性と緊急性を考える		
12回	自己分析 長所と短所 自分史の作成	P R ネタを作る		
13回	計画力 就職をテーマに計画を考える 構想計画とは 実行計画を立てる	構想計画を作成		
14回	就職理解 働くことの意味合い 社会人としての能力・パワー	日本で一番大切にしたい会社		
15回	就職活動の進め方 就職活動の流れ	自己 P R 文		

授業形態・授業方法

各回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格
 - ・校名「成蹊」の由来を知り、その行動規範である「忠恕」の精神を実践できる。
 - ・社会的存在としての自己を理解し、社会人としての基本的マナーを実践できる。
- ②アカデミックスキル
 - ・学内の図書館等の施設、設備を知り、学業に活用できる。
 - ・インターネットを活用して情報を受・発信できる。
 - ・日本語の文章構成を理解し、内容を要約できる。
 - ・自己の将来を見据えて、卒業に向けての自己研鑽を設計できる。

成績評価の観点と方法・尺度

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・各授業時の学習の状況（発表・レポートを含む） | 40% |
| ・レポートの内容 | 60% |

使用教科書

「知へのいざない—大阪成蹊短期大学で学ぶ」FD委員会・初年次教育教科書作成部会

参考文献等

「知へのいざない—大阪成蹊短期大学で学ぶ」FD委員会・初年次教育教科書作成部会

履修条件

観光学科1回生

履修上の注意・備考・メッセージ

出席重視

オフィスアワー・授業外での質問の方法

naka@osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名を入力して送信。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	福永栄一・長澤直子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

建学の精神のもとに、本学での学びをスムーズに始めるための基礎力と思考力を養う。高校生活から大学生活へ移行することによる感覚のずれを無くしていくとともに、大学におけるレポート作成に必要な知識と技能を身につける。また、キャリアについても同時に考えていく。

授業計画

回数	授業題目	授業内容			目標
		実施日	時間	主な活動	
第1回	成蹊での学び、短期大学での講義に臨んで	「成蹊」の由来とその意味について学びます。その上で、本学において何をどのように学べるかを理解します。 また、講義をきく心構えを身につけると同時に、ノート・メモのとり方についても学びます。	1月10日(土) 13:00~15:00	自己紹介 成蹊での学びについての説明 成蹊の歴史と文化についての説明 成蹊の施設・設備等についての紹介 成蹊での学び方についての説明	自分に必要なスキルは何かを考え、ノートに目標を立てます
第2回	成蹊の施設・設備等を知る	学内の施設・設備を知るために、学内ツアーを実施します。学生生活に必要な施設利用について、自分で判断できるように理解を深めます。	1月17日(土) 13:00~15:00	成蹊の施設・設備等を確認します。 学校周辺の環境にも関心を持ちましょう。 課題図書（就活のまえに）の1章を読みましょう。	
第3回	図書館の活用	図書館に行って、図書館の利用方法や本の検索方法を学びます。	1月24日(土) 13:00~15:00	実際に、図書館で1冊本を借りましょう。 課題図書（就活のまえに）の2章を読みましょう。	
第4回	レポート・論文とは何か	レポートを書くための基本ルールを学びます。また、参考文献リストとは何かということについても学びます。	2月7日(土) 13:00~15:00	課題図書（就活のまえに）の3章を読みましょう。	
第5回	情報収集力をつける	情報収集力を身に付けるために、大学図書館のみならず、公共図書館の存在についても学びます。 また、電子図書館の利用や、インターネットにおける有用な情報サイトの活用についても学びます。	2月14日(土) 13:00~15:00	課題図書（就活のまえに）の4章を読む。 課題図書以外の文献を1件以上見つけてくる。	
第6回	読解力をつける(1)	前回までの情報収集において収集した文献の中で、レポートに利用できるものとできないものを取捨選択する方法について学びます。信頼できる情報か、そうでない情報かの見分け方を理解します。	2月21日(土) 13:00~15:00	課題図書（就活のまえに）の5章を読みましょう。 課題図書以外の文献に関して取捨選択をしましょう。	
第7回	読解力をつける(2)	文献をじっくりと読む方法について学びます。また、図表やグラフの読み取り方についても学びます。	3月7日(土) 13:00~15:00	課題図書（就活のまえに）の6章を読みましょう。 与えられたレポート課題に対して、使える文献を揃えましょう。	
第8回	要約力をつける	まず、要約とは何かということを学びます。その上で、具体的な文章要約の方を理解し、要約ができるようになります。	3月14日(土) 13:00~15:00	課題図書（就活のまえに）の7章を読みましょう。 課題図書の指定された章を要約しましょう。	
第9回	批判的思考力を身につける	大学での学習ではとても重要な、批判的思考力を身に付けます。まずは、疑問点に「つっこみ」を入れてみる練習をします。	3月21日(土) 13:00~15:00	課題図書の内容で、つっこみどころを見つけてまとめる。	
第10回	表現力をつける	レポート執筆に必要な、論理的な表現方法について学びます。また、執筆上の重要なルールとなる引用表現の記述方法や、参考文献の記述方法についても学びます。	3月28日(土) 13:00~15:00	課題図書のどの章を元にしてレポートを書くかを検討し、今一度課題図書を読み返しましょう。	
第11回	ブックレポートの書き方を学ぶ	今回の課題となる「ブックレポート」の構成について学びます。また、実際のブックレポートの例を見て、書き方を学びます。	4月4日(土) 13:00~15:00	ブックレポートのテーマを決めましょう。	
第12回	ブックレポートを書いてみる	課題図書を軸として、これまでの授業の中で収集してきた課題図書以外の参考文献の内容も参照しながら、実際にブックレポートを書いてみます。	4月11日(土) 13:00~15:00	本の紹介プレゼンへ向けて、本を読みましょう	
第13回	本の紹介プレゼン(1)	本の紹介プレゼン（ビブリオバトル）を実施します。5分間のトークで、自分が紹介したい本の内容をより魅力的にプレゼンテーションします。	4月18日(土) 13:00~15:00	本の紹介プレゼンへ向けて、本を読みましょう	
第14回	本の紹介プレゼン(2)	前回に引き続き、本の紹介プレゼン（ビブリオバトル）を実施します。	4月25日(土) 13:00~15:00	友人に紹介された本を読んでみましょう	
第15回	ブックレポートを振り返る	実際に書いたブックレポートの修正点を知り、実際に修正してみます。	5月2日(土) 13:00~15:00	前期の学びを振り返り、反省点と後期への改善点を挙げましょう	

授業形態・授業方法

少人数での講義、討論、発表、クラスを合同にしての講義など、各回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施する。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格
「桃李成蹊・忠恕」の精神を体现できる
- ②アカデミック・スキル
情報収集力：課題に沿った参考文献を収集することができる
文章力：決められた形式に沿って、感想文やブックレポートを書くことができる
- ③職業理解
キャリアデザインの理解：将来、社会人・職業人として自立するために、自分の仕事について考えることができる

成績評価の観点と方法・尺度

期間中10回のミニ課題、および最終レポートで評価する。それぞれの点数とその基準は、以下のとおりとする。

- ・ミニ課題（課題図書感想文、図書の検索等）
5点×10回（合計50点）
誤字脱字がなく、文体が統一されていて、自分の言葉で表現できているもの：5点
誤字脱字や文体に乱れがあり、感想としての表現が乏しいもの：2～3点
- ・最終レポート（50点）
ブックレポートの体裁に沿って書けているものを評価する。
内容（5×5=25）
指定の形式による書き出し(5)、要約(5)、考察(5)、締めくくり(5)、全体的の説得性(5)
体裁（5×4=25）
構成(5)、項目名(5)、参考文献一覧の正しい記述(5)、提出のマナー(5)
文体統一、ページ番号(5)
参考文献が信頼性に欠けるものの場合はマイナス点として減点、
図表の使用はプラス点として加点するものとする。

使用教科書

桑田てるみ編「学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版～スキルを学ぶ21のワーカー」実教出版
中沢孝夫「就活のまえに 良い仕事、良い職場とは？」筑摩書房（ちくまプリマー新書）

その他、適宜資料を配布する。

参考文献等

「知へのいざない一大阪成蹊短期大学で学ぶ」 FD委員会・初年次教育教科書作成部会編

履修条件

経営会計学科1回生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

細かな課題が多数課せられますが、丁寧に取り組むこと
また、提出期限をきちんと守ること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

福永：水曜日3限目（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）
長澤：金曜日3限目（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）
授業の前後にも質問に応じます

授業科目名	成蹊基礎セミナー			
担当教員名	谷口信子・小関佐貴代・牧野壯一・橋本弘子・梶原稚英・弓岡仁美			
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数 2

授業概要

建学の精神をもとに基礎的なマナーと思考力を学び、社会での実践に向け食に関する職業を知ることで在学中の目的を明確にする。また、パソコンを使って情報収集し、パワーポイントを使って発表できるようにする。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 生徒から学生に変わる！ 「食育」講演会を聴きながらメモを取る。	講演のメモをもとにレポートを作成する。
第2回 入学前課題について 入学前課題のふりかえりを行い、栄養士に必要な基礎知識の確認をする。	次週使用するプリントの予習
第3回 ことばの使い分けをしよう！ 日常に使っている「ていねい語」「敬語」と思っている会話文を読んで、正しい敬語を学ぶ。	敬語を日常生活で実践する。
第4回 正しい文章を書く 朝日新聞の天声人語を書き写し、正しい文章を書くことを学ぶ。	作文を推敲し、再度提出する。
第5回 PROGについての解説 PROGの結果を振り返り、解説を受ける。	「入学して1か月の私」について発表原稿の下書きをしてくる。
第6回 近況報告をしよう！ 「入学して1か月の私」について作文し、発表する。	発表原稿をもとに、手紙の原稿を作成する。
第7回 手紙を書こう 敬語、丁寧語を活用して、出身高校の先生に近況報告の手紙を書く。	手紙の下書きを推敲する
第8回 手紙を仕上げる 手紙の形式を学び、清書して、完成させる。	封筒にあて名を正しく記入してくる
第9回 食育講座 東淀川区保健福祉課との共催で、食育講座を実施する。	本日のふりかえりをレポートする。
第10回 ディベート テーマについて自分の考えを客観的の述べる練習をする。	本日のふりかえりをレポートする。
第11回 グループディスカッション 就職活動に欠かせないグループディスカッションに挑戦する。	本日のふりかえりをレポートする。
第12回 定期試験に向けて 初めての定期試験に向けてのガイダンスをうける。 最終回のプレゼンテーションについて説明を聞く。	お弁当のおかずレシピをパワーポイントで作る。
第13回 図書館を利用しよう！ 図書館に行って、食に関する本の検索をする。	本の紹介文を作成する。
第14回 栄養士の実際を知ろう 先輩から栄養士・管理栄養士の実際の仕事について聞き、メモを取り、レポートを作成する	メモからレポートを作成する
第15回 プレゼン大会 自分のオリジナルお弁当のおかずレシピをプレゼンテーションする。	夏休みの読書感想文に取り組む。

授業形態・授業方法

クラス単位で、同じ内容の講義および演習を行う。
毎回「今週の忠恕」について記入し、毎回プリント課題を提出する。
毎回、授業開始時に漢字検定の過去問題と朝日新聞ワークシートに取り組む。

養うべき力と到達目標

- ①幅広い教養・品格
 - ・大阪成蹊の建学の精神を理解し、行動規範である「忠恕」を実行できる。
 - ・生徒から学生へと環境が変わることに適応し、学びのための姿勢を身につけることができる。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：物事に対して広く関心を持つことができる。
 - ・積極性：新たな物事に恐怖じせずに挑戦することができます。
- ③学びあう力
 - ・伝える力：自分の意図や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：大阪成蹊の学生として自覚し、基礎力を身につけたか。

課題に対するレポート 60%

5点×12回分=60

試験 20%

受講態度（積極的参加） 20%

使用教科書

知へのいざない

参考文献等

田上貞一郎・田中ひさよ、管理栄養士・栄養になるための国語表現（萌文書林、2012）

履修条件

栄養学科の学生の履修科目であり、卒業必須科目である。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

昼休みに各教員の研究室で対応します。

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	米谷侑子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業は大学を卒業し、即社会で働くために必要な物事を学ぶ授業です。
職業人として必須である人脈形成のためのプロセスを、自己理解、他者理解をしながら体得していきます。
自己理解では、交流分析を使いながら良好な人間関係を構築するコミュニケーションの取り方を学び、グループワークトレーニングにより他者とコミュニケーションを図りながら他者理解をし、社会適応能力を身に着けることが目標です。
また、社会人として必要な経済的視点から、保険や税金の知識、お金の使い方について、働くことの意義についても解説します。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
1回 ガイダンス 「キャリアガイダンス」としての授業の流れと、課題を説明。	授業で習得したコミュニケーションスキルを家庭やアルバイト先で使ってみる。実践を通して、上手く出来たこと、逆にできなかつたことを考え、次の授業の中で質問をする。
2回 職業人として必要な要素を知る アルバイトとは違い、社員となることはどのようなことなのかを学習する。 社会人もしくは職業人となる際に何が能力として必要なのかを知る。 (自己表現、意見を言えるようになるための、コミュニケーションワークを取り入れながらすすめます。)	授業で習得したコミュニケーションスキルを家庭やアルバイト先で使ってみる。実践を通して、上手く出来たこと、逆にできなかつたことを考え、次の授業の中で質問をする。
3回 職業人になるためのコミュニケーション能力を養う TAを使用しながら自己分析を行い、自己のコミュニケーションの傾向を知る。 他者に対してどのような言葉を使い、気持ちを伝えているのかを客観視することで、職業人になる際にはどのように改善したらよいかを考える。	授業で習得したコミュニケーションスキルを家庭やアルバイト先で使ってみる。実践を通して、上手く出来たこと、逆にできなかつたことを考え、次の授業の中で質問をする。
4回 建設的コミュニケーション能力を養う 前回の自己分析をもとに、社会における（職業人としての）アサーティブコミュニケーションスキルを学習する。 自分の気持ちを、相手との人間関係を建設的に考えながら伝える伝え方を学習する。人に対してお断りの仕方や、頼み方を学習する。	授業で習得したコミュニケーションスキルを家庭やアルバイト先で使ってみる。実践を通して、上手く出来たこと、逆にできなかつたことを考え、次の授業の中で質問をする。
5回 グループワークによる他者との交流 他者との価値観の違いにより、コミュニケーションのギャップ（他者との考え方の差異）ができる。そのギャップを埋めることが大切であり、埋め方を学習する。自己の気持ちを伝えることができるのかをグループワークで遂行する。	授業で習得したコミュニケーションスキルを家庭やアルバイト先で使ってみる。実践を通して、上手く出来たこと、逆にできなかつたことを考え、次の授業の中で質問をする。
6回 職業人に求められるコミュニケーション 自己表現として、言葉を習得してきたが、表情や態度などについても重要なコミュニケーションスキルであることを学習。実技を加えながら体得していく。 他者との良好なコミュニケーションの取り方「接遇」を学習する。	サービスを受けたときに感じが良かった、感じが悪かったなど素直な感想をもつ。また授業の中で質問があればその時の感想を言えるようにしておく。
7回 社会経済の仕組み① 働くことの意味を考えるために、お金の役割、流れから日本の経済を知る。	自分がなりたい職業の初任給を調べておく。また、自分が現在生活をするにおいて1ヶ月間でどのくらいの支出をしているのかを調べておく。
8回 社会経済の仕組み② 就職へのモチベーションとして、働く⇒収入を得るといったことを仕組みを学習し、その重要性を知る。 また仕事はお金のためだけでなく、生きがいとなることも学習する。	自分がなりたい職業の初任給を調べておく。また、自分が現在生活をするにおいて1ヶ月間でどのくらいの支出をしているのかを調べておく。
9回 職に就くことに向けて（社会の仕組み）② 就職へのモチベーションとして、アルバイト・パートと正社員となることの違いを知る。社会保険の仕組みを学習。	自分がなりたい職業の初任給を調べておく。また、自分が現在生活をするにおいて1ヶ月間でどのくらいの支出をしているのかを調べておく。
10回 職に就くことに向けて（社会の仕組み）③ 就職へのモチベーションとして、所得税を支払うことから税金のことを学習する。 お金の使い方についての注意点、ローンのことについての知識を習得。	自分がなりたい職業の初任給を調べておく。また、自分が現在生活をするにおいて1ヶ月間でどのくらいの支出をしているのかを調べておく。
11回 ひらめき発想力を養う「就職への意識転換」 ひらめき開拓として、想いを形にすることの訓練をする。即興(インプロ)で物事を考え展開していく訓練をする。直感的に反応することの訓練と、それによりイメージしたことを実現させるための訓練となる。	今後自分がなりたい職業やしていきたいことなどを描いてみる。描くために、いろいろな職業を関連性をもって調べてみる。
12回 グループワークトレーニング① ビジネスマンとしてのコミュニケーションの重要性を学習する。 他者と交流をとりながら課題解決を図ることで、組織の働きや役割のあることを学習する。 就職面接でのグループディスカッション形式に対応する。	インターネット等でなりたい職業やしてみたい仕事について調べておく。後期レポートとして提出題材を收集しておく。

13回

グループワークトレーニング②

グループワークにより、組織の中でコミュニケーションにより問題を解決する方法を学習する。
目的達成のために、最大限にコミュニケーションを発揮しなくてはならにことを体得する。
後期試験レポート課題として、自分が興味のある職業のことについて調べてくる。
興味ある職業に就いている先輩や現場の方のお話しを伺う、HPより先輩方のデータを元に「心に残る言葉」を見つけ出し書き留めておく。

インターネット等でなりたい職業やしてみたい仕事について調べておく。後期レポートとして提出題材を収集しておく。

14回

授業感想プレゼンテーション①

14回の授業をとおして感じたことをグループで話し合い、まとめグループとして発表する。
高校生から短大生へ、そして社会人(職業人)として意識の転換が少しほはできたことを実感し、また他者の意見から客観的にかんじることができる。

15回

授業感想プレゼンテーション②

14回の授業をとおして感じたことをグループで話し合い、まとめグループとして発表する。
高校生から短大生へ、そして社会人(職業人)として意識の転換が少しほはできたことを実感し、また他者の意見から客観的にかんじることができる。

授業形態・授業方法

授業内で配布するレジュメにより行う。レジュメをファイリングすることも学習の一部と考えて指導する。

自己認識は交流分析を使用。そのほか自己のコミュニケーションの取り方の傾向を知る。

企業研修でも実際使用されるグループワークトレーニングを取り入れて演習することで他者とのコミュニケーション能力を養成する。

養うべき力と到達目標

①自己理解力

- ・自分のコミュニケーション傾向が理解できる。
- ・自分の想いを伝えることができる。
- ・他者の気持ちを理解することができます。

②社会理解力

- ・社会はコミュニケーションで形成されていることを理解できる。
- ・お金の使い方、社会保険、税金等、社会人として最低限知っておくべき知識を理解できる。

③専門的な力

- ・アサーティブな受け答えができる。
- ・人間関係を良好にたましながら、断ることができる。
- ・自分の考えを相手に感じよく伝えることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

①授業内評価 50点

- ・指定内容の課題(授業内容についての確認テスト) 解答 20点
- ・グループワークへの積極的参加(グループ内発言と成果発表) 30点

②レポート提出 50点

- ・課題は「これから社会人となるうえで必要なこと」
- ・レポートの書き方、提出の仕方を同時に学習する。10点
- ・納期意識として、期限等についての重要性を学ぶ。10点
- ・課題に対する的確な内容 30点

使用教科書

なし。毎回プリントを配布

参考文献等

授業内で追って紹介する。

履修条件

共通学科1年生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

社会人としての心得を伝える授業もある。

したがって、マナー向上の条件および、社会人となって会社訪問やクライアント様との打ち合わせの際での最低限のマナーを授業の中で指導するので、必ず授業内で実践する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。

メールアドレス kometani@aim-tic.com

メールには必ず指名と所属を記載すること。

授業科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当教員名	森 茂治				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業では、就職や社会参加に取り組む基礎的な力を養うために、対人関係におけるコミュニケーション力の基本を考察するなかで、現在の自分自身のコミュニケーション力の課題に気づき、それを乗り越える手がかりを学びます。そのうえで、「ビジネスの場」におけるコミュニケーションの基本ルールや『聴く・伝える』スキルを養います。授業の後半では、「自分のセールスポイント」を認識するワークを通じて、実社会における「売り込み（相手を動かす）」について考えます。

授業計画

授業計画		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	コミュニケーション力の基本 社会生活におけるコミュニケーションの原理について考えます。	自己開示のレポートを作成する。			
第2回	自己開示と自己紹介の実践 自己開示の原則について学び、「1対多」の自己紹介を実践します。	「自分のアピールポイント」を整理し、掘り下げる。			
第3回	好意的な印象と共感の獲得 「好意的な印象」がどのように形成されるか検討・整理し、言語と言語以外のコミュニケーション手法等について学びます。	書店やネット等で自分が気になる自己啓発分野の書名を探す。			
第4回	他者への关心と人間関係 「他己紹介」を行い、相手を知ること（関心を持つこと）の重要性を学び、人間関係のあり方について討議します。	日常生活でコミュニケーションが上手く逝かなかつた体験と理由をレポートする。			
第5回	日常のコミュニケーション課題と克服策 アンケートによるコミュニケーション課題を整理し、グループで克服策を調べ、発表準備をおこないます。	グループ毎に課題に関する情報を収集する。			
第6回	グループワーク発表① 「初対面の人と気軽に話ができる」・「第一印象を向上させる」テーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書・個人レポートの作成			
第7回	グループワーク発表② 「スピーチや発表が苦手を克服する」・「相手を気遣いながら、自己主張を行う」テーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書・個人レポートの作成			
第8回	ビジネス活動におけるコミュニケーションの特徴 ビジネス組織や運営の基礎的な仕組みを理解し、ビジネスパーソンのコミュニケーションの基本を学びます。	人事部とはどんな仕事をするのか、採用面接時の評価事項を調べ、レポートする。			
第9回	組織（チーム）のコミュニケーション 組織（チーム）で仕事を進めるために必要なコミュニケーションの基本を学びます。	「ホウ・レン・ソウ」活動を整理する。			
第10回	「売り手と買い手」のコミュニケーション 売り手と買い手の関係を理解し、接客サービスと営業活動のコミュニケーションについて学びます。	接客用語の基本についてレポートする。			
第11回	ビジネス活動における営業・セールスポイントの発想 ビジネス活動における「セールスポイント」の発想を参考にして、プレゼンテーションと説得の技法を学びます。	プレゼンテーション技法について実例を調べる。			
第12回	「私のセールスポイント」を考える ワークシートを使い、自己の特徴や強み等を整理したうえで、「私のセールスポイント」を見つけ出します。	ワークシートの完成、自分らしさをどのように表現するかを検討する。			
第13回	発表シナリオを作る 「私のセールスポイント」を皆に発表するために、発表シナリオを作成します。	発表練習を行い、シナリオを見直し、磨く。			
第14回	「私のセールスポイント」発表と検証 準備したシナリオを基に皆の前で発表を行い、アピール力の課題発見を行います。	「自分を売込む力」を向上させる課題を確認する。			
第15回	学習の振り返りと目標の設定 学習ポイントを振り返り、各自の今後のコミュニケーション力の向上の目標について考えます。	各自でコミュニケーション・スキルの課題と今後の取組み目標を整理・確認する。			

授業形態・授業方法

毎回テーマを設定し、パワーポイントやレジメを使い、実践的な知識を学びながら、討議やスピーチ演習等を行います。第6回・第7回はグループ単位で発表をおこないます。第14回は個人のプレゼンに挑戦してもらいます。毎回、授業の終了前に「学習カード」に学んだポイント等を整理して提出してもらいます。

養うべき力と到達目標

①学びあう力

- ・傾聴力：他人の発表を聞き、その主張を把握することができる
- ・伝える力：自分の意図や主張を、グループや個人発表、文章を通じて教員やクラスメートに正確に伝えることができる。

②自ら動く力

- ・好奇心：ビジネス社会に対して関心を持つことができる
- ・積極性：初対面のクラスメートとにも臆せず交流ができる、皆の前で積極的に発表ができる

成績評価の観点と方法・尺度

- (1) グループワークへの取組み 15%
・グループワークで積極的な役割を評価 : 10点
・個人レポートにおける情報の収集・整理内容と意見 : 5点
- (2) 個別レポート 20%
4回の課題レポートに対して、課題に関連する情報を集め、分析的に整理をする。（各5点）ネットや文献からの単なるコピーの場合は1点とする。
- (3) 「私のセールスポイント」プレゼンのワーク作成と発表 25%
講義におけるワークに対する真摯な取組み態度（ワーク完成）15点
発表態度と内容の工夫 10点
- (4) 期末試験 : 40%
講義におけるコミュニケーションやビジネス社会の基礎的な知識を確認する問題、自身のコミュニケーション課題の気づきや克服への目標についての考え方述べる問題（論述式）を出題し、理解度と前向きな取組み意識が自分の言葉として表現・記述できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない。毎回、レジメや参考資料を配布する。

参考文献等

授業中に随時、紹介する。

履修条件

共通科目

履修上の注意・備考・メッセージ

コミュニケーションが上手くなる」等のマニュアル的なハウツー（how-to）知識の習得よりも、グループワークや発表等において、臆せず「トライ&エラー」で取り組む姿勢を歓迎します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後での質問を歓迎する。連絡を取りたい場合は非常勤講師室に連絡をすること。

授業科目名	コンピュータリテラシーB				
担当教員名	吉田澄江				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

コンピュータおよびOfficeの基本操作は理解していることを前提とし、Word・Excelの実践的な使い方（検定2級レベル以上）、PowerPointの活用法を学びます。実際のビジネス現場で使用頻度の高い機能を中心に、実践力・応用力を養うことが目標です。Wordは①ビジネス文書を短時間で効率よく作成するスキル②長文レポートの作成に活用できるスキル、Excelは①効率的な関数の使用②データベースの操作③高度なグラフの作成、PowerPointは見栄えのするプレゼンテーションを効率的に作成するスキルの習得を目指します。

授業計画

回数	授業題目	授業内容				学習課題（授業時間外の学習）
		目標	内容	方法	時間	
第1回	オリエンテーション／基本操作確認	・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windows、Word、Excelの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について				【課題】タッチタイピング（10分間入力/文字数測定）
第2回	Word1～タイピングのコツとビジネス文書のフォーマット～	・タイピング上達のコツ ・ビジネス文書フォーマットと効率のよい作成手順をマスターする ・ビジネス文書の作成 ・表の挿入と編集（罫線・網掛け・デザイン編集）				【課題】ビジネス文書作成（検定3級問題）
第3回	Word2～表現力をアップする機能を活用する～	・オブジェクトの利用（図形作成・クリップアート・ワードアート） ・画像の加工 ・オブジェクトを利用した文書を作成する ・インターネット上の画像利用について				【課題】ビジネス文書作成（検定2級問題-1）
第4回	Word3～レポート作成に便利な機能を使いこなす～	・ヘッダーとフッター／ページ番号／SmartArtグラフィック／図表番号などをマスターする				【課題】ビジネス文書作成（検定2級問題-2）
第5回	Word4～長文レポート編集テクニック～	・目次／見出し設定／脚注挿入／文書校閲などをマスターする				【課題】ビジネス文書作成（検定準1級問題）
第6回	Word 実技テスト／Excel1～Excelの基本操作を確認する～	・Word 実技テストと解説 ・Excel 演算処理／絶対参照と相対参照／表の編集				【課題】レベル別個別演習
第7回	Excel2～データベースの操作と活用～	・データベースとは? ・データベースの分析と整理（集計・抽出・並べ替え・フィルターの利用）				【課題】練習問題（データベース）
第8回	Excel3～様々な関数と関数のネスト～	・様々な関数の活用 ・関数のネストをマスターする				【課題】練習問題（関数）
第9回	Excel4～高度なグラフを作成しよう～	・データの視覚化に役立つ機能をマスターする (高度なグラフ作成・データバー・スパークライン・アイコン表示など)				【課題】練習問題（高度なグラフ作成とデータの視覚化）
第10回	Excel 実技テスト／Word・Excel の複合活用	・Excel 実技テストと解説 ・WordとExcelの複合活用：Excelデータを利用したWord文書の作成				【課題】レベル別個別演習
第11回	PowerPoint1～PowerPointの基本操作とプレゼンテーション作成～	・PowerPointの基本操作 ・基本的なプレゼンテーションの作成 ・オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成				【課題】練習問題（プレゼンテーション初級）
第12回	PowerPoint2～プレゼンテーションに特殊効果を設定しよう～	・様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする				【課題】練習問題（プレゼンテーション中級）
第13回	PowerPoint3～プレゼンテーションの流れと実施のコツ～	・資料の準備／話の組み立て／発表内容の検討 ・プレゼンテーション実施のコツ				【課題】練習問題（プレゼンテーション検定2級問題-1）
第14回	PowerPoint4～スライドショーに役立つ機能～	・プレゼンテーションのサポート機能 ・スライドのカスタマイズ ・目的別のスライドショー				【課題】練習問題（プレゼンテーション検定2級問題-2）
第15回	PowerPoint5～実技テストと解説～	・PowerPoint 実技テスト ・実技テスト解説				

授業形態・授業方法

配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組みます。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も準備します。授業は毎回の課題をステップアップ形式で進めますので、欠席・遅刻をしないこと。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル

- ・情報リテラシー：パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。
- ②専門的な力
- ・専門技能：Office（Word/Excel/PowerPoint）を活用して、目的に応じた文書・データベース・プレゼンテーションを効率よく適切に作成することができます。

成績評価の観点と方法・尺度

単元ごとの課題（40%）、ソフトごとの実技テスト（60%）で評価する。配点は下記の通り。

- ・単元ごとの課題（40点）：タイピング 1ファイル（5点）、Word 4ファイル（10点）、Excel 7ファイル（15点）、PowerPoint 4ファイル（10点）
- ・ソフトごとの実技テスト（60点）：Word（20点）、Excel（20点）、PowerPoint（20点）

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介します。

履修条件

全学の学生が対象であるが、前期に「コンピュータリテラシーA」または「情報処理概論」を履修、または相当のスキル（Word・Excel初級レベル）を修得した場合のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。

ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に質問対応します。

その他連絡が必要な場合はEメールで。（Eメールアドレス：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	上田和範				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

コンピュータの基本知識の理解と基本操作、情報処理能力の修得を目的とする。この授業では、文書作成ソフトによるビジネス文書の作成やポスター作成、表計算ソフトによる情報の処理について演習形式で実用的な能力を学習する。また、コンピュータを用いた情報のデザインなど個々の表現力を養成する。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業の進め方の説明、タイミング、Webメール作成	学習課題（授業時間外の学習） 校内のWebメールを実際に使用する
第2回	文書作成① ビジネス文書の作成	完成できなかった文書を完成させること
第3回	文章作成② ビジネス文章の作成	完成できなかった文書を完成させること
第4回	ポスター作成① ポスターの作成（練習）	Wordでの図や表の使い方を復習しておくこと
第5回	ポスター作成② オリジナルポスターの作成（課題）	ポスターを完成させること
第6回	表計算の基礎① 表計算ソフトの基本的な使い方	表計算ソフトの使い方を復習ておくこと
第7回	表計算の基礎② 関数の活用（SUM・AVERAGE・MAX・MIN）	確認テストを行うため、復習しておくこと
第8回	表計算の基礎③ 関数の活用（絶対参照・ROUND・IF）	学習した関数を復習しておくこと
第9回	表計算の基礎④ 関数の活用（RANK・VLOOKUP・SUMIF・COUNTIF）	学習した関数を復習しておくこと
第10回	表計算の実践① 検定問題の練習	授業内に行った未完成の課題を完成させること
第11回	表計算の実践② 検定問題の練習	授業内に行った未完成の課題を完成させること
第12回	表計算の実践③ エクセルを使った分析課題	未完成の課題を完成させること
第13回	表計算の実践④ エクセルを使った分析課題	未完成の課題を完成させること
第14回	画像から動画の作成① 画像を合成させ映像作品を作る	未完成の課題を完成させること
第15回	画像から動画の作成② 画像を合成させ映像作品を作る	未完成の課題を完成させること

授業形態・授業方法

パソコンを用いた演習形式で授業する。必要に応じて資料をデータや印刷物で配布し、授業で作成したファイルの提出を求める。演習形式のため、課題の提出は必須とする。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル
情報リテラシー：表計算ソフトを活用した分析ができる。

②仲間と働く力

発信力：情報をわかりやすく多数の人に届けることができる。
コミュニケーション力：社会人としてのWebメールやビジネス文書を作成することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

課題の提出と授業内での実技試験、毎回の実習提出物で評価する。
それぞれの点数とその基準は以下の通り。

- ・提出課題30点（10点×3回）
 - 文書作成（ビジネス文書1）
 - 文書作成（ポスター）
 - 動画作品（gifアニメの制作）
- ・実技試験40点（10点×4回）
 - 表計算①（SUM・AVERAGEなど基本の関数）
 - 表計算②（IF・VLOOKUP・COUNTなど関数）
 - 表計算③（関数の応用とグラフ作成）
 - 表計算④（情報処理検定2級レベルの総合問題）
- ・毎回の実習提出物（2点×15回）
 - 実習内容を理解し、情報処理のスキルを身に付けられている：2点

使用教科書

なし

参考文献等

なし

履修条件

1学年共通科目

履修上の注意・備考・メッセージ

コンピュータを用いた実習のため、課題は必ず提出すること。
表計算の関数など、ステップアップ式に授業を進めるため、休むと次の週しんどくなります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス : ueda-ka@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには必ず氏名と所属を書くこと。

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	吉田澄江・寺田亜佐				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとビジネスで活用できるスキルの習得を目指します。具体的には、①情報モラルとセキュリティ②Eメール・インターネットのルールとマナー③タッチタイピング④Office（Word・Excel）の実用的な使い方を習得します。Word・Excelは、実際にビジネスの現場で利用できる題材を使って実践的に学習します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	オリエンテーション／基本操作確認	<ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について 			
第2回	コンピュータの活用1～タッチタイピングをマスターする～	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングの基本／キーと指の対応 ・ローマ字入力スピードアップ術 ・タイピングソフトを使用した練習法 ・入力目標を設定する 			
第3回	コンピュータの活用2～効率のよい入力法でスピードアップする～	<ul style="list-style-type: none"> ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・便利な機能の活用（変換モード／辞書ツール／IMEパッド） 			
第4回	コンピュータの活用3～情報化社会に対応するスキルとは～	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー 			
第5回	Word1～ビジネス文書を作成する（基本編）～	<ul style="list-style-type: none"> ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット 			
第6回	Word2～表作成とビジネス文書（応用編）～	<ul style="list-style-type: none"> ・表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成 			
第7回	Word3～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成 			
第8回	Word4～実践テクニックと地図作成～	<ul style="list-style-type: none"> ・Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／图表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換 			
第9回	Word5～実技テストと解説～	<ul style="list-style-type: none"> ・Word実技テスト ・実技テスト解説 			
第10回	Excel1～Excelの基本操作と表作成～	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集 			
第11回	Excel2～絶対参照／相対参照と関数を理解する～	<ul style="list-style-type: none"> ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用 			
第12回	Excel3～グラフの作成とデザイン編集～	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする 			
第13回	Excel4～実践テクニックと複雑な関数～	<ul style="list-style-type: none"> ・Excel実践テクニック （関数の応用／関数のネスト／ワークシート／リスト／条件付き書式など） 			
第14回	Excel5～実技テストと解説～	<ul style="list-style-type: none"> ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 			

第15回

Word／Excel 総まとめ

- ・WordとExcelの複合活用
- ・Word／Excelの実践総合問題

【課題】 レベル別個別演習

授業形態・授業方法

配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組みます。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も準備します。授業は毎回の課題をステップアップ形式で進めますので、欠席・遅刻をしないこと。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル

- ・情報リテラシー：情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

②専門的な力

- ・専門技能：タッチタイピングをマスターする。Office (Word/Excel) を活用して、目的に応じた文書・データベースを効率よく適切に作成することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

単元ごとの課題（40%）、ソフトごとの実技テスト（60%）で評価する。配点は下記の通り。

- ・単元ごとの課題（40点）：タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（15点）、Excel 5ファイル（15点）
- ・ソフトごとの実技テスト（60点）：Word（30点）、Excel（30点）

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介します。

履修条件

全学の学生が対象であるが、パソコン（Windows）の基本操作を習得している場合のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。

ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に質問対応します。

その他連絡が必要な場合はEメールで。（Eメールアドレス：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業科目名	情報処理概論			
担当教員名	山田勲之			
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数 2

授業概要

コンピュータの基本知識の理解と基本操作、情報処理能力の修得するために、これから的学生生活、及び実社会で必要なとなるWordとExcel、Power pointを使って、その基礎的な技術を習得することを目的とします。また、観光関連の文書やちらしなどの作成を通して、より実践的な力を身に付けていきます。

授業計画

授業回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス 学内におけるコンピューター環境の概要と使用方法の説明。 ドライブ、フォルダー、ファイルの確認、課題の保存、提出先の確認、Webメール作成。	校内のWebメールを実際に使用する
第2回	コンピューターの基礎① タッチタイピングの基礎①。キーと指の対応。 タイピングソフトを使った練習。	タイピングの練習。
第3回	Word1 基本操作 基本操作（文字・文書の入力）。 文章入力の練習。	文章入力の練習をする。
第4回	Word2 編集の基本 編集の基本。 文字と段落の書式設定。 文章入力の練習。	書式設定について復習する。
第5回	Word3 表 表の挿入と編集（罫線、網掛け）。 ビジネス文書の作成。 Eメール利用とマナー。	表挿入の復習をする。
第6回	Word4 オブジェクトの基本 オブジェクトの利用。 表を含む文書の作成。	オブジェクトの復習をする。
第7回	Word5 オブジェクトの編集 オブジェクトを利用した文書の作成。 課題の作成。	オブジェクトの編集を復習する
第8回	Word6 実践的練習 ハガキ、名刺の作成。	実際にハガキに文章を入れてみる。
第9回	Word7 旅程表 簡単な旅程表の作成。	ツアーパンフレットを見る。
第10回	Power Point 基本的な使い方。 プレゼンテーション用の作品を作成。	基本操作を復習する。
第11回	Excel1 基本操作 シートとセルの基本操作 データ入力の基本	基本操作を復習する。
第12回	Excel2 データ入力 書式設定 表の作成	書式設定を復習する。
第13回	Excel3 演算処理、関数。 練習問題（関数）	関数を復習する。
第14回	Excel4 グラフの作成 練習問題（関数）	グラフを復習する。
第15回	検定模擬試験問題 Word 文書入力問題（初級） Word文書・表作成問題（中級） Excel問題（初級）	検定模擬試験に挑戦する。

授業形態・授業方法

配布プリントを使って操作手順を学び、実践力養成のためできるだけ多くの練習課題をこなしていきます。ステップアップ式に授業は進んでいくので、遅刻欠席は技術習得に支障を来たすことを理解しておいて下さい。
毎回、「提出カード」に習得した技術などを記載して提出します。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
情報リテラシー：Wordを使って様々な文書を作成することができる。Excelを活用した分析ができる。
- ②仲間と働く力
発信力：情報をわかりやすく多くの人に伝えることができる。
- コミュニケーション力：社会人としてのWebメールやビジネス文書を作成することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・提出課題状況 70%
課題提出（5点×14回）
 - ・『提出カード』 30%
- 毎授業ごと達成度と課題が記されている（9～10点）、概ね達成度と課題が記されている（8～4点）、ほとんど記されいない（1～3点）

使用教科書

なし。

参考文献等

『速攻！パソコン講座 Word&Excel 2010』マイナビ

履修条件

1学年共通科目

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回課題を課すので必ず提出してください。
ステップアップ式に授業を進めます。欠席した場合、友人などからプリントを借りるなどして自主学習する必要があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

水曜日3限をオフィスアワーとしているが、そのほか連絡を取りたい場合はEメール（yamada-n@osaka-seikei.ac.jp）で。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	楠井淳子・範 衍麗・谷 俊英・藤原牧子・織田恵輔・渋谷郁子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本学での学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として本学の精神を理解し、情報を受・発信できる力の修得を目的とします。そのため、大学の諸設備の活用方法や修学方法及び、短期大学生として必要な基礎知識などについて講義または演習方式で履修します。特に学びの基礎といえる「聞く力」と「読む力」及び、実習やレポート作成に必要な「書く力」の修得と向上に重点を置いて学んでいきます。また、将来の自己のキャリアについて考える端緒とします。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	確認
1回	成蹊での学び	シラバスの学科科目部分に目を通し、受講する科目や取得したい免許・資格を決める。			
	・「成蹊」の由来とその意味を知る。 ・大阪成蹊短期大学で何をどのように学べるかを知る。 ・自己紹介				
2回	キャンパスライフ（1）履修方法	自分の手帳に学事日程を記入する			
	・2年間の学事日程を確認する ・実習や授業などの流れを理解する ・オフィスアワーや研究室の配置などを知る				
3回	キャンパスライフ（2）学内ＩＴの利用法	学内ネットワークの基本的な利用法をそれぞれが確認する。			
	・コンピュータへログオンし、ポータルシステムを使用してみる。 ・学内よりインターネットを使ってみる。				
4回	キャンパスライフ（3）学内諸設備を知る	図書館での本の貸借法を理解する。			
	・図書館ツアーをする。 ・その他施設の見学をする。				
5回	スタディスキルズ（1）短大での学び	前期の履修登録をもとに、学習スケジュールをたてる。			
	・短大で何を学ぶのか。 ・高校とは違う短大での学び方を知る。 ・キャリアプランニングファイルに記入をする。				
6回	スタディスキルズ（2）情報の受発信	インターネット検索の仕方を学ぶ。			
	・授業やレポートに必要となる情報の収集の仕方を知る。 ・インターネットの利用法と倫理。				
7回	スタディスキルズ（3）「聞く力」	日常の講義を通じて学習したことを活用する。			
	・聞くための心構えとマナー。 ・講義を聞く力とメモを取る力。				
8回	スタディスキルズ（4）「読む力」	新聞記事などを読んでまとめてくる。			
	・文章の読む力と要約する力をつける。 ・短い文章を読んで要約をする。				
9回	スタディスキルズ（5）レポートを書く	実際に簡単なレポートを書くを通して体験的に学ぶ。			
	・レポートとは何か、作文とレポートの違いを学ぶ。 ・レポートの具体的な例を通して書き方を学ぶ。				
10回	スタディスキルズ（6）レポートを書く	レポートのテーマ設定や構成を体験的に確認することによって、それを実践できるようにする。			
	・レポートを書くために、どのようにテーマを設定すれば良いのかについて確認する。 ・レポートのテーマ設定や構成等を、各自が実際に書いてみることによってレポートの内容に求められる事項を確認する。				
11回	キャリアデザイン（1）キャリアのイメージ	保育職に就くためのプロセスを確認し、自己のキャリアプランにつなげる。			
	・保育者になるための道のりを確認し、自己の将来計画をイメージする。 ・キャリアプランニングファイルに記入をする。				
12回	キャリアデザイン（2）基本的マナーの修得	自らの振る舞いを振り返り、基本的マナーが身に付いているかを考える。			
	・社会人としての基本的マナーを身につける。 ・基本的みだしなみ、敬語の使い方、コミュニケーションの仕方を身につける。				
13回	キャリアデザイン（3）基本的マナーの修得	実際に実習園への電話のかけ方や手紙の書き方を練習する。			
	・社会人としての基本的マナーを身につける。 ・電話のかけ方、手紙の書き方を学ぶ。				
14回	キャリアデザイン（4）自己を見つめて	自己アピール文の下書きを作成する。			
	・自分の長所と短所を確認する。 ・保育職に就いた際の自己のキャリアをデザインする。				
15回	将来のキャリアへのプロセスを描く	自己アピール文を完成させ、それを発表する。			
	・将来の夢とそこ至るプロセスをプレゼンする。				

授業形態・授業方法

少人数での討論、発表、クラスを合同しての講演など、各回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を受けます。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：他者の意図や主張を丁寧に正確に把握することができる。
 - ・伝える力：自分の意図や主張を他者に対して正確に伝えることができる。
- ②アカデミックスキル
 - ・学内の施設、設備を知り、学業に活用できる。
 - ・情報リテラシー：インターネットを活用して情報を受・発信できる。
 - ・読解力：日本語の文章構成を理解し、内容を要約できる。
 - ・記述力：自分の考えを整理し、論理的な文章を書くことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

成績評価の観点：授業への積極的な参加態度や基礎的な知識および理解の程度を観点とする。

尺度：授業への参加回数・レポート課題の提出度合い・レポート内容での課題理解力などを総合的に成績として判断する。

評価方法：以下の項目の合計100点満点で評価する。

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ①【各授業時の学習の状況（ミニ・レポート、小テストを含む） | 40% |
| ②【レポート等の課題 | 40% |
| 中間と期末に各レポート課題を提出する。 | |
| ③【授業内態度 | 20% |
| 授業内での積極性及び取り組み状況。 | |

使用教科書

『知へのいざない－大阪成蹊短期大学で学ぶ』 FD委員会・初年次教育教科書作成部会編

参考文献等

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』 松本茂、河野哲也共著、玉川大学出版、2007年
その他は授業内で適宜紹介する。

履修条件

幼児教育学科の学生のみ受講可能

履修上の注意・備考・メッセージ

2年間の学びを始めるに当たっての基礎となる授業です。積極的に取り組んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後や各教員の研究室にて受け付けます。

授業科目名	英語会話 2			
担当教員名	J・ガーヴィー			
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数 1

授業概要

This course will focus on the basics of English. What you need when speaking with friends . This will be through games; quizzes and listening activities.

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
1	This Course The first lesson is about this course and how you can pass this class	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the lesson .
2	Classroom English In class we will talk about how to ask for help using English	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
3	Your Holiday Talking about your last holiday	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
4	Your partner's weekend How to ask and answer questions about your last weekend .	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
5	Sports Asking and answering questions about your favorite sport.	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
6	Hobby Talking and asking questions about Hobbies	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
7	The Past Asking and answering questions about the past; where were you born etc	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
8	The Future What will you do next weekend	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
9	Favourite Things Ask and answer questions about your favorite things, things you like and dislike.	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by pre- reading the textbook .
10	Shopping Asking and answering questions about your favorite shopping places etc .	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
11	Have you ever? Talking about experiences in your life ...Have you ever been to England ?	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
12	Describe your Room This lesson is about description; how to describe something to your partner	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
13	Review Students will review all the material in the course	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .
14	A short Quiz and Reflection Basically this will be a test quiz about all the things we have covered in the course	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last class.
15	Final Test and Reflection This is the final test in the course. It will be of (30) questions about you, your family and your hobbies . NOTE.. THIS TEST IS 100% OF THE FINAL GRADE FOR THE CLASS... 60% PLUS IS A PASS BUT 60% MINUS IS A FAIL..... TAKE NOTE !	The teacher will supply material such as photo copies. Students should prepare for the class by reviewing the last lesson .

授業形態・授業方法

There will a variety of speaking , listening and writing activities in the class.

養うべき力と到達目標

The goals of this class are to improve students' communication , speaking and listening ability

成績評価の観点と方法・尺度

There will be a an Interview test (of 30 questions) at the end of this course . THIS WILL BE 100% OF THE GRADE FOR THE COURSE

使用教科書

THERE IS NO TEXTBOOK FOR THIS COURSE , ALL MATERIAL WILL BE SUPPLIED BY THE TEACHER OR MADE BY THE STUDENTS

参考文献等

Please buy a 100 yen notebook

履修条件

Let's try to use English in class

履修上の注意・備考・メッセージ

This is an active communication class so students are expected to talk and listen to their partners in the class.

オフィスアワー・授業外での質問の方法

Quest can be written down(in English or Japanese) and put into my post box in the office or given to Kyomuka.

授業科目名	情報処理概論			
担当教員名	澤田和也・山下義裕			
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数 2

授業概要

本授業の初期段階では、在学中にネットワーク環境を問題なく使いこなせるようになるため、PCの基本操作やメール、LANの基本構造について習得する。さらに在学中および卒業後に必ず必要となるパソコンのアプリケーションソフト（特にWord、Excel、PowerPoint）の最も基本的な操作について習得する。将来のアパレル・ファッショングローバルでの業務を考慮し、情報収集力とプレゼンテーションのスキルも身につけるため、最終段階において上記アプリケーションソフトを総合的に利用し、特定の課題に対するプレゼンテーションを実施する。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）		
第1回	ガイダンス（コンピュータスキルの向上に向けて） 学内におけるコンピュータやネットワーク環境の概要説明と使用方法について理解する。 授業における課題提出の方法を理解する。	メールの使用方法、学内のオンラインシステムを理解しておく。		
第2回	Wordの操作1 基本的な文書の作成および保存、印刷の手法を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバーの使い方を復習しておく。		
第3回	Wordの操作2 文書作成におけるテクニック、表作成と書式操作について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	単語登録、特殊記号、インデント、行間設定など文書作成の基本テクニックを復習しておく。		
第4回	Wordの操作3 文書作成における頻度の高い応用機能について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	縦書きと横書き、段組み、文字の修飾など、機能性のある手法を復習しておく。		
第5回	Excelの操作1 基本操作として、セルへのデータ入力、修正、移動、コピーについて習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバーの使い方を復習しておく。		
第6回	Excelの操作2 演算として式の入力、関数使用・作成について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	表計算の基礎となる演算方法を復習しておく。		
第7回	Excelの操作3 グラフ作成方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	種々のグラフ作成と表示方法や機能について復習しておく。		
第8回	PowerPointの操作1 基本操作として文字入力および体裁の変換方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバーの使い方を復習しておく。		
第9回	PowerPointの操作2 図形描画の手法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	オートシェイプ機能やレイアウトの基本ツールについて復習しておく。		
第10回	PowerPointの操作3 プレゼンテーション機能について学ぶ。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	背景設定やアニメーションの機能について復習しておく。		
第11回	プレゼンテーション準備1 プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。		
第12回	プレゼンテーション準備2 プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。		
第13回	プレゼンテーションと講評の報告1 前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評する。		
第14回	プレゼンテーションと講評の報告2 前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評する。		
第15回	まとめ 全員の発表および講評の報告書をうけて、その内容を総括する。	自身で考えていることを正確に相手に伝えるためのプレゼンテーションに必要な、PCソフトの使用を理解する。		

授業形態・授業方法

毎回パソコン教室にて演習形式で実施する。配布プリントをもとに、毎回のテーマに沿って基礎技術を習得し、演習形式でその技術を用いた提出課題を作成して提出する。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル

- ・情報収集力：与えられた課題に対して、必要な情報についてwebを通して入手出来る。
- ・プレゼンテーション力：得られた情報をまとめて数分程度の発表が出来る。

②問題解決力

- ・実践力：企画したテーマを達成するために、情報収集力を駆使し最後まで課題を最後まで完成させることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

毎回の課題内容への取組み状況、提出物の評価、プレゼンテーションの評価を総合して判定する。

その基準は以下の通り。

- ・毎回の課題内容への取組み状況 3点×15回 (45点)
- 指示された内容について取り組んでいるかを判定
- ・毎回の提出物の評価2点×15回 (30点)
- 指定の課題に対して的確に実践できているかを判定
- ・プレゼンテーション力 (25点)
- 指定課題内容を含んでいるか、分かり易い発表を行っているかを判定

使用教科書

なし

参考文献等

必要に応じて授業内で適宜紹介。

履修条件

生活デザイン学科では全員履修することとする。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にPCを起動しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：月曜日（2限）澤田

オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	松岡依里子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

建学の精神に基づき、大学生としての学びの方法、及び社会人基礎力をつけ、専門知識の学びと連動させるための学修力を高めることを目標です。授業では、大学でスムーズに学習できる基礎力と現代社会の諸問題に対応していくように、情報を収集し整理する力、文章表現力を向上させるとともに、グループディスカッションなどの協同学習を導入し、「聞く」「話す」「話し合う」ことで対話力をつけています。自らの考えを正確に伝え、多様な他者を受け入れるとともに、批判的思考法を学び、実践的な思考や表現を身につけます。

授業計画

回数	授業題目	授業内容		学習課題（授業時間外の学習）	
		授業時間	時間外学習時間	課題	提出期限
第1回	成蹊基礎セミナーの学び	成蹊基礎セミナーの授業の進め方や心構えなどの概要説明を行う。 建学の精神を理解し、将来のために自分自身が身に付けるべき知識や技能について考える。 大学生活でのマナー、社会的常識を学ぶ。また生活リズムについて理解する。	約1時間	1週間、生活時間日記をつけ、学習リズムを組み立てる。	
第2回	コミュニケーションをとる	自己表現を効果的に行うためのコミュニケーション技術を学ぶ。 グループディスカッションにより、他者との効果的な関わり方について再考する。	約1時間	紹介したい本の内容をまとめておく	
第3回	読書から学ぶ	おすすめの本を紹介する。また、その紹介された本の中で、読んでみたいと思った本を探し、内容をまとめる。（図書館利用）	約1時間	読書感想文を書く	
第4回	論理的思考の育成	数理処理の基本から、論理的思考法を学ぶ。	約1時間	数理処理ワークシートを次週に提出	
第5回	新聞活用の方法	多種類の新聞を読み、その内容の相違を把握する。	約1時間	次週までに関心ある新聞記事を収集しておく。	
第6回	言語能力の育成	新聞記事について、正確な読み解きを解説する。さらに、新聞記事の内容を要約し、意見を書く。	約1時間	言語ワークシートを次週に提出すること。	
第7回	グループディスカッション	各自の新聞記事について紹介し、意見交換を行う。	約1時間	グループディスカッションの内容をまとめておく。	
第8回	意見を発信しよう	新聞の読書欄に投稿しよう。500字程度で意見をまとめる。	約1時間	課題認識したものについて、500字程度で意見を書く練習をする。	
第9回	学んだ知識やアイデアをアウトプットしよう	ブレーンストーミングにより知識やアイデアをアウトプットする。	約1時間	浮かんだキーワードをノートに書き留めておく	
第10回	情報を整理しよう	アイデアや知識をKJ法により整理してみよう	約1時間	整理の方法について、数種類考える。	
第11回	グループ学習の方法	与えられたテーマについて、グループで話し合い、アイデアを抽出し、整理する	約1時間	普段から他人の意見について再考する力を身につけておく。	
第12回	プレゼンテーション	グループごとに発表を行う。	約1時間	発表についての内容をまとめる。	
第13回	学習キャリアプランを考える	大学生活後のキャリアプランも視野にいれて、ライフプランを考える。	約1時間	ライフプランについて作成する。	
第14回	大学での学びの活かし方	短期大学で何をどのように学び、社会でどのように活かしているのかについて、卒業生のお話を聞く。	約1時間	感想を書いておく。	
第15回	成蹊基礎セミナーでの学びについて振り返る	これまでの内容について再考し、自分自身がどのように変化したのかを確認する。	約1時間	自分の変化についてレポートを提出する。	

授業形態・授業方法

配布資料に基づき、解説し、ワークシートを使用します。また、グループディスカッションを行い、KJ法、ブレーンストーミングなどのスキルを身につけ、発表を行います。毎回、テーマ別ミニレポートを提出し、次週にフィードバックします。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
他人の意図や主張を丁寧に正確に把握しようしたり、自分の意図や主張を他者に正確に伝える力を持つ。
- ②アカデミックスキル
情報収集や文章力、プレゼンテーション力を身につける。

成績評価の観点と方法・尺度

- <毎回のミニレポート 45%> 45点満点
 - ・各回、1点～3点で評価する。
- <課題レポート5回 15%> 25点満点
 - ・3点：標準に達している。 4点：テーマの主旨をとらえ、まとめている。 5点：テーマの主旨と分析を加えた内容になっている。
- <新聞活用ノート 20%> 20点満点
 - ・要旨、コメント、グループディスカッション、投稿記事作成についての総合評価する。 (20点)
- <プレゼンテーション 10%> 10点
 - ・5点 主旨は伝わるが発表の仕方に工夫がいる。 7点 わかりやすく発表している。
 - 10点 主旨を明確に論理的に発表できている。

使用教科書

教科書は使用せずにプリントを配布する。

参考文献等

- ・大学生の学びのハンドブック 世界思想社

履修条件

生活デザイン学科の学生のみ受講可能(2回生の再履修は不可能となります)

履修上の注意・備考・メッセージ

欠席した場合は、生活デザイン第2研究室まで、すみやかにプリントを取りに来ること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

生活デザイン学科メールおよび授業前後の質問及びオフィスアワーにて対応する。
Eメールでの質問の場合、件名「成蹊基礎セミナーについて；氏名；学籍番号」」とすること。

授業科目名	成蹊基礎セミナー				
担当教員名	山本友江・草尾賀子・田原 彩・板並晴美				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

調理・製菓学科で学ぶうえで必要となる基礎力を養います。皆さんは高校生から短期大学生になるわけで、当然求められるもの、学ぶ内容も変わってきます。この授業は2年間の短大生活が有意義なものとなるようサポートしていくものです。「建学の精神と行動指針」についての講義から始まり、「書くこと」「コミュニケーション力」「読解力」「調理の実践における計算」についての学びが入ります。さらに本学図書館の活用法と短期大学の試験・成績評価について説明いたします。社会人として必須の基礎力を養う時間と考えてください。

授業計画

授業計画	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	成蹊で学ぶということ（4クラス合同授業） 建学の精神を理解します。 自分の所属をただしく書けるようにします。	成蹊で学ぶということはどういうことか考えましょう。
第2回	「書くこと」の基本、ノートの取り方、国語の常識について（草尾） 基本的な文章の書き方と国語の常識、調理・製菓学科における講義、実習、実験等のノートの取り方について学びます。	料理にまつわる漢字プリントの完成
第3回	手紙・文章の書き方（草尾） 手紙・文章の書き方を学び、出身高校へ送付する近況報告を作成します。	授業内容の復習および課題プリントの完成
第4回	履歴書およびビジネス文書の書き方（草尾） 本学所定の履歴書を用いた履歴書の書き方とビジネス文書の書き方を学びます。	授業内容の復習および課題プリントの完成
第5回	図書館を活用する（クラス単位授業） 実際に図書館に行き図書館の方に説明をしていただきます。PCを使って実際に本の検索を行い、図書館をもっと活用できるようにします。	図書館で借りた本を読み、レポートを書いてください。次週提出。
第6回	コミュニケーションギャップについて～ペアワーク～（板並） 自分のコミュニケーションの現状を知り、相手とのコミュニケーションギャップを最小限にする考え方を身に付けます。	学んだ事を日常生活で実践し、自分のコミュニケーションの変化を感じましょう。
第7回	信頼関係を作るコミュニケーションスキル～ペアワーク～（板並） 日常生活における非言語コミュニケーションの影響力を理解し、会話の中で「ラボール・スキル」を身につけます。	学んだ事を日常生活で実践し、自分のコミュニケーションの変化を感じましょう。
第8回	信頼され印象に残る自己紹介～グループワーク～（板並） 相手を意識した自己紹介の構成を学び、非言語コミュニケーションの影響力を味方に、信頼され印象に残る自己紹介を行います。	学んだ事を日常生活で実践し、自分のコミュニケーションの変化を感じましょう。
第9回	読解力を身につける（1）～時事ワークシート～（田原） 時事ワークシートを使って、読み取る力を身につけます。	問題の残りを完成させましょう。
第10回	読解力を身につける（2）～新聞記事～（田原） 要約について学び、食に関する新聞記事を実際に要約してみます。	興味のある新聞記事を準備しましょう。
第11回	読解力を身につける（3）～発表～（田原） 興味を持った記事を要約、自分の意見をまとめ、グループ内で発表します。	課題を完成させましょう。
第12回	前期終了に向けて（3クラス合同授業） 本学の試験システム、夏季休業、成績発表等について解説します。 あわせて後期共通科目の希望調査も行います。	シラバスを見て、後期授業の流れをみます。
第13回	調理に使う基本単位の確認（山本） 高校までに習った基本単位（容量、容積、長さ、時間等）を調理の実践に応用して考えます。	計量スプーンで計れる量について調べてみましょう。
第14回	計算に強くなる（1）～計算（割合、%）～（山本） 計算スキルを調理実習での実践に応用する訓練を行います。	プリントの残りを完成させましょう。
第15回	計算に強くなる（2）～計算（割合、%）応用～（山本） 家庭料理技能検定の問題を使って実践に即した計算力を確かめるとともに、今後の学びの計画を考えます。	プリントの残りを完成させましょう。

授業形態・授業方法

4人の教員（山本）（草尾）（田原）（板並）が一定のプログラムにのっとってオムニバス形式で授業を進めます。調理Aクラス、Bクラス、製菓コース、フードコーディネートコースの4クラスに分けての授業となります。教員が交替して同内容の授業を順次行います。内容は多岐にわたります（授業計画参照）。皆さんの積極的な参加を希望します。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
 - ・数量的スキル：読解力、記述力：基礎力を高めることができる。
- ②幅広い教養・品格
 - ・文化的な素養：校名の由来を知り、その行動規範である「忠恕」の精神を実践できる。
 - ・学内図書館等の施設・設備を活用し、学業に生かすことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。
 観点：幅広い教養や品格（語学力、社会知識、数量的スキル）について
 尺度：身に附いている・十分身に附いている・応用して実践できるかどうかで判断します。
 評価方法：以下の項目の合計100点満点で評価します。

- ①【小テスト：30%】
授業内の各回の小テストで判断します。
- ②【レポート：20%】
宿題の課題レポートで判断します。
- ③【授業での取り組み状況：30%】
主体的に授業参加できているかで判断します。
- ④【期末課題：20%】
最終授業でファイルを回収します。配布プリントの課題を完成させて事後学習ができているかをみます。

使用教科書

知へのいざない－大阪成蹊短期大学で学ぶ/FD委員会・初年次教育教科書作成部会 編
適時プリントも配布します。

参考文献等

授業内で適時紹介いたします。

履修条件

調理・製菓学科 の学生のみ受講可能

履修上の注意・備考・メッセージ

欠席した場合はプリントを受け取りに各先生方の研究室に来てください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

山本：オフィスアワーは月曜2限（10:40～12:10）調理研究室（本館3階）
 草尾：オフィスアワーは月曜4限（14:40～16:10）フードコーディネート研究室（本館3階）
 田原：オフィスアワーは火曜3限（13:00～14:30）製菓研究室（本館3階）
 板並：授業時間の終了後に講義教室もしくは非常勤講師室で受け付けます。

授業科目名	海外語学演習（英語）				
担当教員名	妻木麻紀子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようになります。なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

授業計画

第1回	海外留学について学ぶ 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える
第2回	英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック
第3回	英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習などを行う。	会話文例の復習、不明点のチェック
第4回	海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック
第5～14回	海外語学留学（23日間） 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題
第15回	語学留学で習得したことを探る 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じたことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ

授業形態・授業方法

留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるよう指導します。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。
 - ・留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。
- ②自ら動く力
 - ・主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。
 - ・積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：主に、英語の基礎学力、異文化理解力、運用力の3つの観点から理解度をみる。
 尺度：観点ごとに3段階、1基本的事項が理解できている、2関連する事項の理解、3実践への応用、の到達度で採点する。
 評価方法：各観点は以下の通り、総合採点評価する。
 ①事前授業における参加状況 30%
 授業内での積極的な発言および取り組み状況。
 ②留学中の生活・学習状況 40%
 現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。
 ③事後授業における到達状況 30%
 レポート課題(1)現地での生活について(2)語学研修について。

使用教科書

教科書は使用せずプリントを配布する。

参考文献等

なし

履修条件

マルボルン研修に参加する学生のみが履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワー：火曜4限、西館5階研究室。

授業の前後にも質問に応じる。

授業科目名	コンピュータリテラシーA				
担当教員名	吉田澄江・寺田亜佐				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとビジネスで活用できるスキルの習得を目指します。具体的には、①情報モラルとセキュリティ②Eメール・インターネットのルールとマナー③タッチタイピング④Office（Word・Excel）の実用的な使い方を習得します。Word・Excelは、実際にビジネスの現場で利用できる題材を使って実践的に学習します。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	オリエンテーション／基本操作確認	<ul style="list-style-type: none"> ・学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 ・Windowsの基本操作確認 ・ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について 			
第2回	コンピュータの活用1～タッチタイピングをマスターする～	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングの基本／キーと指の対応 ・ローマ字入力スピードアップ術 ・タイピングソフトを使用した練習法 ・入力目標を設定する 			
第3回	コンピュータの活用2～効率のよい入力法でスピードアップする～	<ul style="list-style-type: none"> ・効率のよい入力を行うための変換技 ・ショートカットキーを使いこなす ・便利な機能の活用（変換モード／辞書ツール／IMEパッド） 			
第4回	コンピュータの活用3～情報化社会に対応するスキルとは～	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルとセキュリティ ・インターネットを使いこなす ・Eメールのルールとマナー 			
第5回	Word1～ビジネス文書を作成する（基本編）～	<ul style="list-style-type: none"> ・入力と編集の基本 ・文字と段落の書式設定 ・ビジネス文書の基本フォーマット 			
第6回	Word2～表作成とビジネス文書（応用編）～	<ul style="list-style-type: none"> ・表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） ・表を含むビジネス文書作成 			
第7回	Word3～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力をアップする機能 ・オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） ・オブジェクトを利用した文書作成 			
第8回	Word4～実践テクニックと地図作成～	<ul style="list-style-type: none"> ・Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／图表と組織図） ・実践テクニックを活用したビジネス文書作成 ・地図作成とPDF変換 			
第9回	Word5～実技テストと解説～	<ul style="list-style-type: none"> ・Word実技テスト ・実技テスト解説 			
第10回	Excel1～Excelの基本操作と表作成～	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の基礎と手順 ・シートとセルの操作、書式設定 ・表の作成と編集 			
第11回	Excel2～絶対参照／相対参照と関数を理解する～	<ul style="list-style-type: none"> ・演算処理 ・絶対参照と相対参照の違い ・関数の使い方と活用 			
第12回	Excel3～グラフの作成とデザイン編集～	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの用途と種類、基本構成について ・各種グラフを作成する ・色々なデザインにアレンジする 			
第13回	Excel4～実践テクニックと複雑な関数～	<ul style="list-style-type: none"> ・Excel実践テクニック（関数の応用／関数のネスト／ワークシート／リスト／条件付き書式など） 			
第14回	Excel5～実技テストと解説～	<ul style="list-style-type: none"> ・Excel実技テスト ・実技テスト解説 			

第15回

Word/Excel 総まとめ

- ・WordとExcelの複合活用
- ・Word/Excelの実践総合問題

【課題】レベル別個別演習

授業形態・授業方法

配布プリントを使って操作手順を学び、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組みます。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も準備します。授業は毎回の課題をステップアップ形式で進めますので、欠席・遅刻をしないこと。

養うべき力と到達目標

①アカデミックスキル

- ・情報リテラシー：情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

②専門的な力

- ・専門技能：タッチタイピングをマスターする。Office (Word/Excel) を活用して、目的に応じた文書・データベースを効率よく適切に作成することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

単元ごとの課題（40%）、ソフトごとの実技テスト（60%）で評価する。配点は下記の通り。

- ・単元ごとの課題（40点）：タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（15点）、Excel 5ファイル（15点）
- ・ソフトごとの実技テスト（60点）：Word（30点）、Excel（30点）

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介します。

履修条件

全学の学生が対象であるが、パソコン（Windows）の基本操作を習得している場合のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。

ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に質問対応します。

その他連絡が必要な場合はEメールで。（Eメールアドレス：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業科目名	教職論				
担当教員名	大槻雅俊				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本講義では、教師の専門性、教師を取り巻く文化等について考察していきます。特に教職の特質や職務全般について、教育法規や教育制度とも関連づけながら理解を深め、教職という視点からあらためて現代教育に携わる教師とは何かについて考えを深めていきます。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		概要	キーワード	対象	目標
第1回	オリエンテーション 教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。	教職について学ぶ重要性を認識し、授業の概要を整理する。 キーワード：教職、授業			
第2回	学校教育の現状と課題 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題 いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育現場の課題についてまとめる。 キーワード：若手教員、少子化、いじめ、カウンセラー			
第3回	教職についての社会の見方 言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	範としての教員のありかたについてまとめる。 キーワード：教員、品格			
第4回	求められる教員の資質能力(1)－受容と寛容－ 教員としての豊かな人間性について理解する。	教員としての人間性をまとめる。 キーワード：人間性、受容性			
第5回	求められる教員の資質能力(2)－教員の専門性と実践力－ 授業力、事務処理能力、交渉能力などについて理解する。	教員の職務遂行能力について整理する。 キーワード：専門性、実践、職務			
第6回	教職員の種類と資格 教員の資格としての教員免許について理解するとともに教員以外の職員の職務について知る。	教員資格及び学校職員の職務について整理する。 キーワード：教員免許状、教職員			
第7回	教員の身分保障 勤務条件と実際の勤務や服務について理解する。	教員の身分という観点から教職を整理する。 キーワード：勤務、服務規程			
第8回	教員研修と向上心 義務としての研修と自己向上のための研修について理解する。	教員の研修の意義についてまとめる。 キーワード：研究、修養			
第9回	教員の力量と学習指導 教科指導と生徒指導について理解する。	教員と児童生徒の人間関係についてまとめる。 キーワード：指導、学び、			
第10回	教員の力量と校務 教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務と個人の適正について理解する。	校務について整理する。 キーワード：校務、分掌、教務、研究、生活指導、連携			
第11回	校務分掌とその実際 学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの校務の実際の様子と課題	校務と分掌について整理し、課題をまとめる。 キーワード：勤務時間、地域連携			
第12回	学校外の職務と教員の関わり 地方行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などとの職務の関連について理解する。	学校と地域の連携についてまとめる。 キーワード：区役所、PTA、警察、保健センター			
第13回	学校、家庭、地域の連携と教員の関わり 地域の学校という意識、地域連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について理解する。	学校、家庭、地域の連携と教員の職務についてまとめる。 キーワード：連合町会、地域役員			
第14回	教員をめぐる事件・事故 学校の安全管理や教職員の不祥事について理解する。	教員の責務の観点から事案を整理する。 キーワード：盗難、不審者、飲酒運転、喫煙、セクハラ			
第15回	まとめと講義全体の振りかえり 理想としての教員像と自己の課題を捉える。	教職について自己の決意を含めてレポートにまとめる。 キーワード：自信、自覚、期待、創造			

授業形態・授業方法

通常の講義形式で行うが、適宜グループワークなど、実践的なワークを取り入れる予定である。映像資料を用いることもある。授業計画はあくまで参加者や状況が確定する以前の計画にすぎないので、参加者個々の能力や置かれている状況等により変化した形で対応することもある。毎回の授業の瞬間に大切にし、参加者とともに本授業が各人に最適なものとなるよう、ともに場を作っていきたい。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - 職業理解：教育・保育専門職の意義や職務内容に関する理解
 - ・教職の意義について理解し、説明することができる。
 - ・教師の専門性について理解し説明することができる。
 - ・自分が目指す教師像を具体的に説明することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・最終授業時のレポート課題 60点
教職の意義と職務の概要及び教職の特質について述べることができる。60点
教職の意義と職務の概要について述べることができる。40点
教職の意義について述べることができる。20点
- ・授業内課題（ミニレポート：20点×2回）40点
学習内容を踏まえ自己の考えを記述し、今後の展望まで記している。20点
学習内容を踏まえ自己の考えを記述している。15点
学習内容を記述している。10点

使用教科書

適宜プリントを配付

参考文献等

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣
山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』ミネルヴァ書房
ほか、適宜授業で紹介します。

履修条件

教職課程履修者が受講対象者である。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業に主体的参加し積極的に意見発表を行うよう努力してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜日、3限
そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業科目名	教育学				
担当教員名	榎原志保				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

学校教育に携わる専門職として求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項について学びます。基礎知識として思想や歴史、制度を学び、理解することを踏まえて、学生同士の意見交換や議論を行い、「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における中学校教諭、栄養教諭の使命について考えを深めることをめざします。

授業計画

第 <small>回</small>	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		キーワード	概要	目標	評価基準
第1回	オリエンテーション「教育学」を学ぶ意義を考えるー教職課程全体のなかでの「教育学」の位置づけを確認し、「教育学」を学ぶ目的を理解する。	キーワード：教育職員免許法、中学校教諭免許状、栄養教諭免許状、教育課程	概要	目標	評価基準
第2回	「教育」の意味 「教育とは」という問い合わせから、各人のもつ教育観を振り返り、「教育」の意味の多様性と共通性について考える。	キーワード：教、育、字源（、教育の目的、プラトン、カント、ルソー、デューアイ）	概要	目標	評価基準
第3回	「教育」の機能と歴史性 「教育」の意味が時代や社会の移り変わりとともに変遷してきたことを学び、個人・社会と教育との関係に注目することを通して、「教育」の機能と歴史性について考える。	キーワード：養育、訓練、教授、陶冶、教育、個性化、社会化（、デュルケーム、コンドルセ、公教育、シティズンシップ教育）	概要	目標	評価基準
第4回	「教育」と児童福祉 現代社会における教育の理念と目的について、児童福祉との関連にも目を向け、考えを深める。	キーワード：教育基本法、児童福祉法、教育の機能、経済格差と教育格差	概要	目標	評価基準
第5回	現代の子ども観と教育観 教育観の根底にある子ども観の問題に目を向け、現代の子ども観の内容と、その根底にある思想について考えます。教育観と子ども観との結びつきや現代の社会状況のなかでの子ども観について考える。	キーワード：児童憲章、子どもの権利条約、子どもの最善の利益、コルチャック（、アリエス、「子どもの発見」、3つのモデル、ボストマン）	概要	目標	評価基準
第6回	世界の教育思想の歴史（1）古代～近世 子ども観と結びついた教育思想のタイプについて学ぶ。	キーワード：ソクラテス、プラトン、コメニウス、注入主義と開発主義	概要	目標	評価基準
第7回	世界の教育思想（2）近代～現代 今日の学校教育とかかわりの深い主要な教育思想を学ぶ。	キーワード：ルソー、ペスタロッチ、ヘルバート、デューアイ、ブルーナー、系統主義と経験主義	概要	目標	評価基準
第8回	世界の教育思想（3）現代における様々な教育思想 人間形成にかかわる現代の教育思想を学ぶ。	キーワード：芸術教育、労作教育、ケアリング	概要	目標	評価基準
第9回	日本の教育史 日本の主要な教育思想を学ぶ。	まとめノートを作成する。キーワード：空海、最澄、金沢文庫、足利学校、藩校、私塾、寺子屋、郷学、貝原益軒、中江藤樹	概要	目標	評価基準
第10回	日本の教育制度と各学校の目的・目標（1）明治～大正 日本の学校教育制度の成立について学び、社会の形成にかかわる教育制度の意義について考える。	キーワード：学制、教育令、学校令、教育勅語、大正自由教育運動	概要	目標	評価基準
第11回	日本の教育制度と各学校の目的・目標（2）昭和 戦後日本の教育理念とその制度を学び、戦後の社会変容のなかで学校教育が担ってきた役割について考える。	キーワード：日本国憲法、教育基本法、学校教育法、民主主義と教育	概要	目標	評価基準
第12回	日本の教育制度と各学校の目的・目標（3）平成 現代日本の学校教育制度の現状と各学校の目的・目標を理解し、今日の社会状況のなかで「学校」に求められている役割を考える。	キーワード：改正教育基本法、改正学校教育法、小中一貫、中等教育学校	概要	目標	評価基準
第13回	教育行政 教育行政や学校経営の組織、最近の教育改革の動向を学ぶ。	キーワード：文部科学省、中央教育審議会、教育再生会議、教育委員会	概要	目標	評価基準
第14回	生涯学習 生涯学習の理念と法律を学び、生涯学習社会における中学校教育の意義について考える。	キーワード：ラングラン、改正教育基本法第3条、生涯学習振興法	概要	目標	評価基準
第15回	まとめー「教育学」を通しての学びを振り返るー 「教育学」授業を通しての学びを振り返り、総括する。	本授業での学びを振り返り、まとめる。	概要	目標	評価基準

授業形態・授業方法

配布資料やパワーポイントを用いての講義が中心となります。一方的な授業とならないよう、教員と学生、学生同士の対話を重視します。トピックによっては、グループ学習やプレゼンテーション、意見交換や議論を中心とします。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・教育理念、教育制度の基礎知識：教育の理念・目的・目標にかかわる法的規定やそれに基づく日本の教育制度の基本的なしくみを理解し、それを踏まえて、中学校教諭、栄養教諭の担う職務の意義について、考えを述べることができる。
 - ・教育史、教育思想の基礎知識：主要な教育思想家の主張を取り上げながら、教育に関する自分の考えを述べることができる。
- ②学びあう力
 - ・傾聴力：教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができる。
 - ・伝える力：自分の意見や主張を、文章や口頭発表をとおして、分かりやすく正確に伝えることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各回のコミュニケーションペーパー、小テスト、最終レポートにより、総合的に評価します。
- ・コミュニケーションペーパー：2点×15回（合計30点満点）
 - 授業内容を踏まえない感想になっている：0点
 - 授業内容が正確にまとめられている：1点
 - 授業内容や他者の意見の正確な理解に基づき、自分自身の意見を論理的に表現することができている：2点
 - ・小テスト：10点×3回（合計30点満点）
 - ・最終レポート（40点満点）
- 以下の観点から評価します。
- 授業内容の正確な理解に基づいて書かれているかどうか。
独善的にならずに、自己の教育理解の拡がりや深まりについて分かりやすく述べることができているかどうか。

使用教科書

新井・牧 編著 『教育学基礎資料』 樹村房

参考文献等

- 原聰介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社
 佐藤学 編 『教育本44』 平凡社
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会
 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣

その他、各回授業のなかで適宜紹介する。

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

「コミュニケーションペーパー」や「最終レポート」では、他者の意見や主張を正確に理解し、それを踏まえながら、独善的にならずに自分の意見を述べることができているかどうかを特に重視します。「教育」については誰しも自らの経験に基づいた考え方や意見をもっているのですが、この授業での学びをとおして、自らの教育観・子ども観を幅広い視野から根本的に振り返り、「教職」との関連で確かなものにしていってほしいと願っています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。
Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	藤田 正・渋谷郁子				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

教育活動を行うためには、「教える内容」についての知識があれば十分というわけではありません。まずは、「教える」とは何か、「学ぶ」とは何かという根本的な問題を考えてみることが大切です。本授業では、「教える-学ぶ」という教育の問題を心理学的に研究し、教育の実践活動に対する科学的な根拠と指針を理解することを目的としています。より具体的には、身体、知覚、感情、言葉、学習、集団、人間関係などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える教育実践について考察します。

授業計画

回	授業題名 (担当者)	学習課題(授業時間外の学習)			
		目標	内容	方法	参考文献
第1回	教育心理学とは：生涯発達の視点から (担当者：渋谷)	心理学に関わる領域について自分なりの考えをまとめる。 キーワード：生涯発達、教育心理学	教育心理学の諸領域について学ぶ。 生涯発達の視点から発達各時期（特に幼児期・児童期）の意義を理解する。		
第2回	発達の基礎理論：社会心理的発達 (担当者：藤田)	自らの人生を振り返り、発達課題の獲得について考察する。 キーワード：青年期、エリクソン、アイデンティティ	エリクソンの理論とともに発達の時期と課題について知る。 青年期の発達課題とその獲得の困難さについて理解する。		
第3回	社会性の発達と学級集団 (担当者：藤田)	自らのこれまでの学校生活を振り返り、集団生活の意義について考えをまとめる。 キーワード：仲間関係、集団、社会	社会の一員として生きることの意味を知る。 仲間関係の発達と学級集団の意義と役割について理解する。		
第4回	ことばの機能と発達 (担当者：藤田)	ことばを使わないと困難になってしまうことを自分なりに考える。 キーワード：内言、外言	一次的言語と二次的言語について理解する。 内言と外言を中心にことばの機能を理解する。		
第5回	道徳性の発達 (担当者：藤田)	自らの倫理観について考察する。 キーワード：道徳、倫理	いいこと悪いことを理解する心の発達を知る。 道徳性を養う教育的関わりを知る。		
第6回	教育活動の測定と評価 (担当者：藤田)	これまで自分が受けた評価について振り返ってまとめる。 キーワード：教育評価、偏差値、標準偏差	教育評価の目的と評価方法を理解する。 偏差値と標準偏差について理解する。		
第7回	行動主義の学習 (担当者：藤田)	自分を動機づける具体的方法を考える。 キーワード：学習、動機づけ	学習の基礎として条件づけを理解する。 動機づけのメカニズムを理解し、支援法を知る。		
第8回	認知主義の学習 (担当者：藤田)	同化と調節の具体例を考える。 キーワード：ピアジェ、段階、認知発達	ピアジェの認知発達理論を理解する。 能動的な学習観にもとづく実践を知る。		
第9回	活動主義の学習 (担当者：藤田)	さまざまな学習方法の長所と短所をまとめる。 キーワード：活動主義、ヴィゴツキー	ヴィゴツキーの活動主義の発達教育論を理解する。 活動主義の学習観にもとづく実践を知る。		
第10回	今日の学習研究（1） (担当者：藤田)	模倣によって学習してきたことをまとめる。 キーワード：心の理論、模倣、生成的学習	「心の理論」の発達研究から、模倣による学習を理解する。 模倣から創造性などの生成的学習への可能性を考える。		
第11回	今日の学習研究（2） (担当者：藤田)	協同学習によって学習してきたことをまとめ る。キーワード：協同学習、文化継承、文化生成	協同学習に関する人間の心理的基盤を理解する。 協同学習による文化継承と文化生成の可能性を考える。		
第12回	学校への不適応 (担当者：渋谷)	新聞などで教育問題に関する記事を探してくる。 キーワード：不登校、いじめ	不登校やいじめなどの学校で起こりうる問題について理解する。 問題解決のためのさまざまな対応例を知る。		
第13回	障害と特別支援教育（1）：障害をどう理解するか (担当者：渋谷)	自分の経験、新聞記事などで障害についての理解を深める。 キーワード：発達障害、特別支援	発達障害を含めたさまざまな障害とその定義について理解する。 特別支援教育について理解する。		
第14回	発達障害と特別支援教育（2）：発達障害の特性 (担当者：渋谷)	本やマンガなどの文献で障害についての理解を深める。 キーワード：自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習症	自閉スペクトラム症の「コミュニケーションの難しさ」「行動・興味の狭さ」の生じる背景を理解する。 注意欠如・多動症や学習症の主特性とそのメカニズムを理解する。		
第15回	保護者対応と教師のメンタルヘルス (担当者：渋谷)	カウンセリングスキルを日常生活の中で実際に使ってみる。 キーワード：カウンセリングマインド、保護者対応、メンタルヘルス	現代社会における子育ての諸問題を理解し、保護者の気持ちに寄り添う対応を考える。 子どもや保護者、同僚と良い関係を築いていくよう、教師のメンタルヘルスのあり方を考える。		

授業形態・授業方法

2人の教員がオムニバス形式で授業を行います。どちらの教員についても、授業の形態は、配布する資料を使用した講義です。ですが、単に資料を読んでいくのではなく、授業中の質疑などを交えて授業を構成していきます。授業の終わりに、質問の時間および振り返りの時間を設けますので、積極的に質問や意見を提出してください。また、適宜、関連するビデオを視聴したりします。

養うべき力と到達目標

1. 学びあう力
 - ・子どもの「発達」と「学習」の成り立ちとそれに関わる理論を理解できる
 - ・自己と他者が学び合う環境を尊重できる
2. 課題発見力
 - ・学んだ理論を教育実践に応用できる
 - ・課題を発見し、他者を支援できる

成績評価の観点と方法・尺度

授業内で隨時指定する課題、および授業中盤でのレポート、授業終盤での試験の3点から評価する。「発達に関わる心理学」「学習に関わる心理学」「心理学と教育」の3つの観点から理解度をみる。「1. 基本的事項が理解できている」「2. 心理学の理論を踏まえて子どもを理解できる」「3. 学んだことを教育実践へ応用できる」の到達度を用いて、授業内課題40%、レポート30%、期末試験30%の配分で採点する。

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

「教職のための心理学」 藤澤文 ナカニシヤ出版

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

「教える-学ぶ」ことに関する問題を扱う授業です。教職を目指す皆さんですから、本授業の学習過程そのものを題材とし、自らの学びに意識的であってほしいと思います。積極的に意欲的に授業に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜日3限(13:00-14:30)、場所は研究室(中央館4階)です。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	国語科教育法				
担当教員名	佐伯暁子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、まず、学習指導案の考え方や作成の準備・プロセス・注意について学びます。次に、指導案の実例を見て指導案の組み立てやレイアウトを学びます。最終的には、指導案づくりに取り組み、模擬授業を行います。指導案づくりや模擬授業を行うことで、教育実習の授業実習への足がかりとすることが本科目の目的です。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	復習のキーワード
第1回	ガイダンス—国語科の目標と内容	学習指導案づくりと、それにもとづく授業実践の基底をなす、国語科の目標や構成、内容の取り扱いを学習指導要領に即して学びます。	学習指導要領、国語科の目標、国語科の内容
第2回	国語科学習指導案作成の前提（1）教材研究	国語科指導案作成の前提である教材研究について学びます。	「読むこと」の指導要領、「書くこと」の指導要領
第3回	国語科学習指導案作成の前提（2）国語科の授業	学習指導要領の記述を踏まえ、国語科各科目について学びます。	古典の授業、段落と構成
第4回	学習指導案作成研究（1）単元の指導目標	「教材観」「指導目標」の項目の書き方について学びます。	教材観、教材の系統観、生徒観、指導観、指導目標
第5回	学習指導案作成研究（2）指導計画	「指導計画」の項目の書き方について学びます。	指導計画
第6回	学習指導案作成研究（3）本時の指導計画	「本時の指導計画」の「指導目標」「指導過程」「評価の観点」の書き方について学びます。	本時の指導目標、本時の指導過程、本時の評価
第7回	学習指導案の研究	指導案の実例を見て指導案の組み立てやレイアウトを学びます。	組み立て、レイアウト
第8回	指導案づくり（前半）	中学校の教科書から模擬授業で扱う教材を選び、指導案づくりの作業を行います。	自分で選んだ教材の指導案づくりを行う。 教材観、教材の指導目標
第9回	指導案づくり（後半）	前回に引き続き、指導案づくりの作業を行います。	自分で選んだ教材の指導案づくりを行う。 本時の指導計画
第10回	模擬授業（1回目）	自分の行いたい授業の教材を探し、指導案を作成した上で模擬授業を行います。他の学生の行う模擬授業について理解を深めます。	他の学生の行った模擬授業について、参考になる点、工夫が必要な点をピックアップする。 資料作成
第11回	模擬授業（2回目）	前回に引き続き、模擬授業を行います。	他の学生の行った模擬授業について、参考になる点、工夫が必要な点をピックアップする。 発問の工夫
第12回	模擬授業（3回目）	前回に引き続き、模擬授業を行います。	他の学生の行った模擬授業について、参考になる点、工夫が必要な点をピックアップする。 板書の工夫
第13回	模擬授業（4回目）	前回に引き続き、模擬授業を行います。	他の学生の行った模擬授業について、参考になる点、工夫が必要な点をピックアップする。 動機づけ・興味のもたらせ方
第14回	模擬授業（5回目）	前回に引き続き、模擬授業を行います。	他の学生の行った模擬授業について、参考になる点、工夫が必要な点をピックアップする。 机間指導（支援）
第15回	模擬授業の反省と「国語科教育法」のまとめ	模擬授業の反省を通して、指導案に必要な点をもう一度確認します。	最終指導案を完成させる。 学習指導案の検討

授業形態・授業方法

授業の半分程度を講義、残り半分を講義に基づく演習の時間とします。演習の時間は模擬授業の発表を取り入れます。

養うべき力と到達目標

- ①専門的知識
国語・日本語の専門知識：国語・日本語及び日本文化についての深い理解と専門知識
- ②専門技術
国語・日本語の実践応用力：国語・日本語の適切な使い方と日本の歴史・文化を理解し、それらを第三者に正しく使える能力と技術

成績評価の観点と方法・尺度

- （模擬授業：50%）
指定の形式に沿って独自の授業内容を提示できているかという観点から評価する。
(レポート：50%)
模擬授業の発表での他者の意見を踏まえて、独自の視点で書かれているかという観点から評価する。

使用教科書

なし。随時補足資料を配付する。資料はファイルにじて管理すること。

参考文献等

教育実習を考える会『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』（蒼丘書林、2012年）

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

模擬授業では、授業担当者の言葉だけでなく、受講している他の学生の意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

火曜3限をオフィスアワーとしているが、授業前後の質問も歓迎する。その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業科目名	家庭科教育法				
担当教員名	松岡依里子・大本久美子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

中学校技術・家庭科（家庭分野）の意義・目標・内容など具体的な指導について学び、指導の基本を身につけることを目的とします。具体的には、学習指導要領を知り、家庭科の教科書をもとに、現場ではどのような授業がなされているのか、事例をもとに学びます。領域ごとに学習指導案を作成し、模擬授業を行い、改善点をみつけ、授業のスキルを身につけます。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		学習目標	学習方法	解説	まとめ
第1回	オリエンテーション－家庭科教育とは－（大本） 家庭科教育全般についての説明を聞き、理解する。また授業の方針や学習方法、課題への取り組み方を学ぶ。	教科書を通読し、課題意識を持つ。キーワード：学習目標 教育 家庭科			
第2回	家庭科教育の目標（大本） 学習指導要領が示す家庭科の目標を理解し、目標達成に向けての具体的な内容を整理する。	学習指導要領 解説（家庭）を通読し、家庭科の目標を知る。キーワード：学習指導要領 目標 家庭科			
第3回	家族・家庭と子どもの成長（大本） 「生活の課題と実践」に関する事項及び生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てるための方法や授業内容を学ぶ。	家庭科への興味を喚起させ、家庭生活や家族に関心を持つような授業を工夫する。キーワード：子ども 保育 発達			
第4回	食生活と自立（大本） 小学校家庭科で学習した「B 日常の食事と調理の基礎」との関連を図り、中学生の食生活や栄養についての指導事項を整理する。さらに学習した知識や技能を生かして、主体的な学習活動を展開するにはどのようにすればよいかを討議する。	【課題】中学生の発達段階を理解し、食事や栄養についての基礎を身に付けておく。キーワード：食育 栄養 献立 自立			
第5回	衣生活・住生活と自立（松岡） 家庭科の学習を通して「衣服と社会生活との関わりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫ができる」という社会性をどのように指導するかについて考えをまとめる。また、「快適な住まい方の工夫」について考え、安全性や環境面をも考慮した住まいの在り方についてまとめる。	エコの視点も取り入れて、住まい方にについてのレポートを作成する。キーワード：環境 衣服 住居 安全			
第6回	身近な消費生活と環境（大本） 消費者の基本的な権利と責任について学び、家庭生活と消費の関係、環境に配慮した家庭生活について調べ、発表する。	【課題】新学習指導要領A, B, Cの内容との関連を図り、具体的な場面での消費や環境についての指導を工夫する。キーワード：消費者 悪徳商法 購買 企業			
第7回	家庭科学習指導計画（大本） 指導計画作成に当たっての配慮事項についてまとめ、小学校家庭科との関連について系統的・発展的に指導することの大切さを知る。	指導計画の作成について、学習指導要領 解説（家庭）で基本的事項を学習しておく。キーワード：家庭科カリキュラム 小学校 家庭科			
第8回	食育と家庭科（大本） 食育推進に関する家庭科教育の果たす役割を知り、理解する。特に中学生の発達段階における食育の重要性についてまとめる。また食育基本法、食糧自給率、地産地消等、食に関する基本的事項を学ぶ。	中学生の自覚を促すという点で、学校と家庭がどのように連携して実践すればよいかを考える。キーワード：食育 食料自給率 地産地消 地域			
第9回	I C T教育と家庭科 インターネットを使った学習で子どもの興味・関心を高め、意欲を引き出す効果について知る。 さらに日常生活でのパソコンの活用と危険性について調べ、どのように指導するかについて討議する。	インターネットによる食育情報の入手や調べ学習を体験し、安全面での指導事項をまとめ。キーワード：ICT 安全			
第10回	言語活動と家庭科 知的活動の基盤である言語の役割を理解し、実習等の結果を整理し言語を使って考察する活動を取り入れた学習を工夫する。家庭科に関わる用語を整理し、語彙は実感を伴って理解することが重要であることを知る。	家庭科で用いる語彙の意味を実感を伴って理解させることの大切さについてレポートにまとめる。キーワード：言語 実習 意味理解			
第11回	家庭科教材研究の方法（松岡） 「わたしの成長と家族や周囲の人々」を取り上げ、〈目標〉〈学習の流れ〉〈指導のポイントや留意点〉等、教材研究の仕方を学ぶ。中学生が「子どもの成長」を学ぶ意義を理解し、授業展開に生かす。	幼児の生活と遊びに関する情報を得て、授業に生かす課題意識を持つ。キーワード：家族 子ども 遊び			
第12回	学習指導案の作成 教科書を参考にして、自分が指導したい題材を選び、学習指導案を作成する。	習得した教材研究の仕方を生かし、掲示物やワークシート等も作成する。キーワード：指導案 教材研究			
第13回	模擬授業の展開 作成した指導案をもとにして、模擬授業を行い、授業観察後、相互評価をする。また改善点等を自分の授業に生かす。	事前に模擬授業の準備をしておく。キーワード：授業 筋道 実践			
第14回	模擬授業の改善 前回の模擬授業で行った相互評価を生かし、改善した授業を行う。特に発問の仕方や掲示物、ワークシート等についても工夫をする。	模擬授業を通して学んだことを明確にする。キーワード：発問 教材			
第15回	まとめ—家庭科教師の専門性— 実践を通して学んだ中から、課題を明確にし研鑽の意欲を高める。さらに講義全体のまとめをする。	学びを生かした実践ができるようにする。キーワード：教材の発展性 教師の専門性			

授業形態・授業方法

講義で家庭科教育におけるキーワードを学び、学習指導案を作成し、発表し、履修者相互に意見交換を行い、授業方法について再考します。具体的には、単元ごとに学習指導案を作成するための教材研究を行います。さらに、模擬授業を行い、指導法を改善し、家庭科の指導技術を学びます。

養うべき力と到達目標

- ①筋道を立てる力
 - ・計画力：・テーマについて、授業内容を計画することができる。
 - ・発想力：・テーマに関する教材研究を行い、工夫することができる。
- ②学びあう力
 - ・傾聴力：・他人の発表を聞き、その意図や主張を正確に把握する。
 - ・伝える力：・内容について、わかりやすく説明することができる。
- ③専門的な力
 - ・家庭科の専門性を学び、プロフェッショナルな教師として授業を構築できる力をつける

成績評価の観点と方法・尺度

毎回のミニレポート、ワークシート、最終レポートで評価する。
 ・ミニレポート 3点×15回 45点 授業内容や他人の意見を踏まえ、独自の視点で書かれている。 3点
 授業内容を踏まえて書かれている。 2点
 ・ワークシート 5回×5点 25点 5点：教材研究がよくできている。 4点：授業内容を踏まえている。
 3点改善点はあるが基準点に達している。
 ・模擬授業 15点：15点 授業構成、話し方など申し分ない。 10点 改善点がある。
 ・最終レポート 15点 授業内容や他人の意見を踏まえ、独自の視点で書かれている。 15点
 授業内容をふまえて書かれている。 10点

使用教科書

「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野）」開隆堂
 教育図書 東京書籍
 「中学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省
 橋本美保・田中智志監修 大竹美登利編著「家庭科教育 教科教育学シリーズ」一藝社

参考文献等

- ・「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野）」教育図書
- ・「中学校技術・家庭科教科書（家庭分野）」東京書籍
- ・大竹美登利監修「安心して生きる 学ぶ 生活する」開隆堂
- ・望月一枝 倉持清美 妹尾理子編著「生きる力をつくる学習—未来をひらく家庭科—」教育実務センター
- ・日本家庭科教育学会編「生活をつくる家庭科（1巻～3巻）」ドメス出版
- ・柴田義松監修 大竹美登利 赤塚朋子・鶴田敦子編著「家庭科の本質がわかる授業1～3」日本標準
- ・中間美砂子 多々納道子編著「中学校・高等学校家庭科指導法」建帛社

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

課題がすべて提出されなかった場合、本科目全体の成績評価は行わない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

生活デザイン専用メール及び授業前後で対応する。

授業科目名	道徳教育研究				
担当教員名	中井 豊				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

「道徳教育のあり方・進め方の理論及び方法」を授業テーマとします。現代の子どもにとって、道徳教育はいかにあるべきでしょうか。また、道徳の授業が学習者の心に響く感動的で省察的で、よりよく生きようとする力になるためにはどうあるべきでしょうか。これらについて教育現場で行われている事例も適宜紹介しながら考究していきます。そして、道徳の授業実践のための基礎基本についての理解を深め、実践的な指導の方法論について修得します。

授業計画

授業回数	授業の題目	授業の進め方などの説明	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション 授業の進め方などの説明 グループ編成	本授業の進め方や成績評価の仕方について理解する。また、模擬授業を行うためのグループを決める。	シラバスの内容を十分理解しておく。キーワード：自己の教育体験
第2回	現代社会における道徳教育のあり方 自己の教育体験（発表）	自己の教育体験を発表し、現代社会における道徳教育のあり方を考え、まとめる。	キーワード：学習指導要領の変遷、昭和22年、昭和26年、昭和33年、昭和44年、昭和52年、平成元年、平成10年
第3回	学習指導要領の変遷と道徳教育	学習指導要領の変遷について学び、道徳教育について考える。	キーワード：授業づくり、子どもが意欲的に取り組むには、指導技術
第4回	道徳教育と授業づくり（授業のねらい）	授業のねらいを鮮明に持つことと指導技術について学ぶ。	キーワード：高め合う学習集団、高めたい人間性
第5回	道徳教育と授業づくり（高め合う学習集団）	高め合う学習集団を育てることと、教員の高めたい人間性について学ぶ。	キーワード：「主として自分自身に関するこ」と授業づくり
第6回	「主として自分自身に関するこ」と授業づくり	「主として自分自身に関するこ」との教材と授業の進め方について学ぶ。	キーワード：「主として他の人とのかかわりに関するこ」と授業づくり
第7回	「主として他の人とのかかわりに関するこ」と授業づくり	「主として他の人とのかかわりに関するこ」との教材と授業の進め方について学ぶ。	キーワード：「主として自然や崇高なものとのかかわりに関するこ」と授業づくり
第8回	「主として自然や崇高なものとのかかわりに関するこ」と授業づくり	「主として自然や崇高なものとのかかわりに関するこ」との教材と授業の進め方について学ぶ。	キーワード：「主として集団や社会とのかかわりに関するこ」と授業づくり
第9回	「主として集団や社会とのかかわりに関するこ」と授業づくり	「主として集団や社会とのかかわりに関するこ」との教材と授業の進め方について学ぶ。	模擬授業の準備をする。
第10回	道徳の授業実践（1） 道徳の模擬授業の準備	各グループで道徳の模擬授業の準備をする。	模擬授業の準備をする。
第11回	道徳の授業実践（2） 道徳の模擬授業の展開	各グループで模擬授業の準備・練習をする。	模擬授業の準備をする。
第12回	道徳の授業実践（3） 道徳の模擬授業の展開と評価	模擬授業を行い、その授業について話し合う。	模擬授業の準備をする。
第13回	道徳の授業実践（4） 道徳の模擬授業の展開と評価	模擬授業を行い、その授業について話し合う。	キーワード：これからの道徳教育
第14回	道徳と市民性教育 これからの道徳教育のあり方	これまでの学修内容をふまえ、これからの道徳教育のあり方について考える。	キーワード：自分の道徳についての教育観・授業観の変容
第15回	まとめ 道徳教育観・道徳の授業観についてのまとめ	本授業に参加して、自分の道徳についての教育観や授業観がどのように変化したかを考える。	学修内容をレポートにまとめる。

授業形態・授業方法

一方向的な講義に終わるのではなく、学生同士や学生と教員との議論も取り入れ、能動的創造的学修を追求します。また、子どもにとって魅力ある授業となるためにどのようなことに留意すべきか、授業づくりもグループワークなどを通じて、体験的な学修を行います。毎回授業の終わりに「まとめノート」の取り組み、授業時間外の学習として、次回の内容についての予習を宿題とします。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・教育に関する他人の意図や主張を丁寧に正確に把握することができる。
 - ・他人の意見を踏まえて教育に関する自分の意見を発表することができる。
- ②専門的な力
 - ・道徳教育の潮流、指導内容について理解できる。
 - ・道徳の授業の基礎的な構成力や実践スキルが修得できる。
 - ・自己の道徳教育観や授業観についての基本が形成できる。

成績評価の観点と方法・尺度

まとめノート（50%）、まとめレポート（20%）、主体的・意欲的・創造的受講態度（30%）について、上記「養うべき力と到達目標」の①「学びあう力」および②「専門的な力」の観点から採点し、総合的に評価します。

使用教科書

授業時に紹介する。

参考文献等

『とっておきの道徳授業』（中学校編12冊NO.1～NO.12），桃崎剛寿 編著，日本標準

履修条件

受講対象は教職課程履修者である。

履修上の注意・備考・メッセージ

主体的・意欲的・創造的に受講すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

「まとめノート」に記入してください。

授業科目名	教育方法論				
担当教員名	赤沢真世				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

この授業では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とします。具体的には、学習指導、授業づくり、授業分析、教室研究、評価方法などについて取り扱います。そして、現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および今日的課題について理解を深めます。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		内容	キーワード	目標	評価
第1回	オリエンテーション 教育方法・技術とは何か、授業を成立させる要素について考えます。また、伝えられることの難しさについて再認識する。	学修内容について整理する。 キーワード：教育方法と指導方法、伝えることの難しさ			
第2回	授業と技術：教師の応答による授業・学級集団としての授業 教授法・学習観の変遷、授業を取りまく側面、教師と子どもの応答関係について学ぶ。	学修内容について整理する。 キーワード：行動主義学習観、構成主義学習観、授業をとりまく側面			
第3回	教師の指導言（1）4つの指導言、指示や説明のポイント 教師の指導言の重要性についておさえたあとに、指導言の4つの種類を知り、とくに指示や説明をするときのポイントを学ぶ。現場の教師のビデオ検討も行う。	学修内容について整理する。指示や説明の部分について練り上げる。 キーワード：指示・説明・助言・発問、一指示一行動、「AさせたいならBといえ」			
第4回	教師の指導言（2）発問の意義と重要性 指導言のうち、とくに授業づくりの核となる「発問」の意義をまなび、発問づくりワークを行う。	学修内容について整理する。発問のうち、ベスト発問を選び、その理由をまとめてくる。 キーワード：発問、思考誘発型発問			
第5回	教材・教具論（1）3つの区別 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義をおさえ、区別することの意義について理解する。	学修内容について整理する。 キーワード：教育内容・教材・教具			
第6回	教材・教具論（2）教材解釈・教材開発 教材解釈・教材開発の違いを知るとともに、これまでの有名な実践をもとに、教材開発のポイントを考える。また、自身の選んだ単元に応じた教材開発を試みる。	単元を選択し教材開発をすすめる。 キーワード：教材開発、有田和正、下からの教材づくりと上からの教材づくり			
第7回	指導形態（1）学習グループの形成、学び合い 学習形態について、とりわけ能力別編成、学びの共同体、学び合いの授業などをキーワードで学ぶ。これから求められる学力とも結びつけた指導形態をさぐる。	学修内容について整理する。 キーワード：学びあいの授業、学びの共同体、能力別クラス分け			
第8回	指導形態（2）板書と座席、教師の居方 板書の方法と技術、座席の配置を、学習内容や指導すべき内容に即して、その利点や考慮すべき点を考える。また、教師の立ち位置や姿勢という「居方」についても現役の教師の授業ビデオ検討を行い、ポイントを摘む。	学修内容について整理し、小テストに備える。 キーワード：四分六の構え、構成的板書と構造的板書、コの字型、ペア型、田の字型			
第9回	評価論 これまでの評価論の歴史を踏まえて、今求められる評価について学ぶ。	学修内容について整理し、小テストに備える。 キーワード：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価、形成的評価			
第10回	マイクロ・ティーチングオリエンテーション 次週より始まるマイクロ・ティーチングに備えて、オリエンテーションを行います。授業の導入の意義や目的、一つの授業の典型的な展開を学び、これまでの指導言や教材論を踏まえて導入5分間の授業づくりを行う。	5分間の授業導入を開発する。 キーワード：導入の意義、授業の導入一展開一終末			
第11回	マイクロ・ティーチングとふりかえり（1）前半グループ 5分間の授業導入を行う。全員必須の模擬授業となる。	終了者はふりかえりシート作成、次回発表者は準備を行う。 キーワード：マイクロ・ティーチング、省察			
第12回	マイクロ・ティーチングとふりかえり（2）後半グループとふりかえり 前回の発表者のふりかえりを踏まえて、次グループによる5分間の授業導入、全員必須の模擬授業を行う。	自身の模擬授業のビデオを見て、自身の到達点・課題についてふりかえりシートを作成する。 キーワード：教師の居方、めあて			
第13回	学習指導案の作成（1）めあてから評価の一貫性 学習指導案（1時間分）を作成するために、めあてから評価まで一貫した授業の重要性について改めて意識を向ける。自身の作成して授業案について目標、内容の練り直しを行う。	学習指導案のラフスケッチをすすめる。 キーワード：めあて、単元目標、本時の目標			
第14回	学習指導案の作成（2）教材と発問の精錬 学習指導案（1時間分）を作成するために、教材や発問重要性について改めて意識を向ける。自身の作成して授業案について教材や発問を一貫して位置づけ、練り直しを行う。	学習指導案のラフスケッチの完成、教材づくりをすすめる。 キーワード：教材づくり、発問構成			
第15回	教育方法論のまとめ ペア・グループでの学習指導案の検討会、これからの教育実践のあり方について考察する。	フォーマットに合わせて指導案（の骨子となるもの）を作成する。 キーワード：学習指導案検討会、まとめ			

授業形態・授業方法

基本的には講義形式で授業を進めますが、それだけではなく、グループワークなどの能動的学修により、主体的な学びを追求します。これまでの学習者としての自己が体験した教育内容と方法を振り返りながら、これからの方針や方法について、発表の場を設け、積極的な学修を行います。また、教育実践に対する意欲の深化と批判的な思考力を養うため、映像教材などの活用します。

養うべき力と到達目標

(1) 養うべき力

- ①幅広い教養・品格：
教育方法に関する基礎的な知識を獲得することができる。
・教育方法に関する基礎理論を理解できる。
・さまざまな教育方法の特色を整理することができる。

②専門的な力：

- 授業づくりや授業実践についての専門的な技術を見につけることができる。
・教育方法の基本的な考え方・専門的知識を修得した上で、情報機器や教材を適切に活用することができる。
・模擬授業や教育実習等の場で、学習した教育方法を実践の場で活用することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

【観点】

- ①教育方法に関する基礎的な理論を理解しているか。
- ②学級づくり・授業づくりについて具体的な方法を意識し、実際に授業が計画できるか。
- ③実際に生徒の前で計画に基づいた授業が展開できるスキルが身についているか、自己の到達度や改善点を振り返ることができているか。

【尺度及び方法】

上記の観点に基づき、授業内定期試験（20%）（①に対応）、定期レポート（50%）（②に対応）、マイクロ・ティーチング（20%）（③に対応）と受講態度（10%）によって総合的に評価する。

- ・授業態度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

使用教科書

授業時に資料を配布する。

参考文献等

- ・『よくわかる授業論』田中耕治編著、ミネルヴァ書房、2009年
- その他の参考書・参考資料等については、授業中に適宜紹介する。

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

3分の2以上の出席をもって、成績評価の対象とする。
毎回の資料はきちんとファイルし、定期的にふりかえること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

木曜日 5 講時（16:20～17:50）西館4階94研究室
その他の時間は応相談。メールでアポイントメントをとること。（メール：akazawa@osaka-seikei.ac.jp）

授業科目名	カウンセリング概論				
担当教員名	渋谷郁子				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

カウンセリングとは、心理学に基づいた支援関係の中で行われる相談活動を意味します。この授業では、カウンセリングの理論と具体的な技法を学ぶ中で、「話を聞く」ことや、相手を理解しようとする姿勢について考えます。また、さまざまな心理状態を理解するための臨床心理学の知見や、精神疾患・発達障害・学校不適応などに関する知識を深め、教育現場で出会う諸問題への洞察力を高めます。

授業計画

授業回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	キーワード
第1回	カウンセリングとは何か	日ごろの自分の他者との付き合い方、自己開示の程度を振り返る。	カウンセリングの定義、概要、心理学全体の中での位置づけなどを学ぶ。また、他者理解の前提となる他者への態度、話の聞き方などを知る。		キーワード：カウンセリング、他者理解、臨床心理学
第2回	カウンセリングのプロセス	非言語的な情報を注目して、自分や他者の外見的な様子を観察・分析する。	カウンセリングの初期段階、中期段階、終息段階の特徴と、各段階で用いられる技法との関連を理解する。また、ラボール形成に必要な、非言語的な応答技法について考える。		キーワード：ラボール、応答
第3回	カウンセリングの基本的姿勢	「カウンセリング」についての一般的なイメージと、実際との相違点を整理する。	ロジャーズの自己理論の考え方を知り、非指示的カウンセリングのあり方を学ぶ。また、ロジャーズの面接場面をビデオで視聴し、カウンセラーの関わり方の実際をつかむ。		キーワード：非指示的カウンセリング、ロジャーズ
第4回	カウンセリングの技法I：受容	他者を受容するのに必要な心の余裕を、どのように生み出しが出来るか、自分のライフスタイルを振り返る。	「受容」に関する言語的な応答技法を知り、ロールプレイを用いて練習する。ロールプレイの意義を理解し、積極的にディスカッションを行う。		キーワード：受容、受け止め、ロールプレイ
第5回	カウンセリングの技法II：共感	他者を理解するのに欠かせない情報にはどのようなものがあるか、書き出してみる。	「共感」に関する言語的な応答技法を知り、ロールプレイを用いて練習する。ロールプレイの意義を理解し、積極的にディスカッションを行う。		キーワード：共感、質問
第6回	カウンセリングの技法III：まとめ	学んだ技法を実生活で試してみる。	これまで学んだ、非言語的な態度や「受容」「共感」の応答技法などを用いて、自由度の高い場面で他者の相談を受けるという体験をする。		キーワード：ロールプレイ
第7回	カウンセリングの基礎理論I：精神分析療法	日常場面の中に防衛機制の具体例を探す。	精神分析療法の起源と成立、意識過程、心の構造、防衛機制などについて理解する。投影法を用いて、自らの無意識過程に目を向ける。		キーワード：精神分析、投影法
第8回	カウンセリングの基礎理論II：行動療法	子どもの望ましい行動を増やしていくための具体的なかわりを考える。	「教育心理学」で学んだ学習に関する知識を思い返しながら、行動療法について学び、行動問題のとらえ方や新規な行動の形成方法などを知る。		キーワード：学習、行動療法
第9回	ストレスへの反応と対処	自分のストレス対処法を振り返り、改善点を考える。	ストレスやストレス反応とはどんなものかを理解する。また、ストレスコーピングの種類などを知り、教育現場で実践できるストレスマネジメントについて学ぶ。		キーワード：ストレス、ストレスコーピング、ストレスマネジメント
第10回	精神疾患I：うつ病	身近な人が精神疾患に罹った場合に、どんな対応ができるかを考える。	精神疾患の種類を知る。うつ病の諸症状と治療方法について学び、うつ病への適切な対応の仕方を考える。		キーワード：精神疾患、うつ病
第11回	精神疾患II：不安症	抑うつや不安などの気分との付き合い方を考える。	罹患率の高い不安症について、不安症の種類や要因、対応などを学ぶ。また、不安と愛着との関連を知る。		キーワード：気分、愛着、不安症
第12回	発達障害I：自閉スペクトラム症	教育の現場でどのような対応ができるかを考える。	自閉スペクトラム症の「コミュニケーションの難しさ」「行動・興味の狭さ」の生じる背景を理解する。社会的相互作用の困難、注意の範囲の狭さ、感覚の過敏・鈍さなどの特性について学ぶ。		キーワード：発達障害、コミュニケーション、自閉スペクトラム症
第13回	発達障害II：注意欠如・多動症、学習症	教育の現場でどのような対応ができるかを考える。	注意欠如・多動症や学習症の主特性とそれらが生じる背景を理解する。発達障害の生徒に対して適切なアセスメントを行えるよう、心理学的な知識を学ぶ。		キーワード：注意欠如・多動症、学習症
第14回	学校不適応	教育の現場でどのような対応ができるかを考える。	学校への不適応の表れとしてみられる、不登校やいじめ、非行などについて学ぶ。また、それらの問題の背景を理解するため、思春期・青年期の発達課題や現代の親子関係などについて考える。		キーワード：不登校、いじめ、非行
第15回	カウンセリングの知見を現実の中に生かす	もっとも印象に残った内容について詳しく調べ、まとめる。	カウンセリングや臨床心理学的な知識の習得程度や、他者とのコミュニケーションにおける変化の有無など、自分自身をふりかえって考察する。		キーワード：アセスメント、支援

授業形態・授業方法

配布する資料を使用した講義とワークを中心の授業です。グループでのロールプレイやディスカッションを多く取り入れます。また、関連するビデオ映像の視聴などを行い、具体的なイメージを膨らませていきます。

養うべき力と到達目標

1. 学びあう力
 - ・他者の話に真摯に耳を傾けることができる
 - ・他者の心理状態を理解しようと努めることができる
2. 課題発見力
 - ・カウンセリングや臨床心理学などについての基本的知識を理解できる
 - ・相手の心理状態について、心理学の知識に立脚した仮説をもつことができる

成績評価の観点と方法・尺度

授業内の課題やロールプレイ、ディスカッションなどへの取り組み（受講態度）、および授業中盤でのレポート、授業終盤での試験の3点から評価する。「カウンセリングの知識と技法」「臨床心理学の知識」「精神疾患・発達障害・学校不適応などの理解」の3つの観点から理解度をみる。
「1. 基本的事項の理解」「2. 関連事項の理解」「3. 教育実践への応用」の到達度を用いて、受講態度20%、レポート30%、期末試験50%の配分で採点する。

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

「子どもを育む学校臨床力：多様性の時代の生徒指導・教育相談・特別支援」 角田 豊・片山 紀子・小松 貴弘 創元社

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業に参加する姿勢をもって臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜日3限、場所は第5研究室（中央館4階）です。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	生徒指導論				
担当教員名	土田光子				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

学校教育における生徒指導、教育相談、進路指導の位置づけや教育機関における体制について理解し、これらを実施するに必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学びます。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動及び教育相談・進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級経営のあり方について考究します。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び教育相談、進路指導に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動への示唆を得ます。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション：生徒指導・教育相談・進路指導の概要	生徒指導・教育相談・進路指導について学ぶ意味と、進め方について知る。グループ編成を行う。	この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理する。
第2回	学校現場における生徒指導、教育相談、進路指導の理論	学校現場における生徒指導・教育相談・進路指導がどのような理論を背景に実践されているかについて考究する。	学修内容について整理する。生徒指導・教育相談・進路指導の概念をまとめる。
第3回	生徒指導、教育相談、進路指導の位置づけと体制	学校現場において、生徒指導・教育相談・進路指導がどのように位置づけられ、どんな体制のもとで取り組まれているか、そのシステムを知る。	学修内容について整理する。生徒指導教育相談進路指導が校内体制にどう位置づけられているのかをまとめる。
第4回	生徒指導と子どもの人権	子どもの人権を尊重した生徒指導とはどのようにあるべきか、教育体験や事例とともに考究する。グループワークと発表を行う。	学修内容について整理する。自己肯定感が高められた（傷つけられた）指導を受けた体験を振り返る。
第5回	生徒指導の理論と手法（1）－自己と向き合う	問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、課題から逃げないで自己と向き合う生き方を、子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークと発表を行う。	学修内容について整理する。問題行動に走る生徒への指導の事実を中学時代の体験から振り返る。
第6回	生徒指導の理論と手法（2）－一对人関係を見直す	現代の子どもたちがいかに人間関係づくりにつまずいている実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークと発表を行う。	学修内容について整理する。自分の発表での課題と他チームの発表から学んだことをまとめること。
第7回	不登校、いじめ問題と生徒指導	不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、学校の責務を深く実感する。グループワークと発表を行う。	学修内容について整理する。自分の発表での課題と他チームの発表から学んだことをまとめること。
第8回	体罰・非行問題と生徒指導	懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、非行問題における真の生徒指導はどうあるべきかを考究する。	学修内容について整理する。グループワークで論点になったことをまとめる。
第9回	学校・家庭・地域社会の連携	学校が家庭や地域と連携し取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。	学修内容について整理する。学校・家庭・地域の連携によって指導に成果が上がった事例を、配布された実践から見つける。
第10回	生徒指導と学級形成の今日的意義	事例をもとに、子どもたちが、集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育っていく事実を知り、集団づくりの意義とその手法について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理し、レポートに備える。集団づくりについて文献にある。
第11回	教育相談の位置づけと体制。学校教育相談と心理療法・カウンセリングの理論	学校教育の中、何故教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制について考究する。またその際に必要な心理療法・カウンセリングについて、その理論を考究する。	学修内容について整理する。心理療法・カウンセリングの実際について文献にある。
第12回	発達障害の理解・援助と学校教育相談	発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、学校教育相談の果たす役割について考究する。	学修内容について整理する。発達障害について文献に当たる。
第13回	キャリア教育・進路指導の理論とすすめ方	つけた力を活かしきらいでいくためのキャリア教育を概括し、単なる行き先指導ではない進路指導の本質を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。配布されたキャリア教育の実践をまとめる。
第14回	生徒指導と子どもの自尊感情形成	自尊感情はどのように育まれるか、そしてその自尊感情を大切にした生徒指導はどうあるべきかについて考究する。	学修内容について整理し、レポートに備える。レポート作成のポイントとして自尊感情についてまとめておく。
第15回	まとめ一成果と自己課題	望ましい生徒指導・教育損団・進路指導のあり方について考究する。グループワークと発表を行う。	学修内容をレポートする。15回の授業から学んだことをまとめる。

授業形態・授業方法

毎時間、各テーマについての事例検討を行い、問題をどう分析していくかの根底に、確かな子ども観=子どもを見る眼が必要なことを実感できるよう、参加型の授業を展開していきます。また、授業の終わりには毎回コミュニケーションカードに自分の意見を記入し、自分の考えを確立できるよう、進めています。

養うべき力と到達目標

1. 課題発見力
 - ・子どもの発達や学修を促進するための関わり方を身につける。
 - ・学校現場で行う教育相談活動の意義と子どもが抱える問題の見立て方を理解する。
2. 専門的な力
 - ・生徒指導及び教育相談、進路指導についての理論を理解する。
 - ・生徒指導及び教育相談、進路指導についての方法を理解する。
 - ・指導を行う際の前提となる子ども（の問題について）の理解を深めることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・授業への参加度（20%）・授業中の課題達成度（30%）・レポート及びコミュニケーションカード（50%）で評価する。
- ・授業への参加度は、事例検討の際の積極的な参加や、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

使用教科書

授業中に適宜、資料を配付する。

参考文献等

- 『生徒指導提要』文部科学省 教育図書
 『子どもを見る眼』土田光子 解放出版社
 『私を創ったもの』土田光子 明治図書

履修条件

教職課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

メールでの質問を受け付けます。 m.tsuchida.069157@hotmail.co.jp

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
配当年次	1年	開講時期	通年	単位数	1

授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰ・Ⅱに必要な基本的事項と心構えについて講義し、実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われ、また、実り多いものとなるようにします。
事後指導では、教育実習のまとめをして、実習日誌の整理、実習校への対応等を含め、自己評価を行うことにより、各自が教育実習体験を有効的に活用できるようにします。

授業計画

第1回	中学校教育実習の意義と目的	学習課題（授業時間外の学習）
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義を学ぶ。 ・大学および教育実習校の指導体制の概要を理解する。 ・実習依頼の手続きと心得を学ぶ。 	中学校教育実習の意義と目的をつかみ、有意義な実習ができるようにする。キーワード：教育実習 意義 学校
第2回	中学校教育実習体験発表	実際の中学校教育実習体験から、実習にあたり身につけておくべきことを確認する。キーワード：実習体験 学校組織 教師の資質
	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩の中学校教育実習体験から学ぶ。 	
第3回	「教職履修カルテ」の説明と記入	「教職履修カルテ」の重要性を確認した上で、各自がカルテを記入する。キーワード：履修カルテ 教職 振り返り
	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職履修カルテ」の概要について学ぶ。 ・「教職履修カルテ」の記入可能な箇所について、各自が記入を行う。 	
第4回	教育実習の基本的事項と実習校での諸活動	教育実習に参加するにあたり基本事項として押さえるべき点を整理し、教育実習に必要な準備を各自が意識する。キーワード：学校組織 マナー 教育的配慮
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に参加するにあたり、教育実習の基本事項を確認する。 ・実習校での諸活動を確認し、教育実習に必要な準備について見通しを得る。 	
第5回	人権教育	教育実習で求められる人権的配慮を踏まえ行動できるようにする。キーワード：人権 平等 尊重
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の現場で重要な人権的配慮について、具体的な事例をもとに学ぶ。 ・教育実習先でどのような人権的配慮が求められるのかを各自が確認する。 	
第6回	望ましい授業のあり方	望ましい授業のあり方について各自が確認し、実践できるようにする。キーワード：授業 発問 板書 教材作成
	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい授業をするために必要な知識や技術を学ぶ。 ・発問、板書、掲示等について、その重要性とポイントを学ぶ。 	
第7回	学習指導案および教育実習記録の意義と作成	学習指導案のポイントを整理し、各自が実際に作成できる。また、実習記録のポイントを整理し、配慮事項を踏まえ各自が実際に記入する。キーワード：指導案 実習記録 モモ 内省
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学習指導案の意義を踏まえ、その書き方について基本事項を学ぶ。 ・各教科ごとに学習指導案の一部を実際に作成してみる。 ・中学校実習記録の記入について、基本事項を学ぶとともに、配慮すべきことを確認する。 	
第8回	(事前指導) 実習校の実態をふまえた課題の確認	各実習校の実態を確認し、各自が必要な準備を整える。キーワード：学校特性 生徒の発達
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の各実習校について、その実態を学ぶ。 ・各実習校の実態を踏まえて、事前にどのような準備が必要かを考える。 	
第9回	(事後指導) 中学校教育実習の報告・反省	中学校教育実習を終えて、自己の実習を振り返り反省事項を整理する。キーワード：実習 振り返り 教師
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教育実習について、実習後に各自が自己の実習を振り返り、報告するとともに、反省事項を確認する。 ・実習記録の内容を確認し、必要に応じて指導を行う。 	
第10回	教育実習の成果と自己評価	教育実習を通して明らかになったことをグループ討議を通して整理し、自己評価により成果と課題をまとめる。キーワード：実習 課題 内省
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議・発表を通して、教育実習全般について各自が振り返り、教育実習で得たものは何かを考える。 ・教育実習を通して明らかとなった、各自の実践的な課題について確認する。 	

授業形態・授業方法

各担当教員による講義およびディスカッションで対話型授業を行います。
また、内容により実習先別指導、個別指導します。
各回の指導内容については、プリントにまとめて記録し、提出します。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
教員としての資質を醸成することができる。
- ②課題発見力
実習前、実習後の課題をみつけ、分析し、今後の実践につなぐことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・毎回のリフレクションシート（30%） 3点×10回
3点：授業の内容を把握し、自分の意見を書いている。
2点：授業の内容を把握している。
1点：大幅に改善し再提出
- ・課題レポート（50%） 10点×5回
授業の内容を踏まえ、独自の視点で書かれている。 10点
授業内容のみ書いている。 5点
- ・発表（20%） 2点×10回
2点 独自の意見を述べることができる。 1点 工夫が必要である。

使用教科書

必要に応じて資料プリント配布。

参考文献等

- ・本学作成の教育実習記録
- ・教育実習ガイド

履修条件

教職課程履修者のみが受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習のための指導科目である。教育実習を次年度にする場合は履修はできない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

生活デザイン学科専用メール及び授業前後の質問を受け付ける。
グローバルコミュニケーション学科の学生には、担当教員が対応する。

授業科目名	教育実習Ⅰ・Ⅱ				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
配当年次	2年	開講時期	通年	単位数	2

授業概要

大学で学んだ講義や演習、実技を総合的に整理活用し、現場で実践・研究することにより、教育に対する理解を深めます。実習校における全教育活動を通して、学校教育の実際を体験し、生徒理解、教育課程、学習指導の研究、実践勤務のあり方等を学び、望ましい教師像を形成します。中学校での教育実習は3週間あるいは4週間です。ただし、ある学校で2週間実習し、別の学校で2週間実習するなどの場合もあります。したがって、教育実習期間の前半が教育実習Ⅰ（2単位）、後半が教育実習Ⅱ（2単位）に相当します。

授業計画

観察・参加実習

- ・生徒の実態、教師の支援、授業の流れ等について把握する。
- ・生徒と共に活動することにより、生徒理解を図る。
- ・学校現場を具体的に観察し、その様子をとらえる。

指導実習

- ・指導を通して指導のあり方を把握し、指導技術を身につける。
- ・指導案を作成し、それに沿って実際に研究授業を行う。
- ・学級での指導を通して、学級経営のあり方を把握する。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動等に参加し、その特質とあり方を把握する。

※それぞれの実習校により、指導実習の内容は異なる。

学習課題（授業時間外の学習）

授業用ノートに関連事項を作成する。キーワード：学校 実習 教師

授業用ノートに関連事項を作成する。キーワード：生徒 指導 行事 部活

授業形態・授業方法

- ・上記に記載のとおり、各実習校の定める実習計画に従って、教育実習に参加します。
- ・教育実習ノートを毎日記入し、実習校の指導者にコメントをもらい、完成させ、提出します。

養うべき力と到達目標

- ①「専門的な力」
 - ・教師としての力：教育者の一人として、生徒たちに責任をもって教育実習を行うことができる。
- ②「問題解決力」
 - ・実践力：実習校の指導のもとに実際に見える力を身につけることができる。
 - ・計画力：指導案などの計画について、再考し修正する力をつけることができる。
 - ・完遂力：教育実習を通して新たな学びを得るとともに、今後の自分の課題を自覚し、まとうできる力をつけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・教育実習での実習校での評価（50%）
- ・教育実習記録、指導案の評価（50%） 教育実習内容とそこでの達成度を見る。

使用教科書

本学作成の教育実習ガイド

参考文献等

『中学校学習指導要領』平成20年版（文部科学省）

履修条件

教職課程履修者のみが受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習ノートを必ず提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

事前事後指導にて対応します。

授業科目名	教職実践演習（中学校）				
担当教員名	大槻雅俊・松岡依里子				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

中学校の現場に立つ者として、最小限必要な資質・能力、及び教育実践力が身についているかどうかを自ら確認します。その上で、自己課題を明確にして、その課題を自ら解決します。また、教員になる者としての自己の適性やよさに気づき、それを定着させ、さらにそれを向上させます。上記の学びを通して、自信と誇りをもって中学校の教員として実践的なスタートが切れるようにします。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション－教育実習の振り返り－（松岡） 教職実践演習の意義を理解し、演習の進め方と評価の方法の説明する。	学習課題（授業時間外の学習）			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：実践 授業 評価 演習態度			
第 2 回	教職の意義と教員の責務（大槻） 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：教師資質 教授 育成			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：生徒理解 言動 服装			
第 3 回	生徒指導①児童生徒の理解（大槻） 教育実習体験を基に、児童生徒の理解とかかわり方について省察する。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：いじめ構造 早期発見 組織連携			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：個性 尊重 内面 共感的理			
第 4 回	生徒指導②教育者問題（大槻） 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。 (いじめ・不登校など)	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：学級経営 学級内組織 多様な集団			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：学授業 教育実習 授業案			
第 5 回	生徒指導③個性の尊重（大槻） 児童生徒の多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：個性 尊重 内面 共感的理			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：発問 板書			
第 6 回	生徒指導④学級づくり（大槻） 望ましい学級づくり、その意義と方法を学ぶ。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：保護者 保健センター PTA			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：集団思考 集団討議 個人目標 個人決定			
第 7 回	学習指導①授業とは（松岡） 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：目標 学習内容 教育方法			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：徳 仁 實践性			
第 8 回	学習指導②主体的な授業（松岡） 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：学級便り 学校行事 読字 脱字			
		授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：保護者対応 相談機関			
第 9 回	学習指導③発問と板書（松岡） 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	授業で示された課題に取り組むこと。キーワード：まとめ めざす教師像確立のための省察と自己課題（松岡） 本演習で学んだ内容を振り返り、教育現場で活躍するための自己の強みや課題を整理する。			
		授業で示された課題をレポートにまとめる。キーワード：専門職 自覚			
定期試験					

授業形態・授業方法

- 配布資料に基づき、教職に必要なキーワードを概説し、グループディスカッションを行います。
- 毎回の授業の終わりに授業まとめ、自己省察レポートを提出します。（400字程度）
- 模擬授業を行い、実践的対応ができるよう指導します。
- 最終時に、教員採用試験に出題されたテーマ等からレポートを提出します。（1500字数程度）

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - 教壇に立つ者としての基本的な知識・態度・実践スキルを身につけることができる。
 - 教育者としての使命感、責任感を確かなものにすることができる。
 - 生徒や保護者に対する基本的な対応能力を身につけることができる。
- ②問題解決力
 - 傾聴力 他人や社会の意見の主旨を把握できる。
 - 伝える力 他人の意見を踏まえて、教育に関する新たな自己の知見を伝えることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・毎回の授業まとめ、自己省察レポート（50%）5点×10回
5点：授業内容を踏まえ、独自の見解がある 3点 授業内容を踏まえた内容になっている
- ・模擬授業における指導力（30%）15点×2回
学習指導案 5点 模擬授業10点
- ・最終レポート（20%）20点 授業を踏まえ、教育実践のありかたについて独自の意見を述べている。
10点 授業内容を踏まえている。

使用教科書

本学作成教育実習ノート

参考文献等

文部科学省 「中学校学習指導要領、及び同各科等解説書」平成20年
渋谷真樹他編著 「集団を育てる特別活動」ミネルヴァ書房

履修条件

教育実習終了者のみ

履修上の注意・備考・メッセージ

欠席した場合は、生活デザイン第2研究室まで課題を取りに来ること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前での質問を受け付ける。メールアドレス sed@osaka-seikei.ac.jp
に、件名「教科名、学籍番号、氏名」を記載の上、送付のこと。

授業科目名	生徒指導・教育相談				
担当教員名	土田光子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

学校教育における生徒指導・教育相談の位置づけと教育機関における体制について理解し、これらの実践に必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題も含めて学びます。また、「いじめ」や「不登校」など具体的な問題行動・教育相談の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方について考察します。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導・教育相談に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動の意義と実践的な取り組み方についての理解を深めます。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	オリエンテーション：生徒指導・教育相談の概要	生徒指導・教育相談を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。	学修内容について整理する。この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理しておく。
第2回	学校現場における生徒指導の理論	学校現場における生徒指導がどのような子どもをもとに何を目指して実践されているかを知る。グループワークを行う。	学修内容について整理する。生徒指導とは何かグループワークで論議したことをまとめておく。
第3回	生徒指導の位置づけと体制	学校現場における生徒指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知る。	学修内容について整理する。学校教育現場で生徒指導がどのような体制で取り組まれているか配布された校務分掌表をもとにまとめておく。
第4回	生徒指導と子どもの人権	子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、小・中時代・自己肯定感が高められた（傷つけられた）指導を受けた体験を振り返る。
第5回	生徒指導の理論と手法（1）一自己と向き合う	問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、自己と向き合う生き方を子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、問題行動に走る生徒への指導の実事を自分の中学校時代の体験から振り返る。
第6回	生徒指導の理論と手法（2）一対人関係を見直す	子どもたちが人間関係づくりに稚拙である実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。人間関係づくりのワークショップで学んだことや論議になったことについてまとめる。
第7回	生徒指導と学級形成の今日的意義	子どもたちが集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育っていく実を知り、集団づくりの大切さとその手法について探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理し、まとめる。グループワークでの論点をまとめるとともに、集団づくりについて文献にあたる。
第8回	学校・家庭・地域社会の連携	学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。	学修内容について整理する。学校・家庭・地域の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱ったもの以外で配布された実践から見つける。
第9回	不登校・いじめ問題と生徒指導	不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、学校の責務を実感する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。加害体験・被害体験・傍観者体験・みかた体験について、配布されたプリントにそれぞれ記入し次回提出する。
第10回	体罰・非行問題と生徒指導	懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、非行問題における真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理し、まとめる。体罰のもたらした悲劇について配布された新聞記事を読み感想をまとめる。
第11回	教育相談の位置づけと体制	学校教育の中で、なにゆえ教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制について考究する。	学修内容について整理する。教育相談について文献にあたる。
第12回	学校教育相談と心理療法・カウンセリングの理論	学校教育相談において必要な、心理療法・カウンセリングについてその理論を考究する。	学修内容について整理する。心理療法・カウンセリングの実際について文献にあたる。
第13回	発達障害の理解・援助と学校教育相談	発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、学校教育相談の果たす役割について考究する。	学修内容について整理する。発達障害について文献にあたる。
第14回	学校現場における教育相談活動の実際	教育相談の事例をもとに、教育相談の望ましいあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理し、レポートに備える。目標す教育相談のあり方について、グループワークでの論点を中心まとめる。
第15回	実践事例研究とまとめ	望ましい生徒指導及び教育相談のあり方について考究する。	学修内容をレポートする。15回の授業全体から学んだことをまとめておく。

授業形態・授業方法

授業の初めに行う講義を受け、その内容についてグループワークに取り組み、発表することを基本とします。それを1時間で行う場合も、それぞれに時間を取り、3時間を費やす場合もあります。

養うべき力と到達目標

1. 課題発見力
 - ・子どもたちの発達や学修を促進するための関わり方を身につけることができる。
 - ・学校現場で行う教育相談活動の意義と子どもが抱える問題の見立て方を理解する。
2. 専門的な力
 - ・生徒指導についての理論を理解する。
 - ・生徒指導についての方法を理解する。
 - ・学校現場で行う教育相談活動に求められる理論と方法について学ぶ。
 - ・指導を行う際の前提となる子ども（の問題について）の理解を深化させる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・授業への参加度（20%）、授業中の課題達成度（30%）、レポート（50%）について、上記「養うべき力と到達目標」の①「課題発見力」および②「専門的な力」の観点から採点し、総合的に評価する。
- ・授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的・積極的な発言などを評価する。

使用教科書

授業中に適宜、資料を配付する。

参考文献等

- 「生徒指導提要」文部科学省 教育出版
- 「子どもを見る眼」 土田光子 解放出版社
- 「私を創ったもの」 土田光子 明治図書

履修条件

教育課程履修者が受講対象です。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

メールによる応答 m.tsuchida.069157@hotmail.co.jp

授業科目名	栄養教育実習事前事後指導				
担当教員名	谷口信子				
配当年次	1・2年	開講時期	通年	単位数	1

授業概要

本授業は、2年間に亘って栄養教諭としての教育実習の目的を理解し、実習のねらいにあわせて学校教育についての理解を深める授業です。栄養教諭二種免許状取得のためのオリエンテーションから教育実習後の報告会まで、教育実習に必要な事項の事前確認と振り返りを中心に構成されています。1回生では、主に教職免許を取る心構えと2回生の実習報告、2回生では、実習前の授業計画と実習後の報告を中心に行います。

授業計画

第1回	栄養教育実習の意義、目的及び概要・教育実習依頼の手続き 栄養教諭についての学科オリエンテーションを行います。 教務課の担当者より母校への教育実習の依頼手続きについて説明します。	学習課題（授業時間外の学習） レポート「栄養教諭を目指す動機・目的」を提出する。 キーワード：栄養教諭 教育実習
第2回	教育実習体験発表会 2回生より教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行います。	2回生の報告をレポートし、気づきをまとめる。 キーワード：実習体験 教員としての動き 研究授業
第3回	履修カルテの説明と記入 履修カルテの概要について学びます。 記入可能な箇所について、各自が記入します。	キーワード：履修カルテ 振り返り
第4回	教育実習の基本的事項と実習校での諸活動 教育実習で理解する学校での教育活動について学びます。	本時のレポートを書く。 キーワード：マナー 教育的配慮
第5回	人権教育 教育実習に向けて、本分野専門の教員より講義を受けます。 教育実習先でどのような人権的配慮を求められるのかを各自が確認する。	本時のレポート キーワード：人権 平等 尊重
第6回	教育実習のための指導技術の習得 現役の栄養教諭による指導案作成について学びます。	指導案の修正 キーワード：題材設定の理由 指導観 児童観
第7回	学習指導計画と教育実習記録の意義と作成 指導計画に基づいた研究授業を発表します。 教育実習ノートの記入についてオリエンテーションを行ないます。	キーワード：指導案 実習記録 メモ
第8回	実習直前指導 教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の確認を行う。	履修カルテの該当ページを記入する。 キーワード：教師としての資質 実習に向けた準備
第9回	教育実習内容の報告 教育実習後、実習内容について発表します。	実習報告書を提出する。 キーワード：実習 教師 振り返り
第10回	教育実習の成果・自己評価 実習の成果を発表後、1回生も交えてグループワークにて振り返りを行います。	本時のレポート キーワード：実習 課題 内省

授業形態・授業方法

授業は、講義及び演習形式で行います。また、2年間を通して10回の授業であるので、実施日は不定期です。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・栄養教諭としての専門的知識：栄養教諭として、教育実習に臨むための知識と技術を身につけることができる
- ②筋道を立てる力
 - ・計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：栄養教育実習に行く準備と振り返りができるか。

- ①毎回のレポート 8点× 10回=80点
 - 授業の内容をまとめ、自分の意見を述べている 8点
 - 授業の内容をまとめている 4点
- ②履修カルテの提出 20点
 - 空白なくきちんと書き込みができている。 20点
 - 書き込みはできているが、少し空白がある。 15点
 - 大いに空白があり、内容も幼稚である。 10点

使用教科書

プリント・教職履修カルテ使用

参考文献等

食に関する指導の手引～第一次改訂版～（文部科学省）

履修条件

栄養学科および栄養コースの教職課程履修者のみの受講とする。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は、栄養教育実習に行くための必須科目であるので、受講状況によっては教育実習に行けないこともあります。よって、休まず受講し、毎時レポートを提出してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

木・金の昼休みをオフィスアワーとします。また、それ以外の時間でも研究室に在室の場合はいつでも質問に応じます。

授業科目名	栄養教育実習			
担当教員名	谷口信子			
配当年次	2年	開講時期	通年	単位数 1

授業概要

栄養教諭は、直接的に教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理につかさどる」ことにあります。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての実習を行います。

5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証する大切な機会です。

授業計画

小学校での教育実習（5日間）

栄養教諭二種免許取得のための教育実習を行います。実習期間は5日間ですが、実習校の先生との打ち合わせを事前にしておきましょう。

学習課題（授業時間外の学習）

実習ノートの記入

授業形態・授業方法

5日間の小中学校における栄養教諭としての教育実習で、実習内容は、実施校によって異なる。
共通していることは、実習中に研究授業を行うので、事前に入念な準備が必要である。

養うべき力と到達目標

- ①問題解決力
 - ・実践力：計画の実行に踏み出し、やり遂げる力を身につけることができる。
 - ・主体性：教育現場の問題を自らの問題として考え、自ら関わろうとする態度を身につけることができる。
- ②専門的な力
 - ・栄養教諭としての専門技術：栄養教諭として、授業を展開する教育者としての技術を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：栄養教諭として実践力を身につけることができたか。

実習先の評価	50%
実習の記録	30%
学習指導案	20%

使用教科書

実習ノート

参考文献等

「食に関する指導の手引き-第一次改訂版-」/文部科学省

履修条件

栄養士免許および栄養教諭免許状取得見込みの学生に限る。

履修上の注意・備考・メッセージ

栄養教育実習事前事後指導への出席が必須条件である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

木曜日の昼休みに来てください。それ以外の時間でも研究室にいるときは、いつでも対応します。

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当教員名	谷口信子・安藤弘行・大槻雅俊				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身についているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことができます。ここまででの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけられており、栄養教諭免許取得者として自覚します。

授業計画

第1回	オリエンテーション	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：教師資質、教授、育成
第2回	教職の意義と教員の責務 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：生徒理解、言動、服装
第3回	生徒指導①児童生徒の理解 教育実習体験を基に、子どもへの理解とかかわり方について省察する。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：いじめ構造、早期発見、組織連携
第4回	生徒指導②教育者問題 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応についてまなぶ。 (いじめ・不登校など)	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：個性、尊重、内面、共感的理解
第5回	生徒指導③個性の尊重 子どもの多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：学級経営、学級内組織、多様な集団
第6回	生徒指導④学級づくり 望ましい学級づくり その意義と方法を学ぶ。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：学習内容 教育方法
第7回	学習指導①授業とは 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：発問、板書
第8回	学習指導②主体的な授業 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	授業で示した課題に取り組むこと。 キーワード：地域と家庭と学校の連携・協働 地域の小学校において食育活動を計画し、実行します。
第9回	学習指導③発問と板書 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	キーワード：教材作成 栄養教諭として効果的な教材作りを学ぶ。
第10回	食に関する掲示物の作成 給食カレンダー作り	キーワード：アレルゲン エピペン 個別対応 アレルギーへの対応について学ぶ。
第11回	栄養教育の実際（研究授業） 実際の栄養教諭の授業を見学し、授業運営について確認する。	本時のレポート キーワード：研究授業 机間巡視
第12回	食育シンポジウムの運営 食に関するイベント運営を通して、企画・実践・ふりかえりを行います。	履修カルテの提出 キーワード：弁当の日 こども茶屋

授業形態・授業方法

栄養教諭免許取得希望者を対象に、学校の現場に応じた実践的な演習を中心として行ないます。小学校教諭経験者や現役の栄養教諭を含む複数の教員によるオムニバス形式にて行い、模擬授業や授業の見学、食育活動の企画と実践など参加型の授業形態です。

養うべき力と到達目標

- ①専門的な力
 - ・栄養教諭としての専門知識：栄養に関する専門的な知識を備えた教育者としての知識を身につけることができる。
 - ・栄養教諭としての技術：栄養教諭としての専門的な技術を身につけることができる。
- ②問題解決力
 - ・計画の実行に踏み出し、やり遂げる力を養うことができる。
 - ・めげない力：失敗や課題にめげずに計画を全うする力を養うことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：栄養教諭としての実践力を身につけることができたか

授業内課題 50% 5点×10回

授業のまとめシートに自分の意見も交えて記述ができている。5点

授業内容のみの記述である。3点

授業内発表 50% 10点×5回

指導案や企画書を作成して、それに沿った発表ができている。10点

提出物がなく、発表のみ 5点

使用教科書

プリント使用

参考文献等

随時、授業内で紹介します。

履修条件

栄養教諭二種免許状取得希望者に限る。

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習後の自分を振り返って、不足している力に気づき、教育者としてあるべき姿を見つめましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

メールにて受け付けます。

taniguchi-n@osaka-seikei.ac.jp

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	赤沢真世・園田雅春				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

学校の教育活動は教育課程に基づいて行われており、学校教育関係者にとって教育課程編成の概念や原理、その意義について理解することは重要です。本講義では（1）教育課程編成の概念、原理、意義、領域について、（2）日本における教育課程の変遷、（3）教育課程の様々な問題について学び、教育課程のあり方について考察します。また、一人ひとりの生徒が仲間と共に充実した学校生活を送るためにには、特別活動の今日的意義はきわめて大きいため、学習指導要領に示された目標・内容を理解した上で、教育現場における特別活動の現状と課題を概観しながら、生徒にとって意味ある特別活動のあり方とはどのようなものかを考究します。同時に、具体的な活動展開や指導の方法について追求します。

授業計画

回数	授業題名	学習課題（授業時間外の学習）			
		目的	内容	方法	評価
第1回	オリエンテーション（授業の進め方と授業内容のアウトライン）（担当：赤沢真世）	教育課程論を始めるにあたっての諸注意・連絡、成績評価の確認を行う。			現代に求められる学校教育について自身の意見を整理していく。 キーワード：シラバスの確認、教育課程の定義
第2回	教育課程・カリキュラムとは何か・学習指導要領の変遷（担当：赤沢真世）	教育課程・カリキュラムとは何か、何のためにあるのか、何がポイントなのかを考察する。			配布資料の読み込み、感想をまとめる。 キーワード：カリキュラム、学習指導要領、色々なカリキュラムの紹介
第3回	教育課程の変遷・学習指導要領（担当：赤沢真世）	・学習指導要領の位置づけと変遷（戦後）の概観をし、議論を整理する。			配付資料の読み込み、感想をまとめる。 キーワード：学習指導要領の改訂、経験主義、系統主義、ゆとり教育、ふり子現象
第4回	教育課程と内容選択・編成原理—経験主義（担当：赤沢真世）	・経験主義を軸として教育課程における内容選択の基準と教育編成原理を学ぶ。			生活単元学習や生活教育についてインターネットや文献を用いて、利点・課題を整理します。 キーワード：経験主義、経験カリキュラム、生活単元学習、新教育、生活教育、生活綴方
第5回	教育課程と内容選択・編成の原理—系統主義（担当：赤沢真世）	・系統主義を軸として教育課程における内容選択の基準と教育編成原理を学ぶ。			系統主義によってたつ教科書の特徴を整理する。 キーワード：系統主義、学問中心カリキュラム、水道方式（数学教育協議会）
第6回	教育課程と子どもの発達（担当：赤沢真世）	発達理論（子どものつまずきや素朴概念）と学習理論から教育課程を理解する。			素朴概念の例をさがし、まとめる。 キーワード：素朴概念、発達段階、つまずき、斎藤喜博、東井義雄
第7回	教育課程（カリキュラム）の作成（担当：赤沢真世）	年間のカリキュラム・単元構想を作成する。			年間指導計画・単元構想を一つの教科にもとづいて作成する。 キーワード：年間指導計画、単元構想、逆向き設計論
第8回	教育課程を見直す（担当：赤沢真世）	・評価の考え方、その変遷を学ぶ。			評価のそれぞれの方法について整理する課題を行う。 キーワード：絶対評価、相対評価、目標準拠評価、形成的評価
第9回	今日的課題と教育課程—思考力・判断力・表現力（担当：赤沢真世）	・現代の子どもたちに求められる力（思考力・判断力・表現力）の学力の中身について深め、そうした力をどのように評価するのかについて学ぶ。			パフォーマンス課題についてとりくみ、特徴を整理する。 キーワード：活用、思考力・判断力・表現力、OECD/PISA、21世紀能力、パフォーマンス評価
第10回	ヒドゥン・カリキュラム（担当：赤沢真世）	・顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムの違いと後者のはたらきについて理解する。			学校生活にあるヒドゥン・カリキュラムの例を探してまとめる。 キーワード：潜在的カリキュラム、顕在的カリキュラム
第11回	教育課程と教育環境（担当：赤沢真世）	学校建築、教室空間等の教育環境、また教師と子どものそれぞれの関係性から教育課程について考える。			教室の配置や環境について特徴的なものを整理する。 キーワード：座席配置、オープンスクール
第12回	学習指導要領と特別活動（担当：園田雅春）	特別活動の目標と内容について、教育体験を振り返りながら学び合う。			学修課題について教育体験を基に整理する。 キーワード：学習指導要領、特別活動、教育体験
第13回	「いじめ問題」克服と特別活動の指導法（担当：園田雅春）	「いじめ問題」克服を視野にして、特別活動の今日的な意味と課題について学ぶ。			学修課題について整理する。 キーワード：いじめ問題、特別活動、指導法
第14回	生徒理解と自尊感情形成のために（担当：園田雅春）	特別活動を通じてどのような資質や能力を育むのか、実践的に学ぶ。			学修課題について包括的に整理する。 キーワード：特別活動、生徒理解、自尊感情
第15回	まとめ（担当：赤沢真世）	これまでの授業をふりかえり、「教育課程論」「特別活動」の視点から教育現場における様々な問題について考察する。			レポート作成の準備をする。 キーワード：学びのふりかえり

授業形態・授業方法

講義形式で進めるが、学生の意見交流等、グループやペアで活動することもあるので積極的に参加されたい。

養うべき力と到達目標

①幅広い教養・品格：

教育課程と特別活動に関して基礎的な知識を獲得することができる。

- ・「教育課程」の概念と原理と、その意義について理解することができる。

・日本の教育課程の変遷を理解し、経験主義および系統主義の理念と実践の特徴、および今後求められる教育の方向性について理解することができる。

- ・中学校における特別活動の意義と内容を理解することができる。

- ・自治的な諸活動を推進するための実践的な方法を学修することができる。

②専門的な力：

教育課程の計画や特別活動をめぐる専門的な技術を身につけることができる。

- ・1年間の教育課程（カリキュラム）を計画することができる。

- ・特別活動を通じた生徒の肯定的理解と自尊感情形成の大切さを認識し、そのスキルを修得することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・授業への参加度（20%）、定期試験レポート（60%、主に到達目標②、①の今後求められる教育課程の視点をふまえて）、授業中の課題達成度（20%、主に到達目標①の視点）で評価する。
- ・授業への参加度は、教員からの課題提示に積極的に取り組むことを標準とし、自主的・協同的な姿勢などを評価する。

使用教科書

『よくわかる教育課程』田中耕治編、ミネルヴァ書房、2009年

参考文献等

『新しい時代の教育課程 第3版』田中耕治他、有斐閣、2011年

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省、ぎょうせい、2008年

『自尊感情を高める学級づくりと授業』園田雅春、雲母書房、2013年

履修条件

教職課程履修者を受講対象とします。

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の授業の積み重ねとなるため、毎回出席し、配付された資料はファイルするとともに、レポート作成等においては定期的にふりかえりを行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

園田雅春：火曜4講時（14:40～16:10）西館4階97研究室
赤沢真世：木曜5講時（16:20～17:50）西館4階94研究室

授業科目名	学校経営と学校図書館			
担当教員名	織田克巳			
配当年次	1・2年	開講時期	後期	単位数 2

授業概要

学校図書館の機能を発揮するために欠かすことができない「司書教諭」として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的な事項についての理解を図ります。

授業計画

	学校経営と学校図書館について	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	学校経営と学校図書館について <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館法の改正により、図書館のイメージが変わったことを学びます。 マネジメントサイクルPDCAの手法による「学校経営」を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の理念と教育的意義を知ります。
第2回	学校図書館の歴史概観 <ul style="list-style-type: none"> 昔の学校図書館がどのように考えられていたかを知ります。 全国組織から「学校図書館法」制定へ向けた動きを学びます。 1947年の学習指導要領（試案）を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の理念と教育的意義を学びます。
第3回	学校図書館を支える法律 <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館と公共図書館との違いを学びます。 学校図書館に関する憲法、教育基本法、学校教育法を学びます。 学校図書館法と一部改正を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の発展と課題を知ります。
第4回	教育行政と学校図書館 <ul style="list-style-type: none"> 教育行政（教育委員会）のしくみを知ります。 教育委員会の支援体制と司書教諭の様子を知ります。 先進市からの報告を調べます。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の取り組みで大きな差ができるところを学びます。
第5回	学校図書館の課題と対策 <ul style="list-style-type: none"> 司書教諭の発令がどのようにされるのかを知ります。 学校司書の配置と職務内容を知ります。 図書ボランティアとの連携を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の発展と課題を知ります。
第6回	学校図書館の評価と改善 <ul style="list-style-type: none"> 評価のあり方を考えます。 評価の方法を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の経営を理解します。
第7回	図書予算の確保 <ul style="list-style-type: none"> 図書予算額がどのように決まるのかを知ります。 図書予算の格差を考えます。 学校図書館相互貸借システムの流れを知ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の経営を理解します。
第8回	司書教諭の発令と学校司書の配置 <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を担当する職員にどのような職種があるかを知ります。 職務を行う時間を考えます。 学校司書の配置がどのようになっているかを知ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 司書教諭と学校司書の協働を知ります。
第9回	校内の協力体制と研修の持ち方 <ul style="list-style-type: none"> 校内の協力体制づくりを考えます。 学校図書館の利用予定を考えます。 校内研修で、図書館を使用する授業の計画を作ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の協力体制、研修のあり方を学びます。
第10回	学校図書館メディアの構成について <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の基礎づくりを考えます。 メディアを選ぶ視点を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館メディアの種類と特性を知ります。
第11回	メディアとは何か <ul style="list-style-type: none"> メディアの定義を知ります。 学校図書館に置くメディアを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館メディアの選択、管理、提供を考えます。
第12回	学校図書館の環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 学校経営に位置づける「環境づくり」を考えます。 学校図書館に必要な図書の冊数を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 有効な学校図書館活動を考えます。
第13回	学校図書館の年間計画 <ul style="list-style-type: none"> 「ひとりで作ってみよう月ごとの活動計画」を作成します。 「みんなで作ってみよう年間活動計画」を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館活動の展開を考えます。
第14回	図書委員会の役割と指導 <ul style="list-style-type: none"> 図書委員会の役割と活動を知ります。 図書委員への指導を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と進める学校図書館活動を考えます。
第15回	図書ボランティアの理解と協力 <ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアとの連携を考えます。 図書ボランティアの活動内容とその限界を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の相互協力とネットワークを考えます。

授業形態・授業方法

講義を中心とし、必要に応じてワークショップを行います。

養うべき力と到達目標

- ・学校図書館の教育的意義や経営など全般的な事項について理解することができる。
- ・学校図書館の成り立ちや法的背景、経営と校内・地域での位置づけを理解することができる。
- ・学校図書館におけるメディア活用能力の育成や情報サービスの基本を理解することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「学校図書館の果たす役割」、「歴史や現状」、「学校図書館経営のあり方」の三つの観点からその到達度をみる。

尺度：観点ごとに、3段階の到達度で採点する。

評価方法：各観点は、定期試験 10%、授業内課題（プレゼン・レポートなど 5 回）20%、受講態度（積極的参加度）20%、ノート作成（講義）50% で評価する。

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

- 学校経営と学校図書館 北本正章ほか（樹村房）
- 子どもと本をつなぐ学校図書館の可能性 高橋元夫ほか（岩波ブックレット）
- 学校図書館入門 渡辺暢恵（京都：ミネルヴァ書房）

履修条件

司書教諭課程履修者のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

主体的な学習意欲を持ち、積極的に授業に参加すること。大学図書館や公共図書館の利用と活用の習熟に努めること。学校図書館ボランティアの募集があれば積極的に参加することが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業後に直接問い合わせのこと。

授業科目名	学校図書館メディアの構成				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	1・2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

学校図書館にそなえるメディアの種類と特性について学びます。また、それらのメディアをどのように選択し、実際に利用者が手に取れるまでにどのような作業が行われるのかを理解します。学校図書館現場は、1人で様々な役目をこなす必要があり、整理技術についても基本的な技術を修得する必要があります。そのため、部分的に実習を取り入れながら、講義を行います。図書の整理については、日本十進分類法や日本目録規則などを使って順に講義を行いますので、休まずに受講すること。

授業計画

回数	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）			
		目標	内容	方法	評価
第1回	学校図書館と学校図書館メディア 学校図書館の役割と収集するメディアの利用について学びます。	学校図書館の役割とは何かについて考える。			
第2回	学校図書館メディアの種類と特性 学校図書館メディアについて、学校教育の変遷と活用するメディアの変化について学びます。	学校図書館にはどのようなメディアがあるか考える。			
第3回	学校図書館メディアの構築 メディアの収集・整理・保存・提供について業務として整理するとともに、構築の実際について学びます。	学校図書館メディアの構築の実際について理解する。			
第4回	学校図書館メディアの収集方針と選択 メディア選択の方針や利用する情報源について学びます。	どのような選択の理論があるか考える。			
第5回	学校図書館メディアの組織と主題分析 学校図書館メディアを組織化するにあたって、どのような業務があるかを学びます。 また、組織化に必要な主題分析についても考え方を学びます。	主題分析について理解する。			
第6回	件名法と件名目録 「言葉」による主題分析の表現方法である件名法について学びます。	件名法の実際について理解する。			
第7回	分類法（1）日本十進分類法 「記号」による主題分析の表現法である分類法のうち、『日本十進分類法』の基礎を学びます。	『日本十進分類法』の基礎について理解する。			
第8回	分類法（2）分類規程 『日本十進分類法』での分類作業に必要なルールとしての分類規程を学びます。	分類規程について理解する。			
第9回	分類法（3）分類作業 『日本十進分類法』を使って、実際に分類作業を行います。	分類作業の実際について理解する。			
第10回	図書記号と排架法 メディアを個別化するため方法や図書館に並べる際の方法について学びます。	実際に図書館でメディアが並んでいる状態を確認する。			
第11回	目録法（1）目録の重要性 メディアの組織化にあたり、目録の必要性とその役割について学びます。	メディアの組織化における目録の意義を理解する。			
第12回	目録法（2）日本目録規則 日本目録規則について、その概要について学びます。	日本目録規則の概要を理解する。			
第13回	目録法（3）記述目録法（図書） 書誌情報の記述について、図書を例に必要な項目等について学び、記述を作成します。	書誌の記述方法について理解する。			
第14回	目録法（4）標目と標目指示 書誌情報のアクセスポイントであり、排列を決める標目について学びます。	標目の必要性とその選び方について理解する。			
第15回	目録法（5）排列 目録記入を並べる方法を学びます。現在では、実際に目録記入を並べる作業はほとんどありませんが、冊子体目録や検索結果の一覧表示を作成する場合には必要な知識となります。	書誌を並べる順序について理解する。			
第16回	期末試験				

授業形態・授業方法

講義を中心にしながら、理解を深めます。必要に応じて、図書の組織化についての演習を行います。

養うべき力と到達目標

学校図書館にそなえるさまざまなメディアについて理解することにより、メディアの選択、受け入れ、整理、排架などの基本を身につけることができます。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：学校図書館メディアの組織化関して、主題分析や記述目録法などの基本が理解できているかどうか。
尺度：平常点（課題、小テスト、レポートなど）40%、期末試験60%

使用教科書

なし（レジュメにより講義を行う）

参考文献等

日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会, 2015,
ISBN:978-4-930992-22-2, 定価1,100円（税別）
全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』全国学校図書館協議会, 2012,
ISBN : 978-4-7933-0087-5, 定価2,200円（税別）

（その他については適宜指示する）

履修条件

司書教諭科目

履修上の注意・備考・メッセージ

司書教諭科目の中でも、図書館資料の整理技術を中心とした科目であり、大学図書館や公共図書館とも共通するところも多いです。普段から、図書館を利用し、図書館の仕組みを理解するよう努めてください。
図書の整理については、日本十進分類法や日本目録規則を使って順に講義をすすめるので、休まずに受講してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	学習指導と学校図書館				
担当教員名	織田克巳				
配当年次	1・2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

学校図書館が教育課程の編成にどう関わるのか、そして学習指導の展開にどう寄与していくかを明らかにしながら、学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ります。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）
第1回	学習指導と学校図書について ・全ての教科とつながる学校図書館を検討します。 ・学校図書館の現状と課題を考えます。	教育課程と学校図書館の関係を知ります。
第2回	学習指導とは ・「子どもの自学」への指導を検討します。 ・学習指導の実際を検討します。 ・情報リテラシーの育成する単元構成を検討します。	教育課程と学校図書館の関係を知ります。
第3回	教育課程と学校図書館、情報リテラシーの育成 ・教育課程の展開に寄与する方法を考えます。 ・学習指導要領での位置づけを学びます。	・発達段階に応じた学校図書館メディアの選択を知ります。
第4回	調べ学習指導の5つのステップ（1） ・調べ学習の指導を考えます。 ・調べ学習の指導略案を書きます。	・学校図書館メディア活用能力の育成を考えます。
第5回	調べ学習指導の5つのステップ（2） ・調べ学習の指導略案を発表します。	・学校図書館メディア活用能力の育成を考えます。
第6回	司書教諭による学習指導 ・司書教諭の授業実践を検討します。 ・授業者への情報提供支援を考えます。	教師への支援と働きかけを理解します。
第7回	学校司書による支援 ・学校司書の学習への関わり方を考えます。 ・資料の準備を考えます。 ・調べ学習や閲覧中における支援をどのように行うかを考えます。	教師への支援と働きかけを理解します。
第8回	学校図書館を活用した授業1（小学校4年生社会） ・学校図書館を活用した授業の例を紹介します。 ・学校図書館を活用した授業の例を調べます。	学習指導における学校図書館の利用を考えます。
第9回	学校図書館を活用した授業2（学年は指定しない） ・学校図書館を活用した授業の例を発表します。	学習指導における学校図書館の利用を考えます。
第10回	学校図書館を活用する授業1（年間計画） ・年間計画の必要性を考えます。 ・実際例から学びます。	学習過程における学校図書館メディア活用の実際を知ります。
第11回	学校図書館を活用する授業2（年間計画） ・調べた実際例を発表します。	学習過程における学校図書館メディア活用の実際を知ります。
第12回	学習に関する情報サービス ・直接的サービス（レファレンスサービス・レフェラルサービス等）の内容を知ります。 ・間接的サービス（パスファインダー・ブックリスト等）の内容を知ります。	情報サービス（レファレンスサービス等）を知ります。
第13回	情報リテラシーの育成 ・情報リテラシーを理解します。 ・情報の収集のしかたを考えます。	・情報リテラシーを育てる方法を考えます。
第14回	司書教諭による学習指導、担任との連携1 ・「やってみよう①〈読み聞かせ〉」に挑戦します。	・学習指導の形態を理解します。
第15回	司書教諭による学習指導、担任との連携2 ・「やってみよう②〈ブックトーク〉」に挑戦します。 ・「やってみよう③〈ストーリーテリング〉」に挑戦します。	・学習指導の形態を理解します。

授業形態・授業方法

講義を中心とします。配布資料、課題レポート、ビデオ等の活用により学習指導に活かす学校図書館メディアについて理解を深めます。

養うべき力と到達目標

- ・学習指導における学校図書館の役割を理解することができる。
- ・情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解することができる。
- ・学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解することができる。
- ・講義と対話型ワークショップを通じて、積極的に参加することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「学習指導」、「情報リテラシー育成」、「学校司書・司書教諭」の三つの観点から、その役割の理解度をみる。

尺度：観点ごとに、3段階の到達度で採点する。

評価方法：各観点は、定期試験 10%、授業内課題（プレゼン・レポートなど5回）20%、受講態度（積極的参加度）20%、ノート作成（読書ノート）50%で評価する。

使用教科書

特に指定しない。

参考文献等

講義中に適宜紹介します。

- 学習指導と学校図書館 堀川照代（放送大学教材）
- 子どもと本をつなぐ学校図書館の可能性 高橋元夫ほか（岩波ブックレット）
- 学校図書館入門 渡辺暢恵（京都：ミネルヴァ書房）

履修条件

司書教諭課程履修者のみ履修可能。

履修上の注意・備考・メッセージ

本講義の受講者は、読書ノートの実践に取り組んでもらう。初回に授業で説明するので、半期を通じて実践してほしい。（単位認定要件の一つである）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業後に直接問い合わせのこと。

授業科目名	読書と豊かな人間性				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	1・2年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の大切さを探り、子どもと本を結び付け、読書の生活化を図る方法について考えます。そこから、学校図書館と司書教諭の役割と責務を理解し、読書が子どもたちの豊かな人間性を育むのにどれほど大切な要素となっているかの理解を深めます。

授業計画

第 1 回	読書の意義と目的	学習課題（授業時間外の学習）		
	・今日の課題を踏まえ、読書の意義と目的について学ぶ。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 2 回	読書と心の教育 ・読書と心の教育について、人間の脳の発達との関連に於いて理解を深める。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 3 回	豊かな心を育むための読書 ・読書活動推進法等の資料をもとに豊かな心を育むための読書について学ぶ。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 4 回	司書教諭の役割 ・司書教諭の役割について学び、自覚と責任を持つ。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 5 回	発達段階に応じた読書指導と読書計画 ・低・中・高学年の発達段階に応じた、基本的な読書指導と読書計画について学ぶ。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 6 回	子どもの読書の実態と読書指導の課題 ・資料をもとに子どもの読書の実態について学び、読書指導の課題について考える。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 7 回	児童生徒向け図書の種類と活用① ・図書の分類について学び、実際の図書館を見学して理解を深める。	【課題】いろいろな図書館を見学する。		
第 8 回	児童生徒向け図書の種類と活用② ・児童文学の種類と活用について学ぶ。 ・絵本やマンガ等の種類と活用について学ぶ。	【課題】図書館や本屋に行って、児童生徒向け図書について理解を深める。		
第 9 回	学習への支援 ・各教科及び総合的な学習への支援と学校図書館レファレンスサービスについて学ぶ。	【課題】学んだことについて復習し、公立図書館を見学する。		
第 10 回	OPACと図書館ネットワーク ・学校図書館と家庭、地域、公共図書館との連携について学ぶ。	【課題】学んだことを復習し、理解を深める。		
第 11 回	読書指導の方法① ・読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、読書へのアニメーション、パネルシアター等の読書指導の方法について学ぶ。	【課題】ブックトークの本を選ぶ。		
第 12 回	読書指導の方法② ・ブックトークの演習をする。	【課題】評価をまとめる。		
第 13 回	読書指導の方法③ ・ブックトークの演習をする。	【課題】評価をまとめる。		
第 14 回	読書指導の方法④ ・ブックトークの演習をする。	【課題】評価をまとめる。		
第 15 回	まとめ ・「読書と豊かな人間性」で学んだことについてレポートにまとめる。	【課題】レポートを完成させて提出する。		

授業形態・授業方法

講義を中心とします。適宜、ビデオの活用やグループ討議を取り入れて理解を深めます。

養うべき力と到達目標

- ・読書の意義と目的をしっかりと捉えることができる。
- ・学校図書館の役割と運営について理解できる。
- ・本好きな子どもにするための司書教諭の役割について理解すると共に、ブックトーク等の手法を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- ・読書が人格形成にいかに重要な役割を果たすかを理解できたか。また、読書好きな子どもにするための手法を身につけたか。
- ・定期試験 50%、授業内課題【レポート・課題提出・演習】30%、受講態度【積極的参加・マナー】20%で評価する。

使用教科書

教科書は使用せず、プリントを配布します。

参考文献等

講義の中で適宜紹介する。

履修条件

司書教諭課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	情報メディアの活用				
担当教員名	横山昌司				
配当年次	1・2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

司書に必要な情報リテラシー・情報ネットワークの概念、インターネットの導入における現在の I C T の位置づけ及び管理方法、情報の評価、情報検索の技術と検索結果の評価、インターネットの利用における著作権の問題を学びます。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第 1 回	オリエンテーション、高度情報化社会の現状について	講義方針と計画、授業の進め方、成績評価の方法について説明します。 情報化の現状についての説明します。	情報化の現状について復習を行う
第 2 回	学校図書館と情報メディア	学校図書館の情報メディアの活用について説明します。	情報メディアについてどのように活用されているか復習する
第 3 回	コンピュータの基礎	ハードウェアとソフトウェアの基礎について理解してもらいます。	コンピュータの基礎について復習する
第 4 回	高度なワープロソフトの活用	司書に必要な高度な文書作成のための技能について説明し、実習を行います。	高度な文書作成について復習を行う
第 5 回	高度な表計算ソフトの活用	司書に必要な高度な表作成のための技能について説明し、実習を行います。	高度な表計算の活用方法について復習を行う
第 6 回	データベースとは	リレーションナルデータベースについての説明を行います。	各種データベースの特徴について理解する
第 7 回	データベース構築の実際例 1	リレーションナルデータベースを使って図書の貸出・返却管理データベースを構築します。	上記データベースを完成させる
第 8 回	データベース構築の実際例 2	リレーションナルデータベースを使って貸出管理のレポートを作成します。	上記データベースを完成させる
第 9 回	プレゼンテーションソフトの利用と視聴覚メディア	プレゼンテーションソフトの利用と視聴覚メディアについて説明します。	プレゼンに必要な論理展開を復習する
第 10 回	ネットワークの利用	コンピュータネットワークの基礎について説明します。	コンピュータネットワークの基礎について復習を行う
第 11 回	情報検索について	情報検索について学習します。 実際の検索キーワードの検証を行います	情報検索の方法について復習を行う
第 12 回	ホームページの仕組みと作り方について説明します。	ホームページの仕組みについて説明する	ホームページの仕組みについて復習を行う
第 13 回	情報発信の方法について	司書に必要な情報発信の技術について説明します。	自分自身の情報発信の方法について検討する
第 14 回	学校図書館と I T	図書館の I T 利用について受講生と検討します	図書館で利用されている I T について仕組みを理解する
第 15 回	著作権・メディアリテラシー	著作権等の知的財産権とメディアを活用するためのリテラシーについて説明します。	著作権等の知的財産権について復習を行う

授業形態・授業方法

講義ならびにコンピュータを使って実務演習を行います。都度に課題を提出し、情報リテラシーの実践的に学んでいきます。

養うべき力と到達目標

- ①アカデミックスキル
 - ・情報リテラシー：司書の実務を遂行するにあたって必要な情報リテラシーの習得ができる。
- ⑨専門的な力
 - ・専門知識：司書に必要な著作権等の知的財産権を学ぶことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

受講態度（私語・マナー） 20 点
 授業への参加度 授業内の課題の提出状況ならびに質問に対する回答 20 点
 授業内の課題の完成度 4 点 × 15 回 60 点

使用教科書

特に指定しない。適宜、レジュメ及び資料を配布します。

参考文献等

「インターネット時代の学校図書館」 東京電機大学出版部
 「情報リテラシーの教科書」 オーム社

履修条件

司書教諭課程履修者必修科目

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は授業の前後の時間ほか、メールでも応じます。
tab02325@gmail.com

授業科目名	生涯学習概論				
担当教員名	藤掛久美子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業では、①生涯学習及び社会教育の意義と現状、生涯学習の課題、学習機会の充実に向けての取組について学び、理解を図る。また、②情報化・グローバル化する社会で暮らす我々は、日々複雑な課題に取り囲まれて生きている。学校教育終了後の持続的な学習を保証する場の一つとして、図書館には、地域における学習・成長のための役割が期待されており、その機能・制度についても理解を深め、③図書館司書として必要な生涯学習の基礎的知識を修得し、現場での対応力の基礎を身に付けます。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス—生涯学習の意義と必要性—	なぜ司書が生涯学習について学ぶのか。生涯学習の意義と必要性について考えます。	生涯学習の社会的意義と必要性についてまとめる。
第2回	生涯学習とは何か。生涯学習の歴史と社会的背景	生涯教育理念を必要とした急激な社会の変化について考えます。	生涯学習の歴史と社会の変化の関連についてまとめる。
第3回	生涯教育論、生涯学習論の展開	ユネスコと生涯教育の提唱について考えます。また、生涯教育論から生涯学習への移行について考えます。	ラングラン、ジェルビの説く生涯教育についてまとめる。
第4回	日本、および諸外国における生涯学習の展開	社会教育審議会、中央教育審議会、臨時教育審議会等の答申から、日本の生涯学習体系への移行について考えます。	生涯教育と生涯学習との視点の違いについてまとめる。
第5回	生涯発達と生涯教育	生涯発達論について、および今日の日本社会で求められている力について確認し、さらに、OECDとリカレント教育論について考えます。	キーコンピテンシーについてまとめる。
第6回	学習情報の提供と学習相談	学習情報の提供、学習相談の教育的意義について考えます。また、学習資源と学習相談、学習相談員について考えます。	学習相談の意義についてまとめる。
第7回	生涯学習と社会教育、その役割と概要	生涯学習の視点、生涯学習の観点に立った社会教育について考える。	人が生涯にわたって行う教育機会の垂直的・水平的統合についてまとめる。
第8回	社会教育行政の意義と役割	社会教育行政の意義と役割、その組織・構造について考えます。	社会教育行政の構造についてまとめる。
第9回	生涯学習・社会教育の形態と方法、学習成果の評価と活用	生涯学習・社会教育活動の形態と方法について考えます。また、学習者の特性についても考えます。	生涯学習の形態と方法の歴史的変遷についてまとめる。
第10回	生涯学習・社会教育の指導者と社会教育施設について	社会教育の指導者とは、社会教育の指導者の種類、役割と活動、社会教育施設それぞれの役割と状況について考えます。	社会教育指導者の種類と役割についてまとめる。
第11回	生涯学習・社会教育施設の役割	社会教育施設の種類と公民館、図書館、博物館の役割について考えます。	図書館に求められる、生涯学習拠点としての役割と実態についてまとめる。
第12回	ボランティア活動と市民活動	学習活動の成果の活用としてのボランティア活動、および、市民活動と学習活動について考えます。	ボランティア活動の課題についてまとめる。
第13回	生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会教育の役割	社会教育、学校教育、家庭教育それぞれの役割について考えます。	生涯学習社会における、学校の役割についてまとめる。
第14回	リカレント教育の理論と実際	リカレント教育という概念の意義、現状と展望について考えます。	リカレント教育を特徴づける考え方についてまとめる。
第15回	生涯学習の将来、今後の方向性について	今後、ますます重要になってくる生涯学習の将来的展開について考える。	生涯学習の今後について考えてまとめる。

授業形態・授業方法

- ・教科書は使用せず、授業ごとにプリントを配付し、それに沿って授業を進めていきます。
- ・一方的な講義に終始しないよう、グループに分かれて意見をまとめ、発表し合うことも行います。
- ・課題レポートを出すので、その作成を通して知識を定着させるとともに、問題意識を持って毎回の授業に臨むようにしてください。

養うべき力と到達目標

- ①学びあう力
 - ・傾聴力：グループ・ワークでは、他者の意見を聞き、正確に把握することができる。
 - ・柔軟性：意見が異なる場合も、他者の意見を尊重し、理解しようと努めることができる。
 - ・伝える力：自分の意見を、論理立てて述べ、他者に理解しやすく伝える力を養う。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：自分の知らない事柄について興味・関心を持って調べたり、知ろうとしたりする。
 - ・主体性：社会で起こっている変化を自らの問題として捉え、知らないこととして済ますのではなく、自らの今までの経験と結び付けて理解することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各授業ごとの課題レポート（60点）と定期試験（論述式）（40点）の合計100点満点で評価する。
- ・各授業ごとの課題レポートは、各回4点×15回とする。得点の基準は以下の通り。
 - ・4点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題について論じている。
 - ・3点：講義内容を踏まえ、課題について論じている。
 - ・2点：一般論により、課題について論じている。
 - ・定期試験の得点の基準は以下の通り。
 - ・40点：全講義内容を踏まえた独自の視点を加えて課題を論じている。
 - ・30点：講義内容を踏まえ、課題について論じている。

使用教科書

特に指定しない（プリントの配付）

参考文献等

「生涯学習論」山本恒夫ほか編（文憲堂）「生涯学習概論」浅井経子編著（理想社）

履修条件

司書資格科目であるため、司書資格取得希望者は履修すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

月曜日1限目から3限目の間に、図書館に来館すること。

その他、連絡を取りたい場合は、E-mail（アドレス：fujikake@osaka-seikei.ac.jp）にて。件名には、「生涯学習概論」と記載すること。学籍番号と氏名も忘れずに記載すること。

授業科目名	図書館概論				
担当教員名	藤掛久美子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業では、①現代社会における図書館の基本的機能、社会における図書館の意義と役割、図書館の現状と動向、課題など、図書館についての基礎的知識を幅広く習得します。具体的には、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者、専門職としての司書の役割、類縁機関と関係団体、図書館の課題と展望等について学びます②この授業は、図書館司書養成科目の導入となる科目として、図書館に関わる基本的な知識、用語について、広く理解することもめざします。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス—図書館がどのようなものかの理解を深める—	これから学んでいく図書館がどのようなものかの理解を深めるために、図書館の定義、図書館は何をするところか、図書館司書の仕事はどのようなものかを考えます。	図書館とはどのようなところかを理解するために、図書館と書店の違いをまとめること。
第2回	情報の生産と流通	情報がどのように生成されていくのか、その流れを理解し、また、図書館の扱う「情報」とはどのようなものかを考えます。	図書館で用いる専門用語について整理すること。
第3回	図書館における業務	図書館における業務を、直接サービス、間接サービスに分けて考えます。	レファレンスサービスについてまとめること。
第4回	図書館の理念と社会的意義	図書館が担っている社会的役割、図書館における生涯学習援助の必要性について考えます。	図書館の機能についてまとめること。
第5回	図書館の基本理念：知的自由と図書館	「図書館の知る自由の保障についての様々な事例を調べ、「知的自由」の保障という図書館の社会的役割について考えます。	図書館の自由に関する宣言を書き出してみること。
第6回	図書館の基本理念：図書館員の役割と倫理綱領	理想の図書館員とはどのような人々か、図書館員の職責とは何かについて、事例をもとに考えます。職員を取り巻く状況と専門性について考えを深めます。	図書館員の倫理綱領についてまとめること。
第7回	図書館の歴史	わが国における公共図書館の歴史的変遷を概観する。特に、図書館法制定以前と以後の図書館の飛躍的な変化、その後の発展・展開の時期に焦点を当てて考えます。	「近代公共図書館の5原則」と「図書館法」の条文のどれが対応しているか調べること。
第8回	図書館に関する制度、政策	公立図書館、大学図書館、学校図書館、国立図書館などについて、その根拠となる法的基盤について解説する。	各図書館の根拠となる法律についてまとめること。
第9回	図書館行政と公共図書館	我が国の図書館政策の進展について、公共図書館にまつわる法体系と内容とともに考えます。	「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を読み、気付いた点をまとめること。
第10回	公共図書館の現状と課題	公共図書館とはどのようなところか、また、その機能について解説します。最近の図書館の動向についても考えます。	公共図書館の役割についてまとめること。
第11回	国立国会図書館の現状と課題	国立図書館とはどのようなところか、また、その機能について考えます。	国立国会図書館のホームページを見て、その役割についてまとめること。
第12回	学校図書館の現状と課題	学校図書館とはどのようなところか、また、その機能について考えます。	学校図書館の役割についてまとめること。
第13回	大学図書館の現状と課題	大学図書館とはどのようなところか、また、その機能について考えます。	大学図書館の最近の課題について、実際に図書館の司書さんに尋ねてまとめること。
第14回	専門図書館、類縁機関、その他の図書館の現状と課題	なぜ図書館が他の図書館や関連機関と協力・連携していくことが必要かを考えます。	図書館の相互協力やネットワークなど、実例を調べてまとめること。
第15回	図書館の課題と展望	今後、図書館が求められる役割や課題について考えます。	新聞記事を調べ、今後、図書館が求められる役割や課題についてまとめること。

授業形態・授業方法

- 教科書は使用せず、授業ごとにプリントを配付し、それに沿って授業を進めています。
- 一方的な講義に終始しないよう、グループに分かれて意見をまとめ、発表し合うことも行います。また、レポート作成の機会をもつこととします。
- 課題レポートを出すので、その作成を通して知識を定着させてください。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
 - ・観察力：実際に図書館を利用する時にも、様々な事柄に興味・関心を持ち、問題意識を持って現状を調べたり、知ろうとしたりする。
 - ・分析力：問題点を発見した時には、その原因などを注意深く分析し、解決の方向性を見出すことができる。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：図書館を漫然と利用するだけでなく、関心を持つことにより、そこに様々な興味深い事柄や課題を見いだすことができる。
 - ・主体性：図書館の現状を知り、それを自らの今までの経験と結び付けて理解し、問題意識を持って関わっていくことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各授業ごとの課題レポート（60点）と定期試験（40点）の合計100点満点で評価する。
- ・各授業ごとの課題レポートは、各回4点×15回とする。得点の基準は以下の通り。
 - ・4点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題について論じている。
 - ・3点：講義内容を踏まえ、課題について論じている。
 - ・2点：一般論により、課題について論じている。

使用教科書

特に指定しない（プリントの配付）

参考文献等

ベースック司書講座・図書館の基礎と展望1 図書館の基礎と展望／二村健監修／学文社／2011年
JLA図書館情報学テキストシリーズIII 1図書館概論／塩見昇編著／日本図書館協会／2012年

履修条件

司書資格科目であるため、司書資格取得希望者は履修すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

月曜日1限目から3限目の間に、図書館に来館すること。
その他、連絡を取りたい場合は、E-mail（アドレス：fujikake@osaka-seikei.ac.jp）にて。件名には、「図書館概論」と記載すること。学籍番号と氏名も忘れずに記載すること。

授業科目名	図書館制度・経営論				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について概説します。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	ガイダンス、図書館をめぐる法体系	講義の概要の説明。 日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法の概略について解説します。	「日本国憲法」、「教育基本法」、「社会教育法」を読む。
第2回	図書館法逐条解説（1）：総則	図書館法 第1章総則について解説します。	「図書館法」第1章総則を読む。
第3回	図書館法逐条解説（2）：公立図書館、私立図書館	図書館法 第2章公立図書館、第3章私立図書館について解説します。	「図書館法」第2章公立図書館、第3章私立図書館を読む。
第4回	地方自治体の図書館関連条例	公立図書館の法的根拠、地方自治体における関連法令等について解説します。	近隣自治体の「図書館設置条例」等を見る。
第5回	他館種の図書館に関する法律等	学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準等を解説します。	「学校図書館法」、「国立国会図書館法」、「大学設置基準」等を読む。
第6回	図書館サービス関連法規	読書に関する法律、著作権法、個人情報の保護に関する法律等について解説します。	読書に関する法律、著作権法、個人情報の保護に関する法律等を読む。
第7回	図書館政策	国や地方自治体の図書館政策について解説します。	国や地方自治体の図書館政策を見る。
第8回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	公共機関・施設や公立図書館の経営について解説します。	近隣の公共機関・施設や公立図書館の経営について調べる。
第9回	図書館の組織・職員（1）：教育委員会等	教育委員会とその組織構成、図書館長の役割等について解説します。	近隣自治体の教育委員会組織等について調べる。
第10回	図書館の組織・職員（2）：図書館協議会等	図書館協議会、住民団体、図書館ボランティア等について解説します。	近隣自治体の図書館協議会等について調べる。
第11回	図書館の施設・設備	図書館建築のあり方や図書館建築計画、望ましい基準における施設設備等について解説します。	近隣自治体の図書館へ訪問して、設備等について確認してみる。
第12回	図書館のサービス計画と予算の確保	図書館のサービス計画の立て方や予算編成について解説します。	近隣自治体のサービス計画や予算書を見てみる。
第13回	図書館業務・サービスの調査と評価	サービスや住民の図書館要求にかかる調査について、調査の目的と内容を取り上げます。また図書館評価についても解説します。	図書館評価について、その方法や内容について考えてみる。
第14回	図書館の管理形態の多様化	図書館の管理運営や業務を外部に委ねる形態である業務委託、指定管理者制度等を取り上げます。	身近な図書館の管理運営形態について確認してみる。
第15回	公立図書館がかかえている課題と今後の展望	まとめとして図書館がかかえている課題と今後の展望について取り上げます。	講義を振り返り、期末試験にそなえて総復習をしておくこと。
第16回	期末テスト		

授業形態・授業方法

講義形式で行います。講義中に小テスト・レポート等を課すことがあります。
授業では、主として専門用語をはじめとする概念を説明することが中心となるので、次の授業までに必ず復習をし、理解を深めてください。

養うべき力と到達目標

図書館に関連する諸法律をはじめ、図書館政策や図書館経営について、基本的な知識を修得することができます。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：図書館関連法令や図書館政策、図書館経営について、その理解度を見ます。
尺度：講義中の小テスト・レポート等（40%）、期末試験（60%）で評価します。

使用教科書

特に指定しません。
レジュメにより講義を行います。

参考文献等

塩見昇・山口源治郎編著『新図書館法と現代の図書館』（日本図書館協会、2009年）ISBN978-4-8204-0915-1

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

「図書館概論」を履修していることが望ましい。
予習は必要ないが、授業で学習したことを、よく復習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	図書館情報資源概論				
担当教員名	藤掛久美子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

本授業では、①図書館が、その奉仕対象のために必要な資料（図書館情報資源）を収集し組織化し利用に供していることを知り、印刷資料、非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報などから構成される図書館情報資源について、その構成や類型、特質、歴史などの理解を深めます。また、②多様化する図書館情報資源を、有効に活用し機能させるために必要な、選択、収集、保存など、図書館で実際に行われている業務に必要な情報資源に関する知識・技能の習得を目指します。③実施に図書館にて、実物を見ながら授業を進めることも行います。図書館情報資源の多様性を理解し、その有用性と長所、短所について学んでください。

授業計画

第 1 回	ガイダンス—図書館情報資源とは何か—	学習課題（授業時間外の学習）
	図書館情報資源とは何かを考えるに当たり、まず、図書と印刷の歴史について考えます。	現存する世界最古の印刷物である、法隆寺の「百万塔陀羅尼（ひやくまんとうだらに）」（770年）について、データベースを検索して調べること。
第 2 回	図書館資料とは何か 図書館情報資源の種類とその特徴：図書 図書館資料のさまざまな類型について考えます。また、紙媒体の印刷資料である、図書の特質を考えます。図書館の実際の貴重本などを間近に見て、理解を深めます。	図書館の資料を見て、気がついたことをまとめること。
第 3 回	図書館情報資源の種類とその特徴：逐次刊行物 新聞、雑誌、年鑑など、定期刊行される印刷資料の特質を考えます。様々な分野の雑誌を図書館で実際に見て、その特色、長所と短所についてグループで話し合い、発表します。	図書館で、実際に逐次刊行物を見て、特色をまとめるここと。
第 4 回	図書館情報資源の種類とその特徴：視聴覚資料、マイクロ資料、障がい者用資料など CD、ビデオ、DVDなど、音声、映像資料について考えます。また、障がい者用資料に触れて、その特徴を知り、また、マルチメディア・デイジーについて考えます。	障がい者用資料としてどのようなものがあるか、図書館で調べてまとめること。
第 5 回	図書館情報資源の種類とその特徴：政府刊行物、地域資料 地方・地域資料、行政資料、政府刊行物などについて考えます。	図書館に行き、各種白書、地域・郷土資料、自治体の広報誌を調べるか、ホームページを見て、特色をまとめること。
第 6 回	図書館情報資源の種類とその特徴：電子資料 電子資料、インターネット情報資源などについて考えます。	データベースを調べて、その特色をまとめること。
第 7 回	図書館情報資源の種類とその特徴：電子資料を使ってみる 二次情報データベースを実際に使ってみた結果を各々で発表し、データベースの特色を理解します。	自分の知らないデータベースについて、実際に使ってみること。
第 8 回	図書館情報資源の収集とコレクション構築 コレクション構築の意義、および収集、選択とその理論を考えます。	コレクション構築に影響を与える要因についてまとめること。
第 9 回	コレクション形成プロセス 図書のコレクション構築プロセスである、選択、収集、整理、蓄積・保管プロセスについて考えます。また、収集方針、選択基準について、理解を深めます。	蔵書の特性と役割について、ランガナタンの「図書館学の五法則」に照らして考えてみること。
第 10 回	資料収集のプロセスと実際 資料の特長に基づき、収集・選択、また、業務の流れなどを理解する。選書のための情報源について知り、図書館において、図書が利用者に届くまでを考えます。	資料入手の方法についてまとめること。
第 11 回	資料の蓄積と保管 図書館資料の分野別の構成比率を考察し、資料の管理、除籍、保存などについて考えます。	
第 12 回	コレクションの評価・再編 コレクション評価の目的と意義を理解し、評価方法の種類や手順について考えます。	利用を中心とした評価方法と蔵書を中心とした評価方法との違いについてまとめること。
第 13 回	図書館と出版流通 出版流通の現状を把握し、その過程において生ずる課題について考えます。	図書館の資料収集について、あるいは、出版が禁止される可能性のある場合などの事例について、実際の事例を調べること。
第 14 回	図書館と著作権 市民の知る権利を保障する「図書館の自由」の理念について考えます。調べてきた実際の事例について、グループで話し合い、発表します。	図書館の資料収集や出版禁止についての事例を検討した結果をまとめること。
第 15 回	コレクション形成の課題と展望 多様化の一途をたどる図書館資料の問題点を明らかにし、今後の課題と展望を考えます。図書館蔵書のデジタル化についても考えます。	オープンアクセスや機関リポジトリについて、実際に利用してみて、気付いたことをまとめること。

授業形態・授業方法

- 教科書は使用せず、授業ごとにプリントを配付し、それに沿って授業を進めていきます。また、図書館に行き、実際の資料を用いての実習や話し合いなどの授業を行います。
- 一方的な講義に終始しないよう、グループに分かれて調べたり、意見をまとめ、発表し合うこともあります。
- 毎回課題レポートを出すので、その作成を通して知識を定着させてください。

養うべき力と到達目標

- ①課題発見力
 - ・観察力：様々な図書館資料に興味・関心を持ち、問題意識を持って現状を調べたり、新たな発見をしたりすることができる。
 - ・分析力：目の前の事柄を注意深く分析し、新たな発見をしたり、問題点を見いだして、解決の方向に向かわせることができる。
- ②自ら動く力
 - ・好奇心：図書館、その他の機関を漫然と利用するだけでなく、関心を持つことにより、そこに様々な興味深い事柄や関連性、課題を見いだすことが出来る。

成績評価の観点と方法・尺度

- 各授業ごとの課題レポート（60点）と定期試験（40点）の合計100点満点で評価する。
- ・各授業ごとの課題レポートは、各回4点×15回とする。得点の基準は以下の通り。
 - ・4点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題について論じている。
 - ・3点：講義内容を踏まえ、課題について論じている。
 - ・2点：一般論により、課題について論じている。

使用教科書

特に指定しない（プリントの配付）

参考文献等

JLA図書館情報学テキストシリーズIII 8図書館情報資源概論／馬場俊明編著／日本図書館協会／2012年

履修条件

司書資格科目であるため、司書資格取得希望者は履修すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

月曜日1限目から3限目の間に、図書館に来館すること。
その他、連絡を取りたい場合は、E-mail（アドレス：fujikake@osaka-seikei.ac.jp）にて。件名には、「図書館情報資源概論」と記載すること。学籍番号と氏名も忘れずに記載すること。

授業科目名	図書館情報資源特論				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

図書館で扱う、さまざまな情報資源について理解を深めることを目標とします。
学術・専門資料の種類、学術情報の生産・流通・利用など図書館情報資源に関する領域についての知識を習得します。

授業計画

授業回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	図書館情報資源の種類 図書館情報資源とは何か、またどのようなものがあるかを学びます。	さまざまな図書館情報資源について理解する。
第2回	図書の構造 代表的な情報資源である図書について、その成り立ちや構造について学びます。	図書の構造について理解する。
第3回	出版流通システム 図書や雑誌は一般の流通システムと違い、独特な商取引が行われています。それらについて理解することにより、図書館の収集について考えます。	出版流通システムについて理解する。
第4回	専門資料の構造と種類 専門資料の特色について学び、その種類について解説します。	専門資料の種類とその特徴を理解する。
第5回	学術情報の生産と利用 学術情報について理解し、その利用法について学びます。	学術情報について理解する。
第6回	学問分野と情報の特性 学問分野を分類し、それぞれの特性について解説します。	それぞれの学問分野の特性について理解する。
第7回	さまざまな情報メディア デジタル資料とマイクロ資料について解説します。	さまざまな情報メディアについて理解する。
第8回	地域資料 それぞれの図書館が立地する場所に関する資料を収集することの意義や、その責任について学びます。	地域資料の重要性について理解する。
期末試験		

授業形態・授業方法

講義形式で行います。
講義中に小テストやレポート等を課して理解度を確認することがあります。

養うべき力と到達目標

図書館におけるさまざまな分野の情報資源に関する概説を中心に、基本的な知識を修得することができます。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：さまざまな図書館情報資源についての講義に対する理解度を見ます。
尺度：平常点（講義中の小テスト・レポートおよび講義への参加態度）40%、期末試験60%

使用教科書

なし（配布するレジュメによって講義を行います）

参考文献等

講義中に適宜紹介します。

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

予習は必要ないが、授業で学習したことを、よく復習しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	情報資源組織論				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

印刷資料・非図書資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの活用法などを解説します。

授業計画

授業回	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	情報資源組織化の意義	情報資源組織化とはどういうことかを概説します	情報資源がどのように組織化されているか、身近な図書館で確認する
第2回	書誌コントロールと標準化	情報資源の組織化に必要な情報はどのようなものかを学習します	身近な図書を組織化することを考え、復習する
第3回	書誌情報の作成と流通	実際の書誌情報を見て、どのように作成され、流通しているのかを学びます	書誌情報が身近なところでどのように利用されているかを復習する
第4回	書誌情報の提供	図書館ではOPACによる書誌情報の提供が主流となっている。OPAC（利用者開放検索端末）の利用とコンピュータによる書誌情報の管理について学習します	実際に身近な図書館のOPACで検索を行い、OPACについての理解を深める
第5回	情報資源組織化の理論（目録法）	目録法の基礎について学び、目録どのように役立つかを理解します	図書館に目録がなぜ必要なのかを復習する
第6回	書誌記述法（1）記述目録法の基礎	記述目録法の概要について学習します	記述目録法で必要な内容について復習する
第7回	書誌記述法（2）日本目録規則	記述目録法の例として「日本目録規則（NCR）」を取り上げ、概説します	「日本目録規則（NCR）」について理解を深めておく
第8回	書誌記述法（3）書誌的事項の記述	書誌情報の記述について、どのような内容を記録するのかを学びます	身近な図書で書誌情報の記述をしてみる
第9回	標目と排列	書誌情報を検索するアクセス・ポイントとしての標目と、カード目録を編成するための排列について学習します	身近な図書で標目を付与してみる
第10回	主題分析の意義と考え方	情報資源の主題を分析し、キーワードを付与することによって組織化が行われる。主題分析と統制されたキーワードであるシソーラスについて学習します	自然語と統制語の違いや、件名とシソーラスの違いを学んでおくこと
第11回	主題目録法	主題目録法の機能や種類について学習します	言葉による主題の捉え方と、記号による分類の違いを学んでおく
第12回	件名法と件名目録	件名法について概説し、「基本件名標目表（BSH）」を例として詳説します	身近な図書で件名を付与してみる
第13回	分類法	分類法の概要を学び、分類理論についても概説します	書誌分類と書架分類の違いについて復習する
第14回	日本十進分類法	日本の一般的な分類法である「日本十進分類法（NDC）」について概説します	「日本十進分類法（NDC）」使って、分類を行ってみる
第15回	排架法と図書記号	図書館の書架での情報資源の並べ方を学ぶとともに、情報資源に貼付されているラベルの意味についても学習します	身近な図書館で、どのように情報資源が並べられているか観察する
第16回	期末試験		

授業形態・授業方法

講義形式で行う。講義中に小テスト・レポート等を課すことがあります。
授業では、主として専門用語をはじめとする概念を説明することが中心となります。教科書を読むことにより全体の文脈のなかで専門用語等を正確に理解することができるので、次回の授業までに必ず教科書を読み復習してください。

養うべき力と到達目標

図書館の情報資源を組織化するのに必要な理論と技術を学び、資料情報組織演習に必要な知識を修得することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：情報資源を活用するためにどのように組織すべきかについて、その理解度を見ます。
尺度：平常点（講義中の小テスト・レポート、講義への参加態度等）40%、期末試験 60%

使用教科書

書名：情報資源組織論（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 9）
著者名：柴田正美
出版社名：日本図書館協会
その他：ISBN978-4-8204-1202-1

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

当科目の履修が、「情報資源組織演習1・2」受講の前提となる。「講義」と「演習」で成り立つ必修科目であり、司書課程科目の中で一番の技術科目です。

予習は必要ないが、授業で学習したことを、しっかりと復習しておくこと。

「情報資源組織演習1・2」で行う理論の部分なので、理解できていないと演習についてこれなくなるおそれがあります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	情報資源組織演習1				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

「情報資源組織論」の学習をふまえて、さまざまな情報資源を活用するために、主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を行い、実践的な能力を養成します。利用者が求める資料や情報を的確、迅速に提供するためには、情報資源の分類を理解するとともに、利用者にわかりやすい正確な分類を与える力も身につけます。

授業計画

授業回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）		
		目標	内容	方法
第1回	情報資源組織の意義と実際 図書館の機能と情報資源組織、情報資源組織業務の種類や位置づけ、情報資源へのアクセスと情報資源組織について概説します	情報資源組織の意義について復習する		
第2回	主題分析 情報資源を組織化するにあたって、どのような観点で主題を分析するのかを学習します	身近にある図書等を主題分析してみる		
第3回	統制語彙適用の実際とシソーラス 統制語彙を利用する意義と統制語彙間の関連について理解します	ひとつの語と他の語の関連性について、考えてみる		
第4回	基本件名標目表：概略と構造 「基本件名標目表（BSH）」についての概要説明します	「基本件名標目表（BSH）」の概要について復習する		
第5回	件名付与の実際（1）細目 「基本件名標目表（BSH）」の細目について説明します	身近にある図書に、「基本件名標目表（BSH）」を使って件名標目を細目まで考えます		
第6回	件名付与の実際（2）件名規程 「基本件名標目表（BSH）」の件名規程について説明し、実際に件名付与の演習を行います	身近にある図書に、「基本件名標目表（BSH）」を使って件名標目を付与する		
第7回	主題分析および件名作業のまとめ 主題分析及び件名作業についての学習を振り返り、総合演習課題を解く	第1回～第6回までの復習を事前にしっかりと行っておくこと		
第8回	日本十進分類法：構成 「日本十進分類法（NDC）」についての概要説明し、例題の図書を分類します	「日本十進分類法（NDC）」の概要について復習		
第9回	分類作業の実際（1）補助表：形式区分 「日本十進分類法（NDC）」の形式区分についての概要説明し、例題の図書を分類します	身近にある図書に、「日本十進分類法（NDC）」を使って形式区分を付与する		
第10回	分類作業の実際（2）補助表：地理区分、海洋区分 「日本十進分類法（NDC）」の形式区分についての概要説明し、例題の図書を分類します	身近にある図書に、「日本十進分類法（NDC）」を使って地理区分を付与する		
第11回	分類作業の実際（3）補助表：言語区分、言語共通区分、文学共通区分 「日本十進分類法（NDC）」の言語区分、言語共通区分と文学共通区分についての概要説明し、例題の図書を分類します	身近にある図書に、「日本十進分類法（NDC）」を使って言語区分、言語共通区分と文学共通区分を付与する		
第12回	分類作業の実際（4）分類規程：主題と形式、主題と観点、原著と関連主題 「日本十進分類法（NDC）」の分類規程についての概要説明し、例題の図書を分類します	身近にある図書に、「日本十進分類法（NDC）」を使って分類記号を付与する		
第13回	分類作業の実際（5）分類規程：複数主題、主題と主題の関係 「日本十進分類法（NDC）」の分類規程についての概要説明し、例題の図書を分類します	身近にある図書に、「日本十進分類法（NDC）」を使って分類記号を付与する		
第14回	分類作業の実際（6）図書記号と別置記号 図書記号と別置記号について説明し、例題の図書に付与します	身近にある図書に、図書記号や別置記号を付与する		
第15回	分類作業のまとめ 分類作業についての学習を振り返り、総合演習課題を解く	第8回～第14回までの復習を事前にしっかりと行っておくこと		

授業形態・授業方法

演習を中心に行う。テキストの例題を中心に、「基本件名標目表（BSH）」や「日本十進分類法（NDC）」を使った主題分析を行い、件名標目や分類記号を付与を行います。（テキストは毎回持参のこと）

養うべき力と到達目標

情報資源の件名や分類についての演習を行うことにより、図書館における情報資源組織化について具体的に理解します。また、「基本件名標目表（BSH）」や「日本十進分類法（NDC）」について習熟し、公共図書館および大学図書館で通用する件名標目や分類記号の付与ができる実践力を習得することができます。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：情報資源の主題分析について、「基本件名標目表（BSH）」および「日本十進分類法（NDC）」に対する理解と適用ができているかどうか。
 尺度：演習小テスト（2回を予定）と課題提出および受講状況（積極的参加、マナー）により評価します。演習小テスト（50%）、課題提出等（50%）で評価。

使用教科書

書名：情報資源組織演習（JLA図書館情報学テキストシリーズIII 10）
 著者名：和中幹雄・山中秀夫・横谷弘美共著
 出版社名：日本図書館協会
 その他：ISBN978-4-8204-1317-2

参考文献等

日本図書館研究会編集『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会 2015 定価1,100円(税別) ISBN:978-4-930992-22-2
 『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会(購入の必要なし)
 『日本十進分類法 新訂9版』日本図書館協会(購入の必要なし)
 『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会(購入の必要なし)

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習は、「情報資源組織法」の履修が前提となっています。受講開始前に復習をしておくこと。演習科目なので、課題を出し、提出してもらいます。時間内に課題ができない場合は、持ち帰ってもらうこともあります。
 演習で学習したことを、しっかりと復習しておいてください。
 授業中にすべての演習問題をすることはできないので、授業中にできなかった演習問題は自主的にトライしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	児童サービス論				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	1年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

児童サービスとは、子どもに読む喜びを知ってもらうために公共図書館が行う図書館活動です。

これが、いまいろんな意味で重要な時期にあります。それは、次のような理由からです。

2002年に、「子ども読書活動推進法」が制定されて、全国の自治体で「子ども読書活動推進計画」の策定がすすみ、官民あわせて子どもの読書活動の推進が行われているからです。

そこで、児童サービスに携わる人に必要な「子どもを知る」「子どもの本を知る」「子どもと子どもの本を結びつける方法を知る」という三要件を理解して、読み聞かせやブックトークなど、子どもに読書の楽しみを知ってもらうためのさまざまな活動を講じます。また、絵本や児童文学、科学・知識の本など、子どもの本や資料について扱います。

授業計画

		学習課題（授業時間外の学習）			
第1回	児童サービスの意義と目的	子どもの本の調査。			
	児童サービスをするために必要な、子どもを知る、子どもの本を知る、子どもと子どもの本を結びつける方法を知る、について、解説します。子どもの読書の中で、耳から聞いて内容を理解する読書のあり方についても解説します。				
第2回	児童資料について：絵本	絵本の調査。			
	子どもの発達・成長の大きな道筋を話します。その中で、赤ちゃんに働きかけるブックスタート事業についても語ります。また、コミュニケーションツールとしての絵本に着目し、絵本のさまざまな側面を学びます。				
第3回	児童資料について：昔話と伝承文学	昔話、伝承文学の調査			
	昔から語り継がれてきた昔話や伝承文学について学び、耳から聞く物語の意義について説明します。				
第4回	児童資料について：児童文学	児童文学作品の調査			
	冒險物語、ファンタジーといったジャンルごと、子どもの発達段階別に作品を紹介し、児童文学史の流れに沿ながら、日本や世界の児童文学について解説します。				
第5回	子どもと本を結びつける活動① 読み聞かせ フロアワーク ブックトークなど	子どもの読書機会についての調査と報告。読み聞かせについての練習とその実践。			
	子どもと本を結ぶ方法として、いくつかの手法を紹介し、実際に練習をします。				
第6回	子どもと本を結びつける活動② いろいろな業務・レファレンス 集会活動	読み聞かせについての練習とその実践。			
	子どもが持ち込む課題について、解決へと導く支援の仕方について考えます。				
第7回	子どもと本を結びつける活動③ 実践発表	読み聞かせについての練習とその実践。			
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、ブックトークの実践を行い、その方法について考えます。				
第8回	ヤングアダルト・サービス	青少年の読書資料の調査と報告。			
	ヤングアダルトといわれる、青少年の読書と資料を扱います。				
第9回	児童サービス 多様な読書活動①	乳幼児への対応について自らの考えをまとめる。			
	乳幼児へのサービスについて。				
第10回	児童サービス 調べることへのサポート①	基本図書一覧の作成。			
	基本図書とその周辺図書。				
第11回	児童サービス 調べることへのサポート②	基本図書の対象年齢に対する分類。			
	子どもの成長とそれにあった本の選択。				
第12回	児童サービス 調べることへのサポート	推薦できる本の選定。			
	よい本を選ぶとは。				
第13回	児童サービス アウトリサーチサービス	アウトリサーチサービスの方法について考える。			
	図書館に来られない子供たちへのサービスについて。				
第14回	各種機関との連携・協力：学校・学校図書館、地域社会との連携・協力	公共図書館の積極的な児童サービスについて考える。			
	公共図書館が児童サービスを行う上で、欠かせない情報発信機能について解説し、各種機関との連携と協力について考えます。				
第15回	まとめ	授業に中でのことについて、自らの意見をまとめレポートする。			
	授業全体のまとめ。				

授業形態・授業方法

基礎・基本を大切に理論と実際を講義します。

子どもに読書の楽しみを知ってもらうために、いろいろなやり方で読書を勧める図書館活動ですので、実際の活動を映像資料などで見て理解を進めます。

講義が主になりますが、受講者の経験などをもとに、読書の意義や児童サービスの意義をお話します。絵本の読み聞かせやブックトークなどの実践も取り入れる予定です。

養うべき力と到達目標

学習成果：児童に対応する必要な基礎知識の習得、ならびに基礎理論を理解できる。

到達目標：子どもに読書を進められるよう、理論と実際の技量を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：図書館活動における児童との関わりの観点から理解度を見る。
 尺度：基本的事項の理解、関連事項の理解、対応力の到達度で評価する。
 評価方法：授業内課題および、授業内提出レポート 30%
 最終レポート 50%
 受講態度20%

使用教科書

『子どもの本 100問100答 司書、読書ボランティアにも役立つ』（一般財団法人大阪国際児童文学振興財団 創元社）

参考文献等

児童サービス論 (辰巳義幸編著 東京書籍)
 児童サービス論 (佐藤涼子編著 教育史料出版会)
 児童サービス論 (中多泰子編著 樹村房)
 子どもの図書館の運営 (小河内芳子著 日本図書館協会)
 児童図書館サービス論 (赤星隆子編著 理想社)

履修条件

司書課程履修者1年生および科目等履修生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	図書館情報技術論				
担当教員名	藤掛久美子				
配当年次	1年	開講時期	後期	単位数	2

授業概要

本授業では、①図書館サービスに必要な情報通信技術の仕組み、情報検索に関する基礎知識を理解するなど基礎知識を習得し、その活用を可能とします。さらに、②業務への実際の活用事例について学習し、同時に、ネットワーク・セキュリティについても理解を深め、③情報技術の進歩に伴う図書館の未来について考えます。

授業計画

授業回	授業題目	学習課題（授業時間外の学習）
第 1 回	ガイダンス—情報技術と社会— 図書館業務に必要な情報技術を学ぶ上で前提となるコンピュータとネットワークに関する基礎的な事柄について理解します。また、ユビキタス、インターネットなど情報通信の進展を概観します。	知識基盤社会における課題についてまとめること。
第 2 回	コンピュータの仕組みと歴史 コンピュータが扱う情報□（デジタル情報）について知り、また、コンピュータの五大機能、ハードウェア、ソフトウェアについて考えます。	コンピュータ関連用語を覚えること。
第 3 回	インターネットの仕組みと歴史 インターネットの仕組みとその歴史をたどり、また、その基本的用語について理解を深めます。	インターネットの大衆化の歩みとwwwの仕組みについて調べること。
第 4 回	インターネットの仕組みについて調べる グループに分かれて、インターネットに関連した事項（ドメイン名、IPアドレス、ネットワーク・アプリケーション、ネットワーク・プロトコルなど）について、テーマを決めて調べたことについて、発表します。	ドメイン名の種類による特徴をまとめること。
第 5 回	図書館業務システムの仕組み 図書館における、収集、組織化、利用、保存の業務の進展・進歩について考えます。また、コンピュータとマークを利用した、収集選択、組織化、利用提供について理解を深めます。	図書館の資料の組織化を支えるコンピュータの仕組みをまとめること。
第 6 回	検索エンジンの仕組み 検索エンジンの基礎的仕組み、違いを理解し、検索の基本を知り、活用技能を身に付けます。	サーチエンジンの違いについて、表にまとめて理解すること。
第 7 回	データベースの仕組み データベースとは何か。その仕組みを理解し、データの管理や検索の実際を知ります。	図書館で使えるデータベースを1つ選び、検索してみること。
第 8 回	インターネット上の情報発信：www WebユーザビリティとWebアクセシビリティについて理解し、図書館のホームページにおいて利用者の利便性を高める仕組みについて理解する。	様々な図書館のホームページを実際に利用して、評価すること。
第 9 回	インターネット上の情報発信：wwwとHTML 様々な図書館のホームページを実際に利用して、WebユーザビリティとWebアクセシビリティの観点から評価し、まとめたことを発表する。簡単なHTMLについて理解する。	実際に、簡単なホームページを作成してみること。
第 10 回	コンピュータのシステムの管理 図書館内のコンピュータやネットワークの管理に必要な基礎的知識を身に付けます。	図書館で実際に起きた事件について新聞で調べ、まとめること。
第 11 回	ネットワーク・セキュリティ ネットワーク犯罪やコンピュータ・ウィルスなどの種類と対策について理解します。また、図書館における対策と図書館の自由に関する宣言との関わりについて考えます。	コンピュータ・ウィルスに対する対策についてまとめること。
第 12 回	電子資料の管理 図書館情報資源としての電子資料の特徴について知り、図書館で電子資料を取り扱うための基本技術を考えます。	図書館での、電子資料の所蔵状況と、その提供の方法についてまとめること。
第 13 回	デジタル・アーカイブ 電子図書館とデジタル・アーカイブについて、基本的な概念を理解する。図書館における資料の電子化の技術、デジタルアーカイブ事業についても考えます。国立国会図書館などのデジタルアーカイブのページを調べ、地域資料や情報をデジタル化して保存する意義について話し合います。	国立国会図書館などのデジタルアーカイブのページを実際に調べて、調べたことを記録すること。
第 14 回	最新の情報技術と図書館 図書館業務と利用者サービスにおける最新の情報技術について、内容を知り、業務の効率化について考えます。	実際に図書館で導入されている最新の技術について調べること。
第 15 回	図書館の課題と展望 図書館業務、利用者サービスをめぐる新しい技術の動向、および電子書籍の動向を把握し、図書館の未来について考えます。	電子書籍と図書館との関わりから、図書館の未来について自分の考えをまとめること。

授業形態・授業方法

- 教科書は使用せず、授業ごとにプリントを配付し、それに沿って授業を進めていきます。
- 一方的な講義に終始しないよう、グループに分かれて意見をまとめ、発表し合うことも行います。
- 毎回課題レポートを出すので、その作成を通して知識を定着させてください。

養うべき力と到達目標

- ①自ら動く力
 - 好奇心：自分の知らない事柄についても前向きに、興味・関心を持って調べたり、知ろうとしたりすることができる。
 - 積極性：自分の知らない技術などについても、物怖じせずに、積極的に取り組んでいくことができる。
- ②アカデミックスキル
 - 情報リテラシー：自ら必要な情報を探索・収集し、整理・分析、さらには評価して、発信することができる能力を身につけることができる。
 - プレゼンテーション能力：パワーポイントを使用して、理論立てて発表することができる。
- ③筋道を立てる力
 - 発想力：新しく学習した知識を生かしたホームページ作成などを通して、新たなアイディアを発想することができる。

成績評価の観点と方法・尺度

各授業ごとの課題レポート（60点）と定期試験（40点）の合計100点満点で評価する。

- 各授業ごとの課題レポートは、各回4点×15回とする。得点の基準は以下の通り。
 - 4点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題について論じている。
 - 3点：講義内容を踏まえ、課題について論じている。
 - 2点：一般論により、課題について論じている。

使用教科書

特に指定しない（プリントの配付）

参考文献等

ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望2 図書館情報技術論／二村健監修／学文社／2012年

履修条件

司書資格科目であるため、司書資格取得希望者は履修すること。

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

月曜日1限目から3限目の間に、図書館に来館すること。

その他、連絡を取りたい場合は、E-mail（アドレス：fujikake@osaka-seikei.ac.jp）にて。件名には、「図書館情報技術論」と記載すること。学籍番号と氏名も忘れずに記載すること。

授業科目名	図書館サービス概論				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用対象者別サービスに大別してその意義や技法について解説します。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例を提示して、図書館サービスの実際を理解できるようにします。

授業計画

	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	「図書館法」を読む。 図書館サービスの意義や法的基盤について解説します。
第2回	ユネスコの「公共図書館宣言」を読む。 図書館サービスの基本的考え方やさまざまな基準について解説します。
第3回	図書館の構成要素を理解する。 図書館の構成要素と図書館サービスの機能について解説します。
第4回	「市民の図書館」を読む。 戦後から1990年前半までの日本の公共図書館の発展とについて解説します。
第5回	現代の公共図書館のサービスについて理解する。 1990年代後半から現在までの日本の公共図書館のサービスの展開について解説します。
第6回	都道府県立図書館の役割について理解する。 都道府県立図書館と市町村立図書館の役割の違いや、図書館のネットワークについて解説します。
第7回	近隣の図書館では、どのようなことが行われているか調べる。 資料提供サービスと情報提供サービスについて解説します。
第8回	貸出の意義について考える。 資料提供サービスのうち、閲覧・貸出・利用案内について解説します。
第9回	予約とリクエストの違いについて理解する。 資料提供サービスのうち、予約・リクエスト・複写サービスについて解説します。
第10回	レファレンスサービスの基本について理解する。 情報提供サービスのうち、レファレンスサービスについて解説します。
第11回	近隣の図書館で、どのような課題解決支援サービスが行われているか調べる。 情報提供サービスのうち、情報検索サービス・課題解決支援サービスについて解説します。
第12回	近隣の図書館で、どのような集会文化活動、広報活動が行われているか調べる。 情報提供サービスのうち、集会活動・広報活動について解説します。
第13回	年齢別サービスについて、それぞれのサービスを理解する。 利用対象者別の図書館サービスのうち、年齢別サービスについて解説します。
第14回	近隣の図書館で、どのような図書館利用に障害のある人へのサービスが行われているか調べる。 利用対象者別の図書館サービスのうち、図書館利用に障害のある人へのサービスおよび団体へのサービスについて解説します。
第15回	図書館サービスと著作権の関係について理解する。 図書館サービスを実施するうえで必要最低限の著作権の知識について解説します。
第16回	期末試験

授業形態・授業方法

講義形式。適宜、具体的なサービス事例を紹介しながら進めます。

養うべき力と到達目標

図書館が提供している様々なサービスについて、その名称と具体的な活動内容を把握します。またそれぞれのサービスがどのような考え方に基づいて準備、実践されるのかを理解します。そして、図書館サービスというものは図書館員を介して行われるものであるということを意識することができるようになります。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：図書館サービスについてきちんと理解できているかどうかを確認します。

尺度：授業の平常点(授業中の小テスト・課題・レポート、授業への参加態度など) 40%、および期末試験 60% で評価します

使用教科書

なし (配布するレジュメにより授業を行います)

参考文献等

参考書は授業時に適宜、指示します。

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

予習は特に必要としないが、講義で学習したことをしっかりと復習しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	情報サービス論				
担当教員名	大利かおり				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	2

授業概要

図書館における情報サービスの意義と内容を概説し、レファレンスサービスと情報サービスにおける情報源の活用について解説します。

授業計画

授業計画	学習課題（授業時間外の学習）
第1回 図書館における情報サービスとその意義 様々な情報サービス機関と図書館の情報サービスの意義について解説。	身の回りにどのような情報サービス機関があるか調べる。
第2回 情報サービスの基礎（1） 利用案内とレファレンスサービスについて解説。	近隣の図書館で、どのようなレファレンスサービスが行われているか調べる。
第3回 情報サービスの基礎（2） レフェラルサービス、オフライン検索、オンライン検索サービスについて解説。	近隣の図書館で、O P A C、C D - R O M、W E Bページ、商用データベース等による検索がどの程度行えるか調べる。
第4回 情報サービスの展開 学習情報、地域情報の提供、案内・紹介サービスについて解説。	身の回りの学習情報を調べる。
第5回 情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、独自の情報源の作成、情報源の構築と評価について解説。	近隣の図書館は、印刷物以外でどのような情報源があるかを調べる。
第6回 レファレンスプロセス 情報ニーズと情報探索活動、質問から回答に至るプロセスについて解説。	どんな時に調べ物をしようとするのか、自分だったら調べようとするときどんな行動をするのか考える。
第7回 レファレンスインタビュー 質問の受付とインタビュー、質問の分析について解説。	知りたいこと調べたいことを考え、どの分野のどんなことの何を調べたいのかを文章にして整理する。
第8回 レファレンス質問の類型 レファレンス質問の類型と、レファレンスブックの種類について解説。	設定質問がどの類型に属するか、それを調べるにはどんな種類のレファレンスブックが適切か考える。
第9回 検索戦略と検索の実行 情報源の選択と検索語の選定、マニュアル検索とコンピュータ検索、検索式等について解説。	Y a h o o やG o o g l e などで、いろんな検索語、検索式を使って検索してみる。
第10回 回答の提供と記録 回答様式、回答のレベルと量、利用者の満足度と未解決問題、記録表の作成等について解説。	設定質問を調べた過程を、文章に整理する。
第11回 情報サービスの管理 サービスの組織化、担当者の資質と能力、商用データベース活用に関する料金の問題等について解説。	有料データベースにどのようなものがあるか調べる。
第12回 事実検索の情報源（1） 辞書、事典、便覧等の種類と特質について解説。	本学の図書館や近隣の図書館で、参考図書として別置されているものにどんなものがあるか調べる。
第13回 事実検索の情報源（2） 歴史、統計、地理、人物、団体情報等の調査に用いるレファレンスブックについて解説。	本学の図書館や近隣の図書館で、参考図書として別置されているものにどんなものがあるか調べる。
第14回 文献検索の情報源 書誌、目録、記事索引等の種類と特質について解説。	本学の図書館や近隣の図書館で、参考図書として別置されているものにどんなものがあるか調べる。
第15回 試験とまとめ 各種データベース、インターネット上の情報の活用と、情報提供サービスの今後を考える。	情報社会の進展の中で、公共図書館が背負うべき社会的責任は何かを考える。

授業形態・授業方法

テキストと配布資料に沿って講義を進める。学習課題は事前に準備が必要なものもあるので、積極的に課題に取り組むことが求められます。

養うべき力と到達目標

情報サービスにおける情報源の活用について学ぶ。また、図書館における情報サービスの意義と現状を知ることによって、今後大きく変わるもの情報サービスのあり方についても考えていくよう、基礎知識を培うことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内課題 レポート及び小テスト 70%
受講状況 30%

使用教科書

書名：情報サービス論／著者名：小田光宏編著／出版社名：日本図書館協会発行／

参考文献等

「情報サービス概説」田村俊作編著 東京書籍発行

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に質問に応じます。

授業科目名	情報サービス演習 1				
担当教員名	大利かおり				
配当年次	2年	開講時期	前期	単位数	1

授業概要

図書館員には、資料・情報に関する相談窓口の役割を果たす情報サービスの扱い手として、利用者からの様々な質問に的確に答え、利用者と求められる情報を結びつけるために知識や技術が要求されます。本講義では、情報サービスの中核であるレファレンスサービスの基本を演習によって学び、実践的なスキルを習得することを目指します。

授業計画

回数	授業の内容と進め方	学習課題（授業時間外の学習）			
		授業時間外の学習	授業中の学習	授業時間外の学習	授業中の学習
第1回	授業の内容と進め方、情報サービスとは何か 図書館におけるサービスの概要や調べもののしかたについて解説する。	これまで学んできたことをふりかえりながら、調べ物のしかたの基本を学ぼう。			
第2回	情報サービスの方法と実際 情報サービスの設計、レファレンス業務の種類と質問のタイプ・種類、レファレンスプロセス、レファレンスサービスにおける情報源について解説する。	授業時の課題：質問内容から「質問の種類」を把握する。いくつかの問題にチャレンジしてみよう。			
第3回	情報探索のための資料メディア 一次資料と二次資料、調査ツールと検索ツールについて解説する。	授業時の課題：探索主題、探索事項を考えた上で、探索ツールの種類を求めるといった、答えに辿りつくための手順を理解する。			
第4回	NDCから調べる 直接書架に行ってレファレンスブックを探すためには、その主題を把握し配架場所を理解することが前提となる。参考図書は一般にNDC順に配架されていることから、NDCを理解していることが必要になる。ここでは、参考図書のNDCについての解説を行う。	NDCの基本知識について復習しよう。			
第5回	質問に対する検索と回答（図書・叢書に関する情報の探索） レファレンス質問のタイプによって、どのようなレファレンスブックが使われるのか。さらに、参考図書や本の情報の調べ方について解説する。特に、書誌の意味や種類を理解する。	テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。			
第6回	質問に対する検索と回答（逐次刊行物に関する情報の探索） 雑誌情報の検索、雑誌記事情報、新聞・ニュース情報の調べ方について解説する。	テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。			
第7回	質問に対する検索と回答（ことばと成句に関する情報の探索） ことばと成句に関する質問の調べ方を解説する。	授業時の課題：テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。時間外の課題：各自が図書館に行って、指定された質問について答えを探す。			
第8回	質問に対する検索と回答（物と事柄に関する情報の探索） 物と事柄に関する質問の調べ方を解説する。	授業時の課題：テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。時間外の課題：学んだことをもとに、各自が図書館に行って指定された質問について答えを探す。			
第9回	質問に対する検索と回答（ところと地理に関する情報の探索） ところと地理に関する質問の調べ方を解説する。	授業時の課題：テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。時間外の課題：学んだことをもとに、各自が図書館に行って指定された質問について答えを探す。			
第10回	質問に対する検索と回答（人物と団体に関する情報の探索） 人物と団体に関する質問の調べ方を解説する。	授業時の課題：テキストを用いて、指定した問題について使用参考図書と答えを求める演習を行う。時間外の課題：学んだことをもとに、各自が図書館に行って指定された質問について答えを探す。			
第11回	対人援助技術を学ぶ（レファレンスインタビューの技法と実際、質問回答の実際） 利用者と直接関わるサービスであることから、レファレンスサービスにおいては対人援助技術が必要不可欠となる。コミュニケーションの意味やその技術の基本について学ぶ機会をもつ。また、レファレンスインタビューによって、利用者からの質問をどうしたら明確化し求めている回答につなげていくかを考える。	ロールプレイによりインタビューをして、対人援助技術を学ぼう。			
第12回	発信型情報サービスの実際（インフォーメーションガイドの作成、パスファインダーの作成） 情報を探す道しるべとしての「パスファインダー」に焦点を当て、その意義や作成方法を学ぶ。また、いくつかの実践事例をもとに、より作成する上で留意すべきことや有効性を考察する。各自が作成する機会ももちたい。	パスファインダーの作成を学ぼう。			
第13回	発信型情報サービスの実際（インフォーメーションガイドの作成、パスファインダーの作成） 情報を探す道しるべとしての「パスファインダー」に焦点を当て、その意義や作成方法を学ぶ。また、いくつかの実践事例をもとに、より作成する上で留意すべきことや有効性を考察する。各自が作成する機会ももちたい。各種のレファレンスブックを比較し、より効果的な使い方を考察する。各種のレファレンスブックを比較し、より効果的な使い方を考察する。	パスファインダーの作成を学ぼう。			

第14回

情報サービスの評価（情報源の評価、レファレンス事例の作成・評価）

レファレンスブックの評価では、まえがき、あとがき、編集後記、凡例に目を通し、編集者の意図を確認し、資料の内容や構成、調べ方などの全体像を把握する作業を行う。

演習により、情報源の評価を行ってみよう。

第15回

試験とまとめ

レファレンスブックの評価では、まえがき、あとがき、編集後記、凡例に目を通し、編集者の意図を確認し、資料の内容や構成、調べ方などの全体像を把握する作業を行う。また、これまでの授業の総まとめとしてふりかえりを行う。

演習により、情報源の評価を行ってみよう。

授業形態・授業方法

毎回テーマを決めて、テキストと配布資料に則って講義および演習を行います。
※ 演習時にテキストを使用するので、必ず入手しておくようにしてください。

養うべき力と到達目標

- ・レファレンスサービスの基本を演習によって学び、実践的なスキルを習得することができる。
- ・図書館員が直接利用者とどのように対応し業務を行っているかを知る機会を得ることができる。
- ・毎回演習問題を解くなかで、様々な参考図書の配置や種類、特徴を把握できる。
- ・情報の探索では、何度も試行錯誤を繰り返していく過程で結果を見出すことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内課題1【演習課題の達成度・発表・提出】60%
授業内課題2【課題レポート】20%
受講状況【積極的参加等】20%

使用教科書

JLA図書館情報学テキストシリーズII-6 情報検索演習／大谷康晴編／日本図書館協会／2011年
※ 後期の「情報サービス演習2」でも使用するため、必ず購入すること。

参考文献等

ライブラリー図書館情報学6 情報サービス論及び演習／中西裕ほか著／学文社／2012年
図書館で使える情報源と情報サービス／木本幸子著／日外アソシエーツ／2010年
図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために 新訂第3版／藤田節子著／日外アソシエーツ／2011年
図書館のプロが教える調べるコツ：誰でも使えるレファレンス・サービス事例集／浅野高史ほか／柏書房
／2006年
参考図書研究ガイド 三訂版／全国学校図書館協議会参考図書研究ガイド編集委員会／全国学校図書館協議会
／1992年

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

授業前後に質問に応じます。

授業科目名	情報サービス演習 2				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

図書館における情報提供サービスでは、紙媒体の情報とともに、コンピュータとネットワークを用いた情報が必要不可欠です。当科目では、データベースなど情報検索サービスに関わる基本知識を身につけます。さらに、学内パソコンを使用して、インターネットによるデータベースを活用した演習により情報検索技術を習得することを目指します。

授業計画

授業回	授業の内容と進め方、調べるってどういうこと？	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	調べ物のしかたについて、これまで関連科目で学んできたことをも関わって解説する。	これまで学習したことを取りかえり、調べものについて学ぼう。
第2回	情報検索とデータベース 情報検索の必要性やその概念について学ぶ。また、データベースとは何か、その現状や種類について知る。インターネットで利用できるデータベースについて調べ、発表準備をする。	特に、授業でふれた専門用語の意味について自己学習を行うこと。また、インターネットで利用できるデータベースについて調べる。
第3回	インターネットで利用できるデータベース インターネットで利用できる各種データベースについて調べ、発表を行う。お互いに情報を共有することで広い知識を身につけることを目的とする。	インターネットで利用できる各種データベースを使用してみる。
第4回	インターネットで利用できるデータベース インターネットで利用できる各種データベースについて調べ、発表を行う。お互いに情報を共有することで広い知識を身につけることを目的とする。	インターネットで利用できる各種データベースを使用してみる。
第5回	検索語とキーワード キーワードや件名表目録、シソーラス等、情報検索についての基本的な知識を学ぶ。後日、小テストを行うのでしっかりと学んでおくこと。	特に、授業でふれた専門用語の意味について自己学習を行うこと。
第6回	キーワードの概念 統制語（シソーラスを使用）、フリーキーワード等キーワードの概念、シソーラスの利用法について学ぶ。	演習によりシソーラスの使用方法を理解しよう。
第7回	検索の手順 質問の分析から情報源の選択、検索語の選定、検索式の作成までの流れについて学習する。	演習で各自サーチエンジンを活用して検索を行う。
第8回	サーチエンジン ネットワーク情報資源を検索する手段のひとつであるサーチエンジンについて解説する。主なサーチエンジンの紹介、使い方を学ぶ。	演習で各自サーチエンジンを活用して検索を行う。
第9回	小テストおよび図書の検索 これまでの学びの確認として小テストを行う。また、和書に焦点を当て、書誌情報、目録情報を検索するための主要な検索システムの紹介、使い方を学ぶ。	小テストの準備。演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第10回	図書の検索 和書に焦点を当て、書誌情報、目録情報を検索するための主要な検索システムの紹介、使い方を学ぶ。	演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第11回	雑誌論文の検索 和雑誌に焦点を当て、その検索方法を解説する。雑誌情報及び雑誌記事情報を検索するための主要な検索システムの紹介、使い方を学ぶ。	演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第12回	逐次刊行物の検索 引用索引や電子ジャーナルの検索等の演習を行う。	演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第13回	事柄の検索 新聞記事に関する演習を行う。	演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第14回	事柄の検索 人物略歴情報の演習を行う。	演習で各自、指示された検索システムを活用して検索を行う。
第15回	情報検索の実際、まとめ 複合問題に取り組み、これまでの学びを振り返る。	演習問題にチャレンジしよう。

授業形態・授業方法

毎回テーマを決めて、配布資料に則って講義および演習を行います。

養るべき力と到達目標

- データベースなど情報検索サービスに関わる基本知識を理解することができる。
- インターネットのサーチエンジンはもとより、図書館で一般的に扱われるデータベースを活用した情報検索技術の基本を学ぶことができる。

成績評価の観点と方法・尺度

授業内課題1【演習課題の発表及び提出】40%授業内課題2【課題レポート】20%授業内課題3【小テスト】20%受講態度【積極的参加等】20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

JLA図書館情報学テキストシリーズII-6 情報検索演習／大谷康晴編／日本図書館協会／2011年
「情報サービス演習1」で使用したテキスト。

履修条件

司書課程履修者2年生および科目等履修生のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限(13:00-14:30)、場所は研究室(西館5階)。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	情報資源組織演習2				
担当教員名	長谷川雄彦				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

「情報資源組織論」の学習をふまえて、さまざまな情報資源を活用するために、書誌データの作成の演習を通して情報資源の組織化についての実践的な能力を養成します。
書誌データの作成等を通して、利用者にわかりやすく情報資源を目録データとして記録する技術、既存の書誌レコードを識別・同定できる理解力を身につけます。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学習課題（授業時間外の学習）
第1回	日本目録規則： 記述総則、書誌単位、記録順序、記録方法など	「日本目録規則（NCR）」について概要説明します	「日本目録規則（NCR）」の概要について復習すること
第2回	記述に関する総則	「日本目録規則（NCR）」に従って書誌情報を作成するにあたって基本となるルールを学びます。特に書誌階層について、しっかりと修得します。	身近な図書で、書誌階層について復習すること
第3回	書誌的事項の記述（1） タイトルと責任表示、版表示	書誌的事項（タイトルと責任表示および版表示）について、例題の図書を作成します	身近な図書で、書誌的事項（タイトルと責任表示および版表示）について復習すること
第4回	書誌的事項の記述（2） 出版に関する事項	書誌的事項（出版に関する事項）について、例題の図書を作成します	身近な図書で、書誌的事項（出版に関する事項）について復習すること
第5回	書誌的事項の記述（3） 形態、シリーズに関する事項	書誌的事項（形態、シリーズに関する事項）について、例題の図書を作成します	身近な図書で、書誌的事項（形態およびシリーズに関する事項）について復習すること
第6回	書誌的事項の記述（4） 注記、ISBNに関する事項	書誌的事項（注記、ISBNに関する事項）について、例題の図書を作成します	身近な図書で、書誌的事項（注記およびISBNに関する事項）について復習すること
第7回	標目	アクセス・ポイントとしての標目の付与について学習し、実際に付与します	身近な図書に標目をつけてみて、復習すること
第8回	排列	目録の編成と目録カードの排列について学習し、例題で排列します	例題で排列の復習すること
第9回	記述目録法のまとめ	第1回から第8回まで学習した内容を振り返り、記述目録法の総合演習課題を解く	第1回～第8回までの復習を事前にしっかりと行っておくこと
第10回	NACSIS-CATを利用した目録作成（1） NACSIS-CATの目録システム概論	NACSIS-CAT/ILLのセルフラーニングシステムを利用して、書誌ユーティリティーを利用したシステムについて学習します	学習したことが理解できたか、復習すること
第11回	NACSIS-CATを利用した目録作成（2） 目録情報の基準	NACSIS-CAT/ILLのセルフラーニングシステムを利用して、書誌ユーティリティーを利用したシステムについて学習します	学習したことが理解できたか、復習すること
第12回	NACSIS-CATを利用した目録作成（3） 目録検索と登録	NACSIS-CAT/ILLのセルフラーニングシステムを利用して、書誌ユーティリティーを利用したシステムについて学習します	学習したことが理解できたか、復習すること
第13回	NACSIS-CATを利用した目録作成（4） 所蔵登録	NACSIS-CAT/ILLのセルフラーニングシステムを利用して、書誌ユーティリティーを利用したシステムについて学習します	学習したことが理解できたか、復習すること
第14回	ネットワーク情報資源のメタデータ作成	ネットワーク情報資源の情報をどのように表していくかを学習します	Webデータをどのように表現するが復習すること
第15回	演習総まとめ	第10回以降に学習したことも含め、学習内容を振り返り、総合演習課題を解く	第1回～第14回までの復習を事前にしっかりと行っておくこと

授業形態・授業方法

演習を中心に行います。テキストの例題を中心に、「日本目録規則（NCR）」に基づいた書誌的事項の記述（記述目録法）による目録作成の演習を行います。また、端末を利用しながら書誌データの作成や共同分担目録についての演習も行います。

養うべき力と到達目標

情報資源の書誌記述の演習を行うことにより、図書館における情報資源組織化について具体的に理解します。また、「日本目録規則（NCR）」についても習熟し、公共図書館および大学図書館で通用する書誌データの作成ができる実践力を習得します。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：情報資源の書誌記述について、「日本目録規則（NCR）」に対する理解と適用ができているかどうか。
尺度：演習小テスト（2回を予定）と課題提出および受講状況（積極的参加、マナー等）により評価します。
演習小テスト（50%）、課題提出等（50%）で評価。

使用教科書

書名：情報資源組織演習（JLA図書館情報学テキストシリーズIII 10）
著者名：和中幹雄・山中秀夫・横谷弘美共著
出版社名：日本図書館協会
その他：ISBN978-4-8204-1317-2
*科目「情報資源組織演習1」と同じ教科書を使用

参考文献等

日本図書館研究会編集『図書館資料の目録と分類 増訂第4版』日本図書館研究会 2015 定価1,100円(税別) ISBN:978-4-930992-22-2
『日本目録規則 1987年版改訂3版』(購入の必要なし)

履修条件

司書課程科目

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習は、「情報資源組織法」の履修が前提となっています。受講開始前に復習をしておくこと。
演習科目なので、課題を出し、提出してもらう。時間内に課題ができない場合は、持ち帰ってもらうこともあります。
。演習で学習したことを、しっかり復習しておいてください。
授業中にすべての演習問題をすることはできないので、授業中にできなかった演習問題は自主的にトライしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

質問は、授業の前後および授業日の昼休みに応じます。

授業科目名	図書・図書館史				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	2年	開講時期	後期	単位数	1

授業概要

文字の発生から記録、文字觀の変遷、記録媒体と図書について考え、文書館から図書館への発展の歴史、世界の図書館の歴史、日本の図書館の歴史について基礎的な知識を解説します。

授業計画

第1回	文字・図書の発生と記録	学習課題（授業時間外の学習）
	文字の発生と発達、文字間の変遷、記録媒体と図書について考える。	文字とその記録の歴史についてまとめること。
第2回	古代の図書館キリスト教の文書、 古代バビロニア、ギリシャ、エジプト、ローマの図書館について。	「ギルガメッシュの叙事詩」についてその内容をまとめること。
第3回	中世の図書館、中世の大学と図書館 修道院図書館、カロリング・ルネッサンス、東ローマ帝国ビザンチンの帝室図書館、学問所図書館、総司教図書館、イスラムの図書館などについて。大学の発生と大学図書館について。	中世前期の図書館、大学図書館についてまとめること。
第4回	近世の図書館、啓蒙の時代の図書館 大ルネサンスとギリシャ写本、活版印刷技術の登場と伝播、マルチン・ルターの宗教改革。	宗教改革と印刷技術の関わりについてまとめること。
第5回	中国の図書の歴史 古代から印刷時代、宋元、明清の時代、近現代にいたる中国の図書と図書館について考える。	中国の図書・図書館の歴史についてまとめること。
第6回	日本の図書館の歴史 1 奈良・平安時代、中世の時代、名越文庫、金沢文庫、足利学校の文庫などについて	日本の古代から中世にかけての図書館の歴史についてまとめること。
第7回	日本の図書館の歴史 2 近世から近代の図書館の歴史について。	近世の代表的な図書館についてまとめること。
第8回	日本の現代の図書館の歴史 現代の図書館と将来への課題	図書館の今後の課題についてまとめること。

授業形態・授業方法

講義を主体にするが、映像なども取り入れ、受講者の自発的学習を促すために発話及び発表も重視します。

養うべき力と到達目標

学習成果：「図書館司書として必要な図書と図書館への基礎的歴史的知識の修得」及び「文字や図書、図書館に対する基礎理論を理解」のための基礎となる力を養うことができる。
到達目標：文化の中における「文字」「図書」「図書館」等の成り立ちと発展、それに関わる理論を理解し、図書館司書としての実践への応用力を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：「文字」「図書」「図書館」の3つの観点から理解度を見る。
到達目標：各観点ごとに3段階「1. 基本的事項が理解できている」「2. 関連する項目の理解ができている」「3. 図書館司書としての応用力」の到達度で採点。
評価方法：レポート80%、受講態度等20%で総合評価。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『図書及び図書館史』（日本図書館協会、2000）
『図書及び図書館史』（樹村房、1999）

履修条件

司書課程履修者2年生および科目等履修のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00-14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。

授業科目名	図書館基礎特論				
担当教員名	浅野法子				
配当年次	2年	開講時期	後期集中	単位数	1

授業概要

本講では、今日の課題である身体障害者向けのサービスとこれに関する福祉と支援の考え方について学びます。 (1) 障害者の情報需要を理解する。知的・精神的要求へのサービス提供。 (2) 各障害別の施設面を準備する。車椅子対策などバリアフリー設備への配慮。 (3) 社会参加を支援する。点字文献、視覚資料、聴覚資料等の整備。 (4) 諸外国における施設の例を学ぶ。地域の補助ボランティアへの評価等。

授業計画

第1回	図書館活動における身体障がい者との関わり。障害者用資料の出版と整備の現状と協力者の努力。	学習課題（授業時間外の学習） 図書館と障がい者の現状についてまとめること。
第2回	日本や世界の先進的図書館における身体障がい者施設事例と考え方。健常者との共同利用と専用利用。	日本及び世界の障がい者の図書館利用について先進的事例をまとめること。
第3回	障がい者受け入れの推進計画と行政支援およびその課題。アメリカの諸施設と将来的ビジョン。補助ボランティア活動の教育的評価、社会評価。	図書館の障がい者受け入れへの行政支援についてまとめること。
第4回	障がい者の情報需要。自己決定権運動と社会依存の問題。	障がい者の情報需要についてまとめること。
第5回	視覚障がい者向けの実践的サービス。音声式入力装置と弱視者用表示拡大装置の取り扱い。	視覚障がい者への音声式入力装置と弱視者用表示拡大装置のとりあつかいについて知るところをまとめること。
第6回	視覚障がい者向けのサービスの実践。6点点字法の法則（カナ文字、英文字、数字）によるP C点字入出力システムの取り扱い。	6点点字法の法則によるP C点字入力システムについて知るところをまとめること。
第7回	最適施設・制度運営の改善案について。貸し出し方式。特定サービス曜日・時間設定方式等。	障がい者への最適施設、制度運営の改善についてまとめること。
第8回	まとめと課題の復習	第1回～第7回までの授業内容の要点をまとめること。

授業形態・授業方法

講義を中心とします。資料などにより各地の事例を紹介します。各種支援の装置について学びます。

養うべき力と到達目標

学習成果：「図書館司書として必要な基礎的知識の修得」及び「図書館基礎特論理論の理解」の基礎となる力を身につけることができる。
到達目標：「図書館」と「福祉」への歴史と知識を理解し、図書館司書としての実践力と応用力を身につけることができる。

成績評価の観点と方法・尺度

観点：主に「障がい者の社会参加」「障がい者への図書館サービスと現状」の2つの観点から理解度を見る。
尺度：各観点ごとに3段階「1. 基本的事項が理解できている」「2. 関連する項目・理論の理解」「3. 図書館司書としての実践への応用」の到達度で採点。
評価方法：レポート50%、発表20%、受講態度等30%で総合評価。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「JLA図書館情報学テキストシリーズ」「新・図書館学シリーズ（全12巻）」（樹村房）

履修条件

司書課程履修者2年生および科目等履修のみ履修可能

履修上の注意・備考・メッセージ

なし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

オフィスアワーは水曜3限（13:00～14:30）、場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。